

にし の
西野遺跡Ⅱ

— 宅地開発に伴う発掘調査報告書 —

第一分冊

2022.3

香南市教育委員会

序

西野遺跡は、野市町西野に所在する弥生時代から古代・中世にかけての集落遺跡です。この遺跡が所在する物部川東岸は、下ノ坪遺跡や北地遺跡など、香南市内でも遺跡が集中する地域の一つです。西野遺跡では、これまで6度に渡って調査が行われ、周辺の遺跡の調査成果と合わせて、少しずつ地域の歴史が明らかになり始めてきました。

本書で報告するのは平成18年度に行われた2回目の調査で、これまで香南市内で行なった調査としては最大規模に相当します。弥生時代の竪穴建物跡などの遺構と共に、多くの土器が出土しました。平成19年度に行われた3回目の調査で出土した日本で唯一の銅矛再加工品なども含めて、西野遺跡からは多くの注目される成果が得られています。

香南市内には、この他にも多くの遺跡があります。これらの遺跡を守り、地域の皆様に伝えていくことは、大切な責務だと考えています。本書が、皆様が香南市の歴史を知り、自分たちの住む地域に誇りを持っていただくきっかけの一つとなれば幸いです。また、近隣市町村を含む周辺地域の歴史を紐解く資料の一助となることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、埋蔵文化財への深いご理解とご協力を賜りました地元の皆様方に心から謝意を表すと共に、発掘調査に従事して頂いた現場作業員の皆様方、報告書作成にあたりご指導ならびにご教示頂きました関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

高知県香南市教育委員会
教育長 入野 博

例 言

1. 本書は、宅地造成開発に伴い、平成18年度に野市町教育委員会が実施した西野遺跡ルノ丸地区の発掘調査報告書である。
2. 西野遺跡は、高知県香南市野市町西野1530番地他に所在する。
3. 本報告は、二次調査(平成18年度)のA～D・J～L区と四次調査(平成19年度)の北区である。これらは調査区の北部に当たり、南部及び四次調査の南区については次刊報告する。
4. 発掘調査対象面積は二次調査が約8,700㎡、四次調査が約905㎡、発掘調査面積は、二次調査が約4,500㎡、四次調査が170㎡である。
5. 二次調査は、試掘調査を平成17年10月に行い、平成18年4月4日から19年3月30日に発掘調査を行った。四次調査は平成19年10月9日から11月8日に発掘調査を行なった。いずれも調査時から整理作業を開始し、報告書刊行年度は令和3年度である。
6. 試掘調査・発掘調査時の平成18年度の調査体制は以下の通りである。
調査員 野市町教育委員会 生涯学習課 溝淵 真紀
調査員 財団法人 野市町開発公社 更谷 大介
7. 本報告書に関する整理作業は、更谷と溝淵が平成20年度まで遺構図及び写真等の整理作業を行ない、平成22年度より香南市教育委員会生涯学習課 主監調査員 松村 信博と臨時職員 藤方 正治が整理作業を継続した。平成28年度より横山 藍(同 主査調査員)が報告書刊行作業を行なった。
8. 報告書刊行時、令和3年度の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下の通りである。
課長 猪原 加江 会計年度職員 齋藤 美幸
係長 竹中 ちか 高橋 加奈
再任用職員 澤田 秀行 高橋 由香
主査調査員 横山 藍 藤原 ゆみ
松井 喬行
松田 克純
山崎 佐世
依光 美佐子
9. 本書の執筆・編集は横山が行なった。遺構写真撮影は更谷・溝淵による。試掘及び土層観察等の調査に関する記述は、更谷の記録を元としている。遺構図の作成は更谷・溝淵が行なったものをトレースした。実測遺物の選出作業については松村、遺物観察作業については藤方・横山が行なった。
10. 遺構については、ST(竪穴建物跡)・SB(掘立柱建物跡)・SK(土坑)・SD(溝跡)・P(柱穴)・SX(性格不明遺構)とし、遺構番号は必要に応じて通し番号を付した。報告書刊行の際は調査時の遺構名及び番号をそのまま使用し、報告する。掲載している遺構図の縮尺はSTはS=1/80、SBはS=1/80・S=1/100、SK・SD・PはS=1/40・S=1/80で作成しそれぞれに記載しており、方位(N)は世界標準座標方眼北である。

11. 遺物については、原則的にS=1/3及びS=1/4、その他必要に応じて適切な縮尺を使用した。各遺物にはスケールバーを掲載している。
12. 現場作業及び整理作業については下記の方々に行って頂いた。(敬称略、五十音順)
発掘調査作業
佐野 信重・榎尾 俊喜・河村 みさ子・西川 博明
整理作業
齋藤美幸・高橋加奈・高橋由香・小松経子・藤方正治・藤原ゆみ・松田克純・水田紀子・宮本幸子・山崎佐世・吉本由佳・依光美佐子
また、報告書作成にあたっては、香南市教育委員会・香南市文化財センターの諸氏の協力と援助を得た。
13. 出土遺物について、池澤俊幸氏・久家隆芳氏・吉成承三氏((公財)高知県埋蔵文化財センター)、出原恵三氏に助言を頂いた。記して感謝する。
14. 調査の実施にあたっては、地元の方々の絶大な協力と援助を得た。記して感謝する。
15. 出土遺物の注記は、出土略号を二次調査の試掘調査を05-NNR南、本調査を06-NNR南、四次調査は07-NNR南とし、図面・写真資料とともに香南市文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第 I 章 遺跡の概要と調査の経過	1
1. 西野遺跡の概要	1
2. これまでの調査と二次調査の経過	3
(1) 一次調査(平成17年度調査)の概要と成果	3
(2) 二次調査(平成18年度調査)の経過と概要	4
(3) 三次調査の概要	4
(4) 四次調査の概要	4
(5) 五次調査の概要	5
(6) 六次調査の概要	5
3. 試掘調査の概要	6
第 II 章 北部調査区の調査成果	13
1. 調査の方法	13
2. 調査区の概要と基本層序	14
3. 検出遺構と出土遺物	17
(1) 竪穴建物跡	17
(2) 掘立柱建物跡	67
(3) 土坑	73
(4) 溝跡	95
(5) 柱穴	97
(6) 性格不明遺構	109
(7) 包含層出土遺物	109

挿図目次

図1-1	香南市位置図	1
図1-2	西野遺跡周辺の遺跡	2
図1-3	西野遺跡1～6次調査区位置図	5
図1-4	試掘調査位置図	6
図1-5	試掘TR7～10遺構図	7
図1-6	試掘TR11・12遺構図	8
図1-7	試掘TR13・14遺構図	9
図1-8	試掘TR8～11出土遺物実測図	10
図1-9	試掘TR12出土遺物実測図	11
図1-10	試掘TR14出土遺物実測図	12
図2-1	調査区位置図・グリッド設定図	13
図2-2	H区南壁セクション	14
図2-3	J区東壁セクション	15
図2-4	遺構平面図	16
図2-5	ST2001遺構図	18
図2-6	ST2001出土遺物実測図1	18
図2-7	ST2001出土遺物実測図2	19
図2-8	ST2002遺構図	20
図2-9	ST2002出土遺物実測図	20
図2-10	ST2003・2004遺構図	21
図2-11	ST2003出土遺物実測図1	21
図2-12	ST2003出土遺物実測図2	22
図2-13	ST2003出土遺物実測図3	23
図2-14	ST2003出土遺物実測図4	24
図2-15	ST2004出土遺物実測図	24
図2-16	ST2005遺構図	24
図2-17	ST2005出土遺物実測図	25
図2-18	ST2006遺構図	26
図2-19	ST2006出土遺物実測図	26
図2-20	ST2007遺構図	27
図2-21	ST2007出土遺物実測図	27
図2-22	ST2008遺構図	28
図2-23	ST2008出土遺物実測図1	28
図2-24	ST2008出土遺物実測図2	29
図2-25	ST2008出土遺物実測図3	30

图2-26 ST2008出土遺物実測図4	31
图2-27 ST2009出土遺物実測図1	32
图2-28 ST2009遺構図	33
图2-29 ST2009出土遺物実測図2	33
图2-30 ST2010上面土器集中遺物出土状態図	34
图2-31 ST2010上面土器集中出土遺物実測図1	35
图2-32 ST2010上面土器集中出土遺物実測図2	36
图2-33 ST2010上面土器集中出土遺物実測図3	37
图2-34 ST2010遺構図	38
图2-35 ST2010出土遺物実測図1	39
图2-36 ST2010出土遺物実測図2	40
图2-37 ST2010出土遺物実測図3	41
图2-38 ST2010出土遺物実測図4	42
图2-39 ST2012遺構図	43
图2-40 ST2012出土遺物実測図1	43
图2-41 ST2012出土遺物実測図2	44
图2-42 ST2012出土遺物実測図3	45
图2-43 ST2012出土遺物実測図4	46
图2-44 ST2012出土遺物実測図5	47
图2-45 ST2013遺構図	48
图2-46 ST2013出土遺物実測図	48
图2-47 ST2015遺構図	49
图2-48 ST2015出土遺物実測図1	50
图2-49 ST2015出土遺物実測図2	51
图2-50 ST2016・2017遺構図	52
图2-51 ST2016出土遺物実測図	52
图2-52 ST2017出土遺物実測図	53
图2-53 ST2018遺構図	54
图2-54 ST2018出土遺物実測図	55
图2-55 ST2019遺構図	56
图2-56 ST2019出土遺物実測図	56
图2-57 ST2020遺構図	57
图2-58 ST2020出土遺物実測図	58
图2-59 ST2021遺構図	59
图2-60 ST2025遺構図	59
图2-61 ST2025出土遺物実測図	59
图2-62 ST2026遺構図	60
图2-63 ST2026出土遺物実測図	60

图2-64 ST2027 遣構図	60
图2-65 ST2028 遣構図	61
图2-66 ST2028 出土遺物実測図	61
图2-67 ST3001 遣構図	62
图2-68 ST3001 出土遺物実測図	62
图2-69 ST1 遣構図	63
图2-70 ST2 遣構図	63
图2-71 ST1 出土遺物実測図1	64
图2-72 ST1 出土遺物実測図2	65
图2-73 ST2 出土遺物実測図	66
图2-74 SB1 遣構図・出土遺物実測図1	67
图2-75 SB1 出土遺物実測図2	68
图2-76 SB2 遣構図	69
图2-77 SB3 遣構図・出土遺物実測図	70
图2-78 SB4 遣構図・出土遺物実測図	71
图2-79 SB5 遣構図	71
图2-80 SB6 遣構図・出土遺物実測図	72
图2-81 SK1 遣構図・出土遺物実測図	73
图2-82 SK2009 遣構図・出土遺物実測図	74
图2-83 SK2014 遣構図	74
图2-84 SK2014 出土遺物実測図1	75
图2-85 SK2014 出土遺物実測図2	76
图2-86 SK2014 出土遺物実測図3	77
图2-87 SK2015 遣構図・出土遺物実測図	77
图2-88 SK2052 遣構図・出土遺物実測図	78
图2-89 SK2053 遣構図・出土遺物実測図	78
图2-90 SK2057 遣構図・出土遺物実測図	79
图2-91 SK2061 遣構図・出土遺物実測図	79
图2-92 SK2062 遣構図・出土遺物実測図	80
图2-93 SK2070・2162 遣構図・出土遺物実測図	80
图2-94 SK2081 遣構図・出土遺物実測図	81
图2-95 SK2090 遣構図・出土遺物実測図	82
图2-96 SK2141 遣構図・出土遺物実測図	83
图2-97 SK2143 遣構図・出土遺物実測図	83
图2-98 SK2147 遣構図・出土遺物実測図	84
图2-99 SK2149 遣構図・出土遺物実測図	84
图2-100 SK2151 遣構図・出土遺物実測図	85
图2-101 SK3001 遣構図	85

図2-102 SK3001 出土遺物実測図1	86
図2-103 SK3001 出土遺物実測図2	87
図2-104 SK3002 遺構図	87
図2-105 SK3002 出土遺物実測図1	88
図2-106 SK3002 出土遺物実測図2	89
図2-107 SK3002 出土遺物実測図3	90
図2-108 SK 出土遺物実測図1	91
図2-109 SK 出土遺物実測図2	93
図2-110 SK 出土遺物実測図3	94
図2-111 SD 出土遺物実測図1	95
図2-112 SD 出土遺物実測図2	96
図2-113 ビット 出土遺物実測図1	98
図2-114 ビット 出土遺物実測図2	99
図2-115 ビット 出土遺物実測図3	100
図2-116 ビット 出土遺物実測図4	101
図2-117 ビット 出土遺物実測図5	102
図2-118 ビット 出土遺物実測図6	103
図2-119 ビット 出土遺物実測図7	104
図2-120 ビット 出土遺物実測図8	105
図2-121 ビット 出土遺物実測図9	106
図2-122 ビット 出土遺物実測図10	107
図2-123 SX1 遺構図・出土遺物実測図	108
図2-124 包含層出土遺物実測図1(弥生土器・土師器)	110
図2-125 包含層出土遺物実測図2(弥生土器・庄内式土器)	111
図2-126 包含層出土遺物実測図3(弥生土器・土師器)	112
図2-127 包含層出土遺物実測図4(弥生土器・土師器)	113
図2-128 包含層出土遺物実測図5(石製品)	113
図2-129 包含層出土遺物実測図6(石製品)	114
図2-130 包含層出土遺物実測図7(土師器)	115
図2-131 包含層出土遺物実測図8(土師器)	116
図2-132 包含層出土遺物実測図9(土師器)	117
図2-133 包含層出土遺物実測図10(土師器)	118
図2-134 包含層出土遺物実測図11(土師器)	119
図2-135 包含層出土遺物実測図12(土師器)	120
図2-136 包含層出土遺物実測図13(須恵器)	121
図2-137 包含層出土遺物実測図14(須恵器)	122
図2-138 包含層出土遺物実測図15(須恵器)	123
図2-139 包含層出土遺物実測図16(須恵器)	124

図2-140 包含層出土遺物実測図17(綠釉陶器・黑色土器・瓦器・白磁・磁器)	125
図2-141 包含層出土遺物実測図18(瓦)	126
図2-142 包含層出土遺物実測図19(土製品)	126
図2-143 包含層出土遺物実測図20(鉄製品)	126

遺物觀察表目次

遺物觀察表 1 ~ 20	129
遺物觀察表 21 ~ 40	130
遺物觀察表 41 ~ 60	131
遺物觀察表 61 ~ 80	132
遺物觀察表 81 ~ 100	133
遺物觀察表 101 ~ 120	134
遺物觀察表 121 ~ 140	135
遺物觀察表 141 ~ 160	136
遺物觀察表 161 ~ 180	137
遺物觀察表 181 ~ 200	138
遺物觀察表 201 ~ 220	139
遺物觀察表 221 ~ 240	140
遺物觀察表 241 ~ 260	141
遺物觀察表 261 ~ 280	142
遺物觀察表 281 ~ 300	143
遺物觀察表 301 ~ 320	144
遺物觀察表 321 ~ 340	145
遺物觀察表 341 ~ 360	146
遺物觀察表 361 ~ 380	147
遺物觀察表 381 ~ 400	148
遺物觀察表 401 ~ 420	149
遺物觀察表 421 ~ 440	150
遺物觀察表 441 ~ 460	151
遺物觀察表 461 ~ 480	152
遺物觀察表 481 ~ 500	153
遺物觀察表 501 ~ 520	154
遺物觀察表 521 ~ 540	155
遺物觀察表 541 ~ 560	156
遺物觀察表 561 ~ 580	157

遺物觀察表 581 ~ 600.....	158
遺物觀察表 601 ~ 620.....	159
遺物觀察表 621 ~ 640.....	160
遺物觀察表 641 ~ 660.....	161
遺物觀察表 661 ~ 680.....	162
遺物觀察表 681 ~ 700.....	163
遺物觀察表 701 ~ 720.....	164
遺物觀察表 721 ~ 740.....	165
遺物觀察表 741 ~ 760.....	166
遺物觀察表 761 ~ 780.....	167
遺物觀察表 781 ~ 800.....	168
遺物觀察表 801 ~ 820.....	169
遺物觀察表 821 ~ 840.....	170
遺物觀察表 841 ~ 860.....	171
遺物觀察表 861 ~ 880.....	172
遺物觀察表 881 ~ 900.....	173
遺物觀察表 901 ~ 920.....	174
遺物觀察表 921 ~ 940.....	175
遺物觀察表 941 ~ 960.....	176
遺物觀察表 961 ~ 980.....	177
遺物觀察表 981 ~ 1000.....	178
遺物觀察表1001 ~ 1020.....	179
遺物觀察表1021 ~ 1040.....	180
遺物觀察表1041 ~ 1060.....	181
遺物觀察表1061 ~ 1080.....	182
遺物觀察表1081 ~ 1100.....	183
遺物觀察表1101 ~ 1120.....	184
遺物觀察表1121 ~ 1140.....	185
遺物觀察表1141 ~ 1161.....	186
遺物觀察表1162 ~ 1182.....	187
遺物觀察表1183 ~ 1203.....	188
遺物觀察表1204 ~ 1224.....	189
遺物觀察表1225 ~ 1245.....	190
遺物觀察表1246 ~ 1266.....	191
遺物觀察表1267 ~ 1287.....	192
遺物觀察表1288 ~ 1308.....	193
遺物觀察表1309 ~ 1329.....	194
遺物觀察表1330 ~ 1350.....	195

遺物観察表1351～1371.....	196
遺物観察表1372～1392.....	197
遺物観察表1393～1413.....	198

第 I 章 遺跡の概要と調査の経過

1. 西野遺跡の概要

西野遺跡が所在する高知県香南市は、平成18年3月に赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村が合併し誕生した自治体である。東西約18km、南北約15km、総面積は約126km²で、東は安芸市・安芸郡芸西村、西は南国市、北は香美市に隣接する。南部は土佐湾に面し、北部は四国山脈に連なる山岳地帯である。人口約33,190人(令和3年12月現在)で、恵まれた自然を生かした農業や漁業などの一次産業が盛んな地域である。野市町は西部の南国市との境界に当たる一級河川物部川の左岸に展開する。物部川の古期扇状地性堆積物である砂礫層からなる野市台地上の縁辺に西野遺跡が立地する。

西野遺跡は南北約600m、東西約250mを測る、物部川左岸の河岸段丘上に展開する遺跡である。北部に深測遺跡、南部に下ノ坪遺跡・北地遺跡など弥生時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が広がる遺跡地帯の中央部に位置する。発見当初はこれらの遺跡地帯を一連の遺跡群と捉え、「西野遺跡群」の名称が採用されたようである¹⁾が、遺跡範囲から見ても「西野遺跡群」ではなく「西野遺跡」と呼称することが適当と考えられ、令和3年度に名称変更がなされた。本書では遺跡名を「西野遺跡」と統一して報告を行う。本報告の調査地点は、高知県香南市野市町西野、小字を「ルノ丸」とするルノ丸地区に所在する。

先述の通り、西野遺跡は物部川左岸に展開する河岸段丘上に展開する遺跡群のひとつである。この周辺は、弥生時代前期末に物部川対岸の拠点集落である田村遺跡群から分村によって集落が成立し、以後盛衰を繰り返しながら集落が拡大する遺跡が点在している。弥生時代前期末から中期初頭にかけて、周辺の北地遺跡・下ノ坪遺跡の他に、市内では香宗川流域の下方遠崎遺跡・十万遺跡・押原遺跡などでも遺跡数が急増しており、西野遺跡もその一つとして位置付けることができる。弥生時代から古墳時代にかけて、西野遺跡周辺で発掘調査により確認された堅穴建物跡は100を超える。また、奈良から平安時代前期の官衙関連遺跡である深測遺跡・下ノ坪遺跡、近世の石積み堤防が

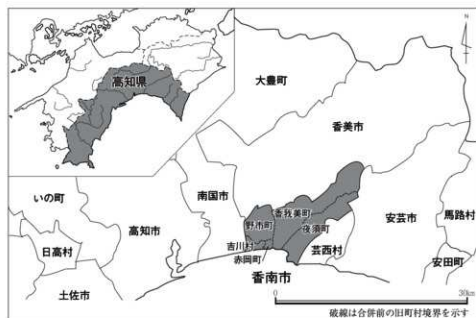


図1-1 香南市位置図

1. 西野遺跡の概要

確認された上岡北遺跡など、以降も注目される遺跡が集中している。西野遺跡においても、弥生時代前期末、弥生時代後期末から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期、近世の各時代の遺物が出土していることから、周辺遺跡の盛衰と連動し、連綿と生活が営まれてきた地域であることが示唆される。^[2]

補注・参考文献

(1) 「西野遺跡ルノ丸地区 2005年度調査」2013香南市教育委員会

(2) 地理的歴史的環境については、「西野遺跡ルノ丸地区 2005年度調査」で詳細が記載されているため割愛した。



図1-2 西野遺跡周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代
1	烏ヶ森 城跡	城跡	中世
2	高田山城 城跡	城跡	中世
3	ノツゴ 遺跡	散布地	弥生
4	西佐古 遺跡	散布地	古代・中世
5	前ノ山城 城跡	城跡	中世
6	東佐古 遺跡	散布地	弥生・古墳
7	上分古 古墳	古墳	古墳
8	小山谷古 古墳	古墳	古墳
9	鬼ヶ岩 洞穴遺跡	洞穴遺跡	弥生・中世
10	笹ヶ峰 遺跡	洞穴遺跡	弥生
11	白岩 遺跡	窯跡	古代・中世
12	アゴデン 窯跡	窯跡	古代
13	竹ノ内(黒洞山)古墳	古墳	古墳
14	嵐山 窯跡	窯跡	弥生・古代・中世
15	日吉山古墳群	古墳	古墳
16	又兼寺 城跡	城跡	中世
17	又兼寺古墳	古墳	古墳
18	母代寺土居屋敷遺跡	集落跡	古代・中世
19	城八幡 城跡	城跡	古墳
20	母代寺遺跡	散布地	古代・中世
21	深洞北遺跡	集落跡	弥生・中世
22	西上野 遺跡	散布地	弥生
23	大谷 城跡	城跡	中世
24	大谷 遺跡	散布地	古墳・古代
25	大谷古墳	古墳	古墳
26	山下 遺跡	散布地	古代・中世
27	中山田土居 城跡	城跡	中世
28	鬼田柳ヶ本 遺跡	祭祀跡	弥生・古墳
29	鬼田八幡宮 遺跡	散布地	中世
30	西ノ谷 遺跡	散布地	古代・中世
31	大輪山古墳	古墳	古墳
32	富家 城跡	城跡	中世
33	本村 遺跡	集落跡	弥生・中世
34	本村アンノヤシキ 遺跡	散布地	古代・中世
35	曾我 遺跡	集落跡	弥生・中世
36	香宗 城跡	散布地	中世
37	香宗 遺跡	散布地	中世
38	宝鏡寺 跡	寺跡	古代・中世
39	東野土居 遺跡	集落跡	旧石器～近世
40	東野 遺跡	散布地	古代・中世
41	平井 遺跡	散布地	古墳・古代
42	深洞 城跡	城跡	中世

No.	遺跡名	種別	時代
43	深洞 遺跡	散布地	弥生・中世
44	西野 遺跡	集落跡	弥生・中世
45	北地 遺跡	集落跡	弥生・中世
46	下ノ坪 遺跡	集落跡	弥生・古代
47	上岡北 遺跡	埴田・集落跡	弥生・近世
48	上岡 遺跡	集落跡	弥生・古代
49	高田 遺跡	集落跡	弥生・中世
50	下高田 遺跡	集落跡	古代・中世
51	宇賀 遺跡	散布地	弥生・中世
52	下井 遺跡	散布地	古代・中世
53	八丁地 遺跡	集落跡	古代
54	横井ナノ丸 遺跡	散布地	中世～近世
55	横井ウノ丸 遺跡	集落跡	古代・中世
56	野口 遺跡	散布地	弥生・中世
57	射場屋敷 遺跡	集落跡	弥生・中世
58	吉原 遺跡	城跡	中世
59	八反 遺跡	散布地	中世
60	浜口 遺跡	散布地	弥生・古墳
61	南中曾 遺跡	散布地	弥生・古墳
62	住吉移丘 遺跡	散布地	弥生
63	小原敷 遺跡	散布地	中世
64	ハザマ 遺跡	散布地	弥生・中世
65	須留田 城跡	城跡	中世
66	黒所の前 遺跡	散布地	弥生・中世
67	大東 遺跡	散布地	古墳・中世
68	江見 遺跡	散布地	古墳
69	岸本鬼母社西遺跡	集落跡	近世
70	岸本コノ丸 遺跡	散布地	中世
71	西坊 遺跡	散布地	中世
72	安岡家住宅	居敷地	近世
73	岡ノ芝 遺跡	散布地	古墳・中世
74	宮の西 遺跡	集落跡	弥生・古墳
75	宮ノ前 遺跡	散布地	弥生・中世
76	前田 城跡	城跡	中世
77	下分 遺跡	集落跡	弥生
78	中城 城跡	城跡	中世
79	久保田庵先 遺跡	集落跡	古代・中世
80	久保田 遺跡	集落跡	中世
81	刈谷 城跡	城跡	中世
82	園吉 城跡	城跡	中世
83	花室 遺跡	集落跡	弥生
84	徳王子大崎 遺跡	集落跡	弥生・中世

2. これまでの調査と二次調査の経過

西野遺跡の発掘調査は平成17年度より令和3年度まで合計6度に渡って行われている。いずれも調査の原因は宅地開発に伴う緊急発掘調査である。ここでは、一次調査が開始された平成16年度から本書が刊行される令和3年度に至る西野遺跡発掘調査の経緯をまとめておく。

(1) 一次調査(平成17年度調査)の概要と成果

本書で報告する二次調査の調査区中央から北部へ約50mの地点で行われた宅地開発に伴う調査

2. これまでの調査と二次調査の経過

で、全体の調査回数では一次調査に相当する。調査対象面積は2,409㎡、調査面積は564㎡である。平成16年度末に試掘調査、平成17年5～8月に本調査を実施、平成24年度に報告書が刊行された。検出遺構の主な帰属時期は4時期で、弥生後期末から古墳初頭(3世紀)、古墳後期(6世紀後半から7世紀初頭)、古代(8～10世紀)、古代末から中世前期(11～13世紀)である。堅穴建物跡が4棟、遺構番号を付した土坑は51基、ピットは343個である。

弥生時代後期末から古墳時代初頭の遺物が最も多く、4棟の堅穴建物跡及び8基の土坑、30個以上のピットが当該時期のもので、多くの弥生土器や土師器と共に庄内式土器などの搬入品も出土している。古墳時代後期及び古代の遺構は、明確に特定できるものは一部の土坑とピットなど僅かであるが、出土遺物の様相と周辺調査区の調査結果から、一定の範囲に広がっていたものと見られる。古代の遺物が出土した遺構は土坑20基以上とピット50個以上を占める。8世紀代の遺物が多く、赤色顔料の施された土師器や緑釉陶器、黒色土器など、官衙関連の集落と推察される遺物も出土している。特筆すべき遺物としては、SK45からU字形鋸・鋤先が挙げられる。古代末から中世前期の遺構はピット8基である。また調査区中央部の南北方向の溝(SD7)からは弥生時代から中世前期にかけて細片を含めて600点以上の遺物が出土している。

(2) 二次調査(平成18年度調査)の経過と概要

宅地開発に伴い、二次調査及び三次調査の試掘調査を平成17年10月に行った。試掘調査の結果、調査対象地には良好な遺物包含層が遺存しており、弥生土器・土師器・須恵器などが約4,000点出土した。この結果を受け、香南市教育委員会では、宅地部分については盛土によって遺跡の保護を行うこととし、永久構造物である全面道路施工と掘削深度の深い浄化槽設置部において、埋藏文化財の調査を実施し記録保存を行うこととした。宅地開発の対象地約15,000㎡の内、北西部の約8,700㎡を二次調査対象とし、調査面積は約4,500㎡である。

本発掘調査は、平成18年4月4日から平成19年3月30日まで、約1年間に渡って実施された。北部のA～D・J～L区については第一分冊である本報告書で、南部の調査区については、第二分冊において報告を行う。

(3) 三次調査の概要

平成17年度に実施した試掘調査の結果を元に、宅地開発の対象地の南東部で行われた調査である。調査対象地は約7,400㎡、調査面積は約3,000㎡である。平成18年10月1日から平成19年3月30日の約6ヶ月に渡って実施された。調査区南西部の弥生時代後期末の堅穴建物跡より青銅器銅矛再加工品が出土し、平成20年8月に記者発表が行われた。この他にも銭貨(萬年通寶)などの注目される遺物を含め、二次調査と合わせて弥生土器約75,200点、土師器約47,600点、須恵器約28,900点、瓦質土器約600点、中世陶磁器約230点、近世陶磁器約160点、瓦約2,700点、石製品約300点、鉄製品約210点などが出土した。検出遺構は弥生時代後期や古墳時代の堅穴建物跡約10棟など多数である。

(4) 四次調査の概要

二次調査の調査区の南東部で、浄化槽整備計画のある範囲について調査を行なった。調査対象面積は約905㎡、調査面積は170㎡である。二次調査の調査区に隣接するため、北区・南区の2調査区の内、北区は本報告書、南区については第二分冊において報告を行う。調査期間は平成19年10月9日から11月8日の約1ヶ月で、検出遺構や出土遺物は概ね二次・三次調査と同様の内容である。弥生土器・土師器・須恵器・貿易陶磁器などが出土し、検出遺構は、堅穴建物跡3棟、溝跡8条、柱穴等約300個である。

(5) 五次調査の概要

二次調査の調査区の北西部で、宅地開発に伴い影響を受ける範囲について行われた調査である。平成22年11月4日から翌23年1月7日まで行われた。調査対象面積は2,284㎡、調査面積は約700㎡である。これまでの調査と遺構・遺物の様相はほぼ同様であるが、弥生時代後期の遺物については後期前半に限定されており、後期後半の遺物は殆ど確認されていない。調査区西端の土坑2基と、東部の溝跡から弥生時代前期末の遺物がまとまって出土している。

(6) 六次調査の概要

二次調査の調査区の東部で実施された宅地開発に伴う調査で、調査対象地は約3,500㎡、調査面積は1,320㎡である。令和3年4月1日から9月20日まで約6ヶ月に渡って実施された。検出遺構は堅穴建物跡9棟、掘立柱建物跡10棟、土坑75基、溝跡37条、遺物が出土した柱穴879個で、出土遺物の様相は概ねこれまでの調査と同様である。弥生時代後期末の土器及び庄内式土器、大型の扁平片刃石

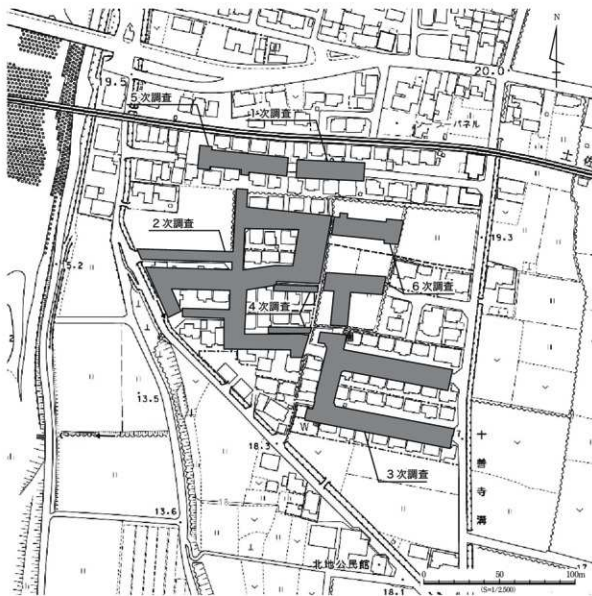


図1-3 西野遺跡1～6次調査区位置図

3. 試掘調査の概要

斧が出土した。

3. 試掘調査の概要

試掘調査は平成17年度二次調査と三次調査の調査範囲を対象に行われた。ここでは、平成17年度に作成された『西野ルノ丸地区南宅地開発に伴う試掘確認調査概報』を元に試掘調査の概要をまとめる。本報告書に掲載する二次調査の対象地の範囲内のトレンチはTR7～15で、調査面積は全体で168㎡である。調査方法は以下の通りである。重機及び手掘りにより遺構・遺物の有無を確認を行い、検出した遺構については平面図を作成した。それぞれの位置については平板による測量を行い、土層の確認はセクション図を作成し、記録を行なった。以下にそれぞれのトレンチについて詳細を報告する。



図1-4 試掘調査位置図

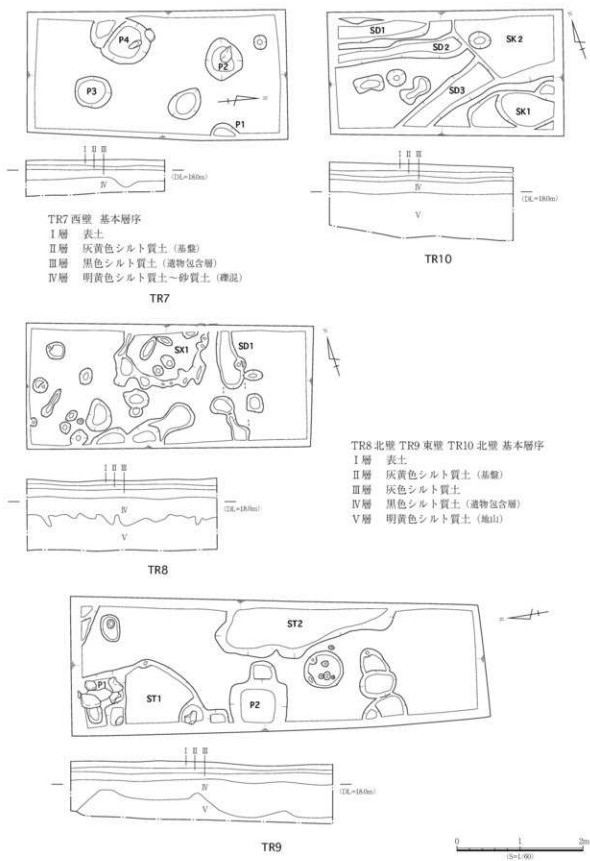
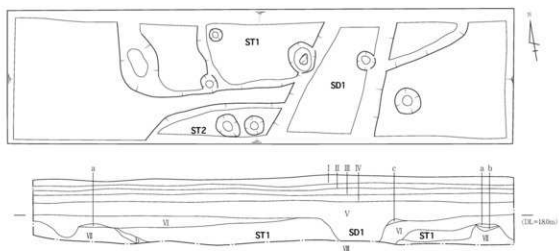


図1-5 試掘TR7~10遺構図

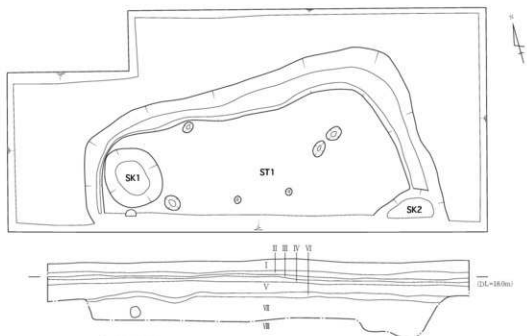
3. 試掘調査の概要



TR11 北壁 基本層序

- | | |
|-------------------|---------------------|
| I層 表土 | VII層 茶灰色シルト質土 |
| II層 灰黄色シルト質土 (基盤) | VIII層 明黄色シルト質土 (確認) |
| III層 灰色シルト質土 | a層 茶褐色シルト質土 |
| IV層 灰黒色シルト質土 | b層 黒茶色シルト質土 |
| V層 黒色シルト質土 | c層 明橙色シルト質土 |
| VI層 濃黒色シルト質土 | |

TR11



TR12 南壁 基本層序

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| I層 表土 | V層 黒色シルト質土 |
| II層 灰黄色シルト質土 (基盤) | VI層 濃黒色シルト質土 |
| III層 灰色シルト質土 | VII層 茶灰色シルト質土 |
| IV層 灰黒色シルト質土 | VIII層 明黄色シルト～砂質土 (確認) |

TR12



図1-6 試掘 TR11・12 遺構図

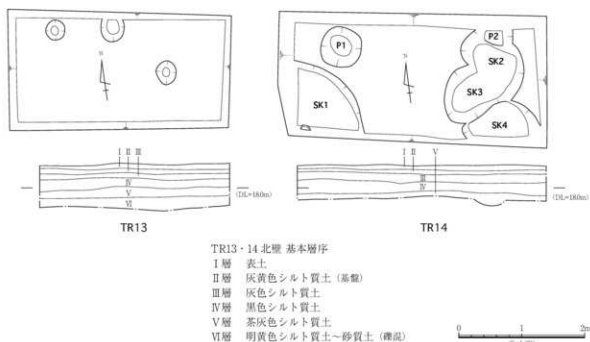


図1-7 試掘TR13・14遺構図

TR7

B区南端に設定した4.1×2.0mのトレンチである。検出した遺構は、柱穴6個である。出土遺物は弥生土器細片9点、土師器細片57点、石製品1点である。

TR8

B区中央南寄り、TR7の北側に設定した4.6×2.0mのトレンチである。トレンチ東側で南北に延びる古代の溝1条と、柱穴多数、性格不明遺構1基を検出した。出土遺物は土師器細片93点、須恵器細片1点である。1を図示した。

TR9

B区中央南寄り、TR8の北側に設定した6.5×2.1mのトレンチである。北側の西部隅と、中央東側に性格不明遺構を検出したが大半はトレンチ外へ延び、詳細は不明である。古代とみられる柱穴1個も検出した。出土遺物は、弥生土器細片83点、土師器細片196点、須恵器細片10点、近世陶磁器1点、土錘1点、石製品1点である。2～6を図示した。

TR10

B区北部東寄りに設定した3.7×2.0mのトレンチである。東西に延びる溝2条と北東から南西に延びる溝1条と、土坑2基を検出した。土坑はSD2・3に切られる。出土遺物は弥生土器細片48点、土師器細片17点、須恵器細片10点である。7・8を図示した。

TR11

B区北部中央に設定した8.0×2.0mのトレンチである。南北に延びる幅約1.4mの溝と、その溝に切られる堅穴建物跡とみられる遺構2棟を検出した。2棟ともトレンチ外に延びる。出土遺物は弥生土器細片498点、土師器細片13点、須恵器細片2点である。高、ST1については、整理作業の際にST2005と同一遺構であることが判明したため、ST2005出土遺物として遺物実測図を第II章に記載した。それ以外は9～13を図示した。

3. 試掘調査の概要

TR12

B区北部西寄りに設定した8.0×3.6mのトレンチである。古代の柱穴1個を検出した。トレンチ南側に竪穴建物跡を確認したため、南部の拡張を行なった。竪穴建物跡は長軸5.4mの隅丸方形状で、壁溝を確認した。出土遺物は弥生土器細片1,249点、土師器細片58点、須恵器細片1点、石製品2点である。14～41を図示した。33はST1床面で出土した。

TR13

B区西部北寄りに設定した3.5×1.8mのトレンチである。柱穴3個を検出した。出土遺物は土師器細片5点である。

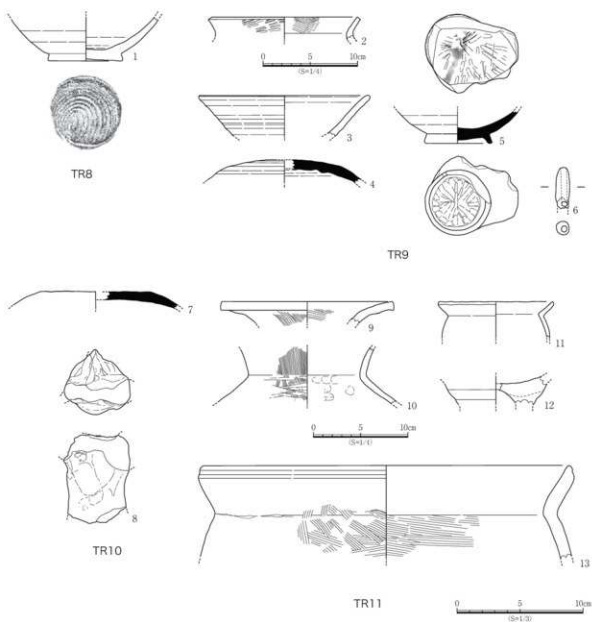


図1-8 試掘TR8～11出土遺物実測図

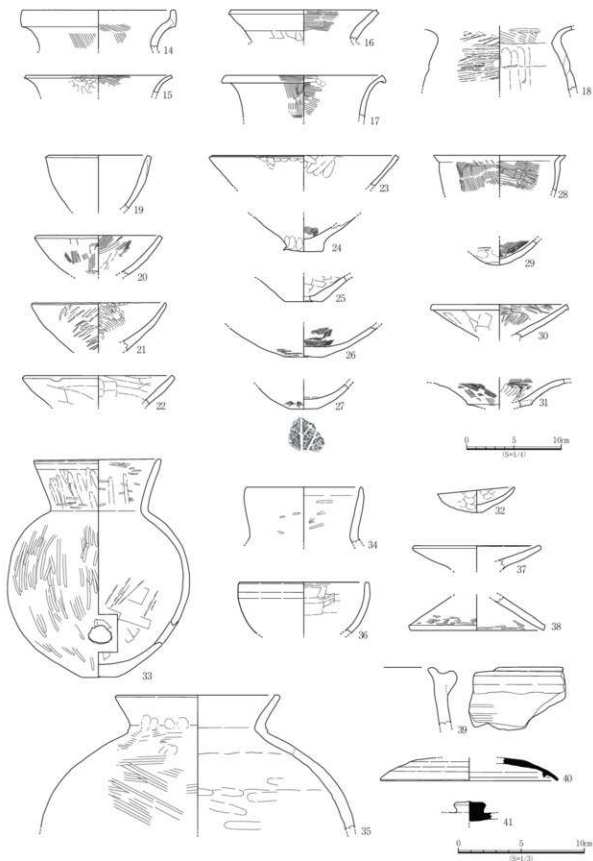


図1-9 試掘TR12出土遺物実測図

3. 試掘調査の概要

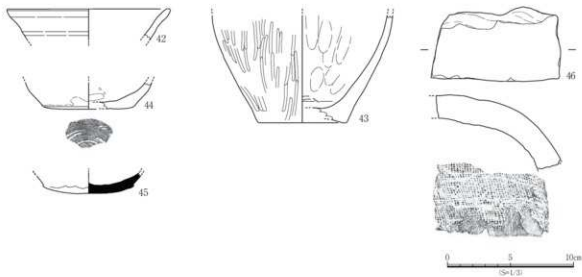


図1-10 試掘TR14出土遺物実測図

TR14

B区西部南寄りに設定した4.3×2.1mのトレンチである。西南隅に竪穴建物跡の一部とみられる落ち込みを確認した。東部の土坑からは布目圧痕を有する瓦や比熱した自然石が出土した。出土遺物は弥生土器細片16点、土師器細片47点、瓦1点、石製品1点である。42～46を図示した。

TR15

B区西部中央に設定した4.6×2.0mのトレンチである。遺構と思われるものは確認できなかった。出土遺物は土師器細片1点である。

まとめ

試掘調査の結果、本調査地点には良好な遺物包含層が遺存しており、弥生土器・土師器・須恵器等が約4,000点出土した。検出遺構についても、竪穴建物跡とみられる遺構7棟をはじめ、掘立柱建物と考えられる柱穴や土坑、溝等が多数検出され、調査地全体に弥生時代から古代(平安時代)の遺構を確認することができた。野市町深湖北遺跡から上岡遺跡にかけての物部川左岸、河岸段丘部や野市台地上一帯の遺跡とも密な関係を呈していることが考えられる。⁽¹⁾

補注

(1) 「平成17年度－西野ルノ丸地区南宅地開発に伴う試掘確認調査概報－」より抜粋、一部改変

第Ⅱ章 北部調査区の調査成果

1. 調査の方法

原則として、宅地開発計画の内、幅員6mの道路及び、その両側3mの浄化槽設置予定範囲の4,500㎡について調査を実施した。調査に際しては、任意の座標軸を採用した。4mごとのグリッドを設定し、東西方向については東部隅を起点としたアルファベット、南北方向は北部隅を起点として、位置情報の記録を行なった。任意座標軸の北は、公共座標軸より17度東傾する。

調査区名については掘削順にアルファベットを付したが、検出遺構については全調査区を通して続き番号を付した。遺構番号を付したのは、全ての竪穴建物跡及び溝跡、遺物が出土した土坑・ピット等である。掘立柱建物については、調査時には個別のピットとして記録を取り、整理作業の際に遺

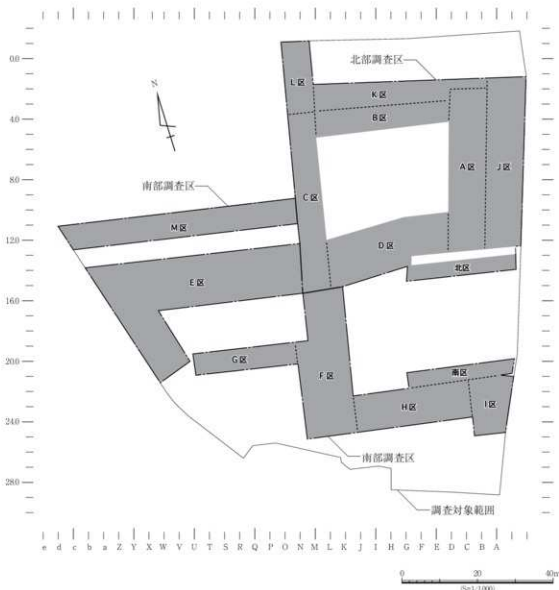


図2-1 調査区位置図・グリッド設定図

2. 調査区の概要と基本層序

構番号を付した。

発掘調査は、耕作土及び包含層の直上まで重機を用いて堆積土を除去し、包含層掘削・遺構検出・遺構埋土掘削を手作業で進めた。遺構の実測については、平面及び断面を縮尺20分の1、出土状態など必要に応じて縮尺10分の1等の図を作成し、記録を行なった。

2. 調査区の概要と基本層序

調査区の基本層序は以下の通りである。土質及び色調については、調査時の記録を採用している。H区南壁ではV層、J区東壁ではIV層が遺物包含層である。包含遺物は弥生時代前期末から近世までが混在する。遺構検面の標高は東部J区で17.90～18.10m、西部E区で17.20～17.80m、南部H区で17.40～17.60m、北部K区で17.80～18.10mである。北東部が高く、南西部へ向かって僅かに傾斜している。

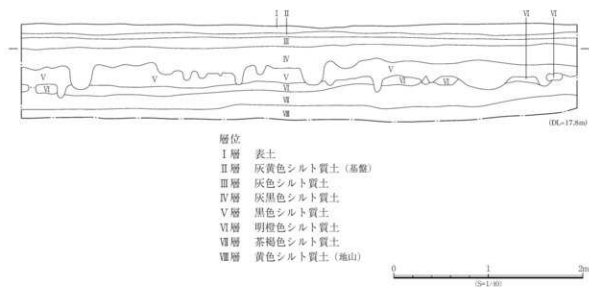


図2-2 H区南壁セクション

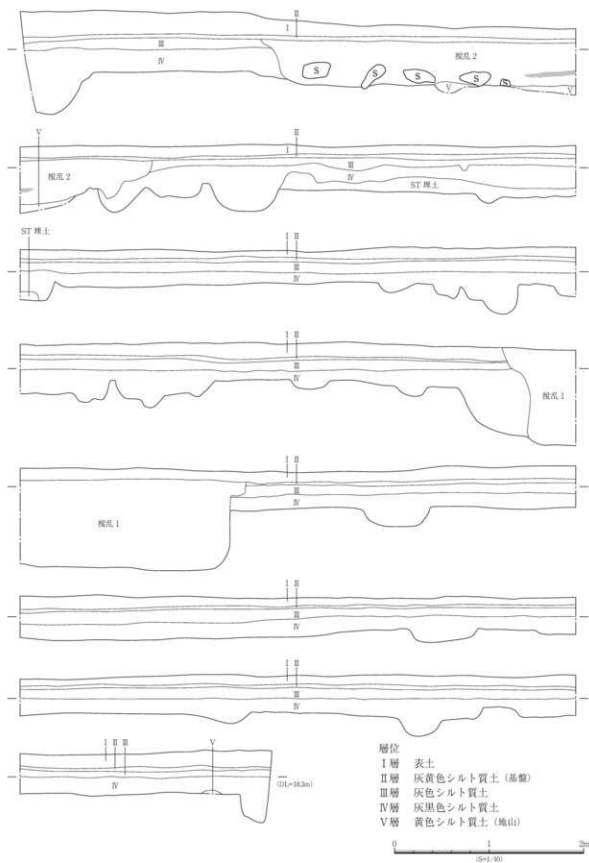


図2-3 J区東壁セクション

2. 調査区の概要と基本層序

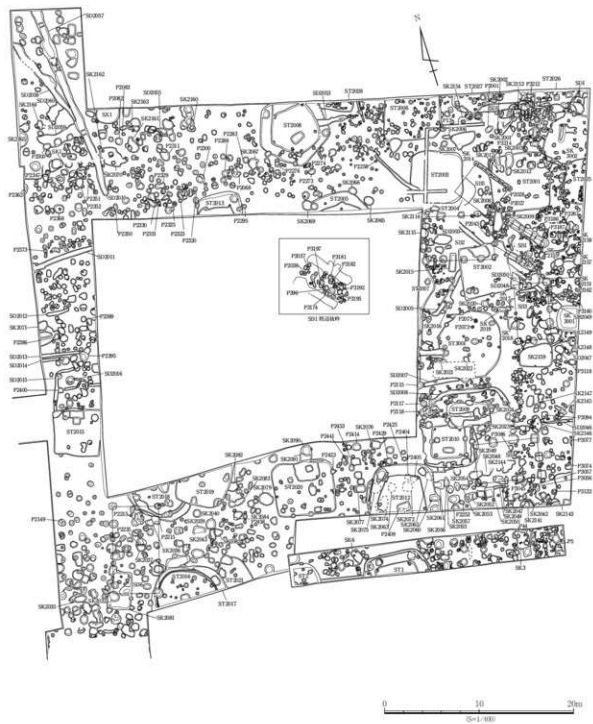


図2-4 遺構平面図

3. 検出遺構と出土遺物

二次及び四次調査では、竪穴建物跡29棟、土坑94基、溝跡73条、ピット多数の遺構を検出した。遺構検出面は1面のみで、異なる時期の遺構が同一面で確認された。出土遺物から確認できる時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期、近世から近代と多岐に渡る。占める割合としては弥生時代終末期から古墳時代初頭、次に古墳時代後期、これに次いで古代から中世前期の遺物が確認されている。一方、いくつかの時期の遺物が混在して出土した遺構も多く、遺構の時期の特定が困難なものも多い。ここでは、調査区全体の内、主に北部のA～D・J～L区と四次調査(平成19年度)の北区で検出した遺構・遺物について報告する。

(1)竪穴建物跡

竪穴建物跡は異なる時期の遺構との切り合いが多く、出土遺物の混入もみられるが、概ね弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期の2時期のものが検出された。調査時の切り合い関係の記録が乏しく、整理作業の際に確定できた別時期の遺構については破線、判然としないものについては実線で床面検出遺構と同様の表記とした。出土遺物実測図については器種・器形ごとに図示し、詳細については、遺物観察表に記す。

ST2001

A・J区北部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。長軸は6.40m、短軸は6.24mを測り、面積は約40.00㎡である。検出面からの深さは約0.16mで、床面標高は約18.00mを測る。北部縁辺中央部に焼土を伴うカマドを検出した。床面北東部と南西部に複数の小ピットを検出したが、主柱穴については判然としない。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、47～72を図示した。

ST2002

A区中央部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。長軸は5.28m、短軸は5.20mを測り、面積は約27.00㎡である。検出面からの深さは約0.16mで、床面標高は約17.85mを測る。北部縁辺中央部にカマドを検出した。主柱穴については判然としない。出土遺物は弥生土器・須恵器・石製品等で、73～81を図示した。

ST2003・2004

ST2003はA区北部及びB区東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。長軸は6.72m、短軸は5.48mを測り、面積は約37.00㎡である。検出面からの深さは約0.32mで、床面標高は約17.70mを測る。北部縁辺中央部にカマドを検出した。主柱穴は確認されていない。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石製品等で、82～134を図示した。ST2004はST2003に切られる、隅丸方形を呈するとみられる竪穴建物跡である。検出面からの深さは約0.20mである。隅部のみ検出され、詳細は不明であるが、長軸3.20m以上、短軸1.20m以上、面積は24.00㎡以上をとみられる。出土遺物は弥生土器等で、135～139を図示した。

ST2005

B区南部で検出した多角形状を呈するとみられる竪穴建物跡で、調査区南部へ延びる。長軸は7.04m以上、短軸は2.44m以上を測り、面積は約8.81㎡以上である。検出面からの深さは約0.48mで、北部に深さ0.24mの段部を有する。床面標高は約17.60m、下段は約17.50mを測る。主柱穴については判然としない。出土遺物は弥生土器・土師器・石製品等で、140～159を図示した。試掘調査の際に出土したTR11の出土遺物についても、同一遺構のため合わせて掲載した。

3. 検出遺構と出土遺物

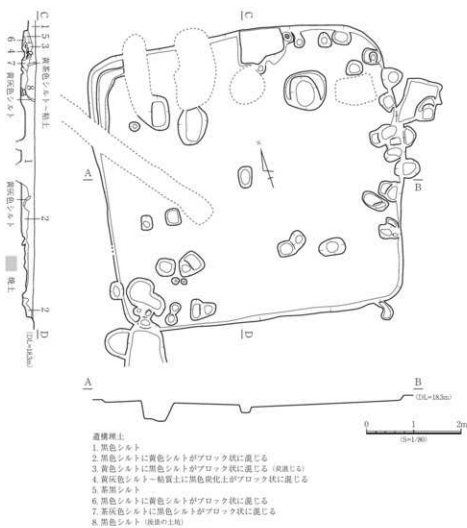


図2-5 ST2001遺構図

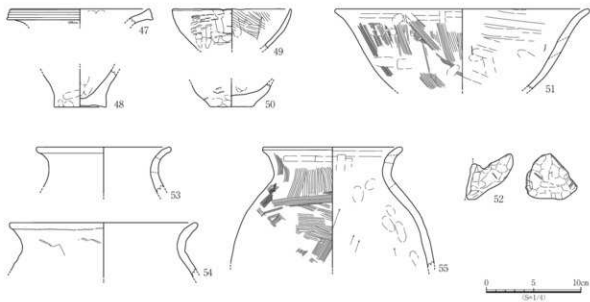


図2-6 ST2001出土遺物実測図1

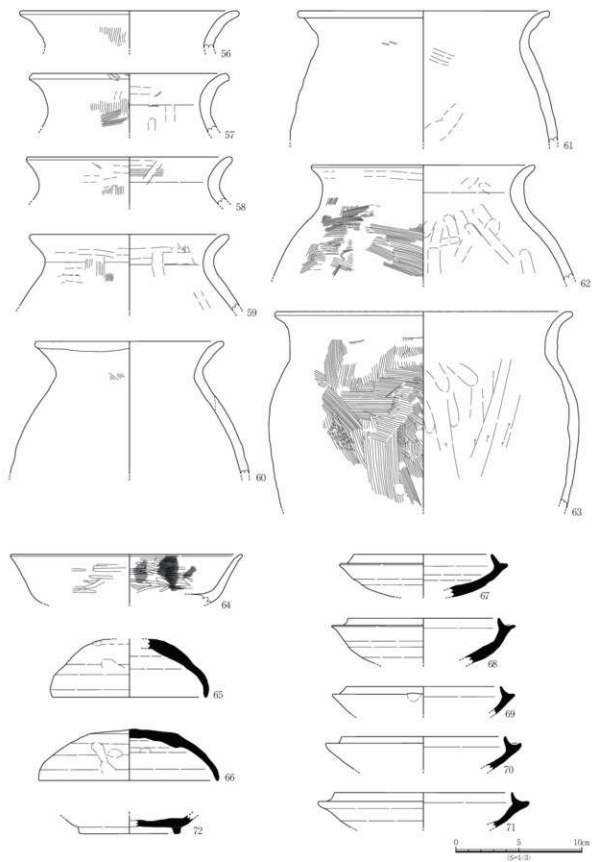


图2-7 ST2001出土遺物実測図2

3. 検出遺構と出土遺物

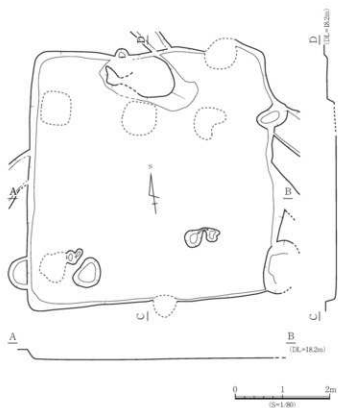


図2-8 ST2002遺構図

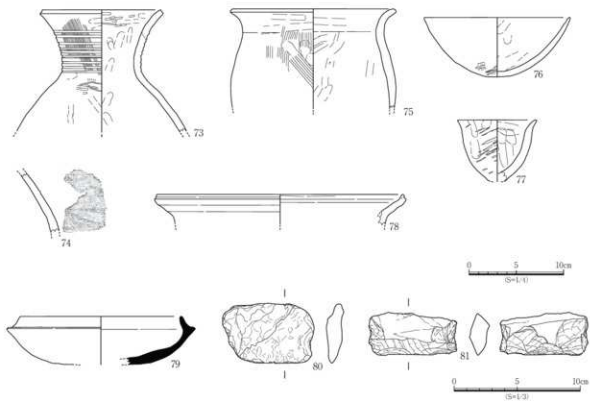


図2-9 ST2002出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

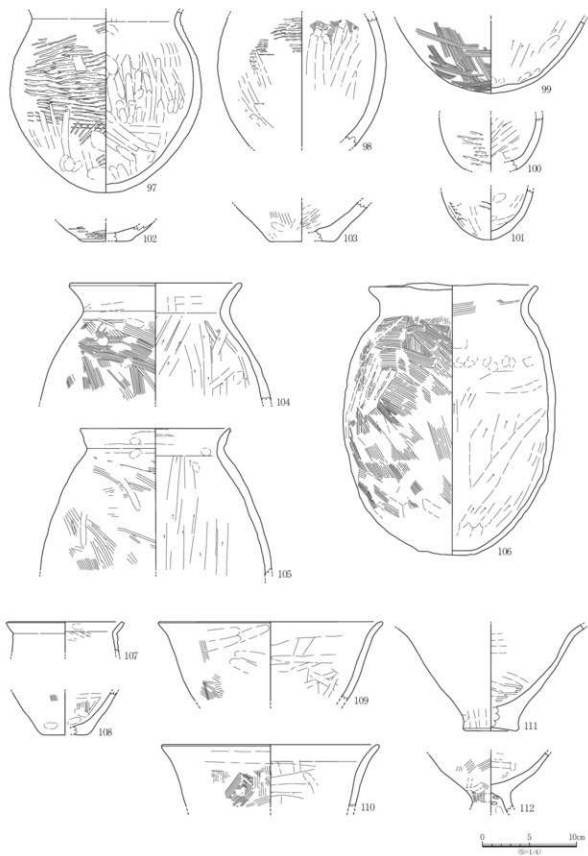


图2-12 ST2003出土遺物実測図2

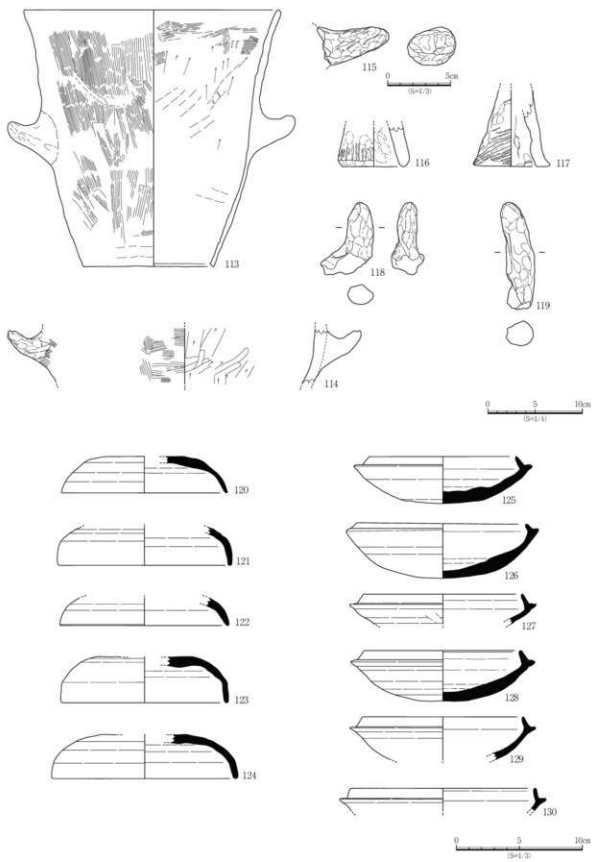


图2-13 ST2003出土遺物実測図3

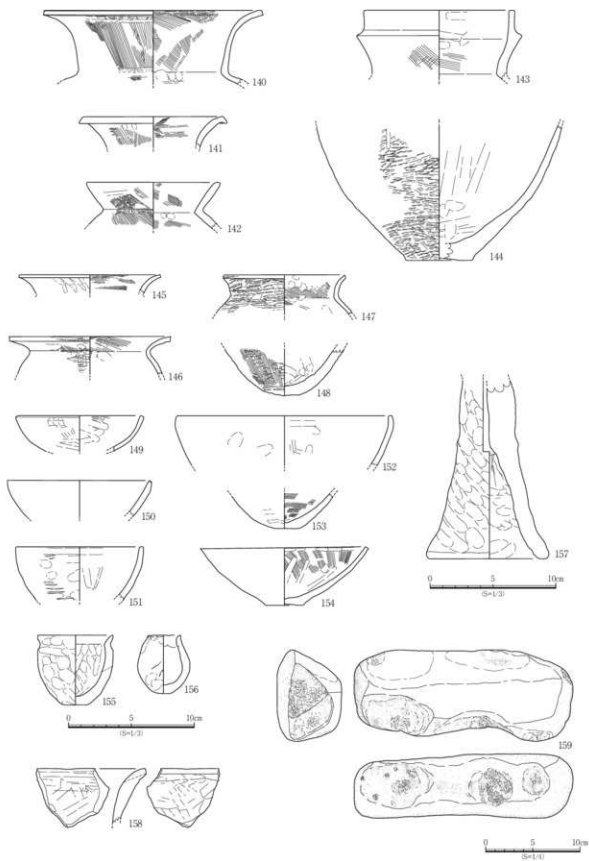


図2-17 ST2005出土遺物実測図

ST2006

K区東部及びB区北東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、調査区北部へ延びる。長軸は6.08m、短軸は4.64m以上を測り、面積は約28.21㎡以上である。検出面からの深さは約0.32mで、床面標高は西部で約17.50m、東部で約17.60mを測る。床面で小ピットを検出したが、主柱穴については判然としな。出土遺物は須恵器・鉄製品等で、160・161を図示した。

ST2007

A区中央西部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、調査区西部へ延びる。長軸は4.80m以上、短軸は1.80m以上を測り、面積は約5.40㎡以上である。検出面からの深さは約0.32mで、床面標高は西部で約17.59m、東部で約17.73mを測る。床面で主柱穴は検出されなかった。出土遺物は弥生土器・石製品等で、162～173を図示した。

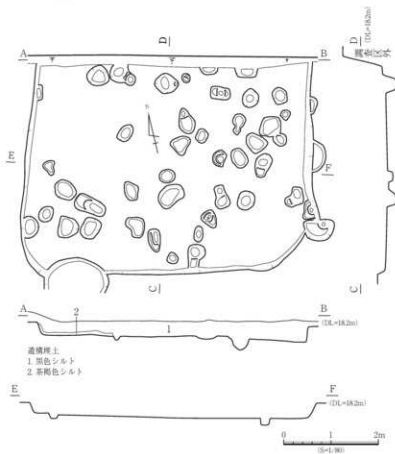


図2-18 ST2006遺構図

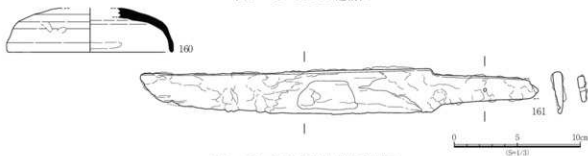


図2-19 ST2006出土遺物実測図

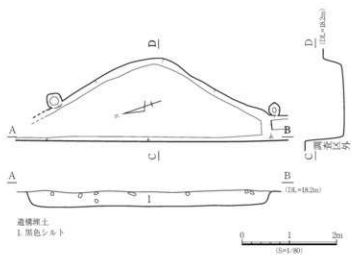


図2-20 ST2007遺構図

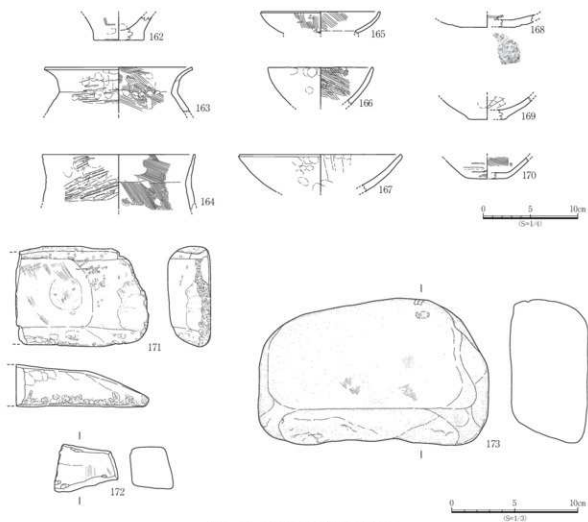


図2-21 ST2007出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

ST2008

K区中央部及びB区北部で検出した隅丸五角形を呈する竪穴建物跡で、調査区北西部へ延びる。長軸は7.48m、短軸は6.88m以上を測り、面積は約38.48㎡以上である。検出面からの深さは約0.36mで、床面標高は約17.85mを測る。中央部は同じく隅丸五角形を呈する段部を有し、下段の床面標高は17.75mを測る。主柱穴は5個とみられる。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石製品等で、174～227を图示した。

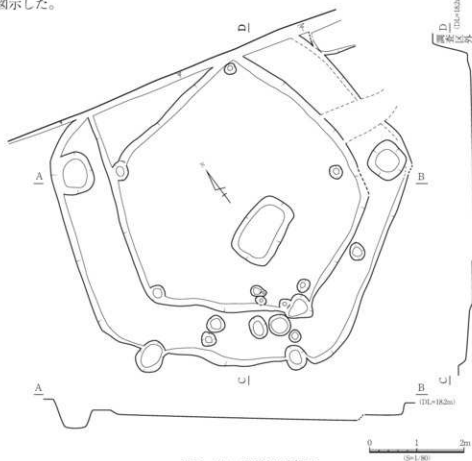


図2-22 ST2008遺構図

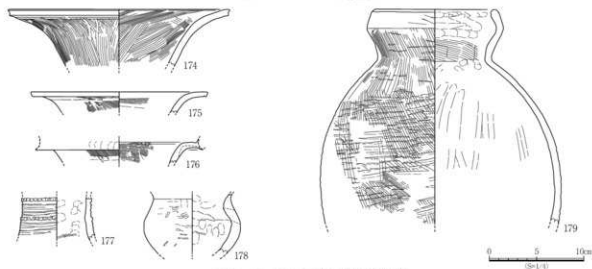


図2-23 ST2008出土遺物実測図1

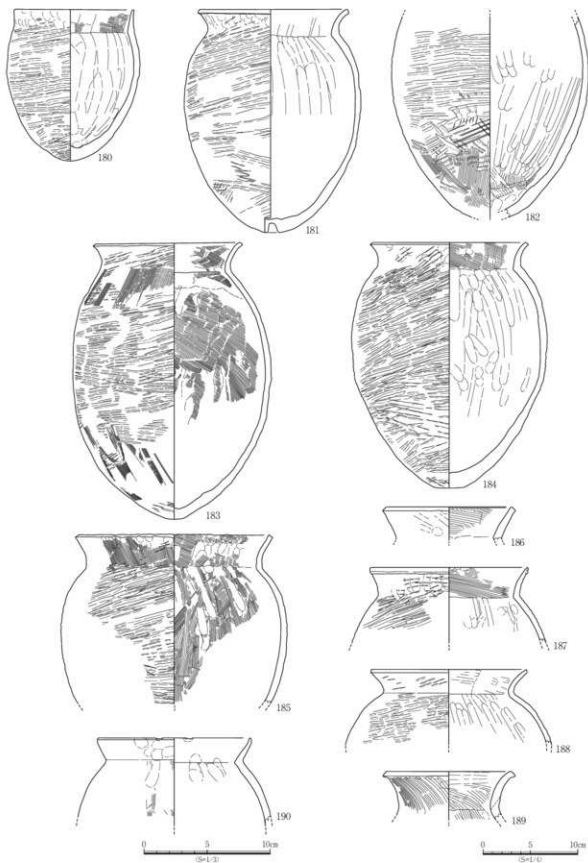


図2-24 ST2008出土遺物実測図2

3. 検出遺構と出土遺物

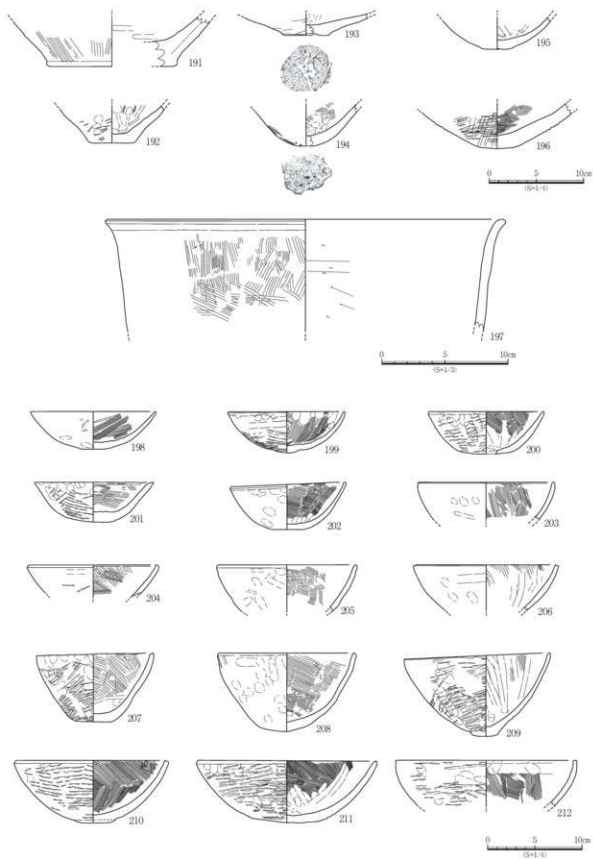


图2-25 ST2008出土遺物実測図3

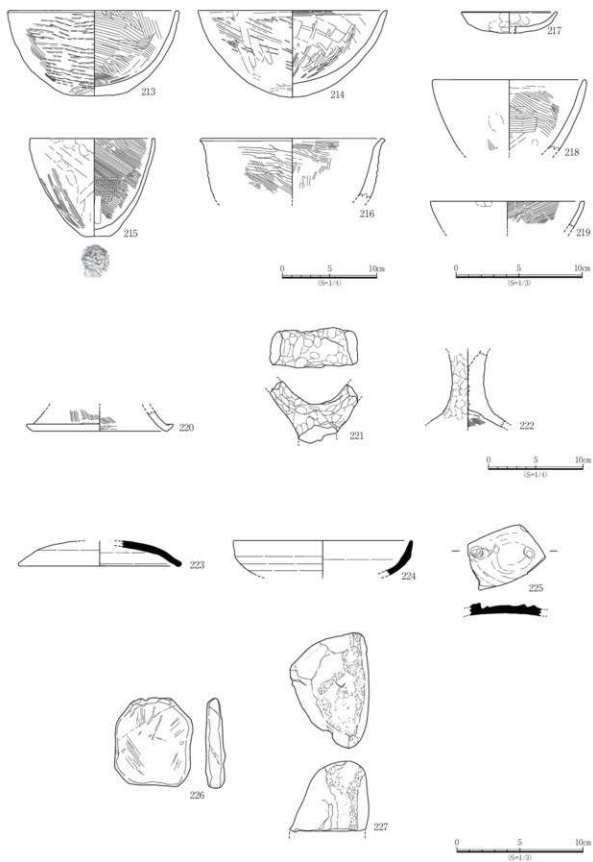


図2-26 ST2008出土遺物実測図4

3. 検出遺構と出土遺物

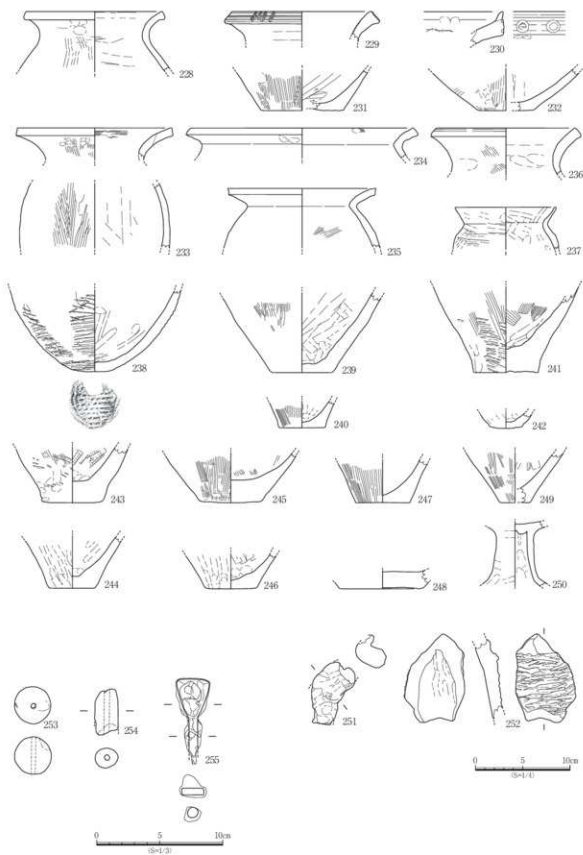
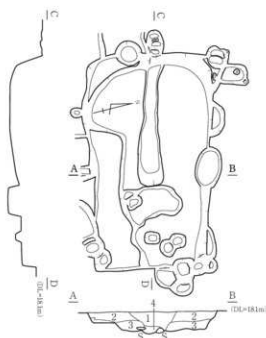


图2-27 ST2009出土遺物実測図1

ST2009

A区南部で検出した隅丸長方形を呈する遺構である。堅穴建物跡又は土坑と考えられるが、調査時の番号通りSTとして報告を行う。長軸は4.48m、短軸は2.76mを測り、面積は約12.36m²である。検出面からの深さは約0.40mで、床面標高は約17.50mを測る。主柱穴は判然とせず、中央に幅0.24～0.56mの東西方向の溝状の落ち込みを有する。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・鉄製品等で、228～265を図示した。



遺構埋土

1. 黒色シルトに黄色シルトがブロック状に混じる
2. 灰黒色シルト
3. 黒色シルトに黄色シルトがブロック状に多く混じる
4. 黒色シルトに黄色シルトがブロック状に少し混じる

0 1 2m
(S=1/80)

図2-28 ST2009遺構図

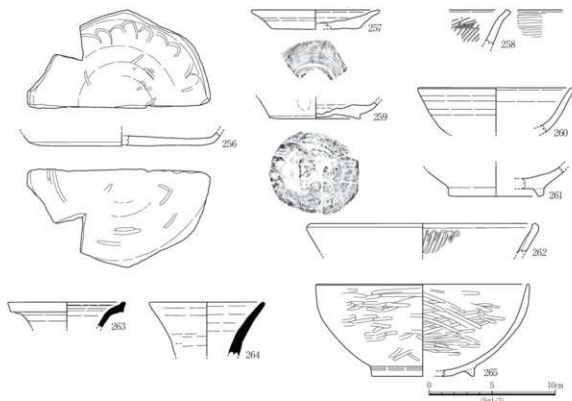
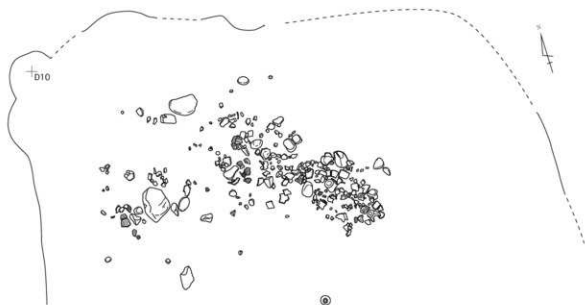


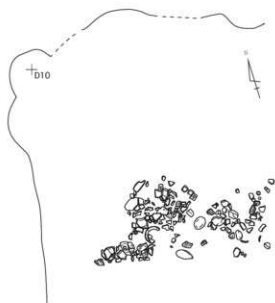
図2-29 ST2009出土遺物実測図2

ST2010 上面 土器集中

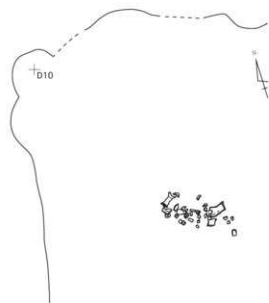
ST2010 の検出面で土器集中を確認した。遺物が出土した範囲は、ST2010 の直上に当たり、廃絶儀礼等の関連があるものとみられるため、関連遺構として報告しておく。調査時には3回に分けて遺物の取り上げを行った。土器集中の出土遺物は、弥生土器・石製品等で、266～306を図示した。



ST2010 上面土器集中 遺物出土状態 (1回目)



ST2010 上面土器集中 遺物出土状態 (2回目)



ST2010 上面土器集中 遺物出土状態 (3回目)



図2-30 ST2010上面土器集中遺物出土状態図

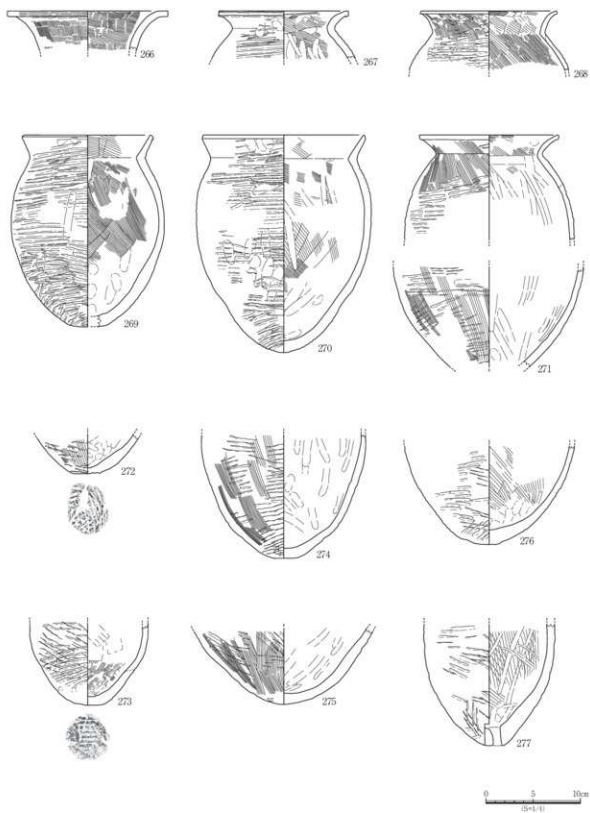


図2-31 ST2010上面土器集中出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

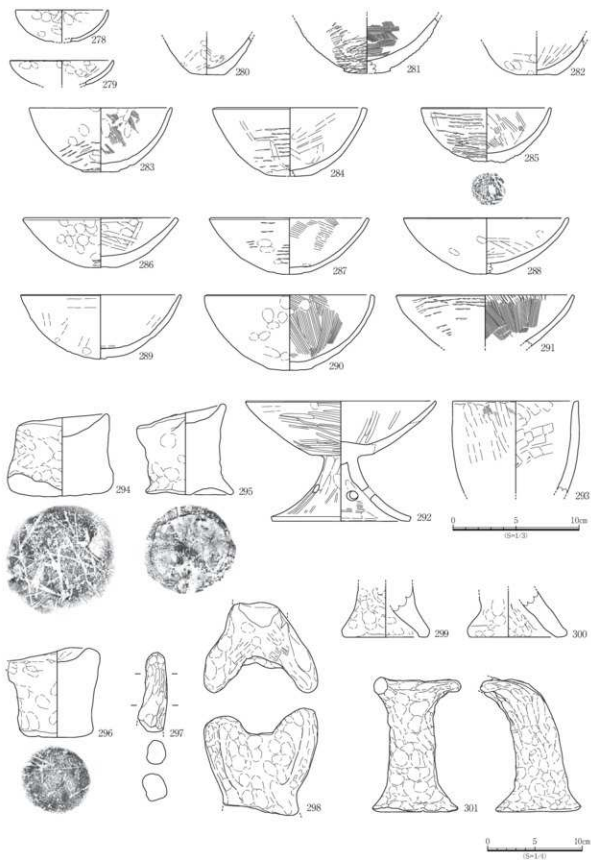


图2-32 ST2010上面土器集中出土遺物実測図2

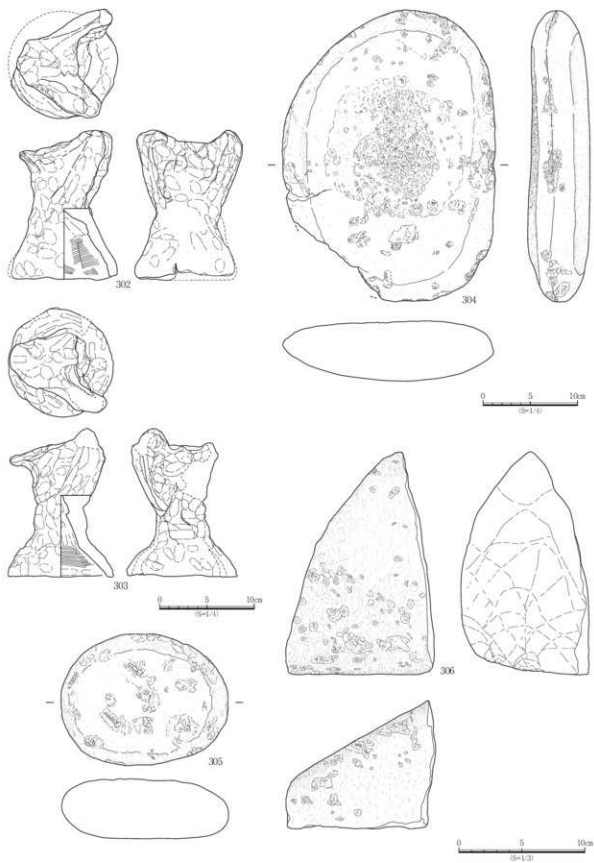


图2-33 ST2010上面土器集中出土遺物実測図3

ST2010

A区南部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。長軸は6.00m、短軸は5.76mを測り、面積は約34.56㎡である。検出面からの深さは約0.40mで、床面標高は約17.45mを測る。中央部の東西に並ぶピットは棟持柱、中央部の方形を呈する落ち込みの四隅にみられる小ピットは、柱又は垂木とみられる。床面東部及び南部の壁際に幅0.19～0.48mの壁溝が巡る。ST2010の出土遺物は弥生土器・須恵器・石製品等で、307～379を図示した。

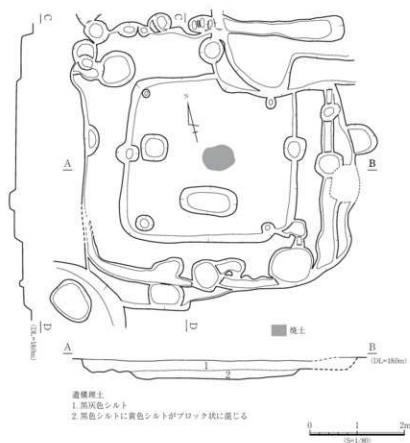


図2-34 ST2010遺構図

ST2012

D区東部で検出した隅丸五角形とみられる竪穴建物跡である。長軸は7.92m、短軸は5.28m以上を測り、面積は約41.82㎡以上である。検出面からの深さは約0.40mで、床面標高は17.80mを測る。中央部は同じく隅丸五角形を呈する段部を有し、下段の床面標高は17.20～17.30mである。床面西部壁際に幅0.30～0.40mの壁溝を有し、主柱穴は3個以上とみられる。中央土坑は床面中央よりやや南部に位置し、隅丸長方形状である。ST2012の出土遺物は弥生土器・土師器・石製品等で、380～480を図示した。

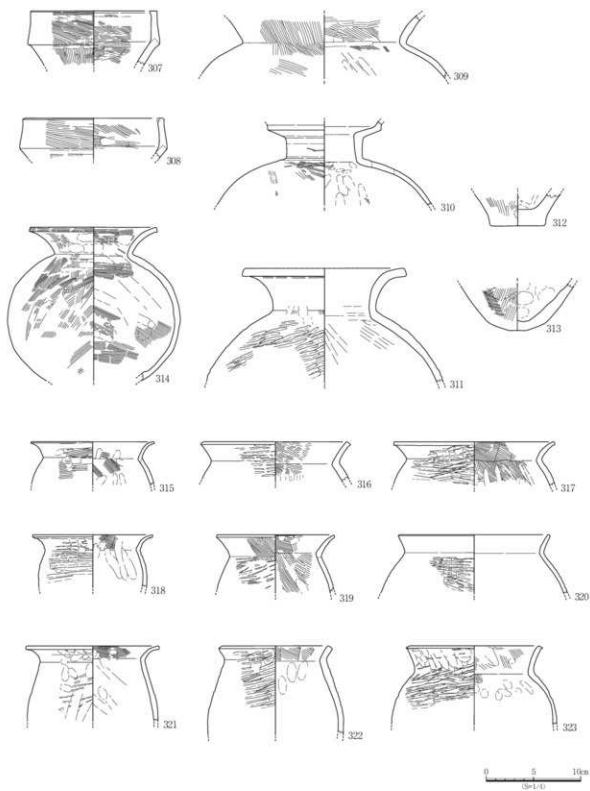


図2-35 ST2010出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

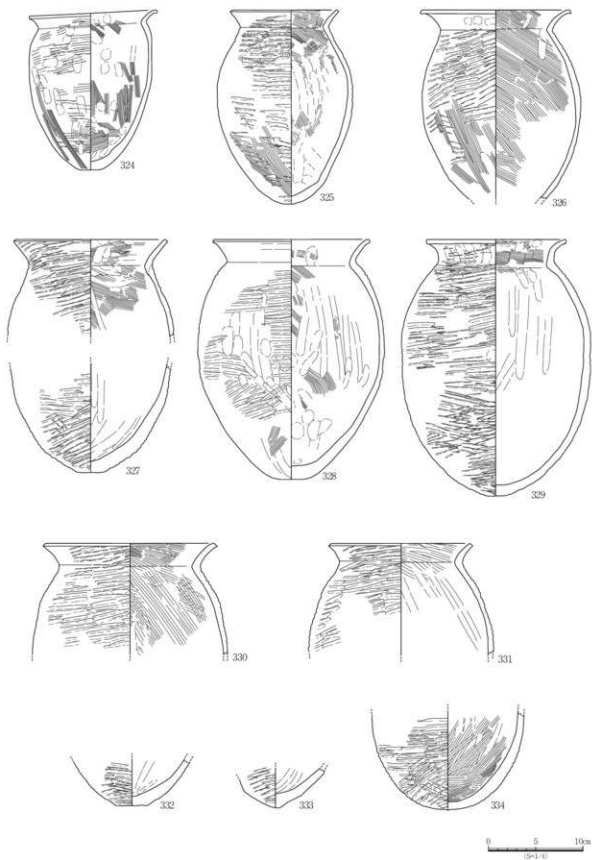


图2-36 ST2010出土遺物実測图2

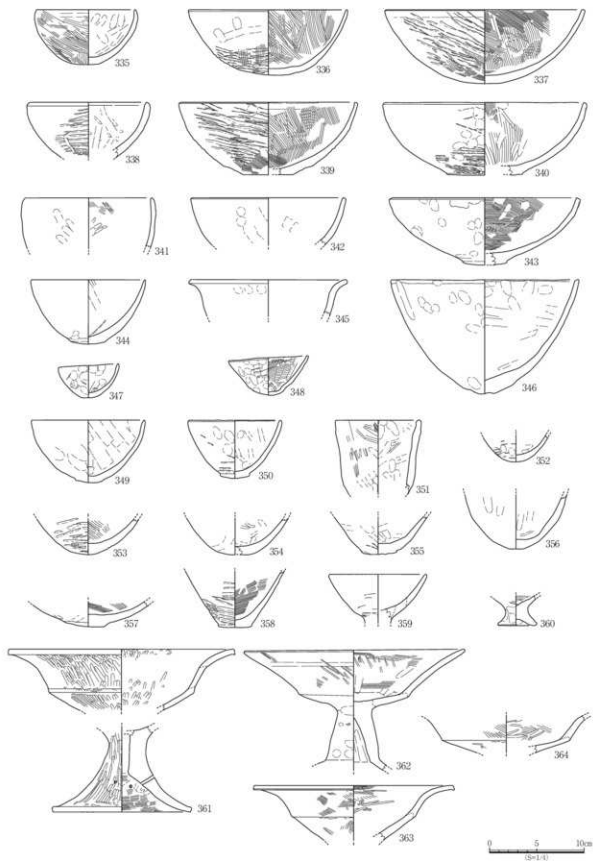


図2-37 ST2010出土遺物実測図3

3. 検出遺構と出土遺物

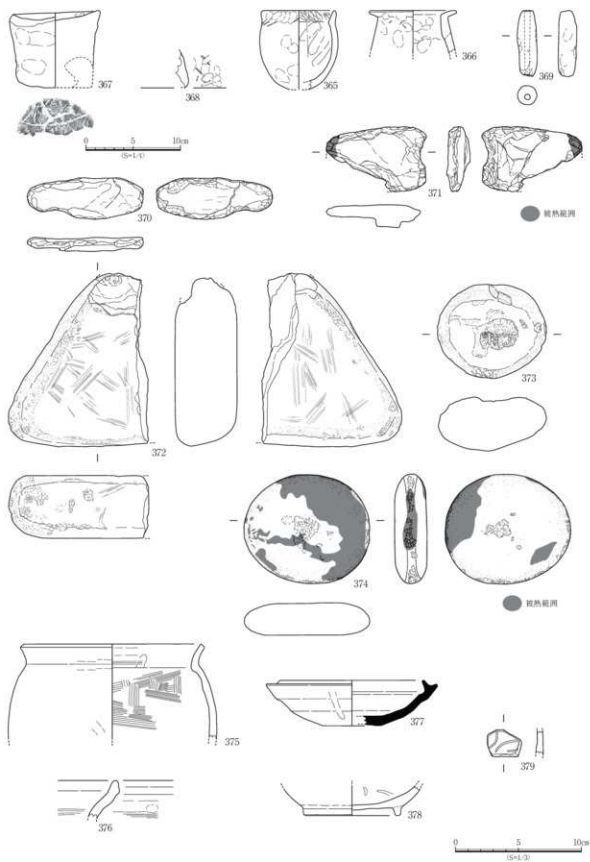
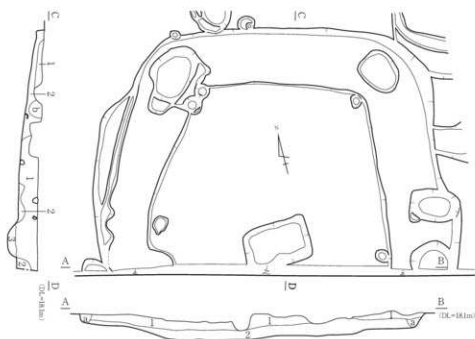


图2-38 ST2010出土遺物実測图4



- 遺構概上
1. 黒色シルトに灰色シルトが混じる
 2. 灰色シルトに黄色シルトがブロック状に混じる
 3. 灰色シルトに橙黄色シルトがブロック状に混じる
- a. 黒色シルトに黄色シルトが混じる
b. 黒色シルト

図2-39 ST2012遺構図

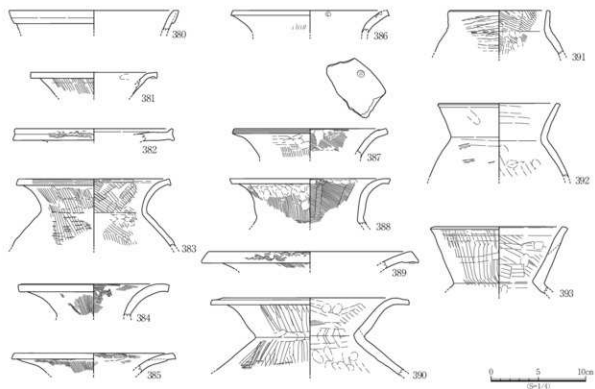


図2-40 ST2012出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

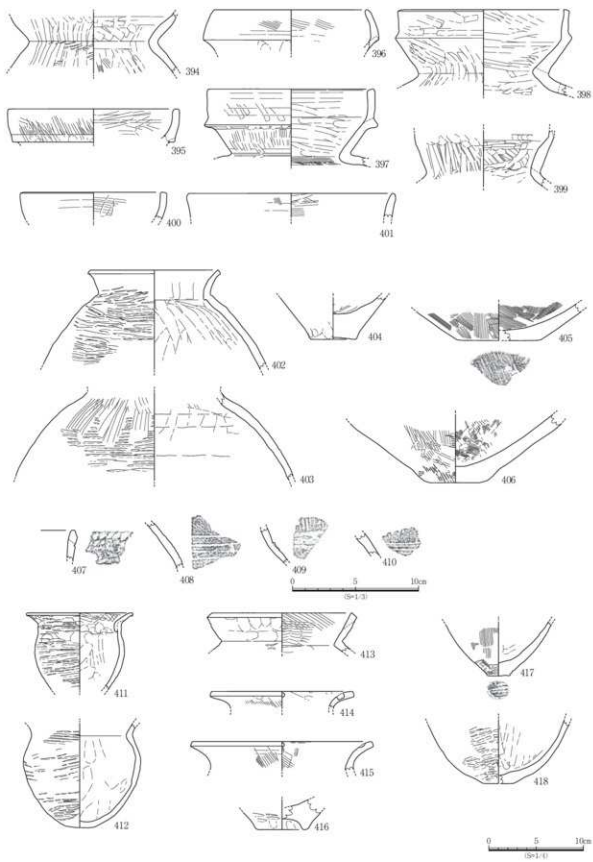


图2-41 ST2012出土遺物実測図2

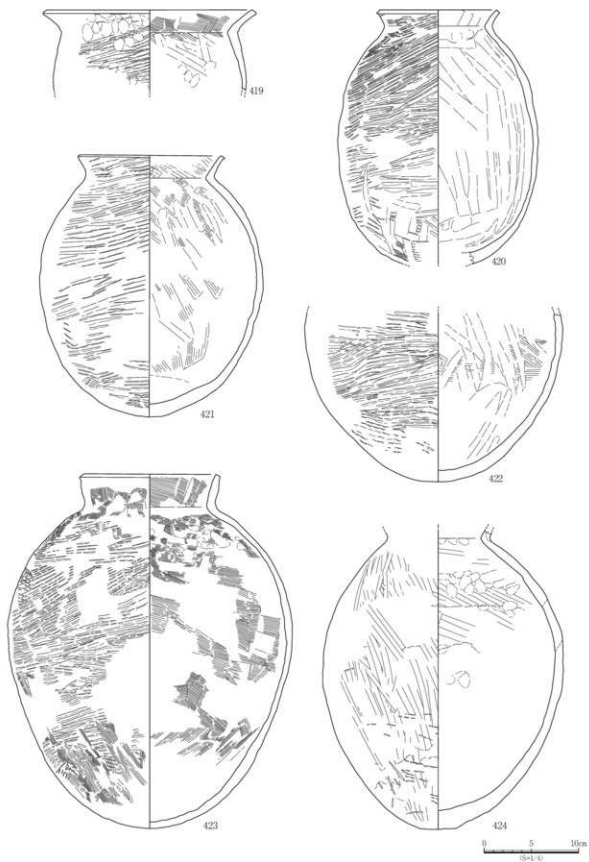


図2-42 ST2012出土遺物実測図3

3. 検出遺構と出土遺物

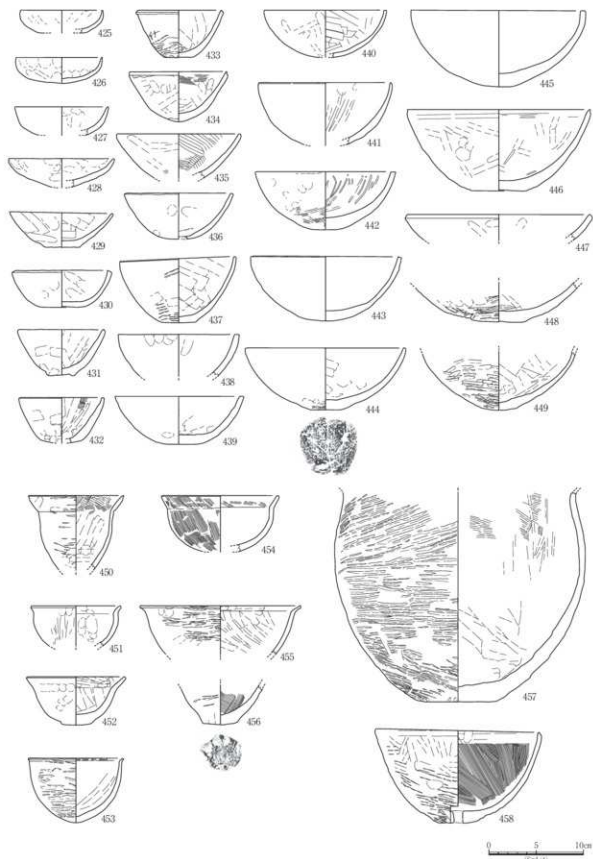


图2-43 ST2012出土遺物実測図4

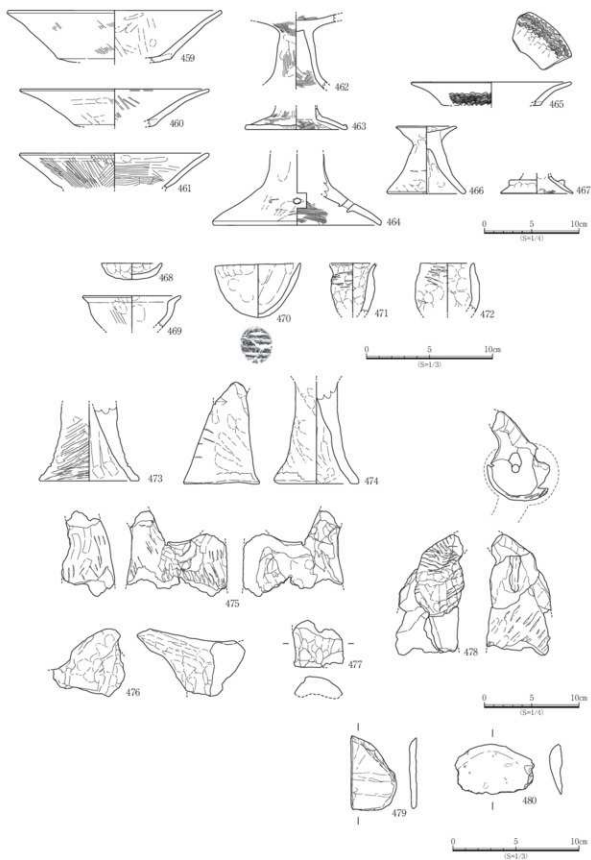


図2-44 ST2012出土遺物実測図5

3. 検出遺構と出土遺物

ST2013

B区南部で検出した隅丸方形とみられる竪穴建物跡で調査区南壁へ延びる。長軸は4.64m、短軸は2.40m以上を測り、面積は約11.13m²以上である。検出面からの深さは約0.32mで、床面標高は約18.00mを測る。中央寄りに不整形の段部を有し、下段の床面標高は17.90mである。主柱穴は2個以上とみられる。ST2013の出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、481～497を图示した。

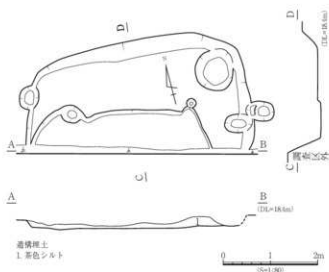


図2-45 ST2013遺構図

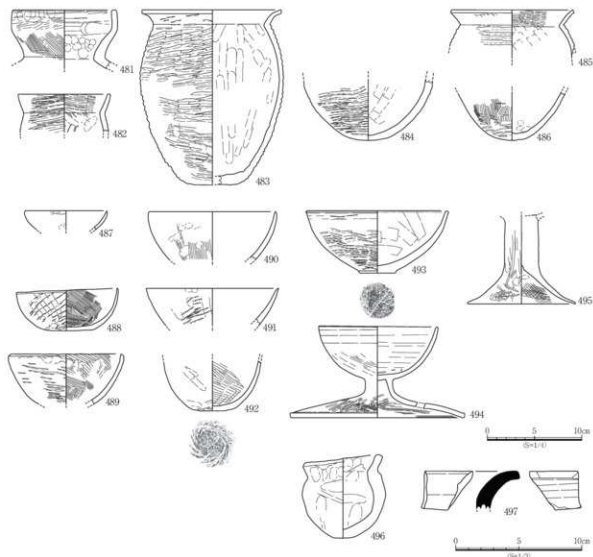
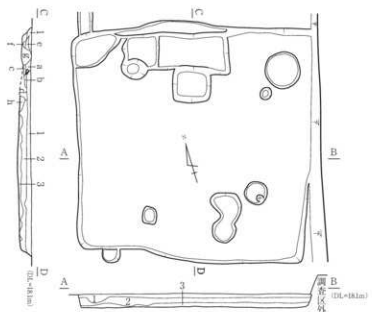


図2-46 ST2013出土遺物実測図

ST2015

C区中央部で検出した隅丸方形ないし方形の堅穴建物跡で調査区東壁へ延びる。長軸は5.16m、短軸は4.88mを測り、面積は約25.18㎡である。検出面からの深さは約0.28mで、床面標高は17.70mを測る。北部縁辺中央部にカマドを検出した。主柱穴は4個とみられる。ST2015の出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石製品等で、498～520を図示した。



遺構埋土

1. 灰色シルトに灰色シルトが混じる
2. 灰黒色シルト
3. 茶色シルトに灰色シルトが混じる

遺構埋土 (カマド)

- a. 灰黒色シルトに橙色シルトがブロック状に混じる
- b. aより少し濃い灰黒色シルトにaより橙色シルトがブロック状にはるかに多い
- c. 灰黒色シルト
- d. 濃黒色シルト (吹き口埋土)
- e. 黒灰色シルト
- f. 灰色シルトに黄色シルト・粘質土が混じる
- g. 黄色粘土に灰色・黒色シルトが混じる (カマド構築粘土)
- h. 黄色粘土に灰色・黒色シルトが混じる



図2-47 ST2015遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

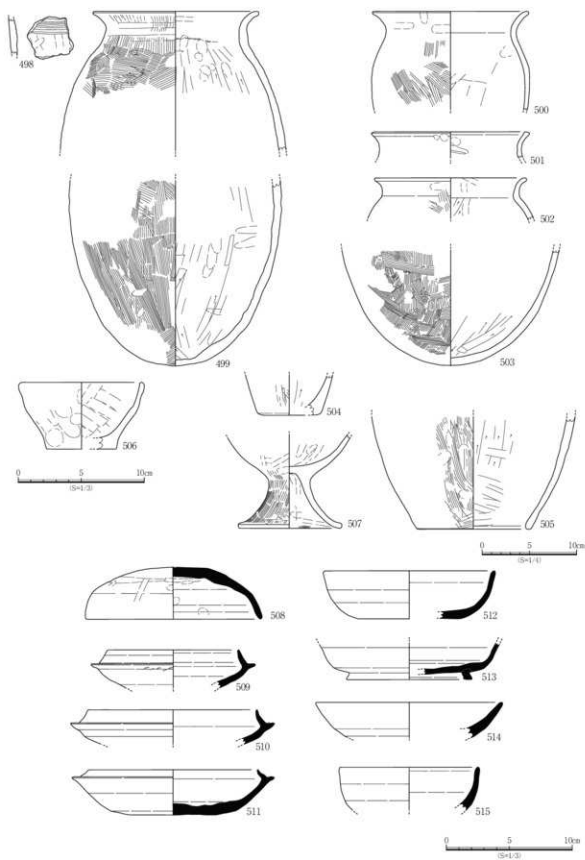


图2-48 ST2015出土遺物実測図1

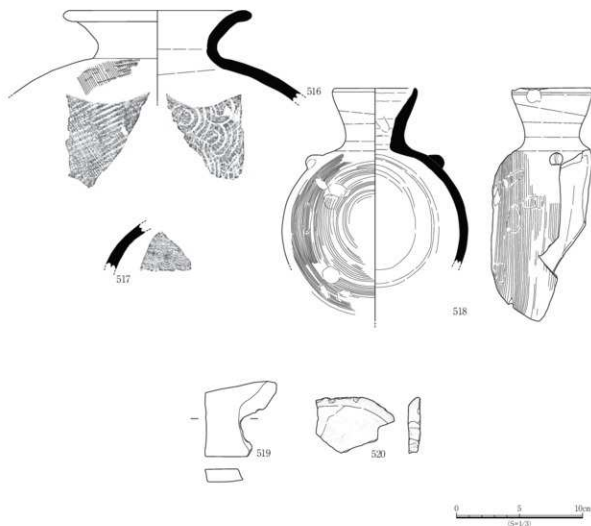


図2-49 ST2015出土遺物実測図2

ST2016

D区南部で検出した円形状の竪穴建物跡で調査区南壁へ延びる。長軸は7.28m、短軸は3.52m以上を測り、面積は約19.66㎡以上である。検出面からの深さは約0.48mで、床面標高は17.40mを測る。床面に複数のピットがみられ、主柱穴は判然としない。壁溝は壁際及び段部の際で確認され、幅0.12～0.24mを測る。中央ピットは床面の中央に位置する。ST2016の出土遺物は弥生土器・須恵器・石製品等で、521～534を図示した。

ST2017

D区南部で検出した円形状の竪穴建物跡でST2016の北東部に隣接し、大半を切られる。長軸は3.92m以上、短軸は0.96m以上を測り、面積は約5.55㎡以上である。検出面からの深さは約0.36mで、床面標高は17.40mを測る。主柱穴はみられない。床面標高はほぼ同じであるが、ST2016に切られる形で検出されたため、異なる遺構と判断された。ST2017の出土遺物は弥生土器・白磁・土製品等で、535～555を図示した。

3. 検出遺構と出土遺物

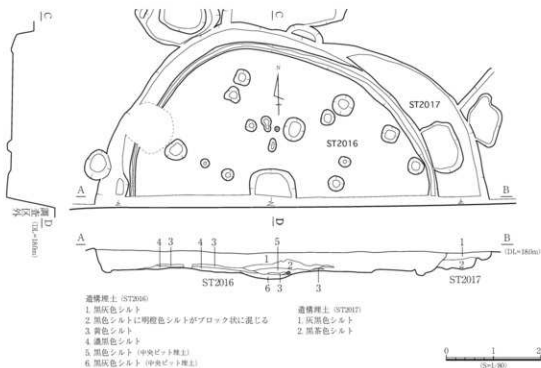


図2-50 ST2016・2017遺構図

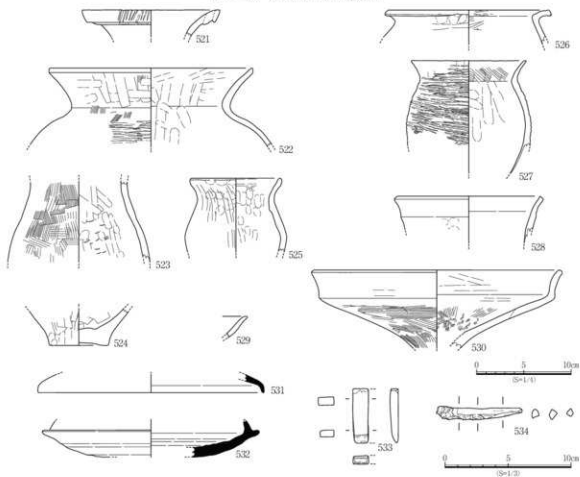


図2-51 ST2016出土遺物実測図

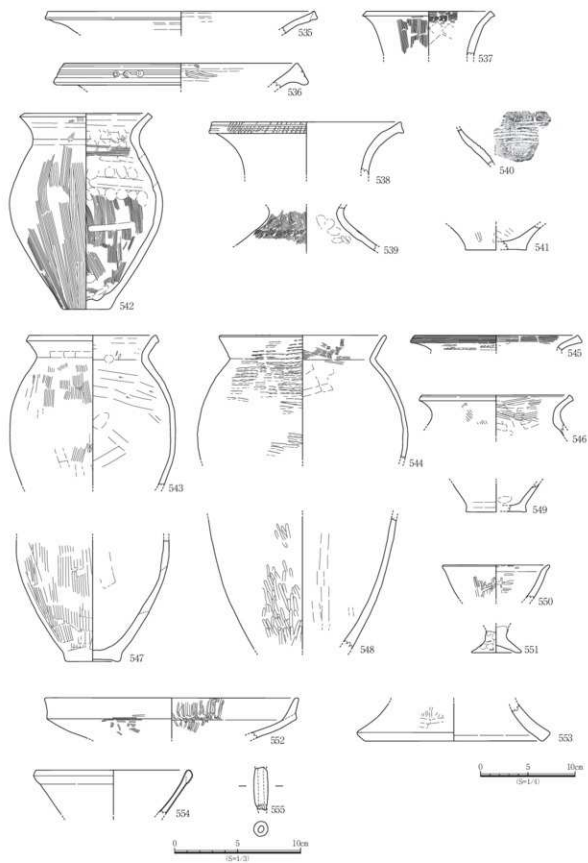


图2-52 ST2017出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

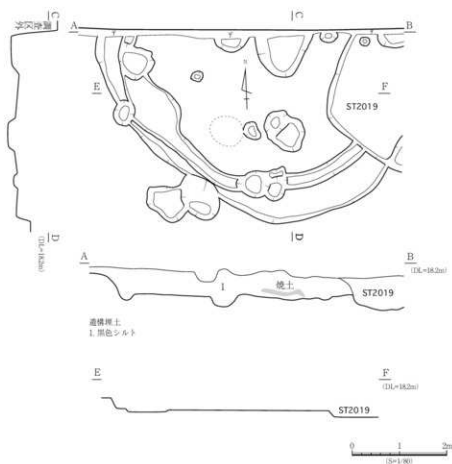


図2-53 ST2018遺構図

ST2018

D区北部で検出した円形状の竪穴建物跡で調査区北壁へ延びる。長軸は6.72m以上、短軸は4.08m以上を測り、面積は約15.38㎡以上である。検出面からの深さは約0.28mで、床面標高は17.50mを測る。床面に複数のピットがみられ、主柱穴は判然としない。壁溝は南部壁際で確認され、幅0.34～0.90mを測る。中央ピットは床面の中央に位置し、埋土に焼土を含む。ST2018の出土遺物は弥生土器・石製品等で、556～576を図示した。

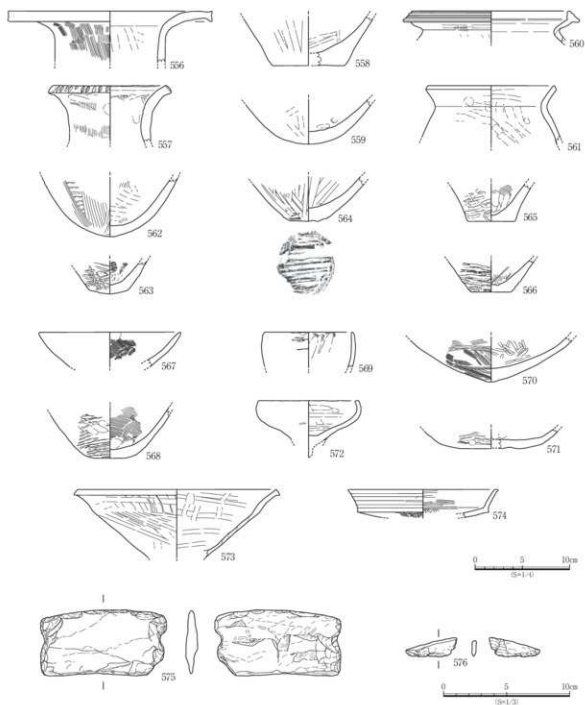


図2-54 ST2018出土遺物実測図

ST2019

D区北部で検出した隅丸方形の竪穴建物跡で調査区北壁へ延びる。長軸は5.36m以上、短軸は3.68m以上を測り、面積は約16.57㎡以上である。検出面からの深さは約0.36mで、床面標高は17.30～17.40mを測る。床面に複数のピットがみられるが、支柱穴は判然としない。ST2018を切る。ST2019の出土遺物は弥生土器等で、577～593を図示した。

3. 検出遺構と出土遺物

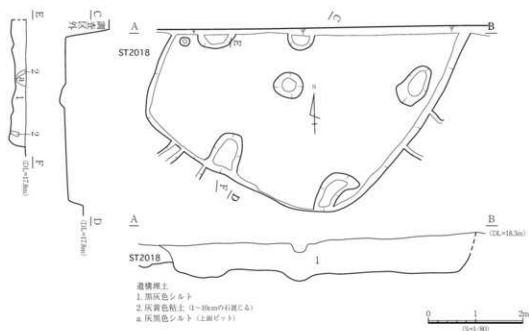


図2-55 ST2019遺構図

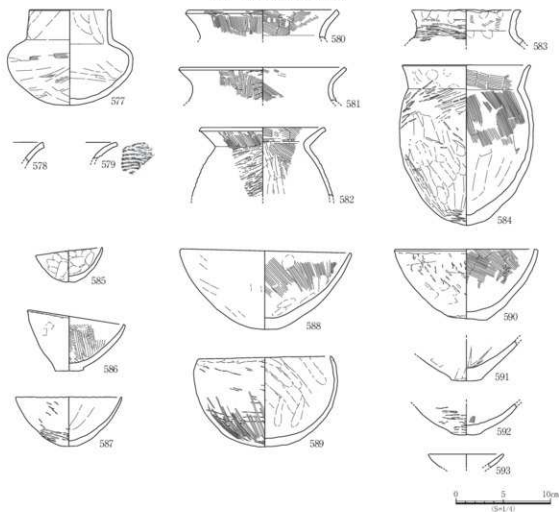


図2-56 ST2019出土遺物実測図

ST2020

D区中央部で検出した隅丸方形の竪穴建物跡である。長軸は6.40m、短軸は5.76mを測り、面積は約36.86m²である。検出面からの深さは約0.16mで、床面標高は17.70mを測る。床面に複数の小ピットがみられ、主柱穴は判然としない。カマドは床面北部中央に位置する。ST2020の出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・鉄製品・石製品等で、594～609を図示した。

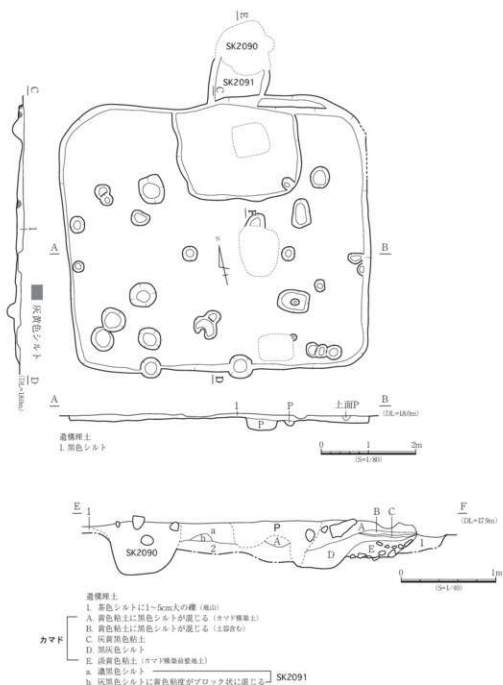


図2-57 ST2020遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

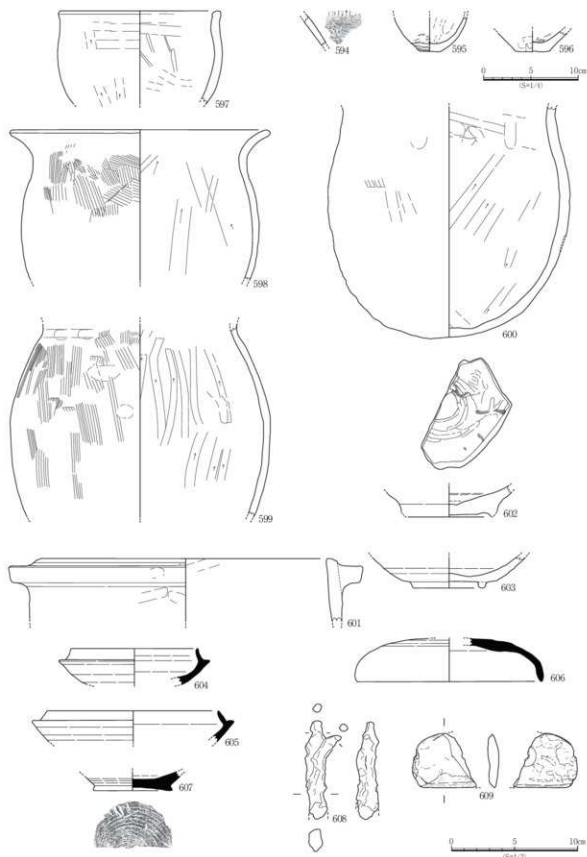


图2-58 ST2020出土遺物実測図

ST2021

D区南部で検出した楕円形状の堅穴建物跡で調査区南壁に延びる。長軸は3.60m以上、短軸は3.28m以上を測り、面積は約7.86㎡以上である。検出面からの深さは約0.08mで、床面標高は17.80mを測る。床面に不整形のピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2021の出土遺物は土器細片のみである。

ST2025

J区北部で検出した隅丸方形又は多角形状の堅穴建物跡で調査区東壁に延びる。長軸は4.68m、短軸は2.28m以上を測り、面積は約10.67㎡以上である。検出面からの深さは約0.16mで、床面標高は18.00mを測る。床面に複数の小ピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2025の出土遺物は弥生土器・土師器等で、610・611を図示した。

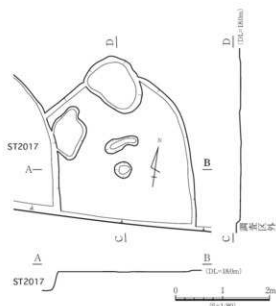


図2-59 ST2021遺構図

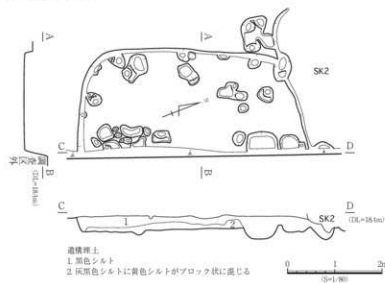


図2-60 ST2025遺構図

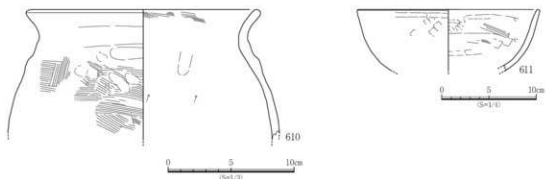


図2-61 ST2025出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

ST2026

J区北部で検出した不整形形状の竪穴建物跡で調査区北壁に延びる。長軸は4.88m以上、短軸は1.72m以上を測り、面積は約8.39㎡以上である。検出面からの深さは約0.20mで、床面標高は18.00mを測る。床面に複数の小ピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2026の出土遺物は弥生土器等で、612を図示した。

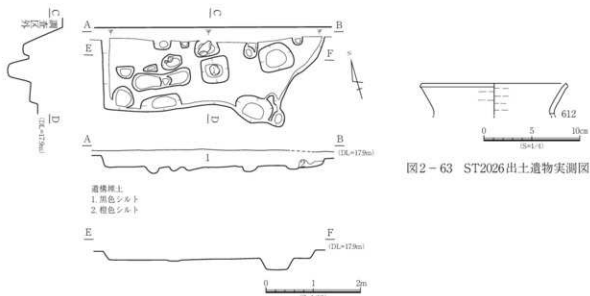
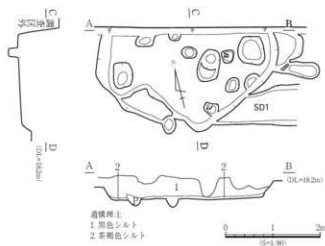


図2-62 ST2026遺構図

ST2027

K区東部で検出した多角形状の竪穴建物跡で調査区北壁に延びる。長軸は3.72m以上、短軸は2.00m以上を測り、面積は約6.52㎡以上である。検出面からの深さは約0.28mで、床面標高は17.70mを測る。床面に複数の小ピットがみられ、主柱穴は判然としない。ST2027の出土遺物は細片のみである。



ST2028

K区中央部で検出した隅丸方形とみられる竪穴建物跡で調査区北壁に延びる。長軸は3.60m、短軸は1.12m以上を測り、面積は約4.03㎡以上である。検出面からの深さは約0.20mで、床面標高は17.90mを測る。床面に複数の不整形のピットがみられ、支柱穴は判然としない。ST2028の出土遺物は土師器・石製品等で、613・614を図示した。

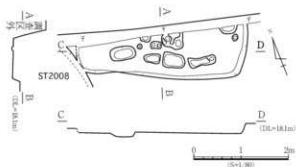


図2-65 ST2028遺構図

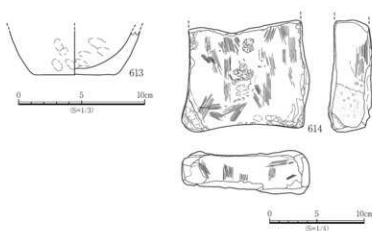


図2-66 ST2028出土遺物実測図

ST3001

A区中央部で検出した円形又は楕円形状の竪穴建物跡である。長軸は7.12m、短軸は6.56mを測り、面積は約35.87㎡である。検出面からの深さは約0.08mと浅く、床面標高は17.90mを測る。床面に複数の不整形のピットがみられ、支柱穴は判然としない。調査時には遺構番号が付されていなかったため、整理作業の段階で番号を付した。ST3001の出土遺物は弥生土器等で、615・616を図示した。

3. 検出遺構と出土遺物

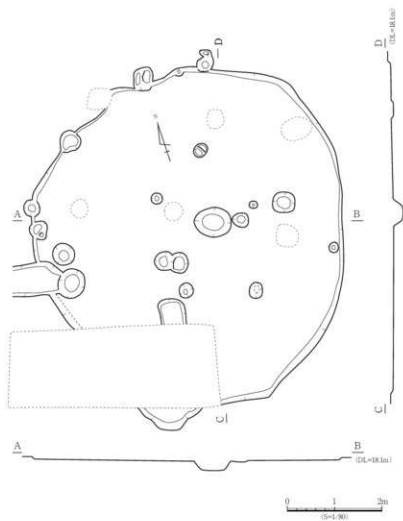


图2-67 ST3001 遺構図

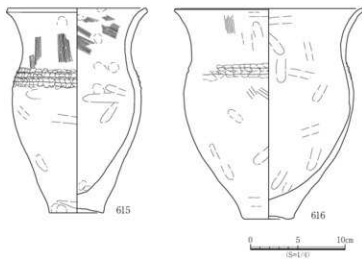


图2-68 ST3001 出土遺物実測図

ST1

北区中央部で検出した隅丸多角形状とみられる竪穴建物跡で、南部は調査区南壁に延びる。長軸は6.77m以上、短軸は2.46m以上を測り、面積は約90.42㎡以上である。検出面からの深さは約0.34～0.47mで、床面標高は17.60mを測る。中央部に隅丸多角形とみられる段部を有し、下段の床面標高は17.40mである。床面隅に小ピットがみられ、支柱穴は2個以上とみられる。上段部隅にも規模が大きな土坑状のピットを有する。壁際には幅0.31～0.42mを測る壁溝が巡る。ST1の出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・黒色土器・瓦器等で、617～657を図示した。

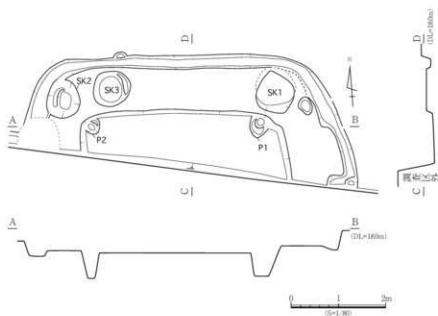


図2-69 ST1遺構図

ST2

北区南西部で検出した円形状とみられる竪穴建物跡で、南部は調査区南壁及び西壁に延びる。竪穴建物跡又は土坑と考えられるが、調査時の遺構名のSTとして報告を行う。長軸は3.11m以上、短軸は2.46m以上を測り、面積は約7.17㎡以上である。検出面からの深さは約0.74mで、床面標高は18.02mを測る。床面に複数のピットがみられ、支柱穴は判然としない。ST2の出土遺物は弥生土器・石製品等で、658～682を図示した。

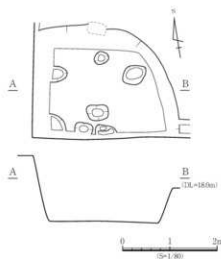


図2-70 ST2遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

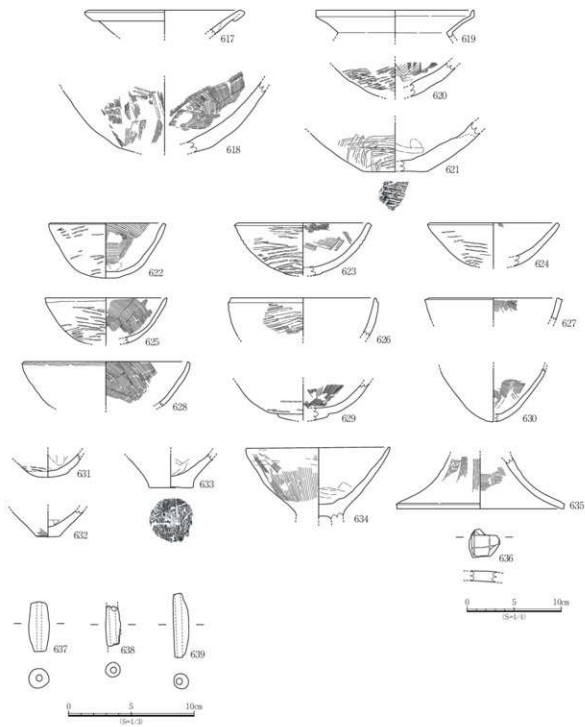


图2-71 ST1出土遺物実測図1

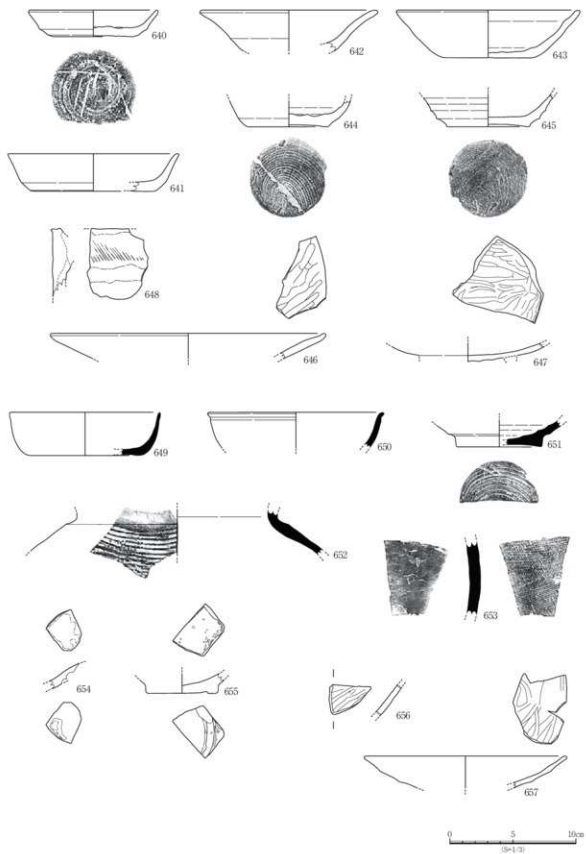


图2-72 ST1出土遺物実測図2

3. 検出遺構と出土遺物

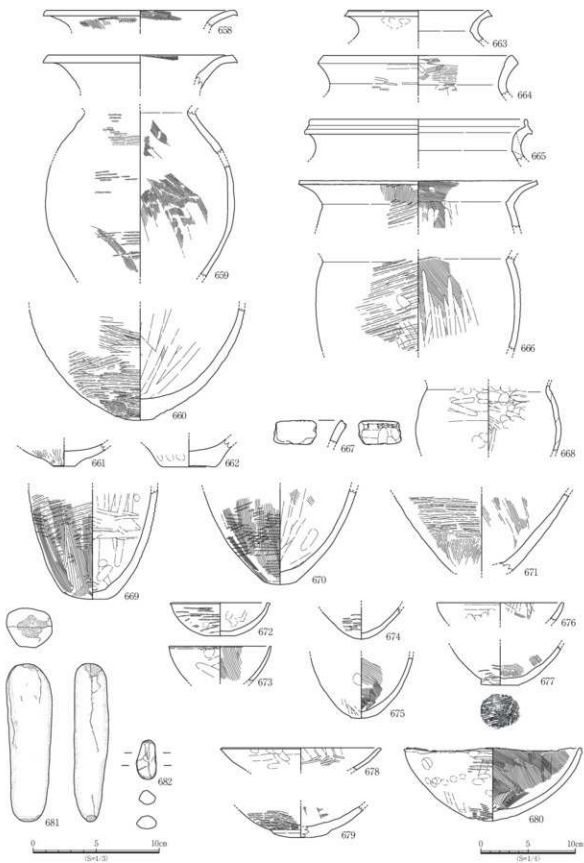


图2-73 ST2出土遺物実測図

(2)掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、調査区北部で6棟を検出した。調査区全体を通じて遺構密度が高く、切り合い関係が判然としないうちが多い。遺構は、一部土坑として記録されたものもあるが、遺構番号は変更せず、調査時のものを掲載している。高、先述の通り出土遺物の詳細については遺物観察表に記す。

SB1

A区とJ区に跨る中央やや北寄りで検出した桁行3間(4.43m)、梁行1間(2.95m)の南北棟建物跡で、主軸方向はN-44°-Wである。柱間距離は桁行1.50m、梁行2.95m、面積は13.07㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は楕円形で、柱間に布掘り状の溝跡を有する。出土遺物はSK2011・SD2051・SD2052・P3172・P3268から出土した弥生土器・土師器等で、683～710を図示した。

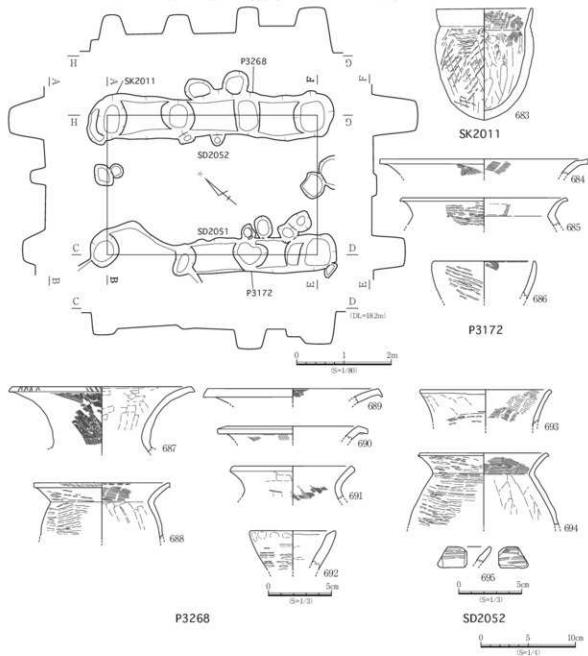


図2-74 SB1遺構図・出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

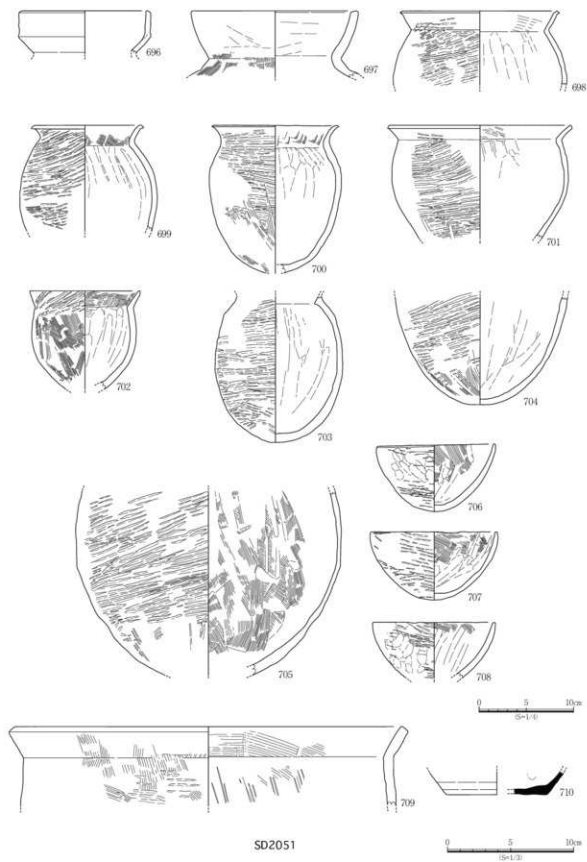


图2-75 SB1出土遺物実測図2

SB2

A区中央部やや北寄りで検出した桁行4間(7.30m)、梁行3間(4.70m)の東西棟建物跡で、主軸方向はN-76°-Wである。柱間距離は桁行1.42~2.18m、梁行1.50~1.85m、面積は34.31㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は隅丸方形である。

SB3

J区中央部で検出した桁行4間(6.00m)、梁行2間(3.60m)の南北棟建物跡で、主軸方向はN-3°-Wである。柱間距離は桁行1.04~1.82m、梁行1.68~1.84m、面積は21.60㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は隅丸方形である。出土遺物はP3121・P3140から出土した弥生土器・土師器等で、711~718を図示した。

SB4

A区とJ区に跨る南部で検出した桁行3間(6.57m)、梁行2間(4.10m)の東西棟建物跡で、主軸方向はN-81°-Wである。柱間距離は桁行2.00~2.44m、梁行1.96~2.15m、面積は26.94㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は隅丸方形である。出土遺物はSK2047・P3071から出土した土師器等で、719~721を図示した。

SB5

A区の北部で検出した桁行4間(4.41m)、梁行1間(3.75m)の南北棟建物跡で、主軸方向はN-38°-Wである。柱間距離は桁行1.00~1.20m、梁行3.75m、面積は16.53㎡を測る。棟持柱は見受けられず、

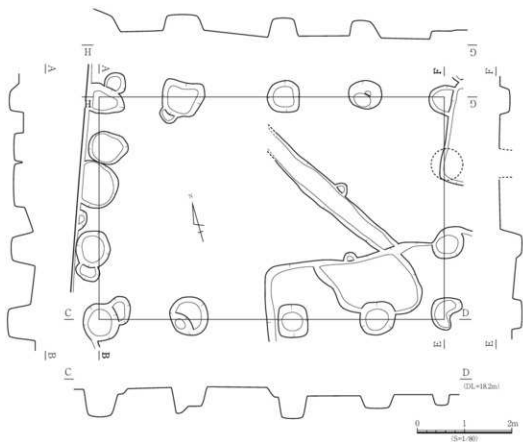


図2-76 SB2遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

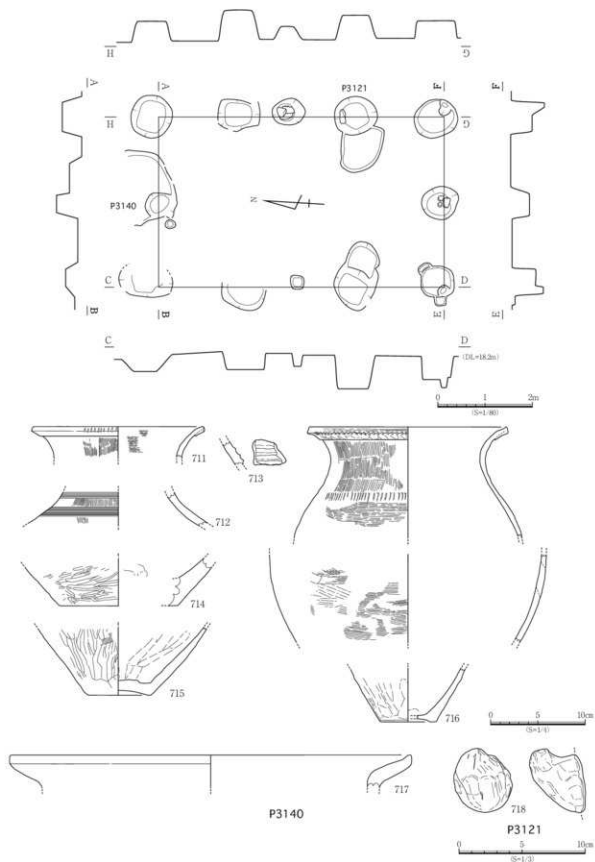


图2-77 SB3遺構図・出土遺物実測図

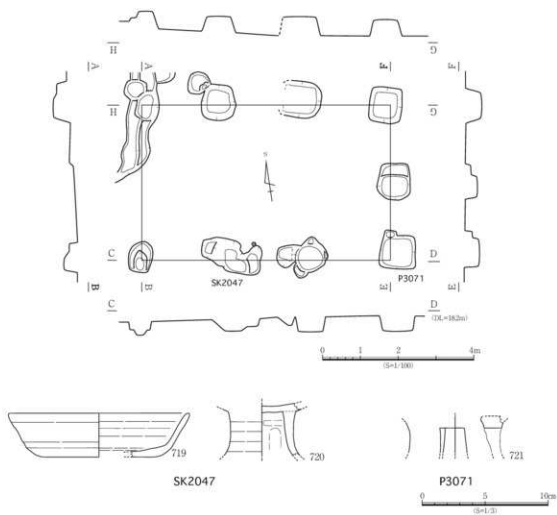


図2-78 SB4遺構図・出土遺物実測図

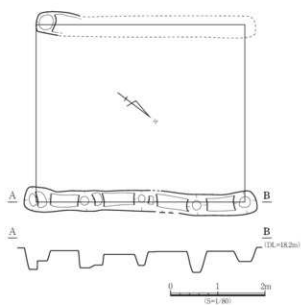


図2-79 SB5遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

梁行方向の柱間距離が長い。柱穴の掘方は円形で、柱間に布掘り状の浅い溝跡を有する。西部桁行方向については調査時に残された記録より予測し、復元を行なった。

SB6

D区の西部で検出した桁行4間(9.38m)、梁行1間(4.73m)の南北棟建物跡で、主軸方向はN-15°-Eである。柱間距離は桁行1.58~2.58m、梁行4.73m、面積は44.37㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は楕円形である。棟持柱は見受けられず、梁行方向の柱間距離が長い。出土遺物はSK2038・P2208・P2233から出土した土師器・須恵器・土製品等で、722~727を図示した。

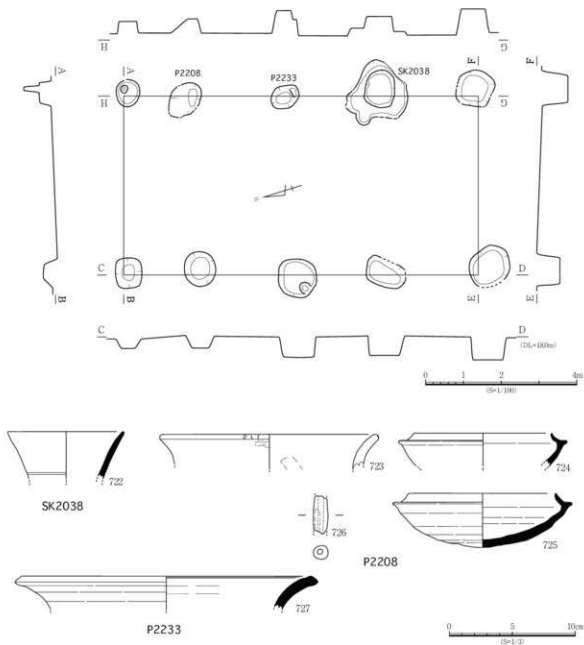


図2-80 SB6遺構図・出土遺物実測図

(3)土坑

調査時に土坑と判断し、SKと付されたものを対象とした。規模の大きな柱穴状の遺構も含まれているが、掘立柱建物跡の柱穴と判断できるもの以外は土坑として報告を行う。遺構の時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期、近世から近代と多岐に渡る。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

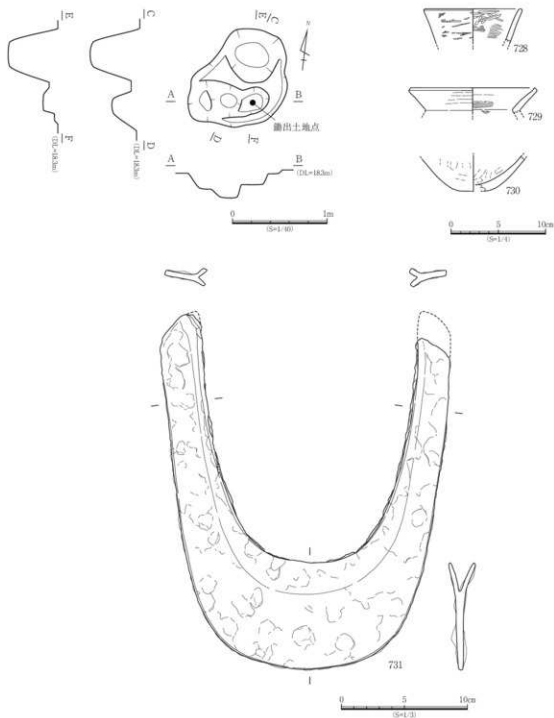


図2-81 SK1遺構図・出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

SK1

C区北部で検出した不整形形状の土坑である。長軸は1.24m、短軸は0.88mを測る。検出面からの深さは約0.04～0.54mである。北部に径0.56m、深さ0.54m、南部に径0.34m、深さ0.28mの柱状の落ち込みを有する。南部落ち込みの東側段部で鉄製の鋤先が出土した。出土遺物は弥生土器・鉄製品等で、728～731を図示した。

SK2009

A区北部で検出した隅丸長方形形状の土坑である。長軸は2.20m、短軸は1.02mを測る。検出面からの深さは約0.22～0.32mである。断面形は逆台形状を呈する。出土遺物は鉄製品等で、732を図示した。

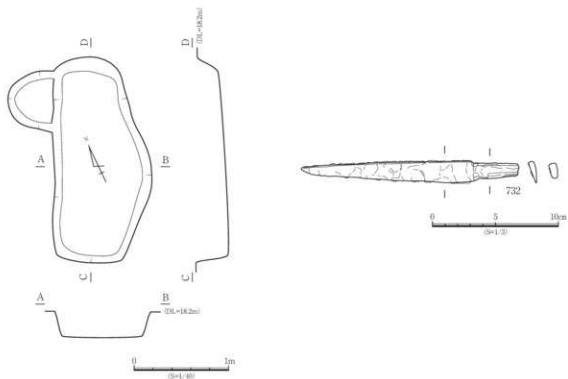


図2-82 SK2009遺構図・出土遺物実測図

SK2014

A区北部で検出した円形状の土坑である。埋土から多くの弥生土器が出土した。SK2005と切り合い関係で検出したが、埋土に差がなく、土器が出土した範囲をSK2014として掘削した。検出面からの深さは約0.30m程度である。完掘時の記録は残されていないが、多量の遺物が出土したため、推定位置のみではあるが報告を行う。出土遺物は弥生土器・石製品等で、733～752を図示した。



図2-83 SK2014遺構図



図2-84 SK2014出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

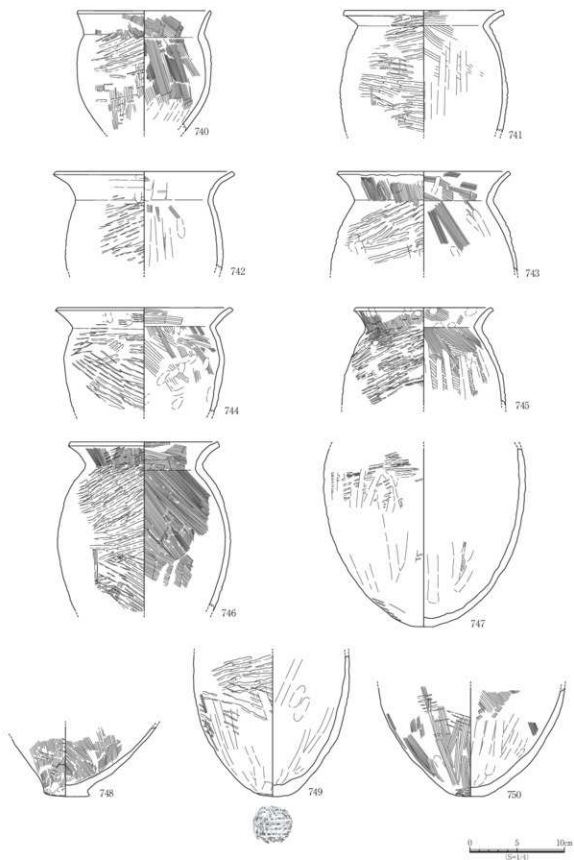


图2-85 SK2014出土遺物実測图2

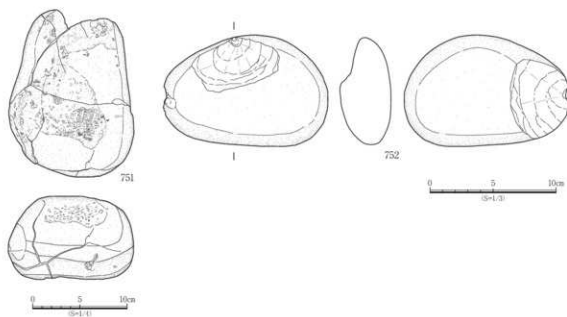


図2-86 SK2014出土遺物実測図3

SK2015

A区中央部やや北寄りで検出した隅丸長方形の土坑である。長軸は2.00m、短軸は0.72mを測る。検出面からの深さは約0.38～0.40mである。断面形は逆台形状を呈する。出土遺物は土師器・須恵器・鉄製品等で、753～755を图示した。

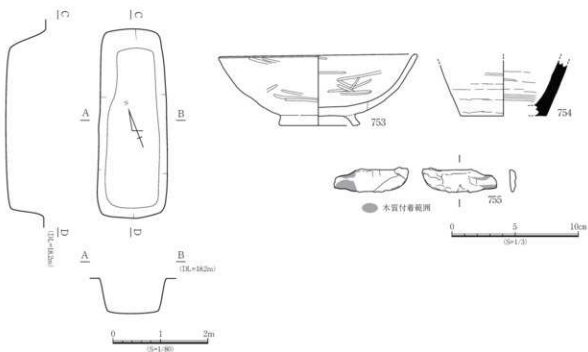


図2-87 SK2015遺構図・出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

SK2052

A区南部で検出した不整隅丸長方形形状の土坑である。長軸は1.30m、短軸は0.84mを測る。検出面からの深さは約0.22～0.44mである。西部に柱穴状の落ち込みがみられ、段部を有することから、掘立柱建物跡、又は欄列の柱穴の可能性も考えられる。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、756～758を図示した。

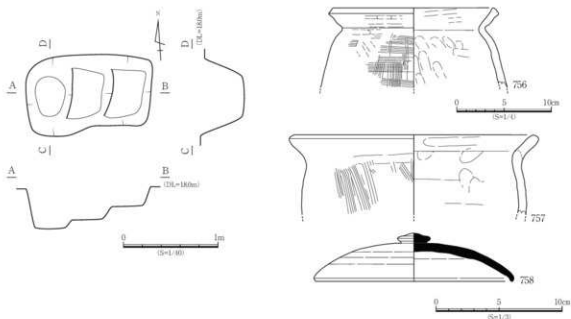


図2-88 SK2052遺構図・出土遺物実測図

SK2053

A区南部で検出した不整楕円形状の土坑である。長軸は0.84m、短軸は0.48mを測る。検出面からの深さは約0.40mである。出土遺物は土師器・須恵器等で、759・760を図示した。

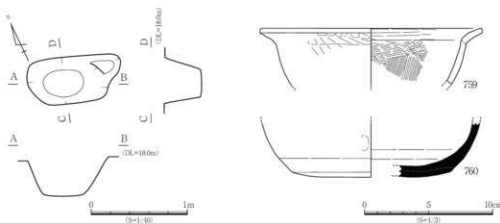


図2-89 SK2053遺構図・出土遺物実測図

SK2057

A区南部で検出した楕円形状の土坑である。長軸は1.12m、短軸は1.10mを測る。検出面からの深さは約0.46mである。出土遺物は弥生土器・須恵器等で、761・762を図示した。

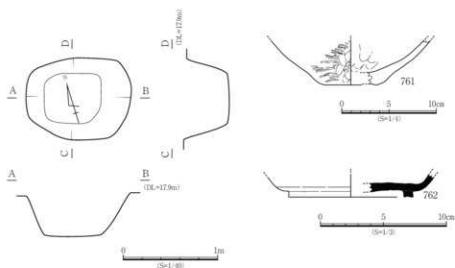


図2-90 SK2057 遺構図・出土遺物実測図

SK2061

A区南部で検出した不整隅丸長方形形状の土坑である。長軸は2.60m、短軸は0.88mを測る。検出面からの深さは約0.22～0.32mである。出土遺物は弥生土器・土製品等で、763～765を図示した。

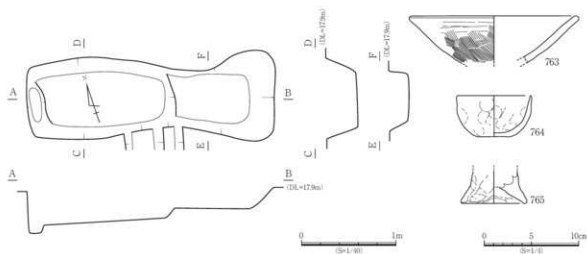


図2-91 SK2061 遺構図・出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

SK2062

A区南部で検出した不整形円形の土坑である。長軸は1.16m、短軸は0.88mを測る。検出面からの深さは約0.38mである。出土遺物は弥生土器等で、766を図示した。

SK2070・2162

B区西部・K区西部で検出した不整形の土坑である。2基の土坑を検出したが、新旧関係は不明である。2基を合わせて長軸は2.90m、短軸は2.10mを測る。検出面からの深さは約0.02～0.18mで、床面で4つのピットを検出した。出土遺物は弥生土器等で、767～769を図示した。

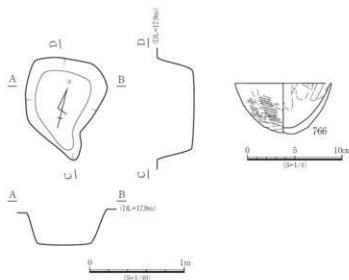


図2-92 SK2062遺構図・出土遺物実測図

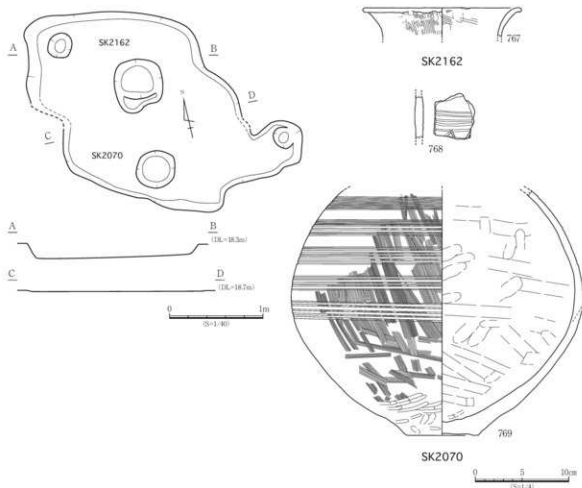


図2-93 SK2070・2162遺構図・出土遺物実測図

SK2081

D区西部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸は3.07m、短軸は2.48mを測る。検出面からの深さは約0.27～0.45mである。床面で6つのピットを検出した。出土遺物は弥生土器等で、770～776を図示した。

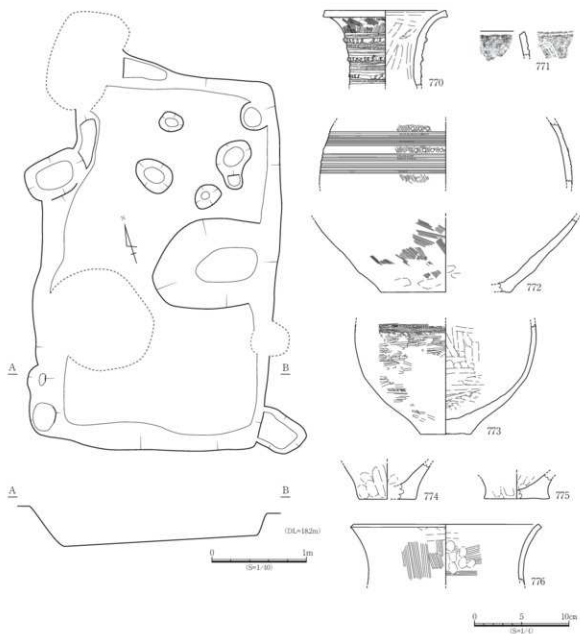
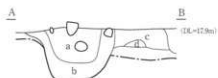
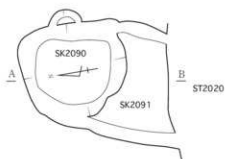


図2-94 SK2081 遺構図・出土遺物実測図

SK2090

D区北部で検出した不整形円形状の土坑である。長軸は1.14m、短軸は1.09mを測る。SK2091を切る。検出面からの深さは約0.54mである。出土遺物は土師器・須恵器等で、777～782を図示した。



遺構埋土

- a. 黄灰色粘土に黒色シルトが混じる (SK2090)
- b. 黒色シルトに黄色粘土がブロック状に混じる (SK2090)
- c. 濃黒色シルト (SK2091)
- d. 灰黒色シルトに黄色粘土がブロック状に混じる (SK2091)

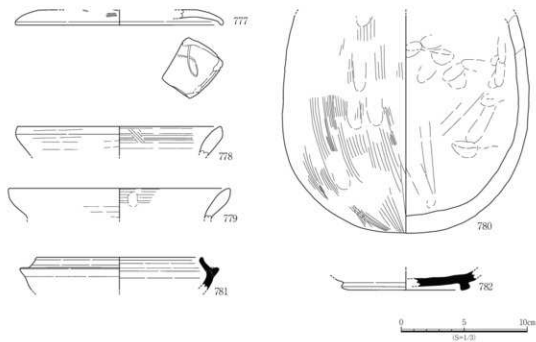


図2-95 SK2090遺構図・出土遺物実測図

SK2141

J区南部で検出した円形状の土坑で、南部は調査区南壁へ延びる。長軸は1.44m、短軸は0.76m以上を測る。検出面からの深さは約0.12～0.73mで、東西に段部を有する。出土遺物は弥生土器等で、783を図示した。

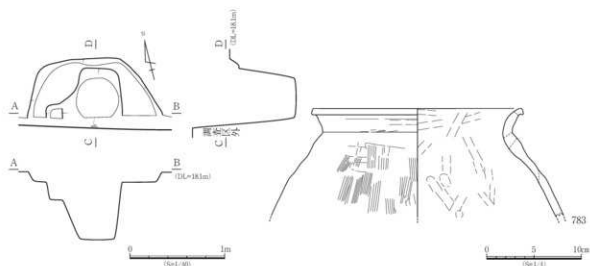


図2-96 SK2141 遺構図・出土遺物実測図

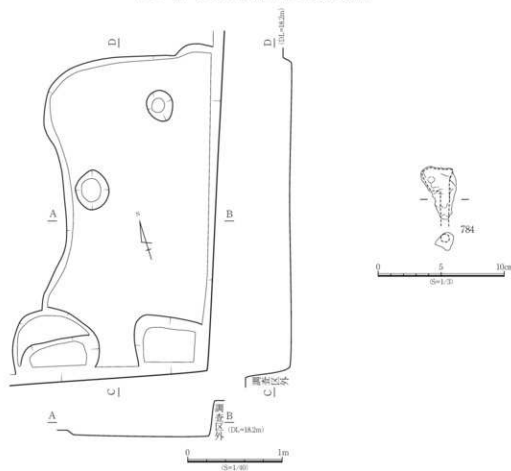


図2-97 SK2143 遺構図・出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

SK2143

J区南東部で検出した円形状の土坑で、南部・東部は調査区南壁及び東壁へ延びる。長軸は3.40m以上、短軸は1.58m以上を測る。検出面からの深さは約0.08mで、床面に小ピットを有する。出土遺物は鉄製品等で、784を図示した。

SK2147

J区中央部南寄りで検出した楕円形状の土坑である。長軸は1.20m、短軸は0.80mを測る。検出面からの深さは約0.30mである。出土遺物は弥生土器等で、785～788を図示した。

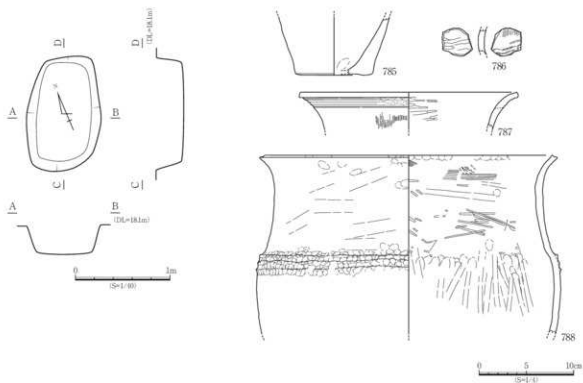


図2-98 SK2147遺構図・出土遺物実測図

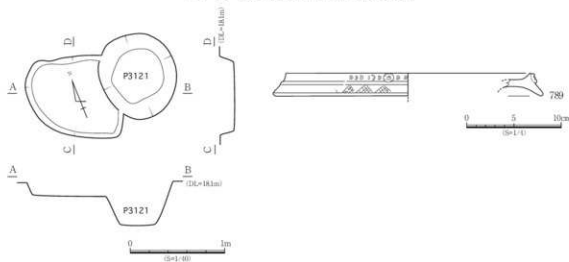


図2-99 SK2149遺構図・出土遺物実測図

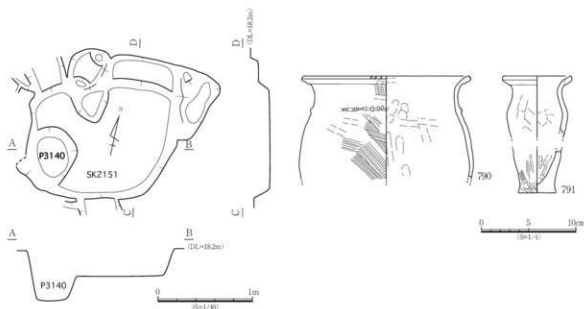


図2-100 SK2151遺構図・出土遺物実測図

SK2149

J区中央部で検出した楕円形状の土坑である。長軸は0.84m、短軸は0.80mを測る。検出面からの深さは約0.16mである。出土遺物は弥生土器等で、789を図示した。

SK2151

J区中央部西寄りで検出した不整隅丸方形形状の土坑である。長軸は1.58m、短軸は1.48mを測り、検出面からの深さは約0.28mである。出土遺物は弥生土器等で、790・791を図示した。

SK3001

J区中央部で検出した円形又は隅丸方形形状の土坑で調査区東壁へ延びる。長軸は2.78m、短軸は2.34m以上を測り、検出面からの深さは約0.56mである。出土遺物は近世陶磁器・弥生土器・石製品等で、792～809を図示した。

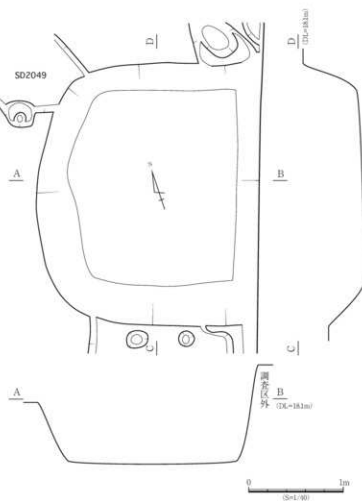


図2-101 SK3001遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

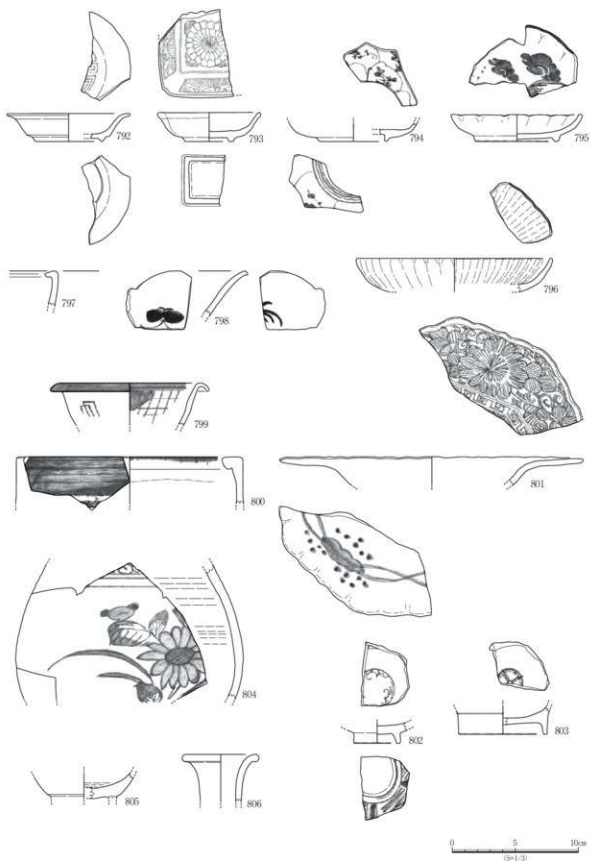


图2-102 SK3001出土遺物実測図1

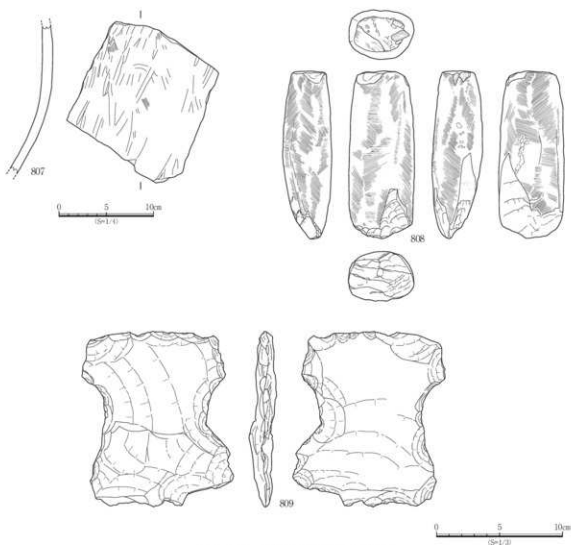


図2-103 SK3001出土遺物実測図2

SK3002

J区北部で検出した不整形形状の浅い落ち込みで径5.5mを測る。出土遺物は土師器・須恵器・近世陶磁器・鉄製品等で、810～845を図示した。

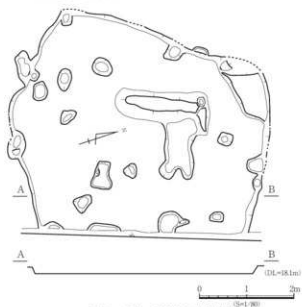


図2-104 SK3002遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

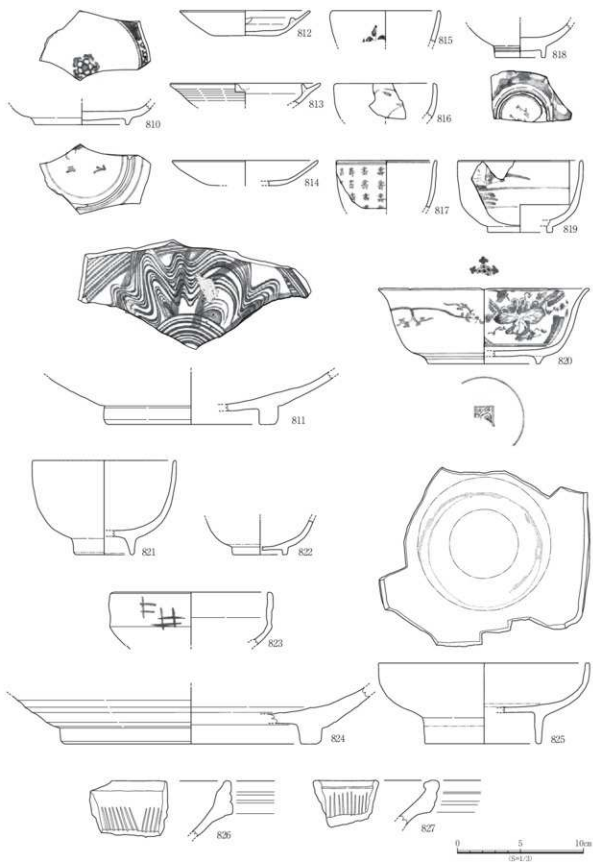


图2-105 SK3002出土遺物実測図1

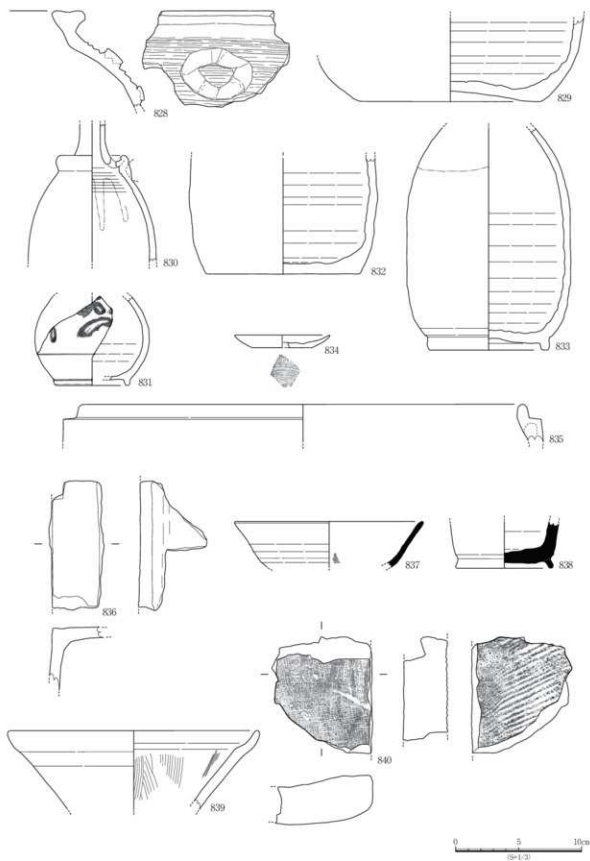


图2-106 SK3002出土遺物実測図2

3. 検出遺構と出土遺物

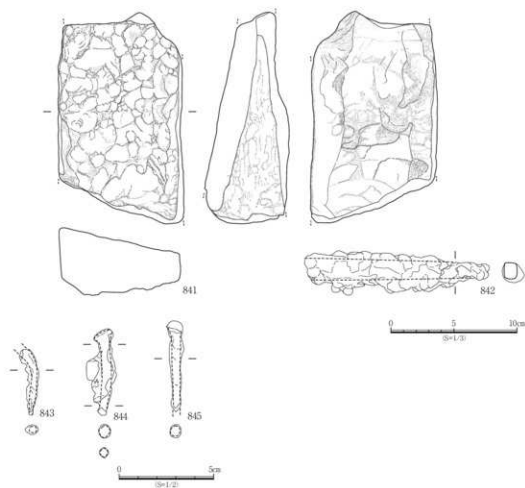


図2-107 SK3002出土遺物実測図3

SK2016

A区中央部で検出した不整形形状の土坑で、長軸1.00m、短軸0.80m、深さ0.14mを測る。出土遺物は須恵器・緑釉陶器等で、846・847を図示した。

SK2018

A・J区中央部で検出した隅丸長方形形状の土坑で、長軸1.25m、短軸0.75m、深さ0.22mを測る。出土遺物は須恵器等で、848を図示した。

SK2020

A・J区中央部で検出した不整形形状の土坑で、長軸1.00m、短軸0.75m、深さ0.20mを測る。出土遺物は石製品等で、849を図示した。

SK2032

C区南部で検出した不整形形状の土坑で、長軸1.00m、短軸0.65m、深さ0.15mを測る。出土遺物は土師器・須恵器・石製品等で、850～854を図示した。

SK2035

C区南部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.35m、短軸0.70m、深さ0.09mを測る。出土遺物は弥生土器等で、855を図示した。

SK2037

D区西部で検出した不整形形状の土坑で、長軸0.85m、短軸0.65m、深さ0.06mを測る。出土遺物は須恵器等で、856・857を図示した。

SK2043

D区西部で検出した不整形形状の土坑で、長軸1.70m、短軸0.60m、深さ0.20mを測る。出土遺物は弥生土器等で、858～860を図示した。

SK2048

A・J区南部で検出した楕円形状とみられる土坑で、長軸1.20m、短軸0.72m以上、深さ0.35mを測る。出土遺物は弥生土器等で、861を図示した。

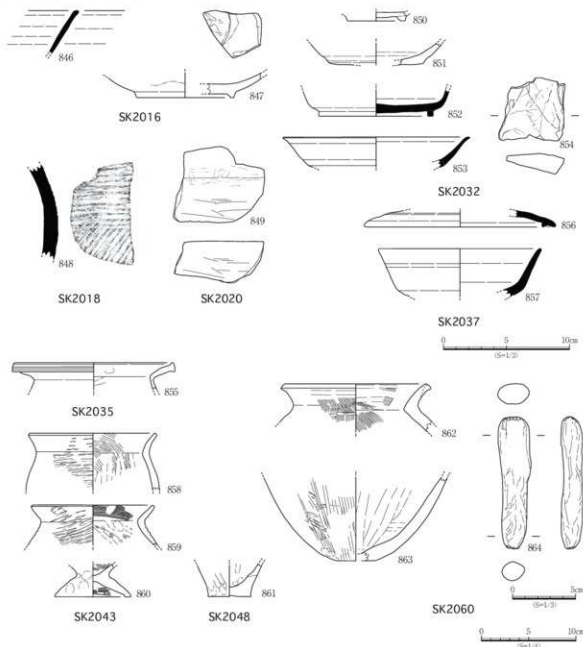


図2-108 SK出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

SK2060

A区南部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.04m、短軸0.69m、深さ0.42mを測る。出土遺物は弥生土器・石製品等で、862～864を図示した。

SK2063

D区東部で検出した円形状の土坑で、長軸1.06m、短軸0.94m、深さ0.10mを測る。出土遺物は弥生土器・須恵器等で、865～868を図示した。

SK2065

B区東部で検出した円形状の土坑で、長軸1.06m、短軸0.94m、深さ0.10mを測る。出土遺物は土師器等で、869を図示した。

SK2066

B区東部で検出した楕円形状の土坑で、長軸0.90m、短軸0.74m、深さ0.16mを測る。出土遺物は土師器等で、870を図示した。

SK2069

B区南部東寄り検出した楕円形状の土坑で、長軸1.24m、短軸1.02m、深さ0.18mを測る。出土遺物は土師器等で、871を図示した。

SK2072

D区東部で検出した隅丸方形状の土坑で、長軸1.04m、短軸0.95m、深さ0.25mを測る。出土遺物は須恵器等で、872を図示した。

SK2074

D区東部で検出した不整形楕円形状の土坑で、長軸1.83m、短軸1.15m、深さ0.20mを測る。出土遺物は土師器・須恵器・緑釉陶器等で、873～876を図示した。

SK2075

D区東部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.25m、短軸1.00m、深さ0.16mを測る。出土遺物は弥生土器等で、877・878を図示した。

SK2077

D区東部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.25m、短軸0.82m、深さ0.16～0.25mを測る。出土遺物は土師器等で、879を図示した。

SK2148

J区中央部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.36m、短軸0.60m、深さ0.12mを測る。出土遺物は弥生土器等で、880を図示した。

SK2153

K区北部で検出した不整形の土坑で、長軸0.95m、短軸0.80m、深さ0.15～0.28mを測る。出土遺物は土師器等で、881を図示した。

SK2154

K区東部で検出した不整形の土坑で、長軸2.50m、短軸0.75m以上、深さ0.17mを測る。出土遺物は土師器等で、882を図示した。

SK2155

J区中央部で検出した楕円形状の土坑で、長軸1.03m、短軸0.90m、深さ0.42mを測る。出土遺物は

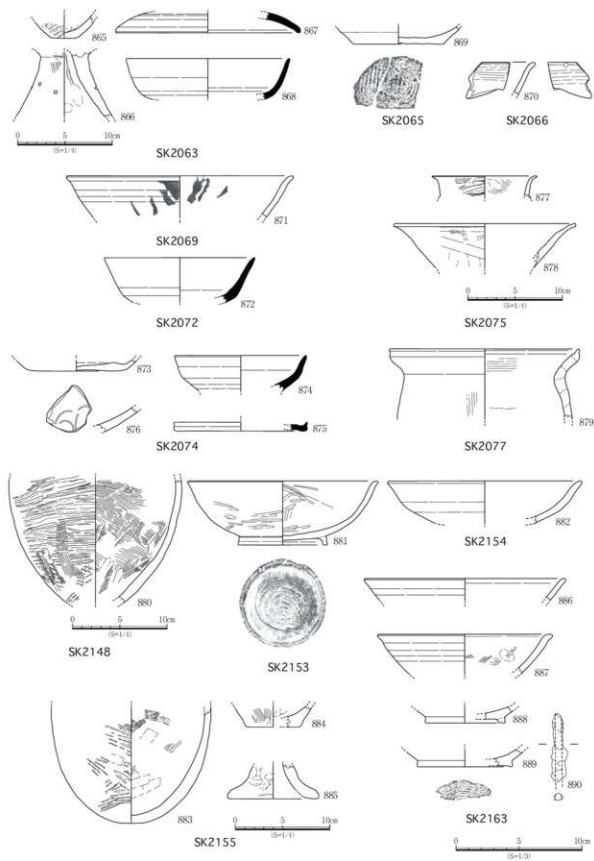


图2-109 SK出土遺物実測図2

3. 検出遺構と出土遺物

弥生土器・土製品等で、883～885を図示した。

SK2163

K区西部で検出した円形又は楕円形状の土坑で、長軸1.00m以上、短軸0.90m以上、深さ0.26mを測り、他の遺構に切られる。出土遺物は土師器・鉄製品等で、886～890を図示した。

SK2164

L区南部で検出した不整形形状の土坑で、長軸1.00m、短軸0.95m、深さ0.09mを測る。出土遺物は弥生土器等で、891を図示した。

SK2165

L区南部で検出した円形状の土坑で、長軸1.75m、短軸1.00m以上、深さ0.58mを測り、調査区西壁へ延びる。出土遺物は陶器・陶胎染付等で、892・893を図示した。

SK3

北区東部で検出した隅丸形状の土坑で、長軸1.65m、短軸1.38m、深さ0.19mを測る。出土遺物は土師器等で、894を図示した。

SK6

北区西部で検出した不整形形状の土坑で、長軸2.15m、短軸1.60m、深さ0.27mを測る。出土遺物は土師器・須恵器等で、895・896を図示した。

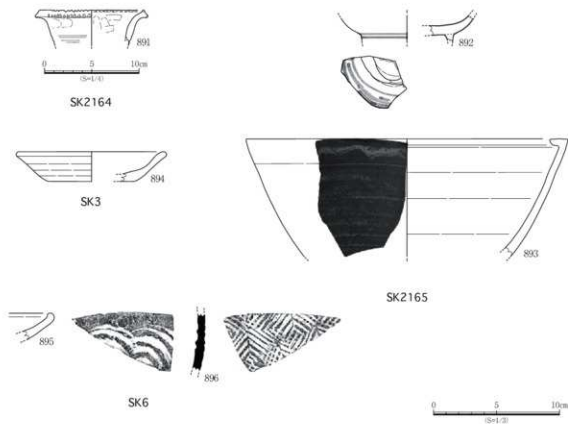


図2-110 SK出土遺物実測図3

(4)溝跡

遺構の時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期である。掘立柱建物に付随する溝跡については、(2)掘立柱建物跡の項に記載した。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

SD1

K区北部で検出した溝跡である。規模は長さ約5.50m、幅0.65～0.85mを測る。検出面からの深さは約0.06～0.13mである。出土遺物は土師器等で、897を図示した。

SD2005

A区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約5.40m、幅約0.55mを測る。検出面からの深さは約0.04～0.12mである。出土遺物は須恵器・石製品等で、898・899を図示した。

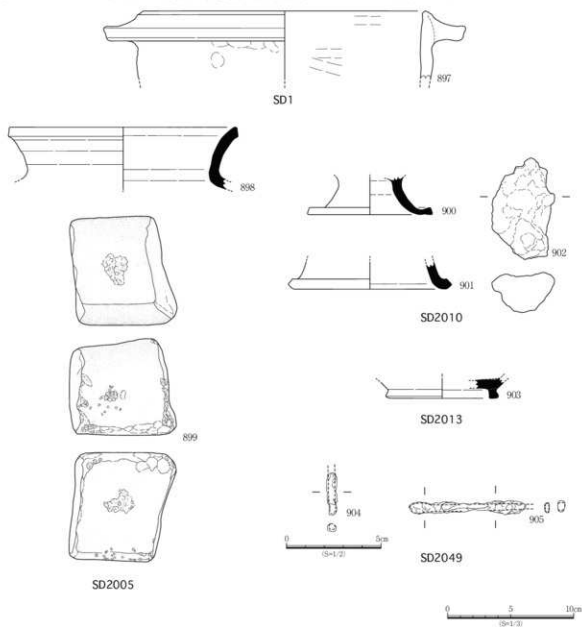


図2-111 SD出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

SD2010

L区南部で検出した溝跡である。南部ではSD2010、北部ではSD2057の番号が付されており、同一の溝跡と考えられる。規模は長さ約3.60m以上、幅約0.70mを測る。SD2057を含めると長さは21.00m以上である。検出面からの深さは約0.02mである。出土遺物は須恵器・鉄滓等で、900～902を図示した。

SD2013

C区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約4.15m以上、幅約0.32mを測り、調査区西壁へ延

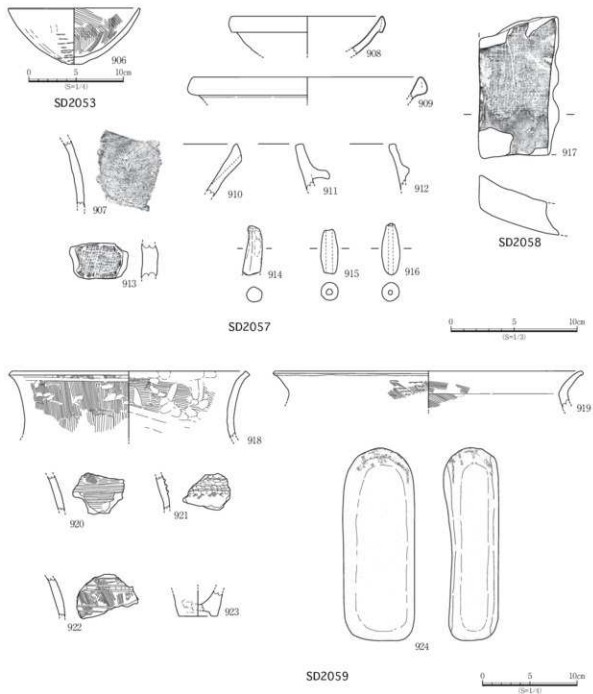


图2-112 SD出土遺物実測図2

びる。検出面からの深さは約0.08～0.10mである。出土遺物は須恵器等で、903を図示した。

SD2049

J区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約14.00m、幅0.50～0.95mを測る。検出面からの深さは約0.10～0.14mである。出土遺物は鉄製品等で、904・905を図示した。

SD2053

K区北東部で検出した溝跡である。規模は長さ約4.40m、幅0.45～0.80mを測り、ST2008を切る。検出面からの深さは約0.13～0.30mである。出土遺物は弥生土器等で、906を図示した。

SD2057

L区北部で検出した溝跡である。南部ではSD2010の番号が付されている。規模は長さ約16.50m、幅0.70～1.10mを測る。SD2010を含めると長さは21.00m以上を測り、調査区北壁へと延びる。検出面からの深さは約0.18～0.28mである。出土遺物は弥生土器・瓦質土器・土製品・白磁・製塩土器等で、907～916を図示した。

SD2058

L区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約10.02m以上、幅0.45～1.10mを測り、調査区西壁へと延びる。南部はSD2057に接続し、やや北西に分岐する。切り合い関係については不明である。検出面からの深さは約0.02～0.16mである。出土遺物は瓦等で、917を図示した。

SD2059

L区南部で検出した溝跡である。規模は長さ約4.40m、幅1.30～1.60mを測る。検出面からの深さは約0.20～0.30mである。出土遺物は弥生土器・石製品で、918～924を図示した。

(5)柱穴

竪穴建物跡及び掘立柱建物を構成していると考えられる柱穴については(1)竪穴建物跡・(2)掘立柱建物跡の項で報告した。ここでは上記以外で柱穴とされ、遺物が出土したものについて記す。

P2258

B区東部で検出した隅丸長方形の柱穴で、長軸0.30m、短軸0.20m、深さ0.21mを測る。出土遺物は土師器等で、966を図示した。

P2423

D区中央部で検出した不整形の柱穴で、長軸0.16m、短軸0.14m、深さ0.11mを測る。出土遺物は土師器等で、1004～1009を図示した。

P2425

D区東部で検出した円形の柱穴で、長軸0.12m、短軸0.11m、深さ0.36mを測る。出土遺物は須恵器等で、1010～1012を図示した。

P2453

D区東部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.26m、短軸0.18m、深さ0.54mを測る。出土遺物は須恵器等で、1023を図示した。

P3077

J区南部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.17m、短軸0.16m、深さ0.27mを測る。出土遺物は須恵器・鉄製品等で、1039・1040を図示した。

3. 検出遺構と出土遺物

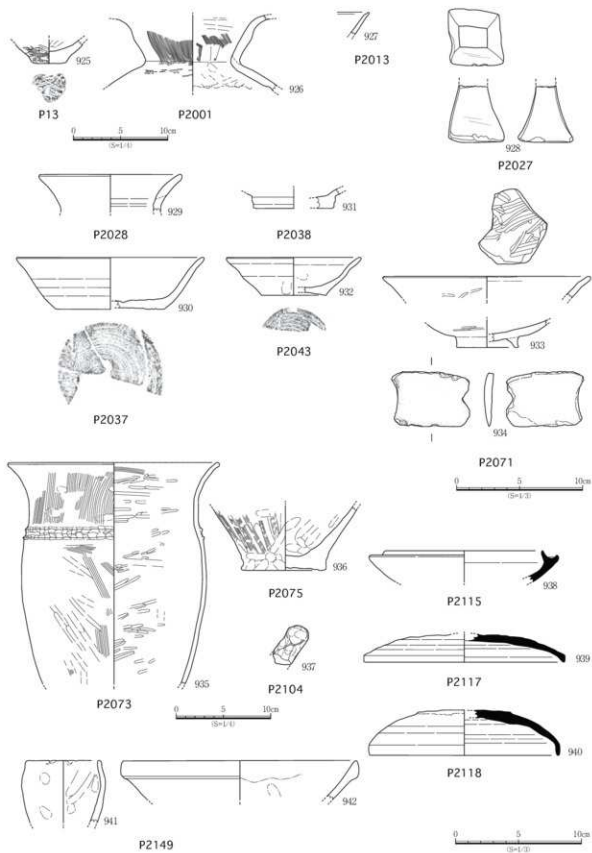


図2-113 ビット出土遺物実測図1

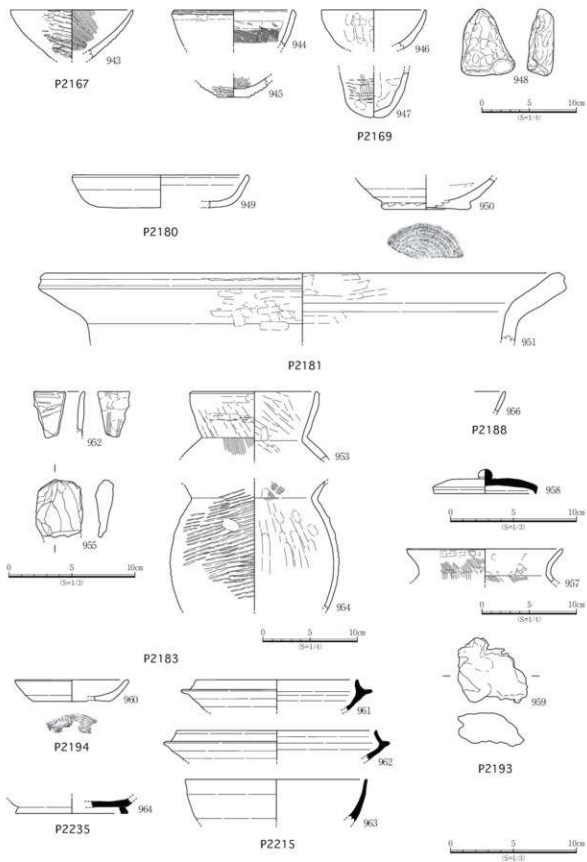


図2-114 ピット出土遺物実測図2

3. 検出遺構と出土遺物

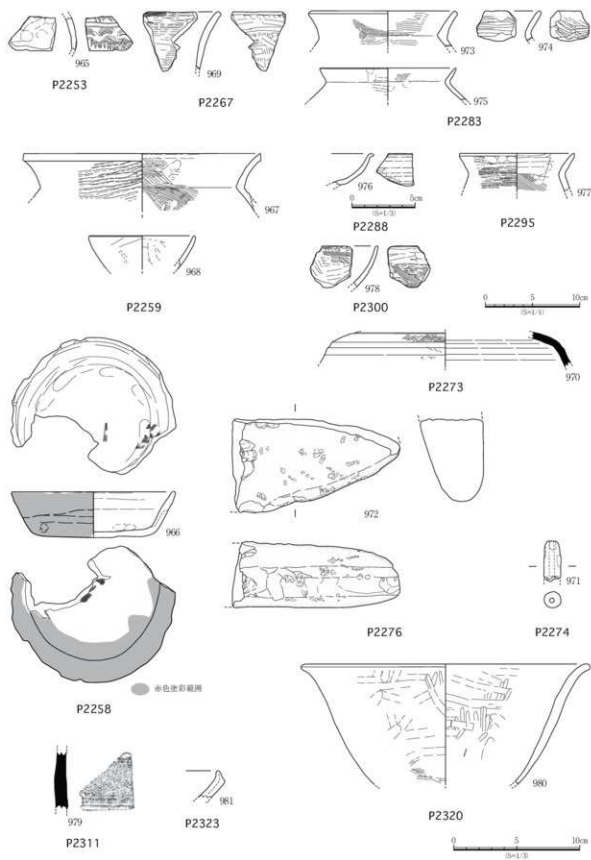


図2-115 ビット出土遺物実測図3

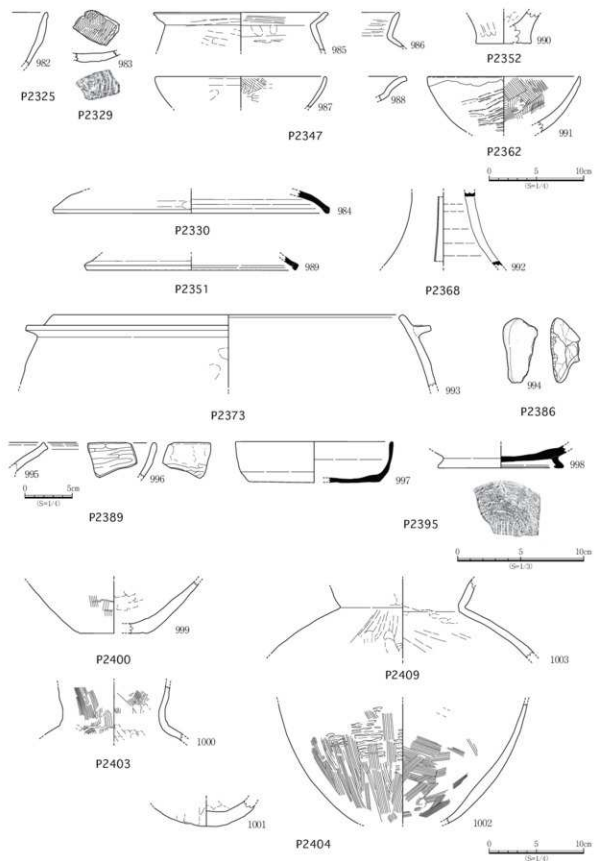


図2-116 ビット出土遺物実測図4

3. 検出遺構と出土遺物

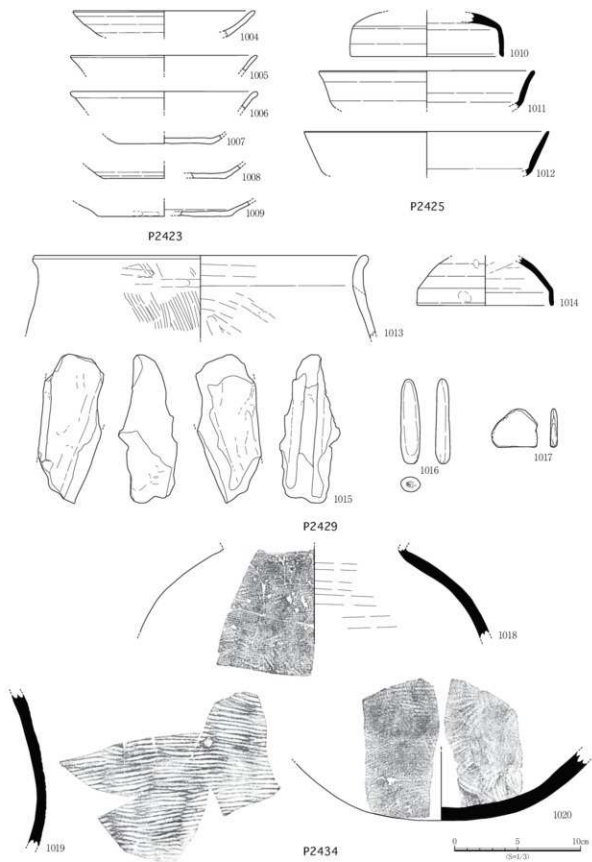


図2-117 ビット出土遺物実測図5

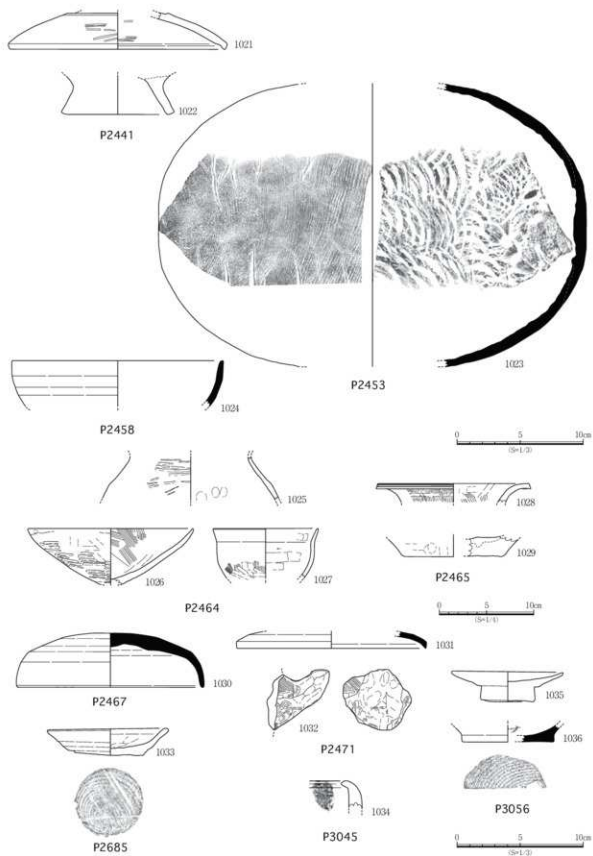


図2-118 ビット出土遺物実測図6

3. 検出遺構と出土遺物

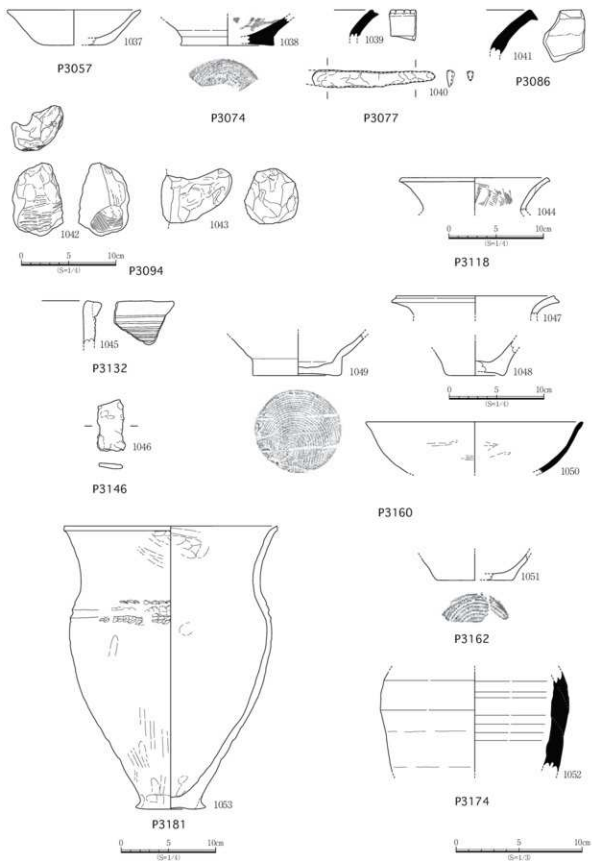


図2-119 ビット出土遺物実測図7

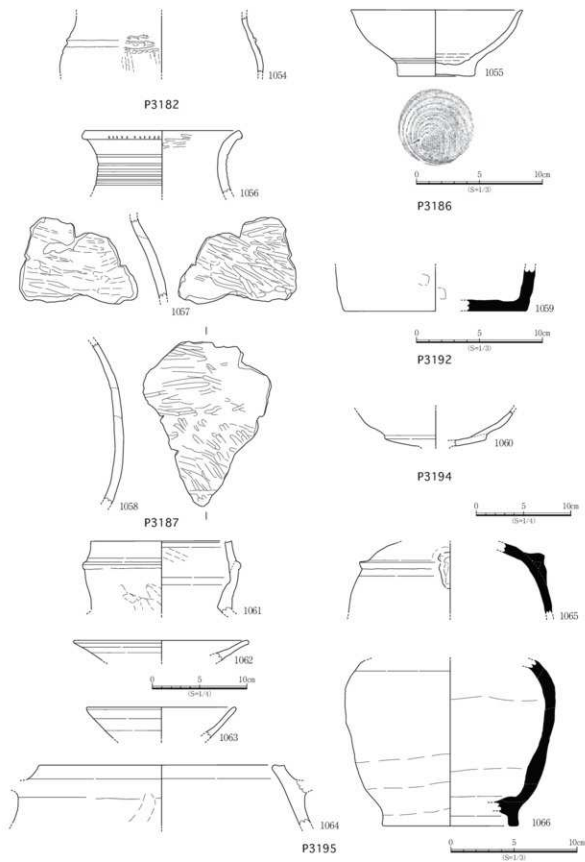


図2-120 ビット出土遺物実測図8

3. 検出遺構と出土遺物

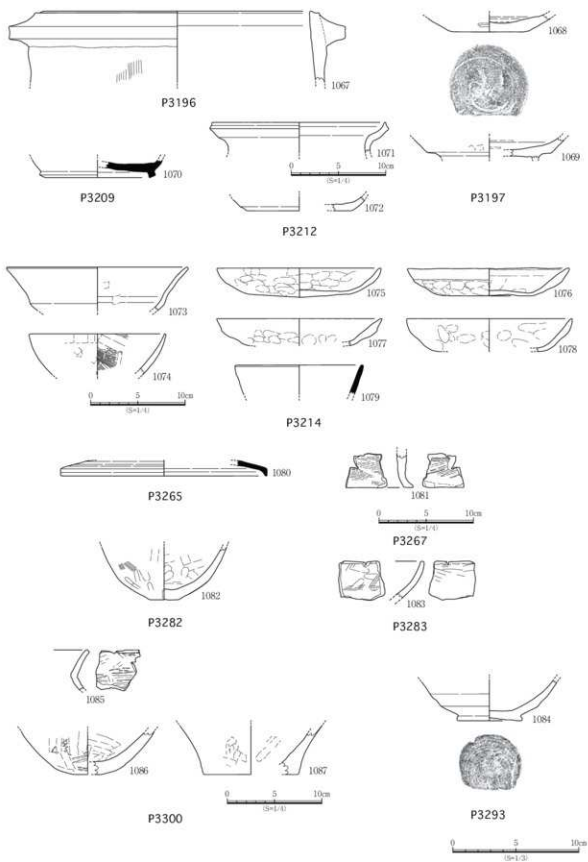


図2-121 ビット出土遺物実測図9

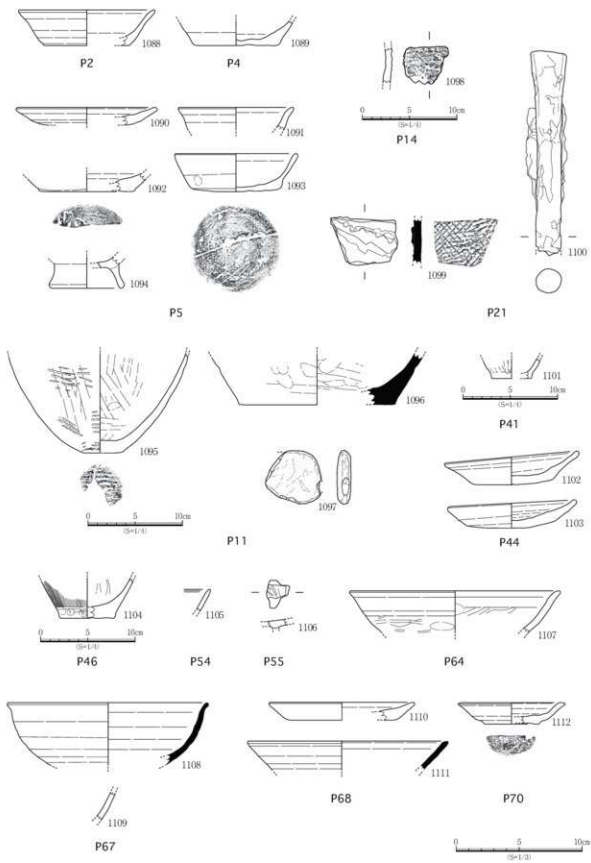


図2-122 ビット出土遺物実測図10

3. 検出遺構と出土遺物

P3195

J区中央部北寄りで検出した円形状の柱穴で、長軸0.18m、短軸0.16m、深さ0.16mを測る。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、1061～1066を図示した。

P3214

J区北部で検出した不整形形状の柱穴で、長軸0.27m、短軸0.21m、深さ0.25mを測る。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、1073～1079を図示した。

P5

北区東部で検出した不整楕円形状の柱穴で、長軸0.75m、短軸0.57m以上、深さ0.14mを測る。出土遺物は土師器等で、1090～1094を図示した。

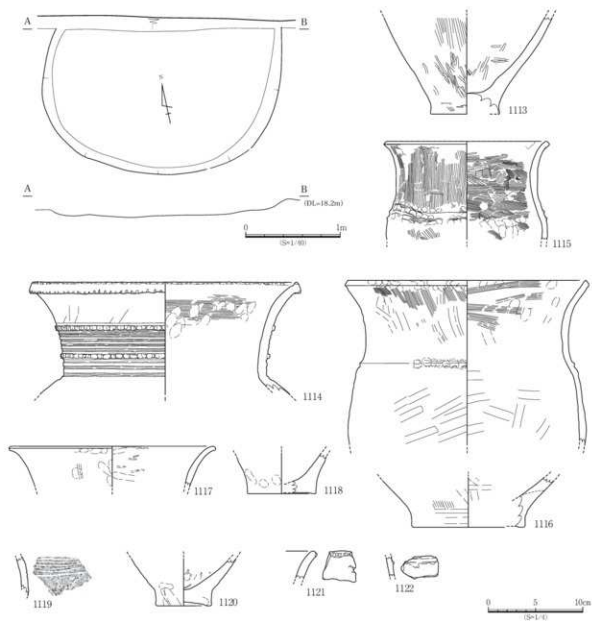


図2-123 SX1遺構図・出土遺物実測図

P44

北区東部で検出した円形状の柱穴で、長軸0.11m、短軸0.09m、深さ0.12mを測る。SK3の床面で検出した。出土遺物は土師器等で、1102・1103を図示した。

(6) 性格不明遺構

調査時に性格不明遺構と判断し、遺物が出土したものについて報告する。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

SX1

K区北西部で検出した性格不明遺構で、調査区北壁へ延びる。円形を呈し、長軸2.30m、短軸1.66m以上、深さ0.10mを測る。浅い断面皿状の土坑状遺構であるが、多くの弥生土器が出土し、1113～1122を図示した。

(7) 包含層出土遺物

包含層出土遺物は、黒色シルト質土から出土したものが多くを占める。H区南壁ではV層、J区東壁ではIV層が包含層に相当し、調査区全体を通して13～16cm程度の堆積が確認された。出土遺物は、それぞれの調査区ごとに取り上げを行なったが、全体を纏めて器種・器形ごとに掲載する。遺物の時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世である。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

3. 検出遺構と出土遺物

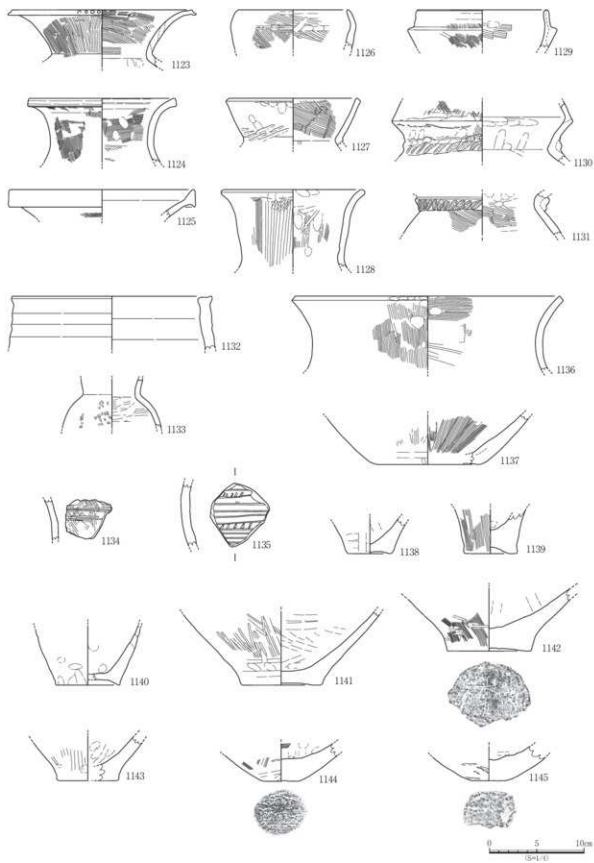


図2-124 包含層出土遺物実測図1(弥生土器・土師器)

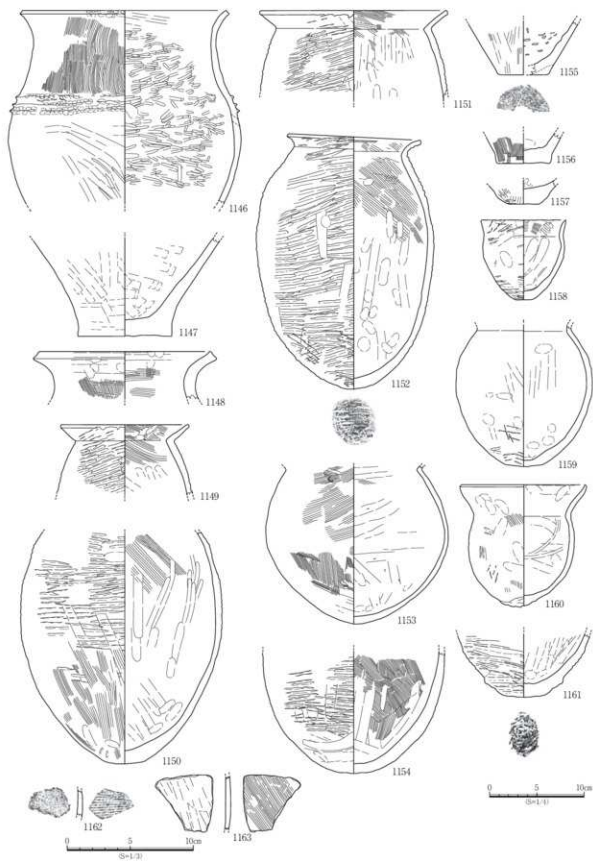


図2-125 包含層出土遺物実測図2(弥生土器・庄内式土器)

3. 検出遺構と出土遺物

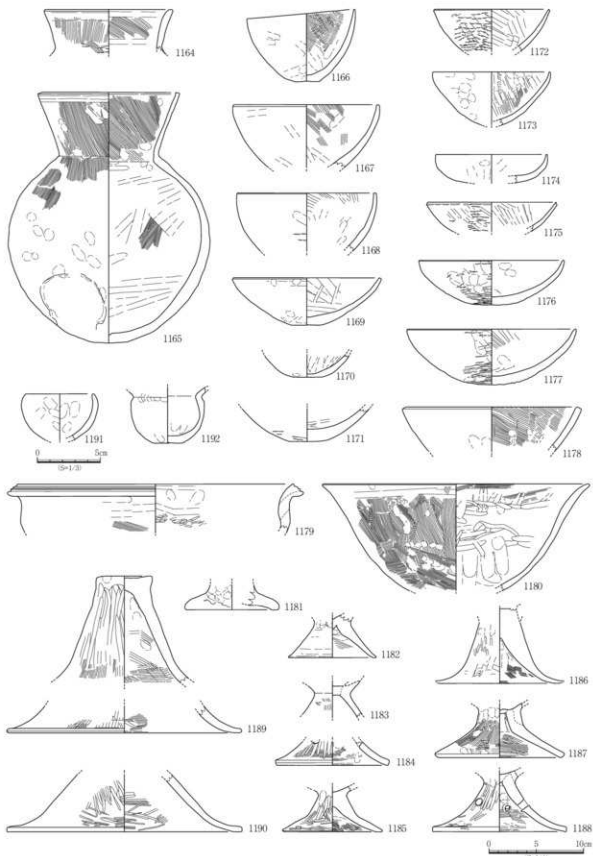


図2-126 包含層出土遺物実測図3(弥生土器・土師器)

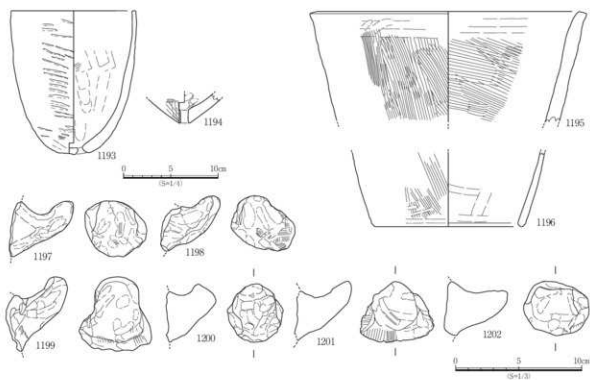


図2-127 包含層出土遺物実測図4(弥生土器・土師器)

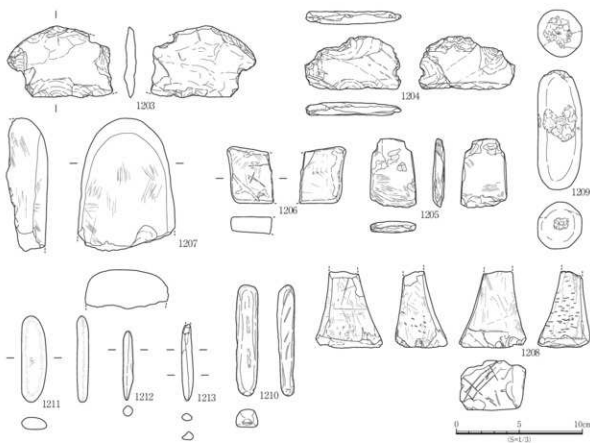


図2-128 包含層出土遺物実測図5(石製品)

3. 検出遺構と出土遺物

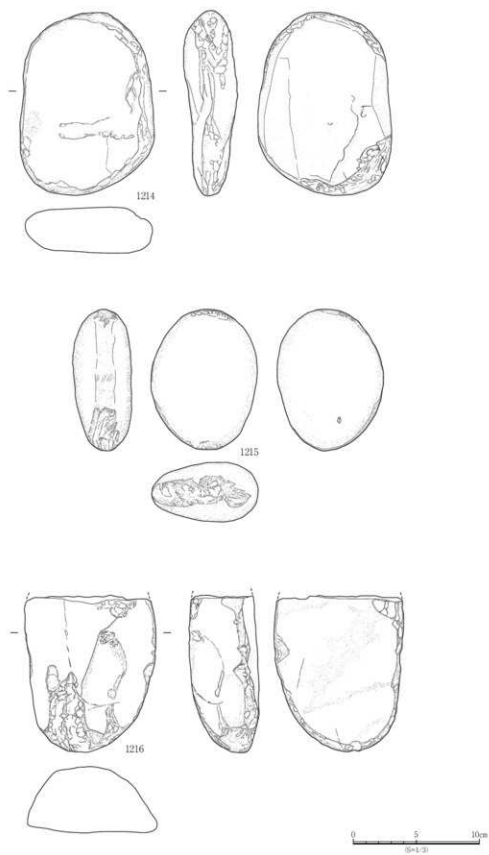


图2-129 包含層出土遺物実測図6(石製品)

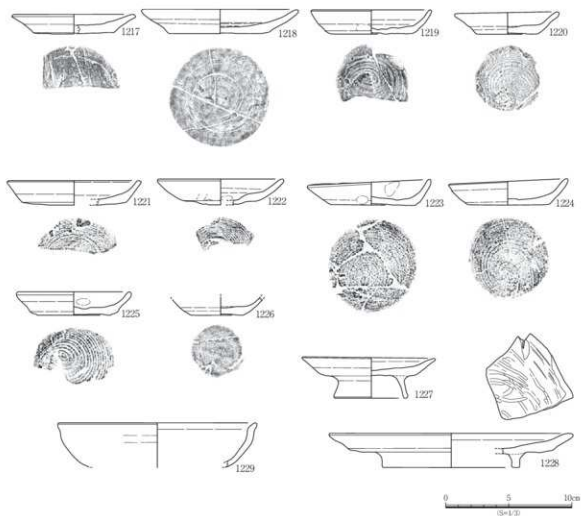


図2-130 包含層出土遺物実測図7(土師器)

3. 検出遺構と出土遺物

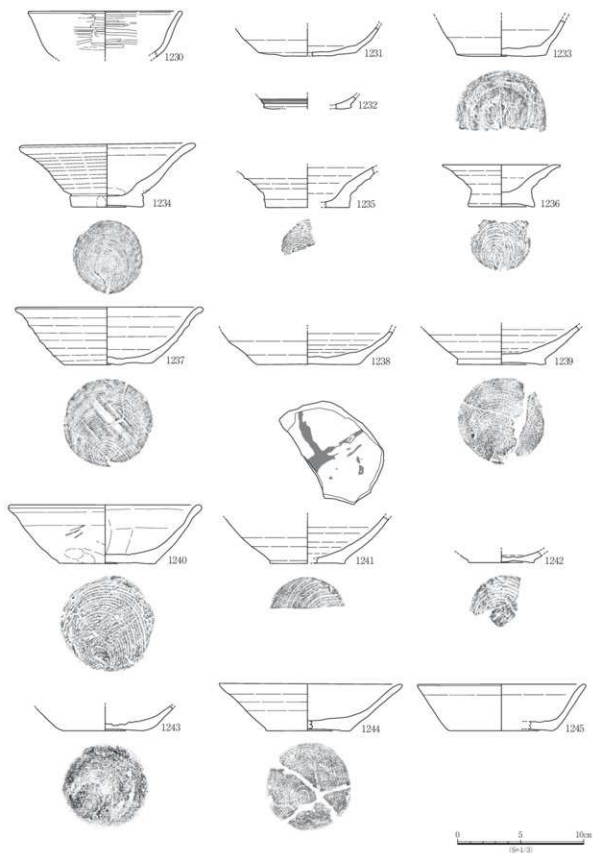


图2-131 包含層出土遺物実測图8(土師器)

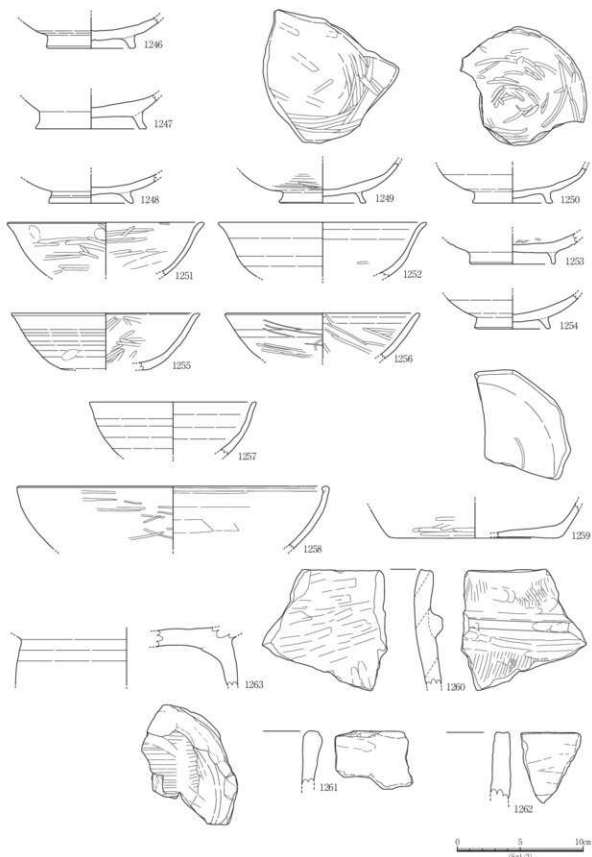


图2-132 包含層出土遺物実測図9(土師器)

3. 検出遺構と出土遺物

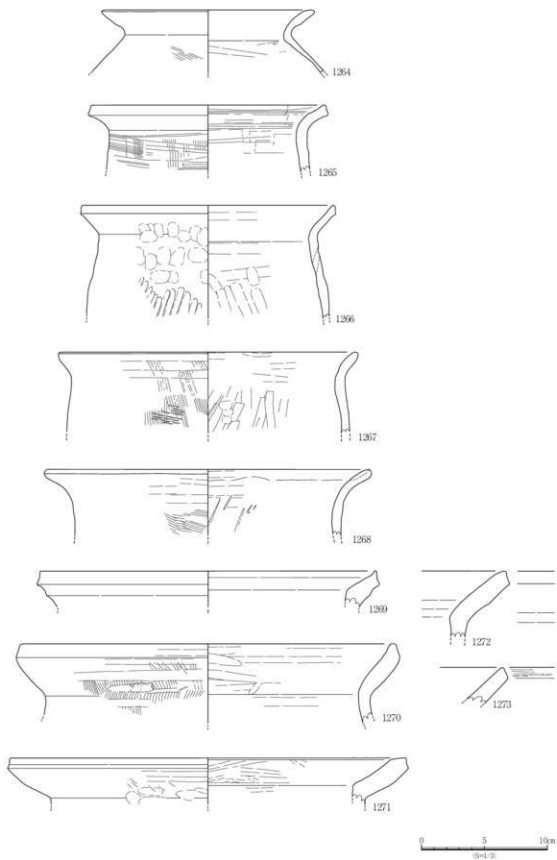


図2-133 包含層出土遺物実測図10(土師器)

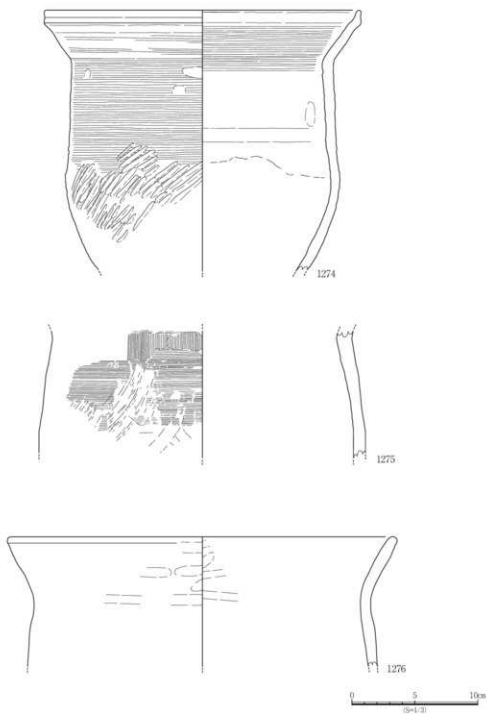


図2-134 包含層出土遺物実測図11(土師器)

3. 検出遺構と出土遺物

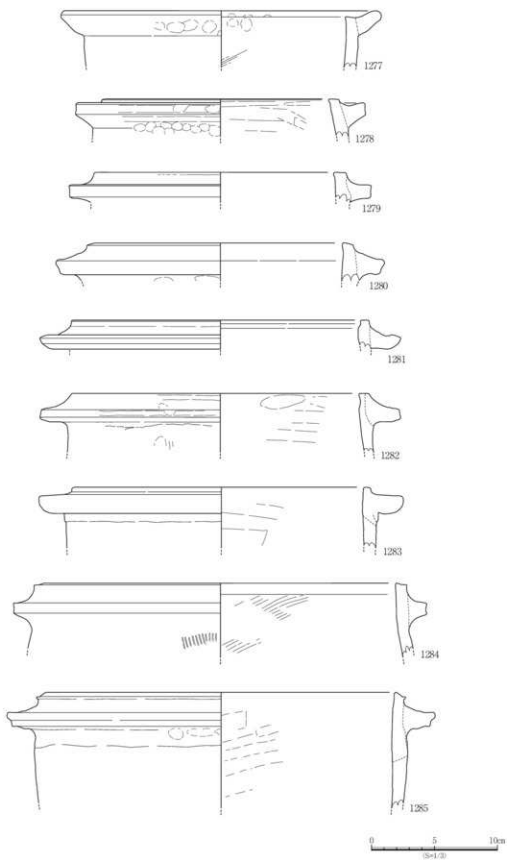


图2-135 包含層出土遺物実測图12(土師器)

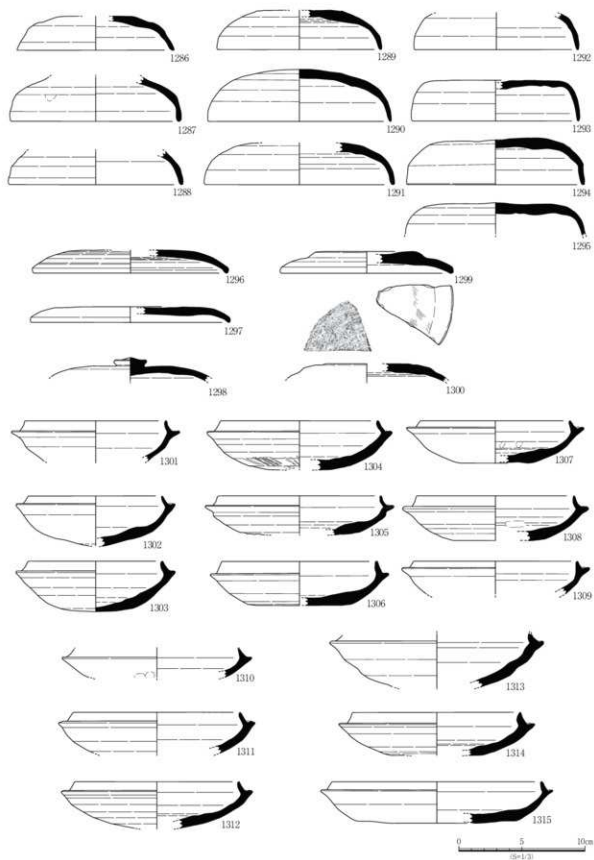


図2-136 包含層出土遺物実測図13(須恵器)

3. 検出遺構と出土遺物

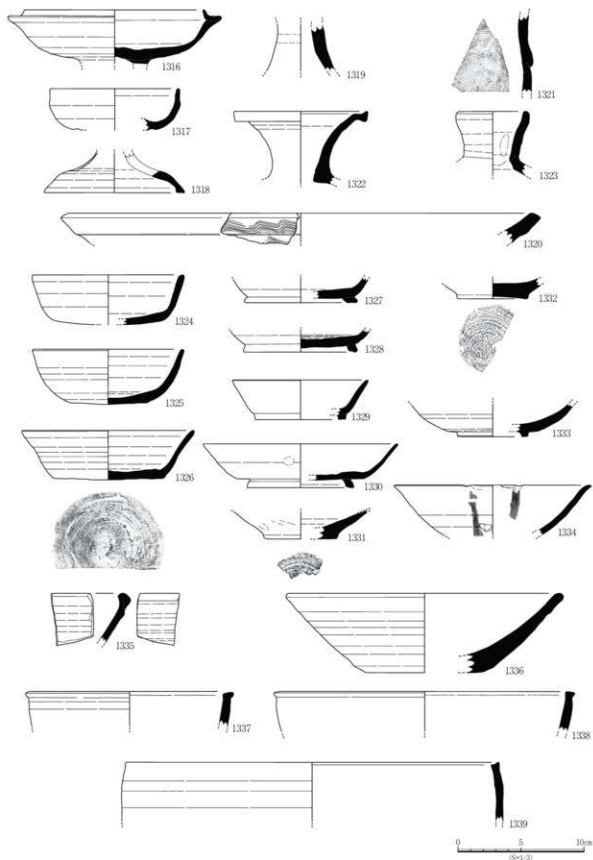


图2-137 包含層出土遺物実測图14(須忠器)

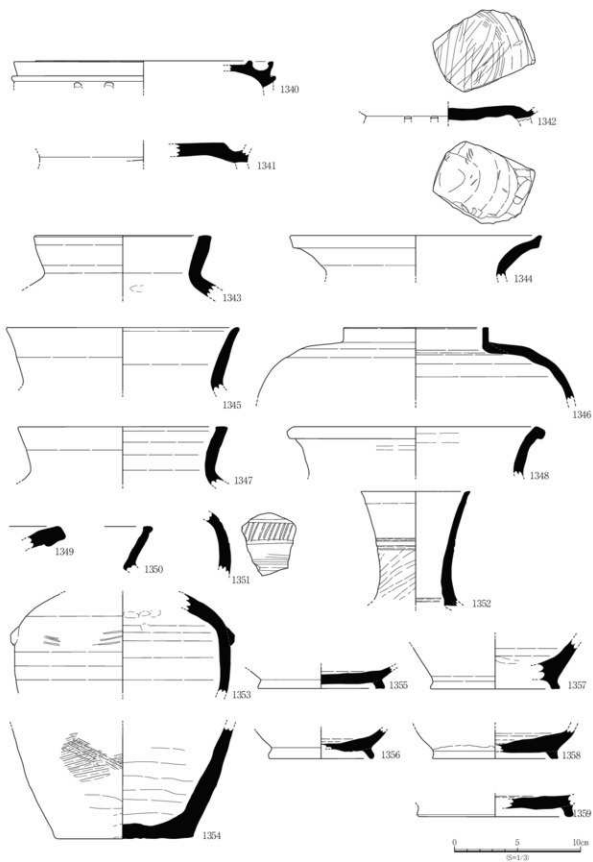


图2-138 包含層出土遺物実測图15(須恵器)

3. 検出遺構と出土遺物

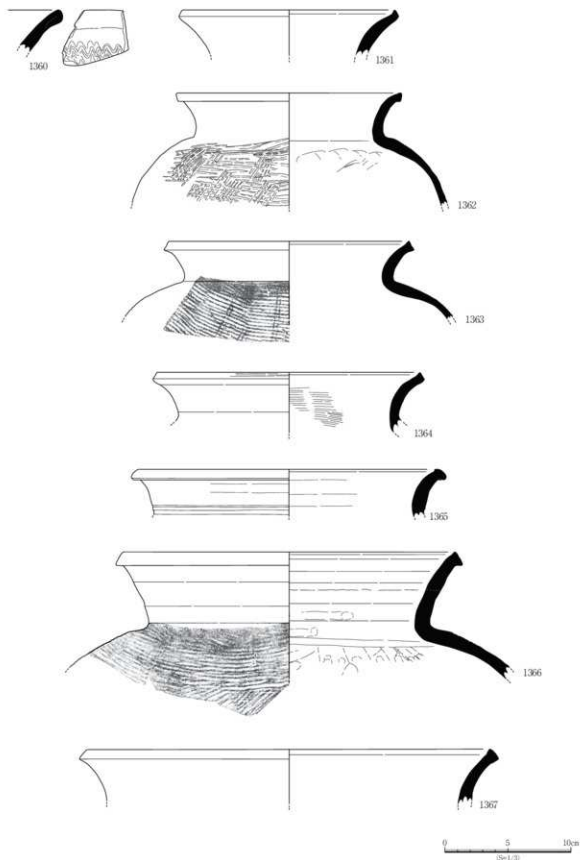


図2-139 包含層出土物実測図16(須恵器)

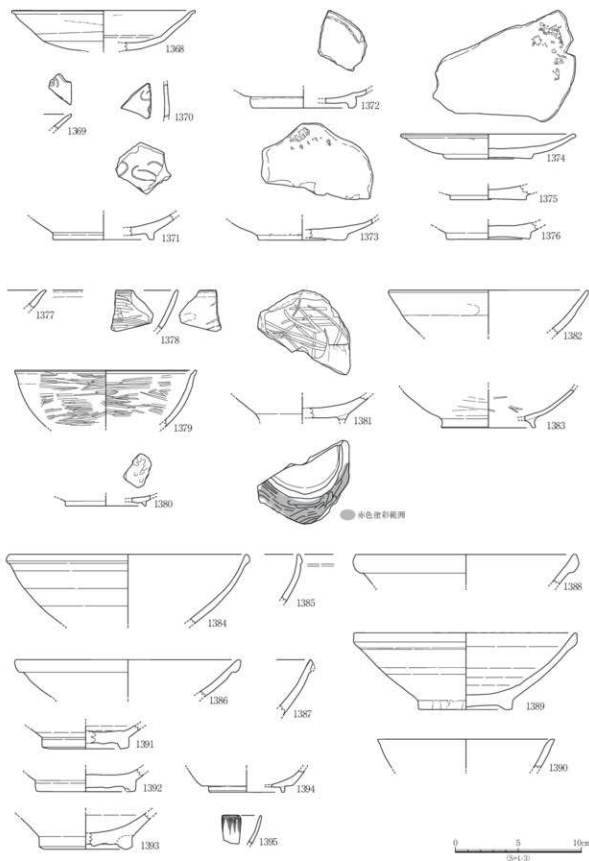


図2-140 包含層出土遺物実測図17(緑釉陶器・黒色土器・瓦器・白磁・磁器)

3. 検出遺構と出土遺物

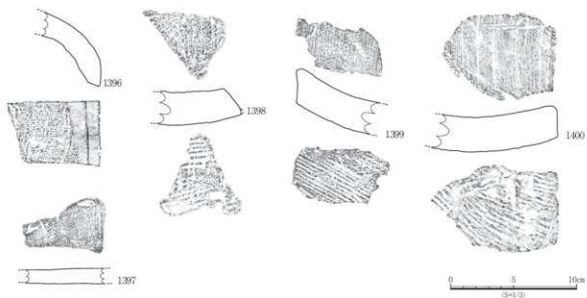


图2-141 包含層出土遺物実測図18(瓦)

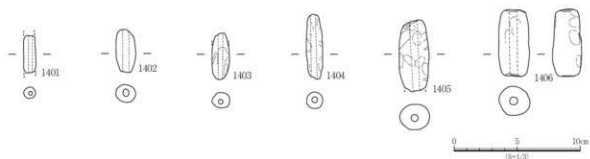


图2-142 包含層出土遺物実測図19(土製品)

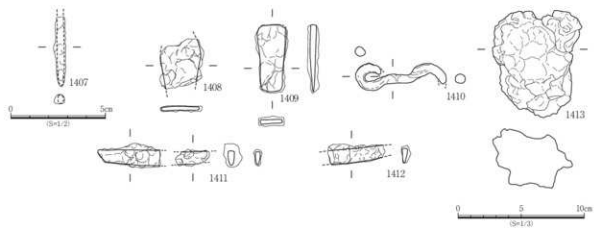


图2-143 包含層出土遺物実測図20(鉄製品)

遺物觀察表

凡例

1. 遺物観察表の法量は、基本的に口径・器高・底径について計測した。法量の内、完形又は復元可能な口径・底径については数値を記載、器高の残存長については()で記載した。その他、器形により必要なものは直接項目に付け加えた。石製品及び鉄製品については完形・欠損に拘らず全長・全幅・全厚の順にそれぞれ記載した。
2. 色調については『新版標準土色板』(農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修)に準じた。
3. 胎土については肉眼観察で判別できるものについてのみ記載した。
4. 備考は器種の分類、年代のわかるものについて記載した。
5. 中世の土器・陶磁器の分類については『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社1995、貿易陶磁器の分類については『国立歴史民俗博物館資料調査報告書4 日本出土の貿易陶磁器』1993を参照した。
6. 遺構・層位については、原則的に調査時の記録を使用した。不明なものについては包含層出土として報告する。

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1	試掘 TR8	包含層	土師器 椀	-	(35)	58	褐色 +	底部と体部の境目がナデにより円状になる。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
2	試掘 TR9		弥生土器 甕	154	(25)	-	浅黄褐色 + 灰色	頸部の屈曲から、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。肩部は面を成す。内面横方向のハケ。外面タタキ。胎土に砂粒・チャート粒を含む。	
3	試掘 TR9	包含層	土師器 杯	134	(32)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 にぶい褐色	体部から口縁部は僅かに外反し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面ロクロ目顕著。	
4	試掘 TR9		須恵器 蓋	-	(19)	-	灰色 + 灰オリーブ色	内面天井部にロクロ目顕著。口縁部回転ナデ。外面天井部は回転ヘラタズリ。口縁部回転ナデ。	
5	試掘 TR9	包含層	須恵器 椀	-	(26)	52	灰白色 + +	ハの字に開く断面形状の高台。内面ミガキ。放射状の網当での痕跡、火跡が見られる。外面高台内に彫刻工具による放射状のタズリ。体部回転ナデ。	
6	試掘 TR9		土製品 土鉢	全長 32	全幅 1.1	全厚 1.1	にぶい褐色 -	管状土鉢。中央部に直径0.6cmの円孔が貫通する。	
7	試掘 TR10	包含層	須恵器 蓋	-	(14)	-	灰白色 灰黄色 灰白色	天井部片。内面ナデ。外面回転ナデ。胎土に白色砂礫を含む。小規模な円・楕円孔が多く存在する。	
8	試掘 TR10	包含層	土製品 支脚	-	7.1	-	灰色 +	角状の支部が2カ所。把手状の突起が1カ所。脚部が欠損する。中央、外面に押圧痕が残る。	
9	試掘 TR11	包含層	弥生土器 壺	180	(23)	-	浅黄褐色 + +	口縁部は外反し、肩部は直立する面を成し、外側にやや肥厚する。内外面ともハケの後、口縁部横方向のナデ。胎土中にチャート粒・赤色泥を含む。	
10	試掘 TR11	包含層	弥生土器 壺か甕	-	(6.0)	-	浅黄褐色 + 暗灰色	丸味を帯びた胴部から、頸部で軽く屈曲し、口縁部は外反する。内面ナデ。押圧痕が残る。外面側面方向のハケ。胴部上位はハケの後ナデ。	
11	試掘 TR11	包含層	弥生土器 甕	90	(29)	-	褐色 浅黄褐色 黄灰色	小型の甕形を呈する口縁部片。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。肩部は面を成す。内外面ともナデ。	
12	試掘 TR11	包含層	土師器 高杯	-	(22)	-	にぶい褐色 浅黄褐色 黄灰色	頸部と体部の接合部に明確な段を成す。磨耗著しい。内面ナデ。胎土中にチャート粒・赤色泥を含む。	
13	試掘 TR11	包含層	土師器 甕	290	(75)	-	にぶい黄褐色 + +	頸部は軽く屈曲し、口縁部は短く外上方に延びる。肩部は円状を呈す。内面口縁部横方向のナデ。頸部以下ハケ。外面口縁部ナデ。頸部以下は粗い単位ハケ。	
14	試掘 TR12	ST1	弥生土器 壺	160	(40)	-	にぶい黄褐色 褐色 黄灰色	口縁部は外反し、肩部は粘土帶の貼付により肥厚。直立し面を成す。内外面とも粗い単位ハケ。口縁部は強い横方向のナデ。胎土中にチャート粒を含む。	
15	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	153	(19)	-	黒褐色 灰黄褐色 浅黄褐色	口縁部は外反し、肩部は面を成す。磨耗著しい。内面ハケ。外面磨面圧痕が残る。	
16	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	154	(32)	-	灰黄褐色 黄灰色 +	口縁部は直線的に外上方に延び、肩部はやや円状の面を成す。内面横方向のハケ。外面横方向のハケ又は胎状工具によるナデ。	
17	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	165	(45)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 暗灰色	口縁部下位はやや直立気味。上位は外反する。肩部はナデにより外側へ肥厚し、玉縁状を呈す。内面横方向のハケ。外面横方向のハケ。口縁部横方向のハケ。	
18	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	-	(69)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 浅黄褐色	頸部の屈曲は緩やかで、内面に鋭い稜を残す。内面口縁部主に横方向のハケ。側面横方向のナデ。接合部を留める。外面タタキ。口縁部：押圧痕。	
19	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	104	(57)	-	灰色 暗黄褐色 +	体部は緩やかに外上方に延び、口縁部は内傾する面を成す。内面丁寧なナデ。外面口縁部横方向のナデ。磨面に磨付着又は黄赤着色。胎土にチャート粒を含む。	
20	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	128	(42)	-	にぶい黄褐色 + +	体部は丸味を帯び、口縁部は内傾する面を成す。内外面ともハケ・ナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法器 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
21	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	140	(51)	-	橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	口縁部は斜上方に延び、肩部は上方に尖り突になる。内面幅広い単位のハケ又は製状工具によるナデ、外面タタキの後ナデ。	
22	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕か鉢	155	(31)	-	にぶい黄褐色 黄灰色 黒褐色	口縁部は内湾突に外上方に延び、肩部は面を成す。内面横方内の製状工具によるナデ、外面口縁部横方内のナデ、他は粗い製状工具によるナデ。	
23	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢	192	(30)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黒灰色	体部から口縁部は外上方に延び、肩部は僅かに凹状の面を成す。内外面ともナデ。	
24	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	-	(37)	42	橙色 。	柱状の小さな平底。断面により底部端を狭み出す。内面ハケ、外面ナデ、断面圧痕が残る。	
25	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	-	(27)	39	黄灰色 にぶい褐色 黒灰黄色	底部はやや小さな平底状で、中央の窪んだ面を成す。体部は直線的に外上方に延びる。内面製状工具によるナデ、外面ナデ、ノール状の保付着。	
26	試掘 TR12	ST1 SK1	弥生土器 鉢	-	(32)	40	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	底部は中央の窪んだ小さな平底状。体部は丸味を帯びる。内面細かいハケ、外面タタキの後ナデ、小さな凹凸面を残す。胎土に小礫・チャート粒を含む。	
27	試掘 TR12	ST1	弥生土器 甕	-	(26)	30	にぶい黄褐色 。	底部は小さな平底状。外面底部に集積状の圧痕が残る。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
28	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢	139	(39)	-	にぶい黄褐色 。	体部は外上方に延び、口縁部は短く反し、肩部は尖る。器壁薄い。	
29	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢	-	(27)	25	にぶい褐色 浅黄褐色 黄灰色	底部は胎付底か、胎土の混合痕が残る。内面細かい単位の螺旋状のハケ、外面タタキの後ナデ、断面圧痕を残す。	
30	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢か付鉢鉢	142	(35)	-	明赤褐色 。	体部は直線的で、口縁部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面口縁部横方方向、体部縦方向のミガキ、外面深いナデ後に口縁部横方方向のナデ、断面で、器壁は赤色。	
31	試掘 TR12	ST1	弥生土器 高杯	-	(30)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 灰白色	杯部は屈曲の後外反する。内面横方内のハケの腹中心から放射状の縞状のミガキ、外面縦方向内のハケ。胎土は白色系の仕上がりで、砂粒を多く含む。	
32	試掘 TR12	ST1	ミニチュア 土器	61	20	-	にぶい黄褐色 。	丸底状の浅い鉢又は製状を呈す。内外面とも断面圧痕が残る。	
33	試掘 TR12	ST1	土師器 甕	98	173	28	にぶい黄褐色 。	底部は小さな平底状。口縁部は直線的に外上方に延びる。胴部下段に内から径18cmの穿孔（横成線）、内面ナデ、外面胴部縦方向のミガキ、口縁部横方方向のナデ、縦方向のミガキ。	
34	試掘 TR12	ST1	土師器 甕	91	(45)	-	にぶい黄褐色・褐色 。	口縁部は上方に延び、肩部は尖り突に丸く収める。内面口縁部上方に沈線状の面凹面が残る。内外面ともナデ。	
35	試掘 TR12	ST1	土師器 甕	127	(107)	-	浅黄褐色 。	胴部はくの字状で、口縁部は短く外上方に延びる。内面ナデ、胎土等混合痕が顕著。外面口縁部横方方向のナデ、胴部幅広い単位のハケ、胴部上段から口縁部は後にナデ。	
36	試掘 TR12	ST1	弥生土器 鉢	101	(41)	-	にぶい褐色 。	体部から口縁部は内湾突に上方に延び、肩部は丸く収める。内面製状工具によるナデ、外面口縁部横方方向のナデ。	
37	試掘 TR12	ST1	弥生土器 台付鉢か	99	(19)	-	明黄褐色 。	口縁部は外上方に延び、肩部は丸く収める。摩耗著しく調整は不明瞭。	
38	試掘 TR12	包含層	弥生土器 台付鉢か	-	(27)	106	にぶい褐色 。	胴部片、胴部は直線的に開き、肩部は面を成す。内外面とも赤色顔料が塗布され、丁寧なミガキ。	
39	試掘 TR12	包含層	土師器 羽釜	-	(47)	-	褐色 。	口縁部横に断面隅丸三角形の溝が走る。溝の下部及び胴部の一部に保付着、内面横方向のナデ、外面口縁部ナデ、胴部横方向のハケ。	
40	試掘 TR12	ST1	須恵器 甕	139	(18)	-	灰黄色 灰白色 灰黄色	内面口縁部に断面三角形の小さなかえりが付く。内外面とも回転ナデ、摩耗著しい。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
41	試掘 TR12	ST1	須恵器 壺	-	(16)	-	灰色 オリーブ灰色 灰色	胴みの基部は狭れ、上位へ直線的に並び、縁を持つ。肩部は比較的平らで中央部がやや突出。内外面ともナデ、胎土に小規模な凹・突起を有す。	
42	試掘 TR14	SK2・3	土師器 杯	128	(25)	-	浅黄褐色 淡黄褐色 暗灰色	口縁部は僅かに肥厚し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ調整。	
43	試掘 TR14	SK1	土師器 壺	-	(85)	70	黄灰色 褐色 *	平底状の底部。底部中央部は凹状を呈する。内面縦方向のナデ、押圧痕が残る。外面縦方向の丁寧ミダキ。	
44	試掘 TR14	包含層	土師器 杯	-	(22)	72	灰白色 *	底部端はやや丸味を帯びる。内外面とも回転ナデ。内面見込みの一部にケール状の肥厚帯。底部切り難しは回転糸切り。	
45	試掘 TR14	SK2・3	須恵器 杯身	-	(17)	72	にぶい褐色 にぶい褐色 暗灰色	丸味を持った底部から体部は外方に広がる。内面回転ナデ。外面底部に大樽縁の遺痕。胎土中に白色砂粒、赤色塵を含む。底部切り難しはヘラ切り。	
46	試掘 TR14	SK4	平瓦	全長 102	全幅 59	全厚 20	褐色 にぶい黄褐色 褐色	内面は布目瓦、凸面は丁寧なナデ。	
47	A区	ST2001	弥生土器 壺	146	(16)	-	にぶい褐色 褐色 黄灰色	口縁部は外反する。肩部は外側に肥厚し、面を成す。肩部には2条の遺痕による縦四角が施される。内面縦方向のナデ、外面ハケの後横方向のナデ。	
48	A区	ST2001	弥生土器 壺	-	(40)	56	にぶい黄褐色 *	平底状を呈する底部片。内面ナデ、押圧痕を残す。外面ナデ。	
49	A区	ST2001	弥生土器 鉢	124	(42)	-	にぶい褐色 にぶい褐色・明黄褐色 暗灰色	内面粗い単位の外ハケ、外面タタキの後ナデ。	
50	J区	ST2001	弥生土器 鉢	-	(25)	46	にぶい褐色 褐色 浅黄褐色	底部は平底状。底部から体部は丸味を持って外反する。内面ナデ、外面タタキの後ナデ、浅い凸面を残す。	
51	A区	ST2001	弥生土器 鉢	268	(85)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。肩部は丸く収める。内面ヘラナデ、外面ハケ、口縁部ナデ。	
52	J区	ST2001	土師器 瓶	-	(47)	-	にぶい黄褐色 *	把手部。基部は横断面楕円形で、肩部は丸味を持つが欠る。器底は浅い押圧痕。一部にハケの痕跡が残る。肥厚帯。	
53	J区	ST2001	弥生土器 壺	140	(49)	-	にぶい褐色 褐色 灰黄褐色	肩部から口縁部は連続的に外反する。肩部は丸く収め、外側にやや肥厚する。	
54	J区	ST2001 カマド	弥生土器 壺	194	(57)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 *	肩部から口縁部は外反する。肩部は丸く収め、外側にやや肥厚する。	
55	A区	ST2001	弥生土器 壺	146	(128)	-	にぶい褐色 褐色 褐色	肩部は丸味を帯び、肩部で短直の後、口縁部は短く外反する。肩部は丸く収める。内面ケスリの後ナデ。外面ハケ、口縁部横方向のナデ。	
56	J区	ST2001	土師器 壺	172	(30)	-	にぶい黄褐色 *	口縁部は短く外反し、肩部は丸く収める。内面口縁部横方向のナデ。外面口縁部横方向のナデ、肩部方向の粗いハケ。	6c 後～ 7c 初
57	J区	ST2001	土師器 壺	154	(47)	-	にぶい黄褐色 *	肩部は短く上方に並び、口縁部は外反する。肩部は丸味を帯びた面を成す。内面ナデ、口縁部は横方向のナデ。外面短い・横方向のハケ、口縁部は横方向のナデ。	6c 後～ 7c 初
58	J区	ST2001	土師器 壺	162	(38)	-	にぶい黄褐色 *	口縁部は縦や外に外反し、肩部は丸く収める。内面口縁部横方向のナデ。外面口縁部横方向のナデ、肩部方向のハケの後横方向のナデ。	
59	J区	ST2001 (P5)	土師器 壺	156	(61)	-	にぶい黄褐色 *	肩部から口縁部は短く外反し、肩部は丸く収める。内面口縁部ハケの後横方向のナデ。外面口縁部横方向のナデ。肩部上位はハケの後ナデ。	
60	J区	ST2001	土師器 壺	147	(105)	-	褐色 *	肩部は縦や外に傾斜し、口縁部は外反する。肩部は丸く収め、一部は外側に肥厚する。帯状著しく調整が不明瞭だが、外面に僅かにハケ目が見える。	6c 後～ 7c 初

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
61	J区	ST2001	土師器 甕	200	(105)	-	にぶい・棕色 にぶい・褐色 にぶい・黄色	胴部は緩やかに短曲する。口縁部は緩やかに短直し、 外下方に肥厚し丸く収める。磨耗著しく調色は不鮮明だ が、内面に単位位のハケ目が見える。	6c 後～ 7c 初
62	J区	ST2001	土師器 甕	176	(92)	-	にぶい・黄褐色 +	胴部はやや上方に及び、口縁部は短く外反する。肩部は 丸く収める。内面ナデ、外面口縁部ハケ、口縁部横方向のナ デ。	6c 後～ 7c 初
63	J区	ST2001	土師器 甕	237	(156)	-	にぶい・黄褐色 +	胴部は直立し、口縁部は短く外反する。口縁部は丸く 収める。内面ケズリ・ナデ。外面口縁部・肩部は横方向 のナデ、胴部は短いストロークのハケ。	6c 後～ 7c 初
64	J区	ST2001	土師器 杯	184	(38)	-	褐色 灰褐色 にぶい・黄褐色	口縁部は緩く外反し、肩部は丸く収める。内面口縁部に 北縁状の段がある。内外面ともミギサ、スリップ（朱記） を塗る。内面に火曜風の煤の重なりが見られる。	
65	A区	ST2001	須恵器 杯蓋	122	(46)	-	灰色 +	内面口縁部ナデ、ロクロ目を残す。外面口縁部にナデ、天 舟部（中位以上）に回転ケズリの後ナデ、肩部には灰が 付着する。	
66	J区	ST2001	須恵器 杯蓋	143	4.1	-	灰白色 +	口縁部は短く直立し、肩部は丸く収める。内外面とも回 転ナデ、内面天舟部はロクロ目顯著。	6c 後半
67	A区	ST2001	須恵器 杯身	110	(34)	-	灰白色 灰色 灰白色	体部から口縁部は内湾し、受け部は外側へ覆り付く。か えりは直線的に内湾する。内外面とも回転ナデ、外面下 位はケズリ、受け部径 13.4cm	
68	A区	ST2001	須恵器 杯身	120	(36)	-	灰白色 +	体部は内湾の後外反し受け部となる。かえりは短く内湾 する。内外面とも回転ナデ、受け部径 14.6cm	
69	A区	ST2001	須恵器 杯身	122	(22)	-	灰色 +	体部から受け部は直線的に及び、かえりは短く内湾す る。受け部端が押圧により変形する。内外面とも回転ナ デ、受け部径 14.5cm	
70	A区	ST2001	須恵器 杯身	130	(26)	-	にぶい・褐色 +	体部から受け部は直線的に及び、肩部は丸く収める。か えりは短く内湾する。唇部が微化のため褐色を帯びる。 内外面とも回転ナデ、受け部径 15.6cm	
71	A区	ST2001	須恵器 杯身	142	(28)	-	灰色 +	口縁部は緩く外反する。肩部は太く丸く収める。かえり は内湾し、内面体部口縁部との境は凹状になる。内外面 とも回転ナデ、蓋の可能性あり、受け部径 16.8cm	
72	J区	ST2001	須恵器 杯	-	(15)	80	暗灰黄色 灰色 黄灰色	断面進台形状の高台が付く。底部端から体部へ直線的に 外反する。内外面とも回転ナデ、高台の接合部はナデ、高 台内の一部は後台痕が顯著。	8c 前後
73	A区	ST2002	弥生土器 甕	126	(129)	-	にぶい・黄褐色・黄灰色 にぶい・黄褐色 黄灰色	口縁部は緩く外反し、肩部は内湾する面を成す。外面肩 部に9条の稜指沈線がある。	
74	A区	ST2002	弥生土器 甕	-	(6.3)	-	褐色 灰色 にぶい・黄褐色	胴部上下に7～8条以上の稜指直線文、縦方向の2条1 単位の反線を交互に配する。	
75	A区	ST2002	弥生土器 甕	170	(106)	-	にぶい・黄褐色 にぶい・褐色 にぶい・黄褐色	胴部から口縁部は外反し、肩部は丸く収める。内面口縁 部はナデ、胴部はケズリ、外面口縁部はナデ、胴部はハ ケ。	
76	A区	ST2002	弥生土器 鉢	154	6.3	-	褐色 +	底部は丸底状。内面ナデ、外面タキの後ナデ。	
77	A区	ST2002	弥生土器 鉢	84	(6.5)	14	淡黄色 にぶい・黄褐色 淡黄色	底部は小さな平底状。体部から口縁部は外反し、肩部は 尖り尖味に往上げる。内面下から上のナデ、口縁部横方 向のナデ、外面タキの後ナデ。	
78	A区	ST2002	土師器 甕	260	(34)	-	にぶい・黄褐色 +	口縁部は外上方へ及び、肩部は粘土の貼付により上方 に立ち上がる。	
79	A区	ST2002	須恵器 杯身	128	(38)	7.8	灰白色 +	体部は丸味を帯びる。受け部は緩く短く外側へ張り出 す。かえりは内湾して内上方に及び、受け部径 13.5cm	
80	A区	ST2002	石製品 石包丁	全長 7.3	全幅 4.8	全厚 1.4	-	刃部は直線的で使用により磨減する。柄縁は打ち欠 が、僅かに窪む程度。緑色片岩製。重量 71.0g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				全長	全幅	全厚			
81	A区	ST2002	石製品 石包丁	7.0	3.4	1.3	-	平面部は長方形状。刃部は直線的で使用により磨減。側縁は長方形中央を打ち欠き、深く湾曲する。重量 450g	
82	A区	ST2003	弥生土器 壺	11.8	(7.7)	-	褐色 +	口縁部はやや外反する。内外面とも粗い単位の花の後ナデ・ミガキ。	
83	A区	ST2003	弥生土器 壺	-	(4.2)	-	灰白色 + 灰色	底部は欠く。丸底状か。胴部は内湾する。鉢の可能性あり。	
84	B区	ST2003	弥生土器 壺	15.4	(8.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 黄灰色	口縁部に内傾する口縁部が付加される複合口縁壺。外面胴部に粗い単位の花。	
85	A区	ST2003	弥生土器 壺	-	(3.4)	6.4	褐色 にぶい黄褐色 +	平底状を呈する底部。底部端は強く外反し、胴部は直線的に立ち上がる。内外面ともナデ。	
86	A区	ST2003	弥生土器 壺	-	(3.1)	6.7	オリーブ褐色・にぶい黄色 灰色 黄灰色	底部は平底状。内面ハケの後ナデ。外面ナデ。押圧痕が残る。	
87	A区	ST2003	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	褐色 +	口縁部は外反する。肩部は太く丸く収め、外側に微かに肥厚する。	
88	A区	ST2003	弥生土器 壺	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 明黄褐色 にぶい黄褐色	口縁部は強く外反し、肩部は丸く収める。内面ナデ、胴部に粗いハナ目が残る。外面ハケの後ナデ。口縁部は横方向のナデが顕著。	
89	A区	ST2003	弥生土器 壺	-	(7.7)	-	褐色 +	内面ナデ。一部に肥厚着。外面ナデ。胴部ではハケが卓越する。	
90	A区	ST2003	土師器 壺	-	(7.1)	-	褐色 +	肩部から胴部にかけて大きく張り出す球形の体部。内外面ともナデ・ミガキ。	
91	A区	ST2003	弥生土器 壺	10.6	(9.4)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 灰色	胴部は内湾する。胴部から口縁部は強く外反し、肩部は強く丸く収める。	
92	A区	ST2003	弥生土器 壺	17.4	(6.1)	-	褐色 + にぶい黄褐色	胴部から口縁部は外反して立ち上がる。肩部は太く丸く収め、一部で外側に肥厚する。内面ナデ。胴部の一部にケズリ。外面ハケの後ナデ。胴部はハケが卓越する。	
93	B区	ST2003	弥生土器 壺	16.0	(8.0)	-	褐色 + 黄灰色	口縁部は外反し、丸く収める。内面胴部に複合痕が残る。内面ヘラケズリ・ナデ。外面ハケ・ナデ。	
94	A区	ST2003	弥生土器 壺	13.6	(5.7)	-	浅黄色 にぶい黄褐色 黄灰色	胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は強く外反する。外面タタキの後ハケ。口縁部ナデ。	
95	B区	ST2003	弥生土器 壺	18.3	(8.3)	-	褐色 + 黄褐色	胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は強く外反する。内面口縁部は横方向のナデ。胴部以下はケズリ及びナデ。外面口縁部は横方向のナデ。胴部以下はハケ。	
96	A区	ST2003	弥生土器 壺	21.7	(3.6)	-	明赤褐色 褐色 +	口縁部は外方に広がり、丸く収める。内面ハケの後ナデ。複合痕を残す。外面ナデ。一部に造込工具によるナデ。口縁部には押圧痕。横方向の内ナデ。	
97	B区	ST2003	弥生土器 壺	-	(19.3)	-	にぶい黄褐色・明赤褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	胴部は球形に近い。内面はナデ。外面胴部上段はタタキ。下段はタタキの後ナデ。	
98	A区	ST2003	弥生土器 壺	-	(13.8)	-	黄灰色 明赤色・にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	胴部内。内面粗い単位の花の後ナデ。外面タタキの後ヘラナデ。強いナデにより砂粒が顕く。	
99	A区	ST2003	弥生土器 壺か	-	(7.7)	-	明赤褐色 にぶい褐色 にぶい褐色	底部は丸底状。体部は球形状を呈す。器壁は内面からのケズリにより薄い。内面底部はナデ・押圧痕が残る。外面丁寧なハケ。	
100	A区	ST2003	弥生土器 壺	-	(5.6)	-	褐色 浅黄褐色 +	小型の壺。胴部は内湾する。内面ナデ。外面タタキ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
141	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 壺	148	(33)	-	浅黄褐色 + 灰色	口縁部は外反する。口縁部は面を成し、外側へやが肥厚する。内面横方向のハケの後ナダ。外面タタキの後縦方向のハケ。口縁部直下に押圧痕。胎土にチャート粒を含む。	
142	B区	ST2005	弥生土器 壺	142	(50)	-	浅黄褐色 褐色 浅黄褐色	肩部から口縁部は直線的に外上方に開く。内外面ともハケ。口縁部は横方向のナダ。	
143	B区	ST2005	弥生土器 壺	160	(74)	-	にぶい黄褐色 褐色 浅黄褐色・黄灰色	二重口縁状を呈す。磨耗著しいが、内外面ともハケ・ナダ。	
144	B区	ST2005	弥生土器 壺か	-	(14.4)	70	灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	底部は平底状。内面ナダ。外面底部から側面にタタキ。	
145	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 壺	149	(20)	-	にぶい黄褐色 + 灰色	口縁部は外反する。口縁部は面を成し、外側へやが肥厚する。内面横方向のハケ。外面ナダ。縦方向の押圧痕が残る。胎土にチャート粒を含む。	
146	B区	ST2005	弥生土器 壺	172	(41)	-	浅黄褐色 + 灰白色	肩部はくの字状。肩部は僅かに上下に拡張し平坦状。内面口縁部はハケ。外面肩部から口縁部ハケの後縦方向のナダ。肩部以下タタキ・ハケの後ナダ。磨耗が顕著。	
147	B区	ST2005	弥生土器 壺	128	(43)	-	浅黄褐色 + 暗灰色	口縁部は外上方に開く。内面ハケ。外面タタキ。	
148	B区	ST2005	弥生土器 壺	-	(50)	-	にぶい黄褐色 黄灰色 + -	丸底状を呈する底部片。内面ナダ。外面はタタキの後ハケ。底部はタタキ。	
149	B区	ST2005	弥生土器 鉢	130	(37)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	口縁部は上方に延び、肩部は平坦面を成す。器面は丁寧なナダ。	
150	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 鉢	150	(39)	-	灰黄褐色 + 灰白色	やや浅く、容量のある鉢。底部は丸味を帯び、口縁部は内外をなであげることにより中央の窪んだ面を成す。内面焼付工具によるナダ。外面ナダ。小さな凹凸が顕著。	
151	B区	ST2005	弥生土器 鉢	135	(57)	-	にぶい黄褐色 + 浅黄褐色	口縁部はナダにより水平な平坦面状を呈す。内面焼付工具によるナダ。外面タタキの後ナダ。磨耗あり。	
152	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 鉢	227	(53)	-	にぶい黄褐色 + 黒色	口縁部はやや内湾し、肩部は狭い面を成す。内外面ともナダ。	
153	B区	ST2005	弥生土器 鉢	-	(3.8)	30	褐色 + 灰色	底部は小さな平底状。内面横方向のハケ。外面ナダ。	
154	試掘 TR11	ST2005	弥生土器 鉢	175	6.2	4.1	褐色 + -	平底状の底部。底部端は明確で、底部から口縁部は外上方に延び、肩部は面を成す。内面ハケ・ナダ。外面丁寧なナダ。	
155	B区	ST2005	ミニチュア 土器	60	5.6	1.8	にぶい褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	壺型を呈す。外面指刺状が顕著。	
156	B区	ST2005	ミニチュア 土器	26	4.7	1.7	黄灰色 + -	壺型を呈す。手づくね成形。	
157	試掘 TR11	ST2005	土製品 支脚	-	14.2	9.2	灰黄褐色 + +	脚部は中空で、上位に径約10cmの玉状の粘土を詰め、内面押圧痕、縦り目、外面縦線状に押圧痕が残る。	
158	B区	ST2005	土師器 壺	-	(60)	-	にぶい黄褐色 黒褐色 にぶい黄褐色・黄灰色	内外面ともナダ。器壁厚い。	混入か
159	B区	ST2005	石製品 叩石	全長 233	全幅 9.7	全厚 6.9	-	長辺の2面と短辺1面に敲打痕。砂岩製。重量 2076.0g	
160	B区	ST2006	須恵器 杯蓋	130	(35)	-	灰黄褐色 褐色 + -	内面回転ナダ。外面天井部は回転ヘラケズリ。口縁部にかけて回転ナダが施される。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
161	B区	ST2006	鉄製品 鉄剣	全長 31.6	全幅 3.7	全厚 0.8	-	直径0.25cmの円孔が穿たれる。重量 200g	
162	A区	ST2007	弥生土器 壺	-	(2.5)	5.2	にぶい褐色 + 褐色	底部は平底状。内面ナデ、外面ヘラナデ。	
163	A区	ST2007	弥生土器 甕	15.6	(4.8)	-	淡黄色 浅黄褐色 淡黄色	頸部の屈曲から口縁部は外反し、肩部は内傾する面を成す。内面ハケ。外面タタキ。押正底が見える。	
164	A区	ST2007	弥生土器 甕	16.0	(5.8)	-	浅黄褐色 褐色 灰色	頸部の屈曲は緩く、口縁部は直線的に外上方に広がる。肩部は尖り丸味に丸く収める。内面細かい単位ハケ。外面タタキ。	
165	A区	ST2007	弥生土器 甕	12.4	(2.4)	-	にぶい褐色 + 灰色	頸部の屈曲から口縁部は内湾する。肩部は部分的に新しい面を成す。内面細かい単位ハケ。外面タタキの後端かい単位ハケ。	
166	A区	ST2007	弥生土器 鉢	11.0	(4.0)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 淡黄色	体部は丸味を帯び、口縁部は丸く収める。内面細かい単位ハケ。外面ナデ。器面に製孔が多くみられる。	
167	A区	ST2007	弥生土器 鉢	17.0	(4.0)	-	褐色 + 淡赤褐色	体部は丸味を帯び、口縁部は内傾する面を成す。内面ヘラナデ。外面口縁部横方向のナデ。押正底が見える。	
168	A区	ST2007	弥生土器 鉢	-	(1.3)	7.0	浅黄褐色 灰オリーブ色 灰色	底部は粘土地付状の平底状。外面底部に雲脚状の圧痕が見える。内面細かい単位ハケ。外面タタキが僅かに見える。	
169	A区	ST2007	弥生土器 鉢	-	(2.4)	4.2	浅黄褐色 + 黄灰色	底部はやや突出する小さな平底状。内面ヘラナデ、外面ナデ。	
170	A区	ST2007	弥生土器 鉢	-	(2.3)	4.4	褐色 + +	底部は押しつぶした平底状。内面ハケ。底部はナデ。外面タタキ。	
171	A区	ST2007	石製品 印石	全長 10.6	全幅 8.0	全厚 3.4	-	表裏面と両側面、肩部は欠損。表裏面に鼠歯状痕、側面は細かい凸凹や線状に打痕を残す。肩部に磨打痕。肩部は磨打により、幅のある面になる。泥岩製か。重量 4100g	
172	A区	ST2007	石製品 砥石	全長 5.1	全幅 3.8	全厚 3.3	-	3面を使用。1面は自然面。断面は破断。使用面の1面に、筋のやや深い線条使用痕。他2面に細く浅い線条が不定方向に残る。砂岩又は泥岩製。重量 85.0g	
173	A区	ST2007	石製品 台石か	全長 18.2	全幅 11.7	全厚 6.1	-	表裏面に滑らかな面が存在する。長軸方向の1辺には磨打による小さな剥離が認められる。重量 22190g	
174	K区	ST2008	弥生土器 壺か	23.5	(6.0)	-	褐色 + 褐色・黄灰色	口縁部はラッパ状に外反する。口縁部はナデにより円状になる。内外面とも丁寧なハケ。	
175	B区	ST2008	弥生土器 壺	18.7	(2.2)	-	にぶい黄褐色 + にぶい黄褐色・灰色	ラッパ状に開く曲の口縁部。口縁部は外傾する面を成す。内面横方向ハケ。外面頸部にかけて縦方向ハケ。	
176	K区	ST2008	弥生土器 壺	-	(2.6)	-	にぶい褐色 + にぶい褐色・オリーブ褐色	複合口縁部。口縁部は欠損する。内外面ともハケ。器底圧痕が見える。	
177	K区	ST2008	弥生土器 壺	-	(4.7)	-	にぶい褐色 + にぶい黄褐色	頸部に多重の無指沈線。2条の扁平日炎帯が走る。	
178	K区	ST2008	弥生土器 壺	-	(6.4)	-	灰黄褐色 + +	口縁部・底部は欠損。内面頸部は複合微面器。ナデ。器底圧痕が見える。外面ナデ・ミダキ。僅かにタタキ。	
179	K区	ST2008	弥生土器 壺	12.6	(2.27)	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	口縁部はくの字状に内傾し、肩部は丸く仕上げる。内面ハケ・ナデ。外面タタキ・ハケ。胴径 25.5cm	
180	K区	ST2008	弥生土器 甕	12.5	16.0	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 灰オリーブ色	口縁部は短く上方に広がる。内面口縁部はハケにより稜を成す。外面口縁部はタタキ。器底圧痕。胴部はタタキ。胴径 14.0cm	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
181	K区	ST2008	弥生土器 甕	156	236	14	灰黄色 にぶい黄褐色 灰褐色	胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。内面ナデ、外面タタキ。内外面とも指痕圧痕が残る。底部に径1.0～1.2cm、深さ1.0cmの不貫通の穿孔あり。胴径186cm	
182	K区	ST2008	弥生土器 甕	-	(211)	-	暗灰黄色 褐色 黄灰色	底部は丸底状、内面ナデ・ハケ、外面胴部上位はタタキ。下位はハケ・タタキ。	
183	K区	ST2008	弥生土器 甕	153	292	25	明赤褐色 褐色 。	底部は小さな平底状、口縁部はくの字状に外反する。内面ハケ・ナデ、外面タタキの後部部分にハケ。	
184	K区	ST2008	弥生土器 甕	162	259	34	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黒色	底部は小さな平底状、内面ハケ・ナデ、指痕圧痕が残る。外面タタキ。	
185	K区	ST2008	弥生土器 甕	208	(178)	-	にぶい黄褐色 。	胴部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し、肩部は中央部が僅かに凹凸平坦な面を成す。内面ハケ・ナデ、指痕圧痕が残る。外面口縁部ハケ、胴部タタキ、胴径240cm	
186	B区	ST2008	弥生土器 甕	133	(35)	-	灰白色 浅黄色 黄灰色	口縁部はナデにより内傾する面を成す。内面幅広い卑位のハケ、外面ナデ。	
187	K区	ST2008	弥生土器 甕	166	(80)	-	にぶい黄褐色 。	口縁部は上方に突り断面三角形状を呈し、直下に粘土帯が広がる。内面口縁部はハケにより胴部の後が明瞭。外面タタキ、指痕圧痕が残る。	
188	K区	ST2008	弥生土器 甕	165	(80)	-	にぶい黄褐色 浅黄色 浅黄褐色	口縁部はくの字状に外反し、肩部は平坦な面を成す。内面ナデ、外面タタキ。	
189	K区	ST2008	弥生土器 甕	132	(52)	-	にぶい黄色 にぶい黄褐色 灰褐色	口縁部はくの字状に外反する。肩部は平坦面を呈し、僅かに2条の凹線状の盛りが広がる。内外面ともハケ。	
190	K区	ST2008	土師器 甕	122	(70)	-	浅黄褐色 。	口縁部はやや内傾し、肩部は上方に延びる。一部棒状工具により凹状になる。内面ナデ、外面ハケ・ナデ。	
191	K区	ST2008	弥生土器 甕か甕	-	(53)	134	褐色 。	平底状の底部部、内面積方向のナデ、外面ハケ。摩滅著しい。	
192	K区	ST2008	弥生土器 甕か甕	-	(40)	47	にぶい黄褐色 灰黄褐色 黒色	密か甕の底部。平底状を呈す。内面ナデ、指痕圧痕が残る。外面タタキ。	
193	K区	ST2008	弥生土器 甕か	-	(23)	51	にぶい赤褐色 にぶい黄褐色 。	外面底部は凹状を呈し、縁線状の圧痕が残る。内外面ともナデ。	
194	K区	ST2008	弥生土器 甕	-	(45)	-	褐色 にぶい黄褐色 灰褐色	丸底状の底部に植物の種実が圧着する。内面ハケ、指痕圧痕、外面ハケ・ナデ。	
195	K区	ST2008	弥生土器 甕か甕	-	(35)	34	にぶい黄褐色 。	底部は小さな平底状、内外面ともナデ。	
196	B区	ST2008 (P2)	弥生土器 甕か	-	(49)	46	にぶい黄褐色 浅黄褐色 灰褐色	底部は小さな平底状。内面ハケ、底部に指痕圧痕が残る。外面タタキの後部幅広い卑位のハケ。	
197	K区	ST2008	土師器 甕	320	(89)	-	にぶい褐色 。	口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。内面積・斜方向のケズリ、外面ハケ。	6c 後
198	K区	ST2008	弥生土器 鉢	132	40	-	明赤褐色 褐色・暗灰黄色 灰褐色	丸底状の底部、内面ハケ、外面指痕圧痕が残る。	
199	K区	ST2008	弥生土器 鉢	124	44	-	褐色 。	底部は丸底状、内面ハケ、外面タタキ、指痕圧痕が残る。	
200	K区	ST2008 (SK2)	弥生土器 鉢	123	45	59	褐色 。	口縁部は積方向のナデにより内傾する面を成す。内面幅広い卑位のハケ、底部はナデ、外面タタキ・ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
201	K区	ST2008 (SK2)	弥生土器 鉢	126	42	-	にぶい黄褐色 褐色 暗灰黄色	底部は丸底状。口縁部は外上方に開き、口縁部内面はナデにより縁線状になる。内面ハケ、外面タタキ、唇圧痕が残る。	
202	K区	ST2008 (SK1)	弥生土器 鉢	123	5.0	-	褐色 * *	底部は丸底状。外面口縁部に部分的に粘土帯を貼付し、僅かに肥厚する。内面細かき単位ハケ、外面タタキの後丁寧なナデ。	
203	K区	ST2008	弥生土器 鉢	142	(41)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色	口縁部は上方に延びる。内面ハケ、外面ナデと唇圧痕が残る。	
204	B区	ST2008	弥生土器 鉢	134	(35)	-	褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色・灰色	口縁部は内傾する平坦面状を呈し、内側に僅かに肥厚する。内面ハケ、外面ナデ。	
205	B区	ST2008	弥生土器 鉢	146	(50)	-	褐色 * 褐色・黄灰色	外面口縁部は横方向のナデにより凹状になる。内面ハケ、外面ナデ、唇圧痕が残る。	
206	K区	ST2008	弥生土器 鉢	148	(49)	-	にぶい褐色 褐色 にぶい黄褐色	口縁部はナデにより凹状を呈す。内面粗い単位ハケ、外面ナデ、唇圧痕が残る。	
207	B区	ST2008	弥生土器 鉢	124	7.3	40	黄灰色 浅黄褐色 黄灰色	底部は小さな平底状。内面ハケ、底部はナデ、外面タタキ、口縁部ナデ、粘土線の接合部に亀裂。	
208	K区	ST2008	弥生土器 鉢	145	8.3	-	褐色 * *	底部は丸底状。口縁部は強いナデにより外側に僅かに肥厚する。内面ハケ、外面タタキをナデナデ。	
209	K区	ST2008	弥生土器 鉢	155	8.8	28	褐色 * 明黄褐色	底部は僅かに突出する。内面ハケ・ナデ、外面タタキ・ナデ。	
210	K区	ST2008	弥生土器 鉢	156	6.6	44	浅黄色 * -	底部は僅かに突出する。口縁部は僅かに凹状を呈する面を成す。内面ハケ、外面タタキ。	
211	K区	ST2008 (SK2)	弥生土器 鉢	189	6.6	-	褐色 明赤褐色 暗灰黄色	底部は丸底状。口縁部はナデにより凹状になる。内面細かき単位ハケ、外面タタキ、唇圧痕が残る。外面縁部はナデ。	
212	K区	ST2008	弥生土器 鉢	192	(49)	-	褐色 浅黄褐色・灰黄色黄 灰色	口縁部は上方にへきび、底部は水平面をなす。内部に赤色顔料が塗布される。内面ハケ、口縁部は横方向のナデ、外面タタキ・ナデ。	
213	K区	ST2008 (SK2)	弥生土器 鉢	178	9.0	-	にぶい黄褐色 * *	底部は丸底状。口縁部は強いナデにより外方に僅かに肥厚する。内面ハケ、外面タタキ。	
214	B区	ST2008	弥生土器 鉢	200	9.2	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	底部は丸底状。口縁部はやや外反し、底部は尖り気味に仕上げる。内面口縁部は横方向ハケ、上位はナデ、中位以下はヘラミダキ、外面上段タタキ、下段ハケの後ナデ。	
215	K区	ST2008	弥生土器 鉢	132	10.4	32	明赤褐色 褐色 暗灰色	底部は小さな平底状。口縁部は上方に伸び、底部は水平な平坦面をなす。内面ハケ、外面ナデ・ハケ。	
216	K区	ST2008	弥生土器 鉢	192	(64)	-	にぶい褐色 オリーブ黒色 暗灰黄色・にぶい褐色	口縁部は縦やかに外反し、丸く締める。内面ハケ、外面タタキ・ハケ、唇厚い。	
217	B区	ST2008	ミニチュア 土器	75	(1.7)	-	にぶい黄褐色 * *	手づくね成形。内外面ともナデ、唇圧痕が残る。	
218	K区	ST2008	土師器 鉢	120	(5.7)	-	浅黄色 にぶい黄色 *	底部から口縁部は縦やかに外上方に延び、底部は丸く収める。内面ハケ、口縁部横方向のナデ、外面ハケ・ナデ。	
219	K区	ST2008	土師器 鉢	122	(2.2)	-	明黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	口縁部は直線状に外上方に開き、底部は平坦面を成す。内面ハケ、外面唇圧痕が残る。	
220	K区	ST2008	弥生土器 高杯	-	(2.2)	140	褐色 * 灰オリーブ色	断面は内外面ともハケが施される。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
221	K区	ST2008	土製品 支脚	-	65	-	にぶい黄褐色 + 灰色	指部を有するとみられる。表面ナデ、指環圧痕が残る。指部及び脚部を欠損する。	
222	K区	ST2008	土製品 支脚	-	78	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	受け部・脚部欠損。中央、表面指環圧痕が残る。	
223	K区	ST2008	須忠器 杯蓋	125	(20)	-	灰色 + +	天井部欠損。内外面とも回転ナデ。内面口縁部に明確な段を有する。	
224	K区	ST2008	須忠器 杯	142	(28)	-	にぶい褐色 + 黄灰色	口縁下部が肥厚する。内外面とも回転ナデ。	
225	K区	ST2008	須忠器 敷か壺	-	(10)	-	灰色 黄灰色 灰褐色	底部分。内面ナデ、目跡状を呈する小窪またはその残った痕跡が残る。	
226	K区	ST2008	石製品 砥石	全長 7.0	全幅 6.2	全厚 1.7	-	扁平な面の1面を砥石として使用する。重量 1040g	
227	K区	ST2008	石製品 叩石	全長 9.2	全幅 6.3	全厚 5.6	-	自然石の先端及び縁部に使用痕が残る。重量 300g	
228	A区	ST2009	弥生土器 壺	144	(6.3)	-	明黄褐色 浅黄褐色 灰色	頸部から口縁部は連続的に外反する。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ。外面口縁部はナデ。頸部は縦方向のハケか。	
229	A区	ST2009	弥生土器 壺	146	(3.2)	-	褐色 + にぶい黄褐色	口縁部は外反し肥厚する。肩部に四線文を施し、その所の高穴工具の痕を用いた割目を配する。外面ハケの後ナデ。	
230	A区	ST2009	弥生土器 壺	-	(3.5)	-	褐色 + 灰色	口縁部は外反し、肩部で柱土胎付により肥厚する。垂直な肩部には円形の刺突文(竹管か)が施される。	
231	A区	ST2009	弥生土器 壺	-	(4.3)	8.8	褐色 + +	底部は平底状。底部端は明確で、頸部は直線的に外上方に延びる。内面ケズリの後ナデ、外面ハケ。	
232	A区	ST2009 (P5)	弥生土器 壺	-	(4.5)	5.8	明赤褐色 + にぶい褐色	底部は平底状。底部端は明確で、頸部は直線的に外上方に延びる。内面ナデ、外面ハケ。	
233	A区	ST2009	弥生土器 壺	164	(3.4) (6.9)	-	褐色 + 明黄褐色	口縁部は外反し、肩部は外側する面を成す。内面頸部へナデ、深いナデにより移転が土壁に動く。口縁部横方向のハケ。外面ハケ、口縁部は横方向のナデ。	
234	A区	ST2009	弥生土器 壺	236	(3.2)	-	褐色 + +	頸部の屈曲から口縁部は短く立ち上がる。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内外面ともナデ、外面に偏付着。	
235	A区	ST2009	弥生土器 壺	156	(6.4)	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。肩部は外側する面を成し、ナデにより凹状となる。筆刺著しく調整は不明瞭。	
236	A区	ST2009	弥生土器 壺	146	(5.0)	-	褐色 + 灰色	頸部から口縁部は連続的に外反する。肩部は広い面を成し、外側に肥厚する。口縁部部に1本以上の四線文を施す。内面ナデ、外面縦方向のハケ。	
237	A区	ST2009	弥生土器 壺	106	(4.5)	-	灰色・にぶい黄褐色 浅黄褐色・にぶい黄褐色 黄灰色	口縁部はやや内湾し、短く外上方に開く。内面ナデ、外面頸部以下はタタキの後ナデ、頸部・口縁部ナデ。	
238	A区	ST2009	弥生土器 壺	-	(8.7)	4.8	にぶい褐色 + 灰黄褐色	底部は狭く低い凸面状を呈す。内面ナデ、外面タタキ。	
239	A区	ST2009	弥生土器 壺	-	(8.5)	6.3	暗灰色 にぶい褐色 浅黄褐色	底部は平底状。内面ナデ。外面縦方向のハケ、丁寧ナデ。	
240	A区	ST2009	弥生土器 壺	-	(2.8)	4.9	オリーブ灰色 にぶい褐色 オリーブ灰色	平底状の底部分。内面ナデ、外面ハケ・ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
241	A区	ST209	弥生土器 甕	-	(91)	68	灰白色 褐色 灰黄色	平底状の底部片、内面ハケ・ナデ、外面タタキの後ハケ・ナデ。	
242	A区	ST209	弥生土器 甕か	-	(16)	36	浅黄褐色 にぶい黄褐色 灰灰色	底部は小さな平底状、底部は突出する。	
243	A区	ST209	弥生土器 甕	-	(59)	63	褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部は平底状、胴部と底部の境は円状になる。内面強い単位ハケ、底部は指頭圧痕が残る。外面タタキの後ハケ・ナデ。	
244	A区	ST209	弥生土器 甕	-	(55)	48	黄灰色 浅黄褐色 灰黄色	底部は平底状、外面縦方向の丁寧ナデ。	
245	A区	ST209	弥生土器 甕	-	(53)	64	浅黄褐色 にぶい黄褐色 褐色	平底状の底部片、内面ハケ・ナデ、外面縦方向ハケ。	
246	A区	ST209	弥生土器 甕	-	(38)	54	褐色 * 灰色	底部は平底状、内面は強いナデにより砂粒が散く。外面縦方向のナデ。	
247	A区	ST209	弥生土器 甕	-	(46)	58	浅黄褐色 にぶい黄褐色 灰黄色	平底状の底部片、内面ナデ、外面縦方向ハケ。	
248	A区	ST209	弥生土器 甕か	-	(20)	89	黄灰色 にぶい黄褐色 灰黄色	底部は平底状、底部と胴部の境は縦方向ナデ。	
249	A区	ST209	弥生土器 甕	-	(53)	32	灰黄褐色 灰黄色 灰黄褐色	底部は小さな平底状、胴部は直線的に外上方に延びる。内面ナデ、外面ハケ。	
250	A区	ST209	弥生土器 高杯	-	(69)	-	明白褐色 * 灰黄色	中学の脚部内、杯部の外面底部に凹孔状の圧痕が認められる。内外面ともナデ。	
251	A区	ST209	土製品 支脚	-	66	-	にぶい黄褐色 褐色	器面に凹凸面と貫孔がみられる。粘土による成形も不十分な箇所が残る。	
252	A区	ST209	土製品 支脚	-	93	-	褐色 浅黄褐色 灰黄色	支脚を欠く、脚部は直線的に小さく開く。内面ナデ、貫孔が多い、外面タタキ。	
253	A区	ST209	土製品 土鉢	全長 30	全幅 29	全厚 29	- 褐色 -	管状土鉢、球形を呈し、中央に直径0.3cmの円孔を焼成前に穿つ、外面はナデにより滑らかに仕上げられる。	
254	A区	ST209	土製品 土鉢	全長 36	全幅 19	全厚 16	- 浅黄褐色 -	管状土鉢、やや内厚の円筒形で、直径0.4cmの円孔を穿つ。	
255	A区	ST209	鉄製品 鉄鏝	全長 68	全幅 28	全厚 18	-	方眼形で、刃部は丸味を持つ、間は両開小、基部の一部に木質状の物質が付着する。重量190g	
256	A区	ST209	土師器 皿	-	(12)	146	灰黄褐色 褐色 灰黄褐色	底部は平底で、肩部で湾曲し、外上方に延びる。内面ナデ・ヘラミガキ、ロタロ目を残す。外面ヘラミガキ。	
257	A区	ST209	土師器 皿	100	16	70	浅黄褐色 * 黄灰色	小型の皿、口縁肩部は丸く収める。底部切り磨しは回転ヘラ切り。	
258	A区	ST209	土師器 杯	-	(28)	-	褐色 * 黄褐色	口縁部は緩やかに外反する。肩部は内側にやや肥厚する。筋土は茶色に染色する。内面ナデの後端文風のミガキ、外面密な横方向のミガキ。	
259	A区	ST209	土師器 椀	-	(13)	72	にぶい黄褐色 * *	底部から体部は緩やかに内外面とも回転ナデ、見込みはロタロ目が顕著。底部切り磨しは回転ヘラ切りで、板状の圧痕が認められる。	
260	A区	ST209	土師器 椀	124	(36)	-	にぶい黄色 褐色 にぶい黄色	体部から口縁部は緩やかに外上方に延びる。肩部は欠く収める。内外面ともナデ、外面一部染み残る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
351	A区	ST2009	土師器 碗	-	(24)	76	橙色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	断面逆台形の高台が付く。外面高台同様に残存。内外面とも回転ナデ。	
352	A区	ST2009	土師器 鉢小	178	(24)	-	橙色 * *	体部から口縁部は直線的に斜上方に延びる。肩部は内側にやや肥厚する。内面に施文を施す。胎土は赤色に発色する。内外面とも回転ナデ。	
353	A区	ST2009	須恵器 壺	93	(20)	-	灰色 * *	口縁部は外反する。肩部は上下に拡張し、外側する面を成す。内外面とも回転ナデ。	9c
354	A区	ST2009	須恵器 壺小瓶	90	(4.3)	-	灰色 黄灰色 灰黄褐色	口縁部は外上方に直線的に開き、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
355	A区	ST2009	黒色土師器 碗	168	73	80	オリーブ黒色 褐色 *	内面に黒色施文が施される。底部に断面三角形の高台がハの字状に付く。体部は丸味を帯びる。胎土中に白ないし透明の細粒を含む。内外面ともヘラミダシ。	
356	A区	土器集中	弥生土師器 壺	170	(4.2)	-	褐色 にぶい黄褐色 褐色	口縁部は外反し肩部は面を成す。口縁部はナデによる円縁状の浅い残跡。内面口縁部縁部方向のナデ、口縁部ハテ、外面口縁部縁部方向のナデ、口縁部縁部方向のナデ。	
357	A区	土器集中	弥生土師器 壺	136	(5.1)	-	褐色 にぶい黄褐色 褐色	胴部から頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。肩部は僅かに面を成し、外側にやや肥厚する。内面口縁部ハテ、胴部ハテの後ナデ、外面タタキ、残存。	
358	A区	土器集中	弥生土師器 壺	143	(6.3)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 褐色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。肩部は面を成し、僅かに肥厚する。内面ハテ、外面胴部タタキ、口縁部タタキの後ハテ、一部に残存。	
359	A区	土器集中	弥生土師器 甕小鉢	133	20.3	4.1	にぶい褐色 浅黄褐色 にぶい黄褐色	底部は縦い凸状。胴部は縦断面内円形状。頸部はくの字状で、口縁部は外反する。肩部は凹面を成し、外側へやや肥厚。内面ハテの後ナデ、底部ナデ、外面タタキ。	
370	A区	土器集中	弥生土師器 壺	170	23.1	-	にぶい黄褐色 *	底部は丸底状で、胴部最大径は上段。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。肩部は内側に面を成す。内面ハテの後ナデ、外面タタキ。	
371	A区	土器集中	弥生土師器 壺	145	(11.2) (10.6)	-	褐色 * *	丸味を帯びた胴部。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反。肩部は凹面を成し、外側にやや肥厚。内面ハテの後ナデ、口縁部ハテ、外面タタキの後ハテ、残存。	
372	A区	土器集中	弥生土師器 壺	-	(4.2)	3.1	にぶい黄色・オリーブ黒色 * オリーブ黒色	底部は縦い凸面を成す。内面ナデ、胴圧痕が残る。外面タタキの後ハテ。	
373	A区	土器集中	弥生土師器 壺	-	(8.7)	1.5	浅黄褐色 * *	底部は狭く不明瞭で、縦い凸面状を呈す。胴部は下段と中段の接合部で狭く絞れる。内面縦いハテの後ナデ、外面タタキ、底部格子状のタタキ。	
374	A区	土器集中	弥生土師器 壺	-	(13.1)	3.0	褐色 にぶい褐色 褐色・灰色	底部はやや突出し、縦い凸面を成す。内面ナデ、外面タタキの後ハテ、胴部下段を中心に残存。	
375	A区	土器集中	弥生土師器 壺	-	(8.0)	-	黄灰色 にぶい黄褐色 黒色	丸底状の底部。内面ナデ、外面タタキの後ハテ。	
376	A区	土器集中	弥生土師器 壺	-	(10.5)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 褐色	底部はやや入り丸味の丸底状。内面縦いハテの後、底部はナデ面。外面胴部中段は横方向のタタキ。底部は斜格子状を呈す。	
377	A区	土器集中	弥生土師器 瓶	-	(12.9)	2.0	にぶい黄褐色 * 黄灰色	底部は尖底状で、直径0.8cmの円孔を穿つ。内面縦いハテ、底部はナデ、外面タタキ。	
378	A区	土器集中	弥生土師器 鉢	98	(3.5)	-	にぶい褐色 浅黄褐色 にぶい褐色	胎状を呈す。口縁部は丸く収める。内外面ともナデ、外面に浅い凹凸面が残る。	
379	A区	土器集中	弥生土師器 鉢	10.8	(2.6)	-	褐色 * 浅黄褐色	浅い胎状を呈す。内外面ともナデ、外面に凹凸面が残る。	
380	A区	土器集中	弥生土師器 鉢	-	(4.1)	3.5	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 *	底部はやや丸味を帯びた低い平皿面状を呈す。内面ハテの後ナデ、外面ナデ。器面に小・中規模の微孔が多くみられる。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
281	A区	土器集中	弥生土器鉢	-	(60)	50	浅黄褐色 + 黄灰色	底部は緩い凸面状を呈し、粘土貼付底風に突出する。内面細かいハケ、外面タタキ。	
282	A区	土器集中	弥生土器鉢	-	(41)	42	にぶい黄褐色 + 黄灰色	底部は狭い平皿面状で、肩部は丸味を帯びる。内外面ともナデ、器面に中程度の器孔が見られる。	
283	A区	土器集中	弥生土器鉢	150	68	40	褐色 + 灰オリーブ色	底部は狭い平底状で、粘土貼付底風にやや突出する。体部から口縁部は丸味を持ち外上方に開き、肩部は丸く収める。内面細かいハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
284	A区	土器集中	弥生土器鉢	156	73	64	にぶい黄褐色 + +	底部は粘土貼付底風にやや突出し、緩い凸面を成す。体部から口縁部は緩やかに外上方に延び、肩部は面を成す。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
285	A区	土器集中	弥生土器鉢	135	59	37	褐色 + +	底部はやや突出した平底状を呈す。緩やかに外反し、口縁部は丸味を持った面を成す。内面ハケの後丁寧ナデ、外面タタキ、口縁部横方向のナデ、一部に厚付着。	
286	A区	土器集中	弥生土器鉢	164	53	50	浅黄褐色 + 彫灰色	底部は平底状で、肩部は不明瞭。口縁部は外上方に延び、肩部は面を成す。内面へうナデ、口縁部横方向のナデ、外面タタキの後ナデ、浅い凹凸面を残す、厚付着。	
287	A区	土器集中	弥生土器鉢	164	60	74	浅黄褐色 + 明ネオリーブ灰色	底部は緩い凸面を成す。側部から口縁部は丸味を帯びて外上方に延びる。肩部は面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
288	A区	土器集中	弥生土器鉢	174	59	-	褐色 にぶい褐色 黄灰色	底部は緩く窪んだ面を成す。底部端は不明瞭で、体部から口縁部は緩やかに外上方に延びる。	
289	A区	土器集中	弥生土器鉢	168	68	-	褐色 + +	丸底状の底部。体部から口縁部は緩く外反し、肩部は丸く収める。内外面ともナデ。	
290	A区	土器集中	弥生土器鉢	180	80	47	にぶい褐色 浅黄褐色 彫灰色	底部はやや突出し、緩い凸状を呈す。体部から口縁部は緩やかに外反し、肩部は中央の窪んだ面を成す。内面ハケ、外面ナデ、外面底部にはタタキ目が残る。	
291	A区	土器集中	弥生土器鉢	190	(55)	-	浅黄褐色 + +	体部は丸味を帯び、口縁部は外上方に延びる。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面細かいハケ、口縁部細かいハケ、外面タタキ。	
292	A区	土器集中	弥生土器高杯	202	127	146	にぶい褐色 + 浅黄褐色	杯部は低位で屈曲する。器部に中位3方向に直径1.1cmの円形透かしを配す。内面杯部縦方向のミザキ、脚部ハケ、断面ナデ、外面杯部ミザキ、脚部縦方向のハケ。	
293	A区	土器集中	製塩土器か	100	(73)	-	にぶい黄褐色 + 灰色	深い椀型ないし鉢型。体部から口縁部は直立し、肩部は概ね丸く収める。内面ケズリ・ナデ、外面縦方向の匙状工具によるナデ。	
294	A区	土器集中	土製品支脚	上部径94	87	105	- 浅黄褐色	中央で、断面形状は台形状を呈す。受け部は鋭い凹凸のある凹面で、緩く傾斜する。底部は広い凸面を成し、押圧痕を残す。器面はナデを残すが、鋭い凹凸を留める。	
295	A区	土器集中	土製品支脚	上部径95	96	90	- にぶい黄褐色、にぶい褐色	中央の円筒形状で上下端で開く、受け部は傾斜し浅い凹面を成す。底部は凹面を成し、中心と器端が突出し隆起する。器面に押圧痕、比較的整えられる。	
296	A区	土器集中	土製品支脚	上部径83	95	68	- 浅黄色 +	中央の円筒形状で、受け部は緩く傾斜した凹面を呈す。底部は平皿面で、肩部は丸味を帯びる。器面にナデ・押圧痕が見られ、一部に厚付着。	
297	A区	土器集中	土製品支脚	-	83	-	- 灰黄色 暗灰黄色	支部は粘土を巻き込み棒状に仕上げる。器面に押圧痕が残る。	
298	A区	土器集中	土製品支脚	-	114	-	灰白色 -	縦状に開く支部を持つ。背部の突起は扁平と見られる。脚部を欠く。器面はナデ、押圧痕が残る。	
299	A区	土器集中	土製品支脚	-	55	92	浅黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	脚部の裾は幅広く広がる。肩部は押し潰した面を成す。内外面ともナデ、外面に浅い押圧痕と匙状工具による押圧痕が残る。	
300	A区	土器集中	土製品支脚	-	49	103	にぶい黄褐色 + 淡褐色	脚部は縦軸で長く背部で長く、傾きを持って広がる。内外面ともナデ、内面に縦り目、外面に押圧痕が残る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
321	A区	ST2010	弥生土器 甕	140	(80)	-	浅黄褐色 + 黄灰色	頸部の屈曲は緩やかで、口縁部は外反する。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面・口縁部ハケ、胴部ナデ、外面タタキの後ナデ。	
322	A区	ST2010	弥生土器 甕	114	(95)	-	棕色 灰黄褐色 棕色	胴部から頸部は緩やかなくの字状に屈曲し、口縁部は短く直線的に立ち上がる。肩部は面を成す。内面・口縁部ハケ、胴部ナデ、外面タタキ、底ナデ。	
323	A区	ST2010	弥生土器 甕	137	(84)	-	棕色 + 灰オリーブ色	頸部の屈曲は緩やかで、口縁部は緩く外反する。肩部は部分的に面を成し、外側へやや肥厚。内面ハケ・ナデ、外面タタキ、口縁部に底ナデ。	
324	A区	ST2010	弥生土器 甕	136	169	20	にぶい黄褐色 + 灰色	胴部は球形で、最大径は中位。口縁部は外反する。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。	
325	A区	ST2010	弥生土器 甕	110	205	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色・褐灰色 浅黄褐色	底部は丸底状。口縁部は外方に開く。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、口縁部ハケ、外面タタキの後ハケ、胴部中位以下に底ナデ。	
326	A区	ST2010	弥生土器 甕	156	(200)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	頸部はくの字状で口縁部は外反する。肩部は面を成し、外側へやや肥厚。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ、口縁部ナデ、胴部中位と口縁部の一部に底ナデ。	
327	A区	ST2010	弥生土器 甕	157	(103) (116)	30	浅黄褐色 + 黄灰色	底部は狭く不明瞭で、緩い凸面を成す。内面ナデ・ハケ、外面タタキ。	
328	A区	ST2010	弥生土器 甕	164	254	40	にぶい黄褐色 + 黄灰色	底部は狭い凸面状。頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ、内底部、外面胴部中位以下に底ナデ。	
329	A区	ST2010	弥生土器 甕	147	272	26	灰白色 にぶい黄褐色 灰色	底部は緩い凸面状。頸部の屈曲はやや緩く、口縁部は面を成し、外側へ肥厚。内面ナデ、口縁部はハケ。外面タタキ、胴部中位に底ナデ。	
330	A区	ST2010	弥生土器 甕	178	(117)	-	暗灰色 にぶい黄褐色 +	頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面・斜方向のハケ、外面タタキ、口縁部の一部に底ナデ。	
331	A区	ST2010	弥生土器 甕	147	(119)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 +	口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、外側に僅かに肥厚する。内面ハケ、外面タタキの後ナデ、口縁部はナデによりタタキを消す。	
332	A区	ST2010	弥生土器 甕	-	(50)	34	黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	底部は狭く緩い凸面状で、肩部は丸味を持つ。内面ナデ、外面タタキ。	
333	A区	ST2010	弥生土器 甕	-	(42)	-	にぶい黄褐色・黄灰色 黄灰色・にぶい黄褐色 黄灰色	丸底状の底部。ナデや押圧によりやや実り気味になる。頸部は緩やかに外方に展びる。内面ナデ、外面タタキ。	
334	A区	ST2010	弥生土器 甕	-	(106)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	底部は丸底状。内面側ハケの後ナデ、外面タタキ、胴部中位に底ナデ。	
335	A区	ST2010	弥生土器 鉢	104	58	24	にぶい黄褐色 + 黄褐色 + 黄褐色 + 黄褐色 + 黄褐色	底部は狭い平底状で、肩部は丸味を持つ。内面ナデ、外面ハケ、口縁部横方向のナデ。	
336	A区	ST2010	弥生土器 鉢	168	70	50	にぶい黄褐色 +	口縁部は丸味を持った面を成し、外側に僅かに肥厚する。内面ハケ、外面・口縁部タタキの後ナデ、体部タタキの後ハケ、底部タタキ。	
337	A区	ST2010	弥生土器 鉢	210	78	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黄褐色	丸底状の底部。口縁部は緩やかに外反する。肩部は丸味を持った面を成す。内面ハケ、外面タタキの後ハケ、口縁部ナデ、内外面の一部に底ナデ。	
338	A区	ST2010	弥生土器 鉢	124	(59)	-	にぶい黄褐色 + 明黄褐色	体部から口縁部は丸味を持ち、外上方に展びる。肩部は丸く収める。内面肥厚工具によるナデ、外面タタキ。	
339	A区	ST2010	弥生土器 鉢	183	78	54	にぶい黄褐色 + 浅黄褐色	底部は緩い凸面を成し、肩部は不明瞭。体部は丸味を帯び、口縁部は丸味を持った面を成す。内面ハケ、口縁部横方向のナデ、外面タタキ、底部は肥厚工具によるナデ。	
340	A区	ST2010	弥生土器 鉢	210	77	80	灰黄褐色 にぶい黄褐色 + 黄褐色	底部は緩い凸面を成し、肩部は不明瞭。体部は丸味を持ち、外上方に展びる。肩部は丸く収める。内面側ハケ、外面タタキ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
341	A区	ST2010	弥生土器 鉢	134	(54)	-	橙色 + 明褐色	底部から口縁部は内湾して上方に伸びる。口縁部は仕上げに至らず、尖り気味に丸く収める。内面ハケの後ナデ又はミギキ、外面ナデ、小・中穴孔が多く見られる。	
342	A区	ST2010	弥生土器 鉢	160	(51)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	底部から口縁部は緩やかに外上方に伸び、肩部は平坦面状を成す。内外面ともナデ、器面に小穴孔が残る。	
343	A区	ST2010	弥生土器 鉢	195	71	46	浅黄褐色 + 黄灰色	底部は突出し、緩い凸面を成す。底部は緩やかに外方に開き、口縁部は上方に伸びる。肩部は面を成す。内面ハケ、外面ナデ。	
344	A区	ST2010	弥生土器 鉢	120	68	36	にぶい橙色 + 灰オリーブ色	底部は突出し、緩い凸面を成す。底部から口縁部は外上方に伸び、肩部は緩く丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
345	A区	ST2010	弥生土器 鉢	164	(39)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 灰色	肩部は緩く屈曲し、口縁部は短く反折する。肩部は丸味を持つ。内面ナデ、外面ナデ、口縁部直下に押痕が確認する。	
346	A区	ST2010	弥生土器 鉢	200	121	-	橙色 浅黄褐色 にぶい黄褐色	尖り気味の丸底状。底部から口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収めるが中心が凹む。内外面ともナデ、外面に小穴孔と凹凸面を残す。外面底部にヘラナデ跡、爪痕。	
347	A区	ST2010	弥生土器 鉢	63	36	16	黄灰色 浅黄褐色 オリーブ黒色	小型の鉢。底部は狭小で緩い凸面を成し、肩部は不明瞭。口縁部は丸く収める。内面ナデ、掘削工具の圧痕が残る。外面タタキの後ハケ、凹凸面を留める。	
348	A区	ST2010 (P4)	弥生土器 鉢	85	42	-	浅黄褐色 + +	丸底状の底部から、口縁部は直線的に外上方に伸びる。肩部は面を成し、部分的に外側にやや肥厚する。内面ハケ、外面ナデ、器面に凹凸面が残る。	
349	A区	ST2010	弥生土器 鉢	120	66	30	橙色 + 暗灰色	底部はやや突出した緩い凸面を呈す。底部は丸味を帯び、口縁部は丸く収める。内面ナデ、一部に掘削工具によるナデ、外面ナデ、小穴孔、凹凸面を留める。	
350	A区	ST2010	弥生土器 鉢	96	62	32	にぶい黄褐色 + 灰白色	底部は粘土粘付底風に突出し、胴部から口縁部は緩やかに外上方に伸び、肩部は丸く収める。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
351	A区	ST2010	弥生土器 鉢	90	(79)	-	にぶい黄褐色 + 灰色	底部は筒合部で僅かに括れ、口縁部は直線的に外上方に伸びる。肩部は丸味を帯び内面、又は丸く収める。内面ナデ、ケズリ又は強いナデ、外面ナデ、ミギキ。	
352	A区	ST2010	弥生土器 鉢	-	(29)	-	浅黄褐色 + 灰色	小型の鉢又はミニチュア土器小。底部は緩い凸面で、肩部は不明瞭。内面ナデ、外面タタキ。	
353	A区	ST2010	弥生土器 鉢	-	(38)	-	明褐色 橙色 +	丸底の底部片。内面ハケ・ナデ、外面タタキ。	
354	A区	ST2010	弥生土器 鉢	-	(39)	35	にぶい黄褐色 + +	底部は狭い平底状で、肩部は不明瞭。胴部下方は丸味を帯びる。内面ミギキ、外面ナデ、器面の一部に小穴孔が見られる。	
355	A区	ST2010	弥生土器 鉢	-	(40)	38	黄灰色 黄褐色 +	底部は狭い平底で、粘土粘付底風にやや突出する。底部はやや直線的に外上方に伸びる。内面ナデ、外面タタキの後ナデ、器面に狭孔が見られる。	
356	A区	ST2010	弥生土器 鉢	-	(58)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい褐色	底部は尖り気味の丸底状。内外面ともナデ、緩い屈曲を留める。	
357	A区	ST2010	弥生土器 鉢	-	(27)	36	橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	底部は狭く緩い凸面を成し、粘土粘付底風にやや突出する。内面ハケ、外面ナデ、器面に小穴孔が多く見られる。	
358	A区	ST2010	弥生土器 鉢	-	(60)	32	暗黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	底部は狭く緩い凸面を成し、粘土粘付底でやや突出する。底部は直線的に外上方に伸びる。内面ハケ、外面タタキ。	
359	A区	ST2010	弥生土器 台付鉢	102	(52)	-	浅黄褐色・灰色 + +	台部は欠損する。底部は丸味を帯び、口縁部は丸く収める。内面籠状工具によるナデ、外面タタキの後ナデ。	
360	A区	ST2010	弥生土器 台付鉢	-	(32)	41	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	台部上縁は緩やかに外反し、肩部は広く広がる。肩部は丸く丸く収める。内面鉢部ハケ、台部ナデ、外面台部押圧痕が残る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
361	A区	ST2010	弥生土器 高杯	238	(65) (9.1)	146	にぶい黄褐色 + 黄灰色	杯部は接合部で屈曲。内外面ともミギキ。脚部上段は中央で直径08cmの円孔を穿つ。内面ハケ、外面ミギキ。調整後、脚部中央に直径025cmの円孔を穿つ。外側から穿つ。一部に亀裂の痕跡有り。	
362	A区	ST2010	弥生土器 高杯	233	(128)	-	浅黄褐色 + 灰色	杯部は下段で屈曲。脚部は下段で屈曲し、外方に開く。内面ハケの後ミギキ。杯底部は丁字ナデ。脚部はナデ。絞り目を残す。外面ハケの後ミギキ。口縁部・脚部はナデ。	
363	A区	ST2010	弥生土器 高杯	210	(58)	-	にぶい褐色 + 浅黄褐色	杯部は接合部で屈曲し、口縁部は外反する。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面口縁部はハケ、杯部はヘラミギキ。外面杯部はナデ又はハケ、口縁部ナデ。	
364	A区	ST2010	弥生土器 高杯	-	(4.0)	-	浅黄褐色 + 黄褐色	杯部は直線的に底が接合部で屈曲し、口縁部は外反する。内面外部の下段はミギキ。上段はハケ。外面ハケ。一部ミギキ。	
365	A区	ST2010	ミニチュア 土器	56	(6.3)	-	にぶい褐色 + 浅黄褐色	肩部の屈曲は緩く、口縁部は短く外反する。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。器面に小穴孔が見られる。	
366	A区	ST2010	ミニチュア 土器	70	(3.4)	-	浅黄褐色 + 黄灰色	壘型。肩部上段は直線的に上方に見びる。肩部の屈曲は急で、口縁部は短く外方に開く。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。内面に接合部、外面に浅い凹凸面を残す。	
367	A区	ST2010	土製品 土脚	上縁径 9.1	8.2	7.9	にぶい黄褐色 + 黄灰色	中央の凸筒形で、受け部は緩く傾斜した凹面を呈す。底部は緩い凸筒で、植物繊維又は糞と見られる土痕を残す。	
368	A区	ST2010	土製品 土脚	-	3.8	-	にぶい黄褐色 + にぶい褐色	脚部は直線的に広がり、肩部は丸く収める。外面刺突。土痕を残す。	
369	A区	ST2010	土製品 土鉢	全長 5.2	全幅 1.6	全厚 1.5	にぶい黄褐色 -	管状土鉢。直径0.4cmの円孔を穿つ。	
370	A区	ST2010	石製品 石包丁	全長 9.2	全幅 3.3	全厚 1.1	-	刃部は弧状を成し、一部で欠損する。背面は緩く湾曲する。細線に打ち欠いた痕跡はあるが、後りは見られない。重量 38.0g	
371	A区	ST2010 (P4)	石製品 石包丁	全長 8.0	全幅 5.2	全厚 1.8	-	刃部は緩やかに弧を描き、背面は緩く直線的で、肩部は丁字に丸く伏せ上げる。細線の一方は大きく欠ける。重量 59.0g	
372	A区	ST2010	石製品 砥石	全長 13.8	全幅 11.1	全厚 5.0	-	表裏面と側面1面の3面を使用する。縁部にの一部に小さな潤滑又は磨打痕。表面に乾熱が認められる。作業台として使用したものか。重量 108.0g	
373	A区	ST2010	石製品 叩石	全長 8.7	全幅 7.5	全厚 4.3	-	扁平な不整形円形状を呈す。縁部と表面の潤滑が著しい。特に表面の中央が大きく窪む。重量 376.0g	
374	A区	ST2010	石製品 叩石	全長 10.0	全幅 8.7	全厚 2.6	-	平面形は不整形円形状。断面形は長楕円形状を呈す。縁部と表裏面の中央付近に小穴孔で浅い打痕。大部分に赤色顔料が付着する。部分的に乾熱が見られる。重量 362.0g	
375	A区	ST2010	土師器 姜	140	(76)	-	褐色 + 黒褐色	胴部から肩部は緩く屈曲し、口縁部は短く外反する。内面口縁部はナデ。胴部は緩く横方向のハケ、外面ナデ。	
376	A区	ST2010	土師器 姜	-	(30)	-	浅黄褐色 + 黄灰色	口縁部は内湾凹味に外方に開く。外側へ肥厚して上方に見びる。肩部は丸く収める。内面口縁部はナデ。胴部は横方向のハケ。外面ハケの後ナデ。	
377	A区	ST2010	須恵器 杯身	113	3.6	4.8	灰色 + +	底部は緩い凹面。口縁部は直線的で、おそりは短く内湾。内外面とも回転ナデ。外面下部下にケズリ。底部には匙状工具による土痕とナデ。受け部径 13.6cm	
378	A区	ST2010	黒色土器 椀	-	(2.4)	7.6	黄灰色 浅黄褐色 +	底部は緩い凸面を成し、薄く直立しないやや開き。断面長方形の高台が付く。胴部は丸味を帯びる。内面に黒色処理。内面ミギキ。外面ナデ。	
379	A区	ST2010	緑釉陶器 不明	-	(2.1)	-	浅黄褐色 + 灰白色	印刷花文。匙状工具によると見られる沈澱で、文様を描す。	
380	D区	ST2012	弥生土器 壺	180	(2.1)	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	口縁部は直線的に外上方に見び、肩部は面を成し外側へ肥厚する。内外面ともナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
381	D区	ST2012	弥生土器 壺	134	(24)	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	口縁部は直線的に外上方に及び、外方に開く。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ。外面ハケ。口縁部は横方向のナデ。	
382	D区	ST2012	弥生土器 壺	166	(1.3)	-	浅黄色 にぶい黄褐色 黄灰色	口縁部は外反し大きく開く。肩部は面を成し、内外に肥厚する。口縁部部に縞條状文を施す。内外面ともナデ。	
383	D区	ST2012	弥生土器 壺	160	(7.2)	-	浅黄色 浅黄褐色 黄灰色	肩部は緩く屈曲し、口縁部は外反する。内面ハケの後ナデ。口縁部は横方向のナデ。外面口縁部はハケの後口縁部部に横方向のナデ、胴部タタキの後ハケ。	
384	D区	ST2012	弥生土器 壺	160	(3.5)	-	にぶい黄褐色 + 浅黄褐色	口縁部は外反し大きく開く。肩部は面を成し、外側へ肥厚する。内面ハケ。口縁部は横方向のナデ。外面ハケ。口縁部又は口縁部上位の広い範囲に横方向のナデ。	
385	D区	ST2012	弥生土器 壺	168	(2.1)	-	灰黄褐色 + 暗灰黄色	口縁部は外反し、肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケの後ナデ。口縁部は横方向のナデが顕著。外面口縁部は横方向のハケ。口縁部は横方向のナデ。	
386	D区	ST2012	弥生土器 壺	164	(2.4)	-	浅黄褐色 + +	口縁部は外反し、肩部は面を成す。口縁部部に竹割刺突文、内外面ともナデ。	
387	D区	ST2012	弥生土器 壺	162	(3.1)	-	にぶい赤褐色 + 暗灰黄色	口縁部は外反し、肩部は平断面を成す。口縁部部に竹割刺突文を施す。内面口縁部は横方向のナデ。口縁部ハケ。外面口縁部は横方向のナデ。口縁部ハケの後ナデ。	
388	D区	ST2012	弥生土器 壺	170	(4.9)	-	にぶい黄色 浅黄褐色 灰色	口縁部は直立し、後に外反し大きく開く。肩部は内凹の面を成す。内面ハケ。口縁部は横方向のナデ。外面口縁部は横方向のハケ。口縁部は横方向のナデ。	
389	D区	ST2012	弥生土器 壺	214	(1.8)	-	褐色 黄褐色 +	口縁部は外反して大きく開く。肩部は面を成し、外側に肥厚する。口縁部部に縞條状文が施される。内面ナデ。外面ハケ。	
390	D区	ST2012	弥生土器 壺	208	(8.1)	-	浅黄褐色 にぶい褐色 黄灰色	胴部上位から肩部の屈曲はやや急で、口縁部は緩く、後に大きく開く。肩部は丸味を持った面を成す。内面ナデ。口縁部は横方向のナデの後ナデ。外面粗いハケ。	
391	D区	ST2012	弥生土器 壺	102	(4.7)	-	褐色 浅黄褐色 +	丸味を持つ胴部から肩部で屈曲し、口縁部は直線的に上方に及び、肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面口縁部ハケ。胴部はハケの後ナデ。外面タタキ。	
392	D区	ST2012	弥生土器 壺	124	(7.8)	-	褐色 + 黄灰色	肩部は屈曲し、口縁部は直線的に外上方に及び、肩部は丸味を持った面を成し、外側へやや肥厚。内面ナデ。胴部はヘラナデ。外面ナデ・タタキ。口縁部は横方向のナデ。	
393	D区	ST2012	弥生土器 壺	135	(7.1)	-	にぶい褐色 + 灰色	口縁部は直線的に外上方に及び、肩部は面を成し、外側へ肥厚。内面胴部ナデ。口縁部は粗いハケ。肩部ナデ。外面口縁部は横方向の粗いハケ。肩部は横方向のナデ。	
394	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(6.5)	-	褐色 + 黒褐色	口縁部は緩く外反し、屈曲の後僅かに内傾する。内面口縁部は横方向のナデが顕著。胴部はハケの後ナデ。外面口縁部はナデ。胴部はタタキの後ナデ。	
395	D区	ST2012	弥生土器 壺	180	(3.6)	-	にぶい黄褐色 + +	口縁部は緩く内湾して上方に及び、肩部は面を成す。内外面とも粗いハケの後横方向のナデ。	
396	D区	ST2012	弥生土器 壺	160	(4.5)	-	褐色 にぶい黄褐色 褐色	口縁部は外反し、後合部で屈曲した後内上方に緩く内湾して立ち上がる。肩部は丸味を持った面、又は太く丸く収める。内外面ともハケの後横方向のナデ。	
397	D区	ST2012	弥生土器 壺	174	(8.2)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	口縁部はまず外上方に屈曲の後、直線的に上方に及び、内面ナデ。胴部は横方向のナデ。外面口縁部は横方向のナデ。口縁部は横方向のハケ。肩部は横方向のナデ。	
398	D区	ST2012	弥生土器 壺	170	(9.1)	-	褐色 + 黄灰色	口縁部は外上方に及び、後合部で屈曲し上方に及び、肩部は面を成す。内外面ともナデ。内面口縁部はハケの後ナデ。外面口縁部は黄灰工具によるナデ。	
399	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(6.0)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 黄灰色	胴部で屈曲し、口縁部は先ず直線的に上方に及び、再び屈折する。内面横方向、外面縦方向のヘラナデ。	
400	D区	ST2012	弥生土器 壺	155	(2.9)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 灰色	口縁部は内湾し上方に及び、肩部は広い面を成す。内外面ともナデ。外面横方向のナデが顕著。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
401	D区	ST2012	弥生土器 壺	216	(26)	-	明黄褐色 + 浅黄褐色	口縁部は縦く外反し、肩部は太く丸く、部分的に外側へやや肥厚する。内面ナデ、口縁部横方向のハケの後ナデ、外面ナデ。	
402	D区	ST2012	弥生土器 壺	135	(106)	-	浅黄褐色 褐色 灰色	胴部上位は内湾し、肩部で屈曲、口縁部は縦く外反する。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ、外面タタキ、口縁部はナデ。	
403	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(93)	-	にぶい黄褐色 + 褐色	胴部上位、他は欠失する。内面ナデ、粘土帯の集合痕を残す。外面タタキの後ハケ。一部に赤色顔料が付着する。	
404	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(45)	48	にぶい黄褐色 にぶい褐色 灰黄褐色	底部はやや狭い平底で浅い凹面状になる。底部端は縁を成す。内外面ともナデ。	
405	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(40)	90	黄灰色 褐色 暗灰黄色	底部は縦い凸面状を呈し、底部端は明瞭。胴部は直線的に外上方に延びる。内外面ともハケ、外面底部タタキ。	
406	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(73)	60	褐色 暗灰色 黄灰色	底部は突出し、縦い凹面状を呈す。底部端は縦い曲線を描く。胴部は外上方に延びる。	
407	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(25)	-	褐色 + +	口縁部片、外面口縁部部下に階段状帯1条が張り、上下に押広がり残る。内面ナデ。	
408	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(37)	-	にぶい黄色 にぶい黄褐色 +	胴部片上位に4条以上を1単位とする階段状隆帯がみられる。	
409	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(32)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	肩部から胴部片、外面頸部に2条の階段状隆帯が高る。内面ナデ。	
410	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(19)	-	暗灰黄色 にぶい褐色 黄灰色	胴部片、挽状工具による4条以上の沈線が高る。内面ナデ、外面ハケ。	
411	D区	ST2012	弥生土器 壺	110	(82)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 淡黄色	胴部最大径は中位。胴部で屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。肩部は凹面状を呈し、外側にやや肥厚。内面ナデ、口縁部は縦いハケの後ナデ、外面タタキ。	
412	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(110)	31	浅黄褐色 +	底部は粘土貼付底風で縦い凸面状を成す小さな平底で、肩部は不明瞭。胴部最大径は上位で、肩部の屈曲はやや縦い。内面ナデ、外面タタキ。	
413	D区	ST2012	弥生土器 壺	148	(42)	-	褐色 + 暗灰黄色	胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。肩部は面を成し部分的に外側へやや肥厚。内面口縁部はハケ、胴部はナデ、外面タタキの後ナデ。	
414	D区	ST2012	弥生土器 壺	150	(18)	-	浅黄褐色 + 淡黄色	口縁部は外反して外上方に延び、肩部は面を成す。内面口縁部ナデ、口縁部横方向のナデ、竹管刺突文を施す。外面ハケの後ナデ、口縁部は横方向のナデ。	
415	D区	ST2012	弥生土器 壺	190	(30)	-	浅黄色 にぶい黄褐色 淡黄色	口縁部は短く外上方に延びる。内面ナデ、口縁部は横方向のナデ、下部に竹管刺突文、外面横方向のナデの後口縁部部に横方向のナデ、一部に赤色顔料が付着する。	
416	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(32)	56	灰黄色 浅黄色 灰色	底部は高台状で中央が大きく窪む。内面ナデ、外面タタキ。	
417	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(58)	26	灰色 にぶい黄褐色 にぶい褐色	底部は小さな平底状、胴部は丸味を持って外上方に延びる。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
418	D区	ST2012	弥生土器 壺	-	(68)	32	明黄褐色 にぶい褐色 褐色	底部は縦い凸面を成し、肩部は不明瞭。胴部は丸味を持って上方に延びる。内面ナデ、外面タタキ、外面底部に窪付着。	
419	D区	ST2012	弥生土器 壺	217	(86)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 黄灰色	胴部はくの字状で、口縁部は短く外反する。内面ハケの後ナデ、口縁部ハケ、口縁部一部に窪付着。外面タタキ、口縁部タタキの後ナデ。	
420	D区	ST2012	弥生土器 壺	123	(269)	-	浅黄色 浅黄褐色 灰白色	胴部断面は凹凹形式で、中位ややナデで最大径。胴部はくの字状で、口縁部は縦く外反、内面口縁部ハケナデ、胴部ハケの後ナデ、外面タタキ、底部は後にヘラナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法器 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
421	D区	ST2012	弥生土器 甕	149	27.7	-	浅黄褐色 褐色	底部は丸底状、胴部断面は楕円形状で中位で最大径、頸部はくの字状で、口縁部は短く外反する。内面口縁部ハケ、胴部ハケの後ナデ、外面タタキ、胴部下位に窪み付着。	
422	D区	ST2012	弥生土器 甕	-	(17.9)	-	褐色 褐色 黄灰色	底部は丸底状、胴部は丸味を持ち、最大径は中位か、内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
423	D区	ST2012	弥生土器 甕	140	37.6	-	灰白色 浅黄褐色 灰色	底部は丸底状で、胴部最大径はやや上位。胴部の屈曲の後、口縁部は短く外上方に延びる。内面ハケ、外面タタキの後ハケ。	
424	D区	ST2012	弥生土器 甕	-	(31.8)	4.1	にぶい黄褐色 褐色 黒褐色	底部はやや突出し、小さな平底状を呈す。胴部最大径はやや上位、内面ナデ、押止痕、外面タタキの後ナデ。	
425	D区	ST2012	弥生土器 鉢	8.6	(2.4)	-	にぶい褐色 + オリーブ黒色	体部は緩やかに湾曲する。口縁部は上方又は僅かに内傾気味に延び、肩部は細く収める。内外面ともナデ。	
426	D区	ST2012	弥生土器 鉢	9.1	2.8	5.0	褐色 + +	底部は緩い凸面状を呈す。体部は緩やかに丸味を持ち、口縁部は上方に延びる。肩部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ。	
427	D区	ST2012	弥生土器 鉢	9.8	(3.0)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 +	体部は丸味を持ち、口縁部は丸く収める。内外面ともナデ。	
428	D区	ST2012	弥生土器 鉢	11.1	(3.0)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	体部は外上方に開き、口縁部で緩く屈曲し上方に延びる。肩部は丸く収める。内面ナデ、口縁部に浅い凹凸面が残る。外面ナデ、浅い凹凸面が残る。	
429	D区	ST2012	弥生土器 鉢	10.8	3.8	3.4	褐色 + 褐色 黄灰色	底部はやや突出した中央の窪んだ面を成す。体部から口縁部は緩やかに外上方に開き、肩部は中央の窪んだ面を成す。内外面ともナデ。	
430	D区	ST2012	弥生土器 鉢	9.8	3.9	4.7	褐色 + 黄灰色	底部は押し潰した平底状で、肩部は不明瞭。口縁部は凹面を成す。	
431	D区	ST2012	弥生土器 鉢	8.9	4.9	-	浅黄褐色 +	底部は尖り気味の丸底、内面中央から放射状のナデ、外面ナデ、底部に押止痕が残る。器面に小規模の裂孔が見られる。	
432	D区	ST2012	弥生土器 鉢	9.0	(4.8)	-	にぶい褐色 明褐色 にぶい黄褐色	底部は緩い凸状、底部端で屈曲する。口縁部は凹面状、又は丸く収める。内外面ともナデ。内面口縁部はハケ、外面底部に押止痕、器面に小・中規模の裂孔が残る。	
433	D区	ST2012	弥生土器 鉢	8.8	5.0	3.3	褐色 + 明黄褐色	底部は小さな平底状。口縁部は中央の窪んだ面を成し、外側にやや肥厚する。内面ナデ、底部に放射状の押止痕、外面タタキの後ナデ、小さい中規模の裂孔が顕著。	
434	D区	ST2012	弥生土器 鉢	10.2	5.3	1.6	灰黄褐色 褐色 黄灰色	底部は緩やかな凸状。体部下位で緩く屈曲する。内面ハケの後ナデ、口縁部ハケ、体部に製状工具によるナデの痕跡、外面ナデ、押止痕と小裂孔が残る、一部に窪み付着。	
435	D区	ST2012	弥生土器 鉢	13.0	(4.7)	-	明黄褐色 褐色・暗黄褐色 にぶい黄褐色	体部から口縁部は緩く湾曲し、口縁部は丸く収める。内面窪いハケ、底部から口縁部は離脱状に施される。外面ナデ。	
436	D区	ST2012	弥生土器 鉢	11.1	(4.9)	-	褐色 + 灰色	底部は押し潰した様な丸底状、体部から口縁部は緩く内湾し、外上方に延びる。肩部は凹面状を呈す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ、器面に小・中規模の裂孔が見られる。	
437	D区	ST2012	弥生土器 鉢	12.1	7.0	4.0	浅黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部は胎土貯付痕風に緩い凸面を成す。体部から口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。内面ナデ、外面タタキの後ナデ、器面に小規模の裂孔が見られる。	
438	D区	ST2012	弥生土器 鉢	12.8	(4.5)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 灰色	体部から口縁部は丸味を持ち、肩部は水平な面を成す。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。器面に小規模の裂孔が見られる。	
439	D区	ST2012	弥生土器 鉢	13.6	5.1	3.1	にぶい褐色 + 浅黄褐色	底部は緩い凹状、体部から口縁部は緩やかに外反する。内面ナデ、浅い凹凸面を残し、底部に窪み付着。外面ナデ、小規模、砂粒の抜け痕が残る、一部に窪み付着。	
440	D区	ST2012	弥生土器 鉢	12.9	(5.0)	-	褐色 明褐色 褐色	丸底状の底部。体部は丸味を帯び、口縁部は凹面状を呈し、外側にやや肥厚する。内面製状工具によるナデ、外面ナデ、器面に小裂孔が多い。大窪みに窪み付着。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
441	D区	ST2012	弥生土器 鉢	138	(66)	-	灰黄褐色 +	底部から口縁部は緩やかに外上方に並び、肩部は上方に並び、口縁部は細く丸く収める。内面放射状のナデ。外面ナデ。口縁部は横方向のナデ。内凹凸面。	
442	D区	ST2012	弥生土器 鉢	149	62	30	にぶい橙色 灰黄褐色 暗灰色	底部は狭い平底状で、肩部は不明瞭。内面ナデの後ミガキ、赤色顔料付着。外面口縁部はナデ。底部にはハケが卓縁、底部中央には窪み帯状に付着。	
443	D区	ST2012	弥生土器 鉢	153	69	-	褐色 にぶい黄褐色 +	底部は丸底状。内面へラミガキ種の丁寧なナデ、底部に腐付着。外面ナデ、底部に農具による圧痕、砂粒の抜け痕、小さな貫孔を残す。	
444	D区	ST2012	弥生土器 鉢	170	66	30	明黄褐色 にぶい黄褐色 暗灰色	底部は緩い凹状。体部は丸味を持つ。内面ナデ、底部に押し痕、体部にケズリ・ハケ。外面ナデ、底部に農具による圧痕、規則に強いナデ。	
445	D区	ST2012	弥生土器 鉢	185	82	46	浅黄褐色 黄褐色	底部は緩い凸面状を成し、肩部は不明瞭。体部は丸味を持ち、口縁部は上方に並び、肩部は平坦面を呈す。内外面ともナデ。外面砂粒の抜け痕や小規模の貫孔が残る。	
446	D区	ST2012	弥生土器 鉢	194	86	64	褐色 +	底部はやや突出した緩い凹面を成す。体部から口縁部は細く外上方に並び、肩部は緩く丸く収める。内外面ともナデ。器面に小規模の貫孔が多く見られる。	
447	D区	ST2012	弥生土器 鉢	193	(27)	-	褐色 にぶい褐色 灰オリーブ色	口縁部は面を成し、一部は中央部が窪む。内面ミガキ種のナデ。外面横方向のナデ。	
448	D区	ST2012	弥生土器 鉢	-	(43)	58	にぶい褐色 にぶい黄褐色 灰色	底部は粘土懸付痕風に突出し、緩い凹面を成す。体部は内湾して外上方に立ち上がる。内面ナデ、放射状に農具の端部による圧痕が残り、外面螺旋状のクマキ。	
449	D区	ST2012	弥生土器 鉢	-	(63)	20	明赤褐色 褐色 暗灰黄色	底部はやや突出した緩い凸面を成し、肩部は不明瞭。体部は丸味を持つ。内面ナデ、外面タタキ。	
450	D区	ST2012	弥生土器 鉢	101	(79)	-	褐色 +	肩部は緩く屈曲し、湾状の口縁部は直線的に外上方に並び、口縁部は細く丸く収める。内面口縁部ハケ、側部ナデ。外面タタキの後ナデ。小・中規模の貫孔、内凹凸面。	
451	D区	ST2012	小型丸底土器 鉢	94	(43)	-	にぶい黄褐色 +	体部は丸味を帯び、弱い屈曲の口縁部は緩く外上方に並び、肩部は凹面を成す。内面ナデ、外面横方向のナデ。	
452	D区	ST2012	弥生土器 鉢	102	51	32	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部はやや突出し、緩い凸状。体部は丸味を帯び、口縁部は弱い屈曲の後、湾状に短く外上方に並び、内外面ともへラナデ。器面に小貫孔。外面口縁部の一部に腐付着。	
453	D区	ST2012	弥生土器 鉢	100	69	-	浅黄褐色 明黄褐色 黄灰色	底部は丸味気味の丸底状。口縁部は僅かに屈曲し、短く外上方に開く。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ナデ、口縁部ハケ。外面タタキ。器面に貫孔。	
454	D区	ST2012	小型丸底土器 鉢	120	(59)	-	褐色 暗灰色 灰色	丸味を帯びた胴部で、開いた胴部で屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に開く。内面口縁部はハケの後ナデ。体部はナデ、中央より下に赤色顔料が付着。外面ハケ。	
455	D区	ST2012	弥生土器 鉢	170	(52)	-	褐色 +	丸味を帯びた胴部。口縁部下で屈曲し、口縁部は直線的に短く外上方に開く。肩部は細く尖り気味で、外側にやや肥厚。内面ナデ。口縁部横方向のナデ。外面タタキ。	
456	D区	ST2012	弥生土器 鉢	-	(42)	38	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	底部は緩い凸状。底部端は不明瞭で、体部は下位で外反する。内面底部から螺旋状にハケを施す。外面タタキの後ナデ。底部縁道に押し痕。器面に小・中規模の貫孔。	
457	D区	ST2012	弥生土器 鉢	-	(222)	83	浅黄褐色 +	底部は平底状。胴部上は内湾し、屈曲の後口縁部は外反すると見られる。内面ハケ、農具によるナデ。外面タタキ。	
458	D区	ST2012	弥生土器 瓶	172	100	47	明赤褐色 +	底部は突出し、緩い凸状。直径10cmの円孔を後成面に穿つ。内面緩かい平底のハケ。口縁部は横方向のナデ。外面タタキ。口縁部は横方向のナデ。	
459	D区	ST2012	弥生土器 高杯	224	(56)	-	にぶい黄褐色 +	杯部は接合部で器底の後、口縁部は外反する。肩部は面を成す。内面ナデ・ミガキ。外面ハケの後ナデ。	
460	D区	ST2012	弥生土器 高杯	200	(40)	-	明黄褐色 褐色 褐色・にぶい黄色	口縁部は接合部で器底の後、緩く外反して外上方に立ち上がる。肩部は丸味を持った面を成す。内面ナデ・ミガキ。外面ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
461	D区	ST2012	弥生土器 高杯	200	(37)	-	浅黄褐色 + 黄褐色 + 黄灰色	作部か、接合部で屈曲し、縁く外反する。肩部は丸く収め、一部は丸味を持った面を成す。内面ハケの後ナデ、口縁部横方向のハケ、外面ハケ、口縁部縦方向のハケ。	
462	D区	ST2012	弥生土器 高杯	-	(7.9)	-	橙色 + 黄褐色 + 黄灰色	肩部は中位で縁く屈曲し、肩部で広がる。内面作部ハケの後ミダケ、肩部はナデ又はハケで、上位にミダケの痕跡が残る。外面ハケ。	
463	D区	ST2012	弥生土器 高杯	-	(2.3)	108	黄褐色 + 灰色	肩部は直線的に縁く広がり、屈曲の後縁部は大きく開く。肩部は面を成し、上部に肥厚する。内面脚部はナデ、肩部はハケの後ナデ、外面ハケの後ナデ。	
464	D区	ST2012	土師器 高杯	-	(7.6)	176	茶褐色 + 橙色 + 黄灰色	肩部は下方に直線的に縁く広がり、肩部で内湾味に広がる。肩部に外側から直径10cmの円孔を穿つ。肩部は丸味を帯びた面を成す。内面ハケ、外面ナデ。	
465	D区	ST2012	弥生土器 器台	170	(25)	-	橙色 +	数型器台。接合部で屈曲し、口縁部は外反して外上方に広がる。肩部は丸く収める。内面口縁部及び外面体部に微凸状文、内外面ともナデ。	
466	D区	ST2012	弥生土器 器台	60	7.2	8.3	橙色 + 黄褐色	作部は浅い皿状、台部は肩部へ向かって縁く外反する。作部は内外面ともナデ、台部内面は横方向の笠状工具によるナデ、肩部は横方向のナデ、内外面に赤色が付着。	
467	D区	ST2012	土製品 器台	-	(1.9)	7.4	橙色 + 黄褐色	台部は外反の後縁部的に外上方に広がる。外面に断面角丸三角形状の装帯が流る。肩部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
468	D区	ST2012	ミニチュア 土器	4.8	1.3	3.8	浅黄褐色 + 黄灰色	浅い鉢状を呈す。縁い凸面状の底部から口縁部はやや上方に縁く、肩部は丸く収める。内外面ともナデ、押圧痕を残す。	
469	D区	ST2012	ミニチュア 土器	7.8	(2.6)	-	橙色 + 黄褐色	鉢形を呈す。体部上位で屈曲し、口縁部は縁く外上方に広がる。肩部は凹面を成す。内面ナデ、外面ハケ・ナデ。	
470	D区	ST2012	ミニチュア 土器	6.8	4.3	2.3	黄褐色 +	底部は縁い凸面状を呈す。体部から口縁部は縁く内湾して立ち上がる。肩部は縁く丸く収める。内面ナデ、外面ハケの後ナデ、口縁部部に押圧痕、底部にタキギが残る。	
471	D区	ST2012	ミニチュア 土器	3.6	(3.9)	-	黄褐色 + 黄灰色	変形を呈す。肩部は縁やかに屈曲し、口縁部は縁く外反する。内面ナデ、押圧痕及び縁り目が残る。外面ナデ・タキギ。	
472	D区	ST2012	ミニチュア 土器	4.2	(3.9)	-	黄褐色 + 黄褐色 + 黄灰色	変形を呈す。肩部は丸味を帯び、口縁部は上方に縁く広がる。肩部は縁く丸味に収める。内面ナデ、押圧痕が残る。外面タキギ・ナデ。	
473	D区	ST2012	土製品 支脚	-	7.9	10.5	黄褐色 + 黄褐色 + 黄灰色 + 黄褐色	脚部は外反し、部分的に大きく外上方に開く。内面ナデ、押圧痕が残る。外面輪状にタキギが施される。	
474	D区	ST2012	土製品 支脚	-	10.8	8.2	黄褐色 + 黄褐色	支脚は欠損する。脚部は縁く外反し、肩部は縁く丸く収める。内外面ともナデ、部分的に鉢状の工具圧痕が残る。	
475	D区	ST2012	土製品 支脚	-	9.0	-	黄褐色 + 黄褐色 + 黄褐色	支脚先端及び脚部下端に欠損。外面タキギ・ナデ。押圧痕を残す。	
476	D区	ST2012	土製品 支脚	-	7.0	-	黄褐色 + 黄褐色 + 黄褐色	支脚は直線的に縁く、先端で内側に縁く屈曲する。肩部は扁平で、先端は丸く収める。上面はナデ、下面及び外面は押圧痕を残す。	
477	D区	ST2012	土製品 支脚	-	5.0	-	黄褐色 + 黄褐色 + 黄褐色	柱状で上面に皿状の受け部が付く支脚の一部か。外面に押圧痕を残し、ナデを施す。肩部は縁く垂直方向に縁く、肩部で外方に広がる。底部は唇筒状に中位が窪む。	
478	D区	ST2012	土製品 支脚	-	13.0	-	黄褐色 + 黄褐色 + 黄褐色	反方に押ける角状の支脚を持つ支脚。片側の支脚と下手の多くを欠損する。上位に接合痕、下方にタキギが残る。支脚部の中央に直径0.8cmの円孔を焼成前に穿つ。	
479	D区	ST2012	石製品 石包丁か	全長 5.9	全幅 3.6	全厚 0.6	-	潤滑が著しく、縁片は鋭利。背部は弧状で刃部は直線状の。比重、重量 160g	
480	D区	ST2012	石製品 石包丁か	全長 6.3	全幅 4.0	全厚 1.0	-	河原石の一部を欠いた薄片を用い、背部は打製時のままで、刃部はやや弧を描く。両側縁は中位を縁く。泥岩、重量 270g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
481	B区	ST2013	弥生土器 壺	110	(62)	-	棕色 + 灰色	複合口縁部の口縁部、口縁部は僅かに内傾する。内面横方向のナデ、底部に痕が残る。外面ハケの後ナデ。	
482	B区	ST2013	弥生土器 甕	98	(41)	-	にぶい黄褐色 浅黄色 黄灰色	小型の甕、口縁部は短く外反し、肩部は丸く収める。内面口縁部は横方向のハケ、肩部以下はナデ、外面タタキ。	
483	B区	ST2013	弥生土器 甕	148	185	45	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	底部は小さな平底状。胴部最大径は上位で、口縁部は短く外反する。内外面とも口縁部横方向のナデ。内面肩部以下は丁寧な縦方向のナデ、外面はタタキ。	
484	B区	ST2013	弥生土器 甕か	-	(65)	-	にぶい黄褐色 浅黄色 灰黄色	丸底状の底部片、外面タタキ。	
485	B区	ST2013	弥生土器 甕	128	(52)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 +	内面口縁部ハケ、胴部ナデ。外面口縁部ナデ、胴部タタキ、口縁部の一部に保付着。	
486	B区	ST2013	弥生土器 甕	-	(52)	-	黄褐色 + 浅黄褐色	丸底状の底部片。外面胴部下部はタタキの後ハケ、底部はタタキ。	
487	B区	ST2013	小型丸底土器 鉢	88	(20)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄色 +	口縁部片か、僅かに内湾する。器壁が薄く、器底は丁寧なナデ、精緻な胎土。	
488	B区	ST2013	弥生土器 鉢	107	45	54	淡黄色 + 灰色	底部は平底状。器壁が薄く、地成良好。内面丁寧なハケ。外面タタキの後ナデ。	
489	B区	ST2013	弥生土器 鉢	116	(54)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	底部は丸底状とみられる。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
490	B区	ST2013	土師器 鉢	134	(51)	-	灰白色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	外面縦方向のハケ。裏手に著しく濁りは不明瞭。	
491	B区	ST2013	弥生土器 鉢	140	(40)	-	棕色 にぶい黄褐色 灰色	内面は赤色顔料が塗布される。内面丁寧なナデ。外面はタタキの後ナデ、一部に保付着。	
492	B区	ST2013	弥生土器 鉢	-	(53)	30	にぶい黄褐色 にぶい黄色 黄灰色	内面は斜方向のハケ。外面タタキ。底部以外はタタキを丁寧にナデ出す。器壁薄く、外面底部に壺底状の凸痕。	
493	B区	ST2013	弥生土器 鉢	145	67	37	明黄褐色 棕色 浅黄褐色	底部は小さな平底状。内面築状工具によるナデ、外面タタキ・ナデ。外面底部に壺底状の凸痕が残る。	
494	B区	ST2013	弥生土器 高杯	125	97	184	にぶい黄褐色 + 灰色	杯部は碗状で、胴部は大きく広がる。胴部のミカ所に凹孔が認められる。杯部は内外面ともハケの後丁寧なナデ。胴部内面ハケ。外面はハケの後放射状のヘラミガキ。	
495	B区	ST2013	土師器 杯	-	(95)	115	棕色 + オリーブ黒色	内面ハケ。外面胴部は縦方向のハケの後横方向のミコキが施される。	
496	B区	ST2013 (P1)	ミニチュア 土器	59	67	16	棕色 明黄褐色 -	手づくね成形。内外面ともナデ。底部に痕が残る。	
497	B区	ST2013	須恵器 甕	-	(30)	-	にぶい黄褐色 褐色 黄灰色	内外面ともナデ。褐色の自然釉がかかる。	
498	C区	ST2015	弥生土器 壺	-	(41)	-	棕色 にぶい棕色 +	胴部上位の沈殿帯。5条以上の雲條沈殿で、断面形はV字または混合形状を呈す。内外面ともナデ。	
499	C区	ST2015	土師器 甕	176	(148) (197)	-	にぶい黄褐色 + +	胴部は直立し、口縁部は外反する。内面ケズリの後ナデ。口縁部は横方向のナデ。外面口縁部は横方向のナデ、胴部は縦・横方向の縦いハケ、底部縦いハケ。	
500	C区	ST2015	土師器 甕	163	(105)	-	棕色 + +	口縁部は短く外反し、肩部は丸く収める。内面ケズリの後ナデ。外面口縁部ナデ、胴部ハケ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
501	C区	ST2015	弥生土器 甕	157	(28)	-	橙色 + 黒褐色	口縁部は外反する。肩部は内・外にやや肥厚し、面を成す。内側には深い段が形成される。内外面ともナデ。	
502	C区	ST2015	土師器 甕	159	(45)	-	にぶい・橙色 にぶい・黄褐色 にぶい・橙色	肩部はくの字状に屈曲し、口縁部は強く外反する。肩部は丸く収める。内面口縁部ナデ、外部はケズリの後ナデ。外面口縁部ナデ、肩部はハケ。	
503	C区	ST2015	土師器 甕	-	(122)	-	橙色 + にぶい・黄褐色	底部は丸底状。胴部へ向かって連続的に内湾する。内面ケズリの後ナデ、外面ハケ。	
504	C区	ST2015	弥生土器 壺	-	(43)	66	にぶい・黄褐色 + 黒褐色	底部は平底状。胴部は直線的に立ち上がる。内面ケズリ、外面ナデ。一部ミナキ。	
505	H区	ST2015	土師器 甕	-	(119)	119	にぶい・橙色 + 褐色 + 浅黄褐色	底部端から胴部は緩く内湾して立ち上がる。底部端は面を成す。内面ケズリの後、底部には丁寧なナデが入るが、多くは折り返を残す。外面ハケ。	
506	C区	ST2015	弥生土器 小鉢	96	53	54	褐色 + +	底部は平底状。体部から口縁部は緩く内湾して立ち上がる。肩部の仕上げは修り、丸味を持つ部分もある。内面ナデ、外面ナデ、押圧痕を多く残す。	
507	C区	ST2015	弥生土器 高杯	-	(100)	107	褐色 + +	杯部は内湾して延び、口縁部は欠損する。胴部は緩く外反し、肩部は丸く収める。内面ナデ、外面杯部はナデ、肩部はハケ。	
508	H区	ST2015	須恵器 壺	139	42	-	灰色 + オリーブ灰色	天井部から口縁部は内湾し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面天井部にはロクロ目を残す。外面天井部にケズリ。	
509	C区	ST2015	須恵器 杯身	104	(30)	-	灰色 + +	口縁部は緩く内湾し、受け部は外上方へ延びる。かよりは長く、やや内傾する。内外面とも回転ナデ、外面底部ロクロ目顕著。器面に小規模な凹・突起、受け部径 131cm	
510	C区	ST2015	須恵器 杯身	135	(27)	-	灰色 + +	受け部は外上方へ開き、肩部は丸く収める。かよりは高く上方に延び、やや内傾する。受け部径 162cm	
511	C区	ST2015	須恵器 杯身	134	36	68	灰黄色 灰白色 灰黄色	口縁部は直線的。受け部は外方に強く延びる。内面回転ナデ。見込みロクロ目顕著。外面ナデ。底部はケズリの後ナデが、器面に小・中規模の凹・突起、受け部径 161cm	
512	C区	ST2015	須恵器 杯	135	38	80	灰白色 + +	底部端から体部は内湾し、口縁部は直線的に立ち上がる。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。	
513	C区	ST2015	須恵器 杯	-	(30)	100	灰白色 + +	底部の端寄りに断面不整形の高台が付く。高台部は細い・凸面を成し、内側にやや肥厚する。体部は腰折りに屈曲。内外面ともナデ。器面に小規模な凹・突起が存在。	
514	C区	ST2015	須恵器 高杯小	148	(28)	-	黄灰色 灰白色 黄灰色	器壁厚い。杯体部から口縁部は緩く内湾して立ち上がる。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
515	C区	ST2015	須恵器 高杯小台付機	110	(34)	-	灰色 灰白色 灰色	体部は内湾して延び、口縁部は緩く外反する。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。胎土中に大規模の突起が見られる。	
516	C区	ST2015	須恵器 甕	140	(72)	-	灰色 + 灰黄褐色	胴部は内湾し、肩部から口縁部は外反する。口縁部は外側に肥厚し、丸く収める。内面口縁部ナデ。胴部は同心円文。外面口縁部はナデ。肩部はタタキの痕ナデ。	
517	C区	ST2015	須恵器 壺	-	(36)	-	暗灰黄色 黄褐色 + 浅黄色	外面に6巻1半位の螺旋状文を2単位以上施す。区画として浅い凹線1巻を有する。内面に自然釉がかかる。胎土中に小規模な凹・突起が見られる。	
518	C区	ST2015	須恵器 提籠	64	(185)	-	灰色 灰黄色 灰褐色	口縁部は基部から斜上方に直線的に延び、胴部の正面は扁平な凸面状で、側面に溝状の肥子。内面回転ナデ。外面口縁部回転ナデ。基部はナデ。胴部は回転ナデ。	
519	C区	ST2015	石製品 砥石	全長 60 全幅 57	全厚 1.0	-	-	砂岩製。母岩の自然面を両側面に残す。両主面に打割時の剥離面を滑らかに削す程度の使用痕が認められる。端面は直線的な縁を指向往して打ち欠く。重量 300g	
520	C区	ST2015	石材 剥片	全長 62 全幅 45	全厚 1.0	-	-	母材を打割し、自然面を残す。縁部の一部に摩滅痕と見られる痕跡が残る。重量 330g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
521	D区	ST2016	弥生土器 壺	146	(28)	-	にぶい黄褐色 灰白色	口縁部は外反、粘土帯の接合で肩部で2度の段部が形成される。肩部は広い面を成し、外側へ肥厚する。口縁部部に蓋状工具による斜位の跡が施される。内外面ともナズ。	
522	D区	ST2016	弥生土器 壺	214	(84)	-	暗灰黄色 灰色 黄灰色	胴部から頸部は緩く屈曲し、口縁部は外方に上へ及び、肩部は面を成す。内面ナズ。内面タタキの後ハケ、口縁部は縦方向のハケ。	
523	D区	ST2016	弥生土器 壺	-	(86)	-	明黄褐色 オリーブ黒色	胴部は上位で緩く内湾する。内面ナズ。胴部に爪痕を残す。外面ハケ。	
524	D区	ST2016	弥生土器 壺	-	(39)	62	浅黄棕色 にぶい黄褐色 灰色	底部は平底状で、中央部は深い凹状になる。胴部下位は外反する。内面ナズ・ハケ、外面ヘラナズ。	
525	D区	ST2016	弥生土器 甕	94	(79)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 黒褐色	胴部最大径は中位。中位から直線的に頸部の屈曲に及び、口縁部部は丸く収め、外側にやや肥厚する。内面口縁部横方向のナズ、外面口縁部以下は縦方向のヘラナズ。	
526	D区	ST2016	弥生土器 甕	170	(37)	-	にぶい黄褐色 + 灰色	胴部の屈曲は急で、口縁部は短く外反する。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内外面とも横溝方向のナズ、内面ヘラナズの痕跡、外面口縁部部に押し痕が残る。	
527	D区	ST2016	弥生土器 甕	120	(119)	-	浅黄棕色 にぶい黄褐色 細灰色	胴部上位から頸部で緩く屈曲した後、口縁部は短く直線的に外上方に及び、肩部は丸く収め、外側に丸く収める。内面口縁部ハケ、胴部ナズ、外面タタキ、一部に爪付き。	
528	D区	ST2016	弥生土器 鉢	150	(50)	-	褐色 にぶい黄褐色 褐色・灰色	体部から口縁部は緩く外反する。内外面ともナズ。口縁部横方向のナズ、体部に浅い凹点面が残る。	
529	D区	ST2016	弥生土器 高杯	-	(23)	-	にぶい黄色 褐色 灰黄色	口縁部は外上方に及び、後に短く外反する。肩部は緩く丸く収める。内外面ともナズ。	
530	D区	ST2016	弥生土器 高杯	259	(83)	-	褐色 + にぶい黄褐色・灰色	杯部は緩く反し、屈曲の後上方に及び、肩部は平坦面状。内面口縁部横方向のナズ、体部ハケの後ヘラミダキ、外面口縁部横方向のナズ、体部にハツ又はハケ。	
531	D区	ST2016	須恵器 蓋	180	(15)	-	灰色 灰色・オリーブ灰色 黄灰色	口縁部はやや緩い屈曲の後、短く下方に向かう。肩部は丸く収める。内外面ともナズ、外面の一部に爪が付きする。	
532	D区	ST2016	須恵器 高杯	-	(29)	-	灰色 +	口縁部は外上方に及び、受け部は短く外方に張り出し、かえりは断面三角形状を成し、内上方に及び、受け部径 17.2cm	
533	D区	ST2016	石製品 石斧	全長 43	全幅 1.3	全厚 0.7	-	扁平片刃石斧。片側の縁部以外は欠損。刃部の後に溝が彫り残る。刃部部に斜・横方向の擦痕や破れ痕、欠損後にも、小型の斧として使用したか、頁岩製、重量 70g	
534	D区	ST2016	石材 割片か	全長 6.8	全幅 1.1	全厚 0.6	-	一片に打痕が連続して加えられたものか、重量 40g	
535	D区	ST2017	弥生土器 壺	282	(24)	-	褐色 にぶい褐色 +	口縁部は外反する。肩部は面を成し、上下に肥厚する。口縁部部に3条の波線状のナズが高まる。内外面ともナズ。	
536	D区	ST2017	弥生土器 壺	246	(26)	-	黒褐色 明褐色 にぶい褐色	口縁部は内傾する面を成し、上下に肥厚する。口縁部部に3条の凹線、1単位3個以上の竹管状突、内面横方向のナズ・ヘラミダキ、外面ナズ、内外面の一部に爪付き。	
537	D区	ST2017	弥生土器 壺	132	(47)	-	褐色 + 褐色・灰色	口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナズ、口縁部部は横方向の細かハケ又はナズ、外面縦方向の細かハケ、口縁部部は縦方向のナズ。	
538	D区	ST2017	弥生土器 壺	200	(57)	-	褐色 + 灰色	口縁部は外反する。肩部は面を成し、上下に肥厚する。内外面ともナズ。口縁部部に2条の凹線と斜方向の割み又は乳点文か。	
539	D区	ST2017	弥生土器 壺	-	(48)	-	褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	胴部上位から頸部片、胴部上位に乳点文が施される。内面ナズ、粘土層合部に押し痕、外面ハケの後ミダキ。	
540	D区	ST2017	弥生土器 壺	-	(39)	-	にぶい黄褐色 にぶい赤褐色 にぶい黄褐色	胴部上位に1単位6条の波線沈線部が高まる。内外面ともナズ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
541	D区	ST2017	弥生土器 壺	-	(26)	65	灰黄褐色 黒褐色 *	平底状の底部片で底部端は明瞭、内外面ともナナ。	
542	D区	ST2017	弥生土器 壺	131	20.7	5.0	にぶい黄褐色 浅黄褐色 浅黄褐色・灰色	底部は平底状、胴部最大径は中位やや上で、口縁部は短く外尻、内面ハケの後ナナ、接合部に押止帯、外面ハケの後ナナ、胴部中位から口縁部にケル付着。	
543	D区	ST2017	弥生土器 甕	134	(159)	-	にぶい褐色・暗褐色 にぶい黄褐色・黒褐色 にぶい黄褐色	丸味を帯びた胴部から頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は直線的に短く外上方に開く。頸部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナナ・ケズリ、外面ナナ・ハケ。	
544	D区	ST2017	弥生土器 壺	175	(132)	-	褐色 にぶい黄褐色 *	胴部は丸味を帯び、頸部はくの字状、口縁部は直線的に外上方に飛び、頸部は丸く収める。内面ナナ、口縁部は細かいハケの後ナナ、一部に帯付着、外面タタキ、一部ハケ。	
545	D区	ST2017	弥生土器 甕	172	(17)	-	褐色 浅黄褐色 *	口縁部は外反する。頸部は内傾する面を成し、上下に肥厚する。内外面とも横方向のナナ・細かいハケ。	
546	D区	ST2017	弥生土器 壺	156	(44)	-	褐色 * 黄灰色	胴部は緩く屈曲し、口縁部は外上方に飛び出る。頸部は面を成し上下に肥厚、2条の北境又は凹線が走る。内面横方向のハケ、胴部ナナ、外面横方向のナナ、一部に帯付着。	
547	D区	ST2017	弥生土器 甕	-	(129)	56	褐色 黄褐色 褐色	底部は平底状で、緩く窪んだ面を成す。底部端から胴部は先ず緩やかに外上方に開き、後に内湾する。内面ナナ、外面粗いハケ。	
548	D区	ST2017	弥生土器 壺	-	(141)	-	黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	胴部片、緩く外上方に開く。内面ナナ、外面ヘラミギギ、胴部中位に帯付着。	
549	D区	ST2017	弥生土器 甕	-	(30)	64	にぶい黄褐色 褐色 黄灰色	底部は平底状、底部端は緩く成し、胴部下位は先ず僅かに上方に飛び、後に直線的に外上方に開く。内外面ともナナ、内面底部に帯付着。	
550	D区	ST2017	弥生土器 鉢	112	(36)	-	にぶい黄褐色 * 黄灰色	体部は外上方に飛び、口縁部で屈曲し、短く外上方に飛び出る。頸部は丸く収める。内面ヘラミギギ、外面口縁部横方向のナナ、体部ヘラミギギ。	
551	D区	ST2017	弥生土器 台付鉢	-	(27)	53	黒褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	台付鉢の胴部片、胴部は短く外反し、頸部は太く丸く収める。底部は凹面状を成す。内外面ともナナ、外面に押止帯を残す。	
552	D区	ST2017	弥生土器 高杯	269	(42)	-	明黄褐色 浅黄褐色 灰白色・浅黄褐色	接合部で屈曲し、口縁部は外上方に飛び出る。内面縦方向のヘラミギギ、口縁部下の屈曲部に肥厚工具の趾が残る。外面口縁部横方向のナナ・ヘラミギギ、体部ヘラミギギ。	
553	D区	ST2017	弥生土器 高杯	-	(40)	188	黒色 浅黄褐色 黄灰色	胴部片、胴部は外反し大きく開く。頸部で厚みが縮す。内面ナナ、頸部端で横方向のナナ、外面ハケ、頸部端で横方向のナナ。	
554	D区	ST2017	白磁 碗	118	(35)	-	灰白色 * *	体部は斜外方に緩やかに飛び、口縁部は玉縁状を呈す。内外面とも白磁釉が施される。	
555	D区	ST2017	土製品 土鉢	全長 34	全幅 11	全厚 12	にぶい黄褐色 *	管状土鉢、中心に直径0.5cmの楕円形孔を穿つ。	
556	D区	ST2018	弥生土器 壺	215	(54)	-	褐色 * 黒褐色	口縁部は先ず上方に飛び、後に大きく外反する。頸部は上下に肥厚し凹面状を成す。内面ナナ、口縁部端は横方向のナナ、外面横方向のハケ、口縁部端は横方向のナナ。	
557	D区	ST2018	弥生土器 壺	118	(60)	-	にぶい黄褐色 * 黒褐色	口縁部は外反する。頸部は面を成し、外側に肥厚する。頸部に肥厚工具による刻みを施す。内外面ともハケの後ナナ、口縁部端は横方向のナナ。	
558	D区	ST2018	弥生土器 壺	-	(53)	76	オリーブ黒色 暗黄褐色 *	底部は平底状、胴部は直線的に外上方に飛び出る。内面ナナ又は肥厚工具によるナナ、外面肥厚工具によるナナ。	
559	D区	ST2018	弥生土器 壺	-	(48)	-	灰黄褐色 * *	丸底状の底部、内外面ともナナ。	
560	D区	ST2018	弥生土器 壺	166	(34)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	胴部はくの字状で、口縁部は直線的に飛び出る。頸部は内傾する面を成し、上下に肥厚する。口縁部端に3条の凹線がめぐる。内外面ともナナ、外面の一部に帯付着。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
561	D区	ST2018	弥生土器 甕	133	(63)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 にぶい褐色・灰色	頸部は湾曲し、口縁部は直線的に上方に延びる。内面ナデ、口縁部は横方向のナデ、胴部ケズリ。外面ナデ、口縁部横方向のナデが顕著。一部に保付着。	
562	D区	ST2018	弥生土器 甕	-	(63)	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	底部は丸底状。胴部下位は外反する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後重いつ。	
563	D区	ST2018	弥生土器 甕	-	(36)	40	褐色 + 灰色	底部は緩い凸面状を呈し、肩部は比較的明確。内面ナデ又は細い単位のハケ、底部に押圧痕を残し、一部に保付着、外面タタキ、外面底部タタキ。	
564	D区	ST2018	弥生土器 甕	-	(48)	46	灰黄褐色 + 黒灰色	底部は緩い凸面状を呈す。内面ナデ、外面農具によるナデ。	
565	D区	ST2018	弥生土器 甕	-	(40)	50	にぶい黄褐色 + +	底部は平底状、底部端は明確な稜線を成し、胴部は緩く外反して外上方に延びる。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
566	D区	ST2018	弥生土器 甕か甕	-	(34)	42	淡黄色 + 黄灰色	底部は緩い平底状、内面ナデ・ハケ、外面タタキ。	
567	D区	ST2018	弥生土器 鉢	150	(37)	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	体部から口縁部は緩く湾曲し、肩部は尖り気味に丸く収める。内面細かいハケ、口縁部に押圧痕、外面タタキの後ナデ、器面に貫孔がみられる。	
568	D区	ST2018	弥生土器 鉢	-	(54)	46	浅黄色 + 灰白色 + 黄灰色	底部は押し潰した平底状で、緩い凸面状を成し、肩部は不明瞭。内面ハケ、底部下ナデ、外面タタキ。	
569	D区	ST2018	弥生土器 鉢	92	(38)	-	にぶい黄褐色 + 黒褐色	体部は内湾し、口縁部は内上方に延びる。肩部は尖り気味に丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
570	D区	ST2018	弥生土器 鉢	-	(48)	-	褐色 + にぶい褐色 + 黄灰色	底部は小さく突出する。胴部下位は大きく外反する。内面ミガキ、外面ハケ。	
571	D区	ST2018	弥生土器 鉢	-	(21)	106	にぶい黄褐色 + 灰色	底部は緩い凸面状を呈し、肩部は不明瞭である。内面ナデ、外面タタキ。	
572	D区	ST2018	弥生土器 高杯(小台付鉢)	105	(60)	-	にぶい黄褐色 + 黒褐色	胴部は押入法で接合か。杯部は下位で外方に開き、口縁部で内湾し内上方に延びる。肩部は太く、部分的に丸味を持った面を成す。内外面ともナデ、外面に段凸凸面。	
573	D区	ST2018	弥生土器 高杯	210	(73)	-	暗灰黄色 にぶい褐色 + にぶい赤褐色 + にぶい褐色	杯部は接合部で段を成し、口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、内外に肥厚する。内面丁寧なナデ、口縁部は横方向のナデ、外面ナデ、口縁部は農具工具によるナデ。	
574	D区	ST2018	弥生土器 高杯	159	(30)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 にぶい褐色	杯体部は屈曲の後外反する。外面に6条の凹線が高る。内面口縁部は横方向、体部は放射状のミガキ。外面体部は横方向のミガキが卓越する。	
575	D区	ST2018	石製品 石包丁	全長 100	全幅 52	全厚 10	-	背面部は緩い弧を描き、刃部は直線的。刃部及び表面の一部を滑らかに仕上げた。輪縁は中位やや背側に傾く。泥質、重量680g	
576	D区	ST2018	石材 削片	全長 41	全幅 1.6	全厚 0.4	-	一片に規模の小さな調整が連続的に施される。泥質、重量20g	
577	D区	ST2019 (P3)	弥生土器 甕	83	101	-	淡赤褐色 + 浅黄褐色 + にぶい黄褐色	丸底状の底部で、胴部上位で最大径を持つ。口縁部は直線的に上方に延び、肩部は丸く収める。内面ナデ、底部は凹凸面。外面口縁部は横方向のナデ、胴部ハケの後ナデ。	
578	D区	ST2019	弥生土器 甕	-	(23)	-	にぶい黄褐色 + +	口縁部は外反する。肩部は器人だ面を成し、外側へやや肥厚する。内外面ともナデ。	
579	D区	ST2019	弥生土器 甕	-	(18)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 + +	口縁部は外反する。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面タタキ、一部に保付着。	
580	D区	ST2019 (P3)	弥生土器 甕	157	(31)	-	黄褐色 褐色 + 黄褐色	頸部はくの字状と見られ、口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、外側にやや肥厚する。内外面ともハケ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
581	D区	ST2019 (P3)	弥生土器 甕	174	(36)	-	橙色 +	肩部から口縁部は連続的に外反し、外上方に広がる。肩部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。	
582	D区	ST2019 (P3)	弥生土器 甕	130	(7.3)	-	橙色 黒褐色 褐色	胴部は丸味を帯び、肩部はくの字状に屈曲する。口縁部は直線的に外上方に開き、肩部は面を成し、外側に肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面口縁部ハケ、胴部タタキ。	
583	D区	ST2019	弥生土器 甕	115	(38)	-	にぶい黄褐色 + 灰色	肩部は緩く屈曲し、口縁部は僅かに外反する。肩部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ナデ、口縁部はハケの後ナデ、外面タタキ、口縁部部に押圧痕を残す。	
584	D区	ST2019 (P3)	弥生土器 甕	134	16.9	-	橙色 にぶい褐色・オリーブ色 灰色	底部は丸底状、肩部で屈曲し、口縁部は緩く外反する。内面口縁部ハケ、胴部はハケの後ナデ、外面タタキの後ハラナデ又はハケ、外面底部に格子状のタタキ。	
585	D区	ST2019	弥生土器 鉢	7.1	3.6	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	底部は丸み気味の丸底、体部から口縁部は外上方に並び、肩部は丸く収める。内外面ともナデ、器面に浅い凹凸面が残る。	
586	D区	ST2019	弥生土器 鉢	10.1	6.5	3.0	明黄褐色 + オリーブ黒色	底部は突出した狭い平底状、体部から口縁部は緩やかに外上方に広がる。内面ハケ、外面ナデ、器面に小・中規模の器孔。	
587	D区	ST2019	弥生土器 鉢	11.2	5.3	-	にぶい黄褐色 + 灰色	底部は丸底状、体部から口縁部は丸味を持って外反し、肩部は丸み気味に丸く収める。内面ナデ、外面タタキの後ナデ、外面底部に瘤状のタタキ目が残る。	
588	D区	ST2019	弥生土器 鉢	18.0	8.5	-	明黄褐色 にぶい褐色 黄褐色	底部は丸底状、体部から口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ、器面に浅い凹凸面が残る。	
589	D区	ST2019	弥生土器 鉢	14.0	9.6	-	にぶい黄褐色 + 黒褐色	底部は丸底状、体部は内湾し、口縁部は内上方に広がる。肩部は丸く収め、外側に肥厚する。内面ナデ、外面タタキの後ナデ、外面底部に放射状の器孔。	
590	D区	ST2019 (P2)	弥生土器 鉢	15.2	7.5	4.3	橙色 + 褐色	底部はやや突出した小さな平底、底部の後半は不明瞭。口縁部は緩やかに外上方に開き、肩部は面を成す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ、器面に浅い凹凸面と小器孔。	
591	D区	ST2019	弥生土器 鉢	-	(4.4)	3.2	浅黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部は突出し、緩い凸面を成す。内面ナデ、器具口の肩部の圧痕が残る。外面ナデ、器面に小器孔がみられる。	
592	D区	ST2019	弥生土器 鉢	-	(3.3)	3.0	浅黄褐色 暗灰黄色・橙色 灰黄色	底部は小さな丸底状で、狭く緩い凸面を成す。内面ナデ、外面タタキ。	
593	D区	ST2019	弥生土器 鉢	8.0	(1.4)	-	黒褐色 + オリーブ黒色	浅い鉢形を呈す。口縁部は緩く外反し、肩部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
594	D区	ST2020	弥生土器 甕	-	(3.2)	-	にぶい褐色 橙色 黄褐色	器の肩部内か、外面に螺旋状文・6条の螺旋状縦帯（螺旋状縦文か）、縦方向の長條円形の刺突文又は刺突文を施す。	
595	D区	ST2020	弥生土器 鉢	-	(3.7)	2.2	浅黄褐色 黄褐色 黄褐色	底部は粘土胎付底風にやや突出し、緩い凸面を成す。体部は丸味を帯びる。内面ナデ、外面タタキ。	
596	D区	ST2020	弥生土器 鉢	-	(2.2)	3.7	橙色 + 黄褐色	底部は粘土胎付底風にやや突出し、緩い凸面を成す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
597	D区	ST2020	土師器 鉢	12.6	(7.4)	-	褐色 + +	体部は内湾し、口縁部は僅かに外反する。肩部は丸く収め、内側にやや肥厚する。内外面とも縦方向のケズリの後縁方向のナデ。	
598	D区	ST2020	土師器 甕	20.2	(12.0)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 +	胴部から肩部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反する。肩部は丸く収める。内面口縁部ナデ、胴部は縦方向のケズリ、外面粗いハケ。	
599	D区	ST2020	土師器 甕	-	(15.3)	-	にぶい黄褐色 +	胴部片、内面ケズリ、外面ハケ。	
600	D区	ST2020	土師器 甕	-	(18.5)	-	褐色 にぶい褐色 褐色	底部は丸底で、胴部は瘤面筒形口状を呈す。肩部は緩く内湾する。内面ケズリの後ナデ、外面ナデ、外面縦断面の一部に保付帯。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
601	D区	ST2020	土師器 羽釜	224	(50)	-	明黄褐色 +	口縁部は直線的に上方に延び、肩部は内傾する面を成す。下部に断面方形状の脛が張り、肩部は面を成す。内外面ともナデ。脛の接合部は敷ねナデにより消される。	
602	D区	ST2020	土師器 椀	-	(25)	67	灰白色 +	底部端に断面三角形状の高台が付く。内面回転ナデ・ヘラミガキ、火押しの痕化痕が残る。外面ナデ。	
603	D区	ST2020	土師器 椀	-	(25)	56	褐色 +	平坦な底部端に断面台形状の高台が付く。内外面とも回転ナデ、ロクロ目顯著。	
604	D区	ST2020	須恵器 杯身	100	(29)	-	灰黄色 黄灰色 灰黄色	体部から口縁部は内湾し、受け部は短く外上方へ延びる。かえりは内傾し、縁く外反する。内外面とも回転ナデ。受け部に自然粘が付着。受け部径 12.0cm	
605	D区	ST2020 (P3)	須恵器 杯身	135	(25)	-	灰白色 +	受け部は短く外方に延び、肩部は丸く収める。かえりは直線的に内上方に延び、肩部は短く丸味に収める。内外面ともナデ。受け部径 16.0cm	
606	D区	ST2020	須恵器 杯蓋	145	(35)	-	灰色 +	口縁部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面天井部は回転ヘラケズリ。	
607	D区	ST2020	須恵器 杯	-	(15)	62	灰色 +	底部は円錐状に突出し、中央部はやや凹面状を呈す。内外面とも回転ナデ。底部切り崩しは回転糸切り。	
608	D区	ST2020	鉄製品 不明	全長 78	全幅 28	全厚 18	-	棒状で、一方は二股となる。重量 37.0g	
609	D区	ST2020	石製品 石包丁	全長 51	全幅 4.3	全厚 0.9	-	磨製。片刃で、背縁は弧。刃部は直線的。表面は刃部に横方向、周辺に不定向方向の線索。一部に準滑面。表面は概ね滑らかで、穿孔に伴う窪みが一部残る。比重、重量 23.0g	
610	J区	ST2025	土師器 甕	179	(10.3)	-	褐色 +	胴部から口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。内面口縁部はハケの後縁が内側のナデ、肩部以下は外上方へのケズリ。外面口縁部は横方向のナデ、胴部ハケ。	
611	J区	ST2025	弥生土器 鉢	194	(6.5)	-	にぶい黄褐色 褐色 +	体部から口縁部は直線的に上方に延び、肩部は丸く収める。内面ナデ。体部に横方向の磨製工具によるナデ。外面ナデ。口縁部は横方向のナデ。	
612	J区	ST2026	弥生土器 甕	151	(3.3)	-	明赤褐色 黒褐色 +	短く外反する口縁部片。口縁部は内傾する面を成す。内外面とも横方向のナデ。	
613	K区	ST2028	土師器 杯	-	(35)	6.8	にぶい黄褐色 +	ベタ高台。外面底部に敷状の圧痕が残る。内外面ともナデ。指環圧痕が残る。	
614	K区	ST2028	石製品 砥石	全長 136	全幅 11.8	全厚 4.6	-	やや扁平で、上面の他に2面を使用する。重量 982.0g	
615	A区	ST3001	弥生土器 甕	146	217	5.8	にぶい黄褐色 +	底部は平底状。口縁部は緩やかに外反し、肩部は面を成す。外面肩部に3条の機軸起突帯が張り、胴部中央位以上に隆起着。	
616	A区	ST3001	弥生土器 甕	196	223	5.4	褐色 にぶい黄褐色 +	底部は平底状。口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。外面肩部に2条の機軸起突帯が張り、胴部上位から肩部の一部に隆起着。	
617	北区	ST1	弥生土器 壺	160	(26)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 灰白色	口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、外側へ肥厚する。内面丁寧ナデ、外面ナデ。	
618	北区	ST1	弥生土器 壺	-	(7.5)	-	浅黄褐色 褐色 灰色	胴部下方位は欠損する。腹断面形は球形と見られる。内面細かいハケ。外周タタキの接ハケ。	
619	北区	ST1	弥生土器 甕	166	(3.0)	-	暗灰黄色 +	胴部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し、屈曲の後短く上方に延びる。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。外面に隆起帯、敷入品。	
620	北区	ST1	弥生土器 甕小	-	(3.7)	-	浅黄褐色 灰黄褐色 オリーブ褐色	底部は尖り突頭の丸底状と見られる。内面ハケの後ナデ。外面タタキ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法器 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
621	北区	ST1 (SX1)	弥生土器 甕か	-	(53)	64	暗灰黄色 にぶい黄褐色・黄灰色 黄灰色	底部は平底状。胴部は底部端で緩く屈曲する。内面ナ デ、胴径が狭い。外面タタキ。	
622	北区	ST1	弥生土器 鉢	120	58	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 淡黄褐色	底部は丸底状。体部は下位で丸味を帯び、上位はやや直 線的に外上方に開く。肩部は凹面状を呈す。内面細かい ハケ。底部はナデ。外面タタキの後ナデ。	
623	北区	ST1	弥生土器 鉢	138	(56)	-	褐色 + 浅黄褐色	底部は粘土胎付成風に突出し、鋭い凸面状を呈す。体部 から口縁部は丸味を帯びる。肩部は面を成し、外側へ肥 厚する。内面ハケの後ナデ。外面タタキ。	
624	北区	ST1	弥生土器 鉢	135	(46)	-	暗灰色 + 浅黄褐色	体部から口縁部は外上方に開き、肩部は面を成す。内面 ハケの後ナデ。外面タタキ。	
625	北区	ST1	弥生土器 鉢	128	(48)	-	にぶい褐色 褐色 暗灰色	体部から口縁部は丸味を帯び、肩部は丸く収める。内面細 かいハケ。外面タタキ。	
626	北区	ST1 (SX1)	弥生土器 鉢	153	(41)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	胴部から口縁部は丸味を帯び外上方に広がる。肩部は凹 面状を呈し、外側にやや肥厚する。内面ナデ。外面タタ キ。	
627	北区	ST1 (SX1)	弥生土器 鉢	136	(24)	-	にぶい褐色 + 灰白色	口縁部片、肩部は面を成す。内面細かいハケ。口縁部端 方肉のナデ。外面ナデ。	
628	北区	ST1	弥生土器 鉢	174	(47)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 灰色	体部から口縁部は丸味を帯びる。肩部は凹面状を呈し、 外側にやや肥厚する。内面細かいハケ。外面タタキの後 ナデ。	
629	北区	ST1	弥生土器 鉢	-	(39)	54	浅黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部は粘土胎付成風に突出する。内面細かいハケ。外面 タタキの後ナデ。	
630	北区	ST1	弥生土器 鉢	-	(57)	-	浅黄褐色 + 灰色	底部は尖り気味の丸底。内面細かいハケ。外面ナデ。	
631	北区	ST1	弥生土器 甕か鉢	-	(24)	44	浅黄褐色 + 灰白色	底部は粘土胎付成風にやや突出し、鋭い凸面状を成す。 内面ナデ。外面タタキ。	
632	北区	ST1	弥生土器 鉢	-	(28)	26	褐色 + 黄灰色	底部は狭い平底状。体部下位は外反する。内面ヘラナ デ。外面タタキの後ナデ。	
633	北区	ST1	弥生土器 鉢	-	(36)	48	褐色 浅黄褐色 +	底部は突出した平底状。胴部下位は外反する。内面匙状 工具によるナデ。外面腹位の貫孔が多く見られる。	
634	北区	ST1	弥生土器 台付鉢	152	(77)	-	オリーブ灰色 浅黄褐色 にぶい黄褐色	鉢部は緩く斜上方に延び、口縁部は丸く収める。内面 ナデ。部分的に保付着。外面ハケ。全面に保付着。台の接 合部にも保付着。台部を欠き鉢部のみで使用したか。	
635	北区	ST1	弥生土器 高杯	-	(55)	178	褐色 にぶい褐色 浅黄褐色	胴部は肩部にかけた連続的に外反する。肩部は凹面状を 呈す。内面横方向のハケ。外面縦方向のハケ。底位に横方 向のナデ。	
636	北区	ST1 (SX1)	弥生土器 不明	全長 3.3	全幅 3.0	全厚 1.1	暗灰色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	肉厚の破片。底部または底部付近のものか。内面ナデ。 外面に筋子状の圧痕又は匙状工具等による記号が見られ る。	
637	北区	ST1	土製品 土鉢	全長 39	全幅 17	全厚 16	- にぶい褐色 -	管状土鉢。直径0.5cmの円孔が穿たれる。	
638	北区	ST1	土製品 土鉢	全長 32	全幅 12	全厚 12	- にぶい黄褐色 -	管状土鉢。直径0.4cmの円孔が穿たれる。	
639	北区	ST1	土製品 土鉢	全長 5.1	全幅 12	全厚 12	- 浅黄褐色 -	管状土鉢。直径0.4cmの円孔が穿たれる。	
640	北区	ST1	土師器 皿	100	21	7.0	暗灰色 にぶい黄褐色 +	底部端は湾曲し、口縁部は緩く外反して外上方に見び る。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。足底ミクラ ロ目顯著。底部切り際は回転ヘラ切りと見られる。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
641	北区	ST1	土師器 杯	134	30	100	にぶい橙色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部は平底状で、肩部は湾曲する。口縁部は直線的に外上方に延び、肩部は尖り突状に丸く収める。内外面ともナデ、赤色顔料が施される。	
642	北区	ST1	土師器 杯	138	(3.2)	-	浅黄褐色 + 灰白色	体部は初めの内湾し、上段で外反する。口縁部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
643	北区	ST1	土師器 杯	144	38	70	にぶい黄褐色 + +	底部は平底状で、肩部は湾曲する。体部から口縁部は外上方に延び、口縁部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、内面ロクロ目顯著、外面底部に粘土継ぎが残る。	
644	北区	ST1	土師器 杯	-	(2.1)	64	にぶい黄褐色 + 浅黄褐色	底部は平坦面状で、やや突出する。内外面とも回転ナデ、見込みロクロ目顯著、底部切り離しは回転未切り。	
645	北区	ST1	土師器 杯	-	(2.6)	66	黄褐色・浅黄褐色 橙色・浅黄褐色 淡黄色	底部は鋭い凹面状を呈す、内外面とも回転ナデ、外面ロクロ目顯著、底部切り離しは回転未切り。	
646	北区	ST1	土師器 碗か高杯	218	(2.0)	-	明赤褐色 にぶい黄褐色 彫灰色	口縁部片、肩部は丸く収める。内面ナデの後ヘラミガキ、外面回転ナデ。	
647	北区	ST1	土師器 碗か高杯	-	(1.5)	-	浅黄褐色 灰白色 灰色	底部から体部下位片、内面ミガキ、外面体部ズリの後彫状工具によるナデ、外面底部ロクロ目顯著。	
648	北区	ST1	土師器 羽釜	-	(5.4)	-	にぶい褐色 橙色 +	口縁部は上方に延び、肩部は面を成す。内面ナデ、口縁部彩色工具によるナデ、外面押接合部に彩色工具の痕跡を残し、口縁部は鋭い凹面を成す。	
649	北区	ST1	須恵器 杯	120	34	92	灰白色 + +	底部端で湾曲し、口縁部は丸く収める。内外面ともナデ。	
650	北区	ST1	須恵器 杯か高杯	138	(2.9)	-	灰白色 + 彫灰色	体部は丸味を帯び、口縁部は短く外反する。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。	
651	北区	ST1	須恵器 碗	-	(2.2)	69	灰白色 + +	円盤状の底部、内外面とも回転ナデ、ロクロ目顯著、底部切り離しは回転未切り。	
652	北区	ST1	須恵器 羹	-	(3.7)	-	緑灰色 灰色 +	胴部上段片、胴部との境目に強いナデにより段が形成される。内面同心円文のタタキの後ナデ、外面胴部横方向のナデ、胴部格子状又は斜格子状のタタキ。	
653	北区	ST1	須恵器 羹	-	(6.0)	-	明赤灰色 灰白色 灰色	内面ナデ、植物及び昆虫の圧痕が残る。外面ハケ。	
654	北区	ST1	緑釉陶器 皿	-	(2.1)	-	灰白色 + 灰色	体部片、内外面ともナデ、釉薬が施される。活ホカ。	
655	北区	ST1	緑釉陶器 不明	-	(1.6)	58	灰白色 + +	幅の広い断面形状の高台が張り出される。高台内は概ね丸く、高台端ではやや深い。内面と外面高台内まで施される。他の例跡が著しい。	
656	北区	ST1	黒色土器 碗	-	(2.6)	-	黒褐色 橙褐色 黄灰色	内面に黒色処理、内面ヘラミガキ、外面丁寧なナデ。	
657	北区	ST1	瓦器 碗	159	(2.5)	-	灰色 + 灰白色	体部から口縁部は外上方に延び、肩部は丸く収める。内面ヘラミガキ、外面ナデ、体部に押し痕が残る。	
658	北区	ST2	弥生土器 壺	199	(1.8)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 彫灰色	口縁部は外反する。肩部は面を成し、外側へ肥厚する。内面粗いハケ、外面タタキの後ハケ。	
659	北区	ST2	弥生土器 壺	195	(3.6) (17.7)	-	にぶい橙褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	丸味を持つ胴部、肩部は屈曲し口縁部は外反する。肩部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、口縁部端にハケ、外面ナデ、胴部タタキの後ハケ。	
660	北区	ST2	弥生土器 壺	-	(11.8)	40	灰黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	底部は粘土懸付痕跡に突出し、胴部は丸味を帯びる。内面ナデ、外面タタキ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
661	北区	ST2	弥生土器 壺	-	(24)	23	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	底部は突出する狭い平底状。内面ナデ、外面ヘラミダキ。	
662	北区	ST2	弥生土器 壺	-	(30)	5.5	黄灰色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	底部は平底で緩い凹面を成す。内外面ともナデ。外面に滑潤な皮を残す。	
663	北区	ST2	弥生土器 甕	148	(34)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色	胴部から口縁部は連続的に外反し、肩部は面を成し上下に肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面ハケの後ナデ、押圧痕を残す。	
664	北区	ST2 (P1)	弥生土器 甕	200	(4.3)	-	棕色 明黄褐色	胴部から口縁部は連続して外反する。肩部は拡張して面を成す。内面ハケ、外面ナデ。	
665	北区	ST2	弥生土器 甕	227	(4.5)	-	明赤褐色 にぶい棕色 浅黄褐色	口縁部は外反し外上方に延びる。肩部は面を成し、上下に肥厚する。内外面ともナデ。外面口縁部部に2条の凹線を施す。	
666	北区	ST2	弥生土器 甕	25.1	(5.0) (10.1)	-	にぶい棕色 灰色	胴部から胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。肩部は凹面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面タタキ、口縁部ハケ、部分的に帯付着。	
667	北区	ST2 (P2)	弥生土器 甕	-	(2.5)	-	にぶい棕色 灰色	口縁部片、肩部は緩い凹面を成す。内外面ともナデ。外面口縁部部に押圧痕の跡のみ。	
668	北区	ST2	弥生土器 甕	-	(7.0)	-	にぶい黄褐色 暗オリーブ色	胴部から胴部は緩く屈曲する。内外面ともナデ。内面に滑潤な皮、外面に小乳孔が見られる。	
669	北区	ST2	弥生土器 甕	-	(11.6)	3.8	棕色 にぶい棕色 灰色	底部は緩い凸面を成し、肩部は滑潤する。胴部最大径は上段。内面ナデ、胴部は縦・横方向のナデ。外面タタキの後ハケ、底部はハケ・ナデ。	
670	北区	ST2 (P1)	弥生土器 甕	-	(10.1)	3.5	にぶい黄褐色 灰黄褐色 灰色	底部は狭い平底状で、緩い凸面を呈す。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
671	北区	ST2	弥生土器 甕	-	(8.3)	-	棕色 にぶい棕色 灰色	胴部下段片。底部は平底状と見られる。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。下段ではハケが連続する。	
672	北区	ST2	弥生土器 鉢	100	3.5	3.1	にぶい棕色 黄褐色 黄褐色	底部は押し潰した様な平底で、肩部は不明瞭。胴部から口縁部は丸味を帯びる。肩部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面凹状工具によるナデ、外面タタキ。	
673	北区	ST2 (P2)	弥生土器 鉢	10.8	(3.7)	-	にぶい黄褐色 灰色	胴部から口縁部は丸味を帯びる。肩部は凹面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。器面に小規模の乳孔が見られる。	
674	北区	ST2	弥生土器 鉢	-	(3.4)	-	浅黄褐色 オリーブ褐色 浅黄褐色	底部は尖り気味の丸底状。内面ナデ、外面タタキ。	
675	北区	ST2	弥生土器 鉢	-	(6.4)	2.8	棕色 にぶい棕色 灰色	底部は緩い凸面状。内面ハケ、外面ナデ。器面に小乳孔が見られる。	
676	北区	ST2 (P1)	弥生土器 鉢	132	(2.0)	-	棕色 にぶい黄褐色	口縁部は内湾して延び、肩部は丸く収まる。内外面ともナデ。外面口縁部部方向のナデ。	
677	北区	ST2	弥生土器 鉢	-	(4.2)	3.9	にぶい棕色 棕色	底部は粘土胎付底風に突出する。内面ハケ、外面タタキの後ナデ、凹凸面を残す。	
678	北区	ST2 (P1)	弥生土器 高杯	166	(2.4)	-	にぶい黄褐色 灰色	杯部は緩く外上方に延び、肩部は丸味を持った面を成す。内面ナデの後ミダキ、外面ナデ。	
679	北区	ST2	弥生土器 鉢	-	(3.3)	5.7	にぶい黄褐色 灰黄褐色 黄灰色	底部は粘土胎付底風に突出し、緩い凸面を成す。胴部下段は丸味を帯びる。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
680	北区	ST2	弥生土器 鉢	18.3	7.7	5.4	にぶい黄褐色 灰色	底部は緩い凸面状で、口縁部は緩やかに外上方に延びる。肩部は緩い凹面を成し外側にやや肥厚する。内面ハケ、外面タタキの後ナデ、外面底部に凹状工具による押痕。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
681	北区	ST2	石製品 明石か	全長 125	全幅 36	全厚 28	-	棒状で、両端部に打痕と割痕を残す。一方には磨痕が見られる。砂岩製。重量 1630g	
682	北区	ST2	円環	全長 31	全幅 1.6	全厚 1.1	-	縦断面楕円形状の円環。熱熱を受ける。重量 60g	
683	A区	SB1 (SK2011)	弥生土器 甕	102	118	-	灰白色 灰白色・暗灰色 灰白色	小型の甕。口縁部は僅かに外反する。内面割部は強いナデ、肩部と口縁部は細かいハケ。外面タタキの後、下から上方へのナデ、割部下半・口縁部はタタキをナデ削す。	
684	J区	SB1 (P3172)	弥生土器 壺	220	(1.7)	-	棕色 浅黄色 灰黄色	口縁部は外反して大きく開き、肩部は面を成す。内外面ともハケ。口縁部横方向のナデ。	
685	J区	SB1 (P3172)	弥生土器 甕	173	(3.1)	-	にぶい黄褐色 + 暗灰色	肩部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反して立ち上がる。肩部は面を成し外側にやや肥厚する。内面ナデ、外面タタキ。	
686	J区	SB1 (P3172)	弥生土器 鉢	108	(4.0)	-	にぶい黄褐色 + 暗灰色	体部から口縁部はやや内折し、肩部は内傾する面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
687	J区	SB1 (P3268)	弥生土器 壺	190	(7.0)	-	棕色 明黄褐色 灰色	口縁部は外反し大きく広がり、肩部は面を成す。内面ナデ、一部に肥厚。外面口縁部部に山形文、口縁部に横方向のナデ、細かいハケを施す。	
688	J区	SB1 (P3268)	弥生土器 甕	142	(6.0)	-	棕色 暗灰色 暗灰黄色	肩部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。肩部は凹面を成し、外側に肥厚する。内面口縁部は横方向の細かいハケ、割部へナデ、外面タタキ、一部に肥厚する。	
689	J区	SB1 (P3268)	弥生土器 壺	180	(1.6)	-	にぶい棕色 棕色 灰色	口縁部は緩く外反して外上方に屈び、肩部は面を成し外側に肥厚する。内外面ともハケ。	
690	J区	SB1 (P3268)	弥生土器 壺	140	(1.5)	-	にぶい黄褐色 棕色 灰色	口縁部は緩く外反し、屈曲の後短く直線的に外下方に屈び、肩部は面を成し外側へやや肥厚する。内外面ともハケ。	
691	J区	SB1 (P3268)	弥生土器 甕	125	(3.6)	-	にぶい黄褐色 + 淡黄色	口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びた面を成す。内面口縁部は横方向のナデ、割部は細かいハケ。外面口縁部は横方向のナデ、割部はハケ又は鍔状工具によるナデ。	
692	J区	SB1 (P3268)	ミニチュア 土器	68	(3.2)	-	にぶい棕色 + 暗灰色	手づくお成形の鉢型。体部から口縁部は外上方に屈び、肩部は長く丸く収める。内面ナデ、外面割部比でタタキ。	
693	J区	SB1 (SD2052)	弥生土器 甕	136	(4.0)	-	棕色 + オリーブ黒色	口縁部は緩く外反して外上方に屈び、肩部は凹面を成し、外方に肥厚する。内面ハケ、外面タタキの後ナデ。	
694	J区	SB1 (SD2052)	弥生土器 甕	134	(7.7)	-	棕色 にぶい黄褐色 灰色	割部上部は緩く内折し、肩部はくの字状に屈曲する。口縁部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、口縁部横方向のハケ、外面タタキ、一部に肥厚する。	
695	J区	SB1 (SD2052)	土器 酒杯	-	(1.7)	-	明赤褐色 + にぶい黄褐色	口縁部は緩く外反し、肩部は面を成す。内面口縁部部に沈線状の段が見られる。内外面ともナデ・ミガキ、赤色顔料が塗布される。	
696	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 壺	132	(4.5)	-	棕色 浅黄褐色 灰色	肩部で前面の後、口縁部は外反し、その後緩く屈曲して上方へ屈び、肩部は丸味を帯びた面を成す。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
697	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 壺	176	(7.1)	-	灰色 にぶい棕色 灰色	割部から肩部で屈曲し、口縁部は内湾気味に上方に屈び、肩部は外傾する面を成す。内面ナデ、外面口縁部横方向のナデ、割部は横方向のハケを施す。	
698	J区	SB1 (SD2051 P3172)	弥生土器 甕	162	(7.9)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 暗灰色	肩部はくの字状に屈曲する。口縁部は直線的に外上方に屈び、肩部は面を成し、外方へやや肥厚する。内面口縁部ハケの後ナデ、外面タタキ、一部に肥厚する。	
699	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	112	(11.1)	-	にぶい黄褐色 暗灰色 黄灰色	割部最大径は中位。肩部はくの字状で、口縁部は丸味を持った面を成し、外側に肥厚する。内面口縁部ハケの後ナデ、割部はナデ、外面タタキ、割部中位に肥厚する。	
700	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	134	(15.7)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 黄灰色	割部最大径は上位。口縁部はナデにより面を成し外側へ傾み出す。内面口縁部ハケ、割部はナデ、外面タタキの後ハケ、割部の中位に部分面に肥厚する。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法器 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
701	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	191	(120)	-	にぶい黄褐色 黒褐色 オリーブ黒色	胴部はくの字状で口縁部は外反する。肩部は面を成し外側にやや肥厚する。内面口縁部ハケ、胴部はハケの後ナデ。外面タタキ、口縁部はタタキの後ナデ。広縁部に僅かなり。	
702	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	115	(104)	-	にぶい黄褐色 灰色	底部は丸底状。胴部はやや軽く屈曲する。口縁部は直線的に外上方に延び、肩部は丸く収める。内面口縁部ハケ、胴部ナデ、外面タタキの後ハケ。部分的に僅かなり。	
703	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	-	(154)	-	にぶい黄褐色 褐色	底部は丸底状。胴部最大径は中位で135cm。内面ナデ。胴部下のナデは明確。外面タタキ。一部に赤黄帯有り。	
704	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	-	(114)	-	にぶい黄褐色 黒褐色 灰色	底部は丸底状。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
705	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 甕	-	(195)	-	にぶい黄褐色 褐色 褐色	胴部最大径は中位で28.2cm。内面胴部下家ハケ、外面タタキ。	
706	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 鉢	122	71	-	灰黄褐色 褐色	やや尖った丸底で粘土胎付底である。体部から口縁部は内湾する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
707	J区	SB1 (SD2051)	弥生土器 鉢	133	72	-	灰黄褐色 褐色	底部は丸底状。口縁部は内傾する面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
708	J区	SB1 (SD2051) P3172	弥生土器 鉢	130	(59)	-	にぶい黄褐色 黄色 褐色	体部から口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。内面ハケの後ナデ。体部に縦方向の黒状工具によるナデ。外面タタキの後ナデ。	
709	J区	SB1 (SD2051)	土師器 甕	307	(63)	-	にぶい黄褐色 浅黄色 褐色	胴部はやや内傾し直立し胴部で屈曲。口縁部は斜外上方に延びる。口縁部は断面形状を呈し、内傾する面を成す。内面ハケ、外面タタキの後ハケ。	
710	J区	SB1 (SD2051)	須恵器 杯	-	(19)	80	灰白色 *	底部は緩い凸面状を呈す。体部は直線的に外上方に延びる。内外面とも回転ナデ。	
711	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 甕か	180	(32)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 暗灰黄色	口縁部は外反し、肩部外面に粘土板を貼付し肥厚する。口縁部は面を成し、胴部を施す。内面ナデ、口縁部は横方向のハケ、外面ハケ、口縁部は縦方向のハケ。	
712	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 甕	-	(36)	-	黄褐色 褐色 にぶい褐色	胴部は上位で緩やかに外反して内上方に延びる。胴部の上位に縞状赤帯を2カ所以上配する。内面ナデ、外面ハケ。	
713	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 甕	-	(26)	-	にぶい黄褐色 *	外面に断面三角形の隆起状赤帯が3条以上出る。胴部上位片々。	
714	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 甕	-	(51)	125	にぶい褐色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	径の大きな平底。器壁厚い。内面ナデ、外面ミガキ。	
715	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 甕	-	(72)	66	浅黄褐色 浅黄褐色	底部は赤褐色の凹面を成す。胴部は直線的に外方に延びる。内面ナデ、外面ハケの後ミガキが施される。	
716	J区	SB3 (P3140)	弥生土器 甕	208	(116) (94) (56)	58	灰色 灰黄褐色 オリーブ黒色	底部は緩い凹面状。口縁部は粘土胎付により肥厚し、肩部は面を成す。口縁部に割目。胴部の上位に列点。内面ナデ、外面ハケ。底部はナデ。外面の一部に僅かなり。	
717	J区	SB3 (P3140)	土師器 甕	318	(25)	-	灰黄褐色 *	胴部で屈曲の後、口縁部は直線的に外上方に延びる。肩部は面を成し上方へ軽く突出する。内外面ともナデ。	
718	J区	SB3 (P3121)	土師器 瓶	-	(51)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	把手部。粘土接合痕。基部へ向かってのナデ帯を留める。	
719	A区	SB4 (SK2047)	土師器 杯	143	35	96	灰白色 *	底部肩部から口縁部まで直線的に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。白色で砂質の粘土。	
720	A区	SB4 (SK2047)	土師器 高杯	-	(42)	-	にぶい黄褐色 褐色 にぶい黄褐色	内外面ともナデ。杯部と胴部の接合部にナデを施す。杯部は白色の粘土。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
721	J区	SB4 (P3071)	土師器 高杯	-	(30)	-	浅黄褐色 褐色 浅黄褐色	頸部は唇部へ向かって外反し、4方向に透かしを配す。内外面ともナデ。頸部の上位に押圧痕が見られる。スリッパ(朱記)を遺す。	
722	D区	SD6 (SK2038)	須恵器 壺	9.2	(3.8)	-	灰オリーブ色 +	口縁部は軽く外反し、頸部は丸く収める。口縁部下位に沈線が走る。内外面ともナデ、自然釉がつかかる。	
723	D区	SD6 (P2208)	土師器 甕	16.9	(2.8)	-	褐色 + にぶい黄褐色	口縁部は外反して外上方に立ち上がる。頸部は太く丸く収め、胴みが施される。内外面ともナデ。	
724	D区	SD6 (P2208)	須恵器 杯身	11.0	(2.6)	-	黄灰色 +	体部は内湾し、受け部は軽く外方に延び、かまりは内上方に延びる。内面ナデ、外面回転ナデ、受け部径13.3cm	
725	D区	SB6 (P2208)	須恵器 杯身	11.6	4.3	-	黄灰色 灰色 灰白色	受け部は軽く外上方に延び、かまりは内傾する。内外面とも回転ナデ、内面底部に口ロ口目。外面体部下位から中上位まで回転ヘラタキズリ、受け部径14.3cm	
726	D区	SD6 (P2208)	土製品 土鉢	全長 30	全幅 1.2	全厚 1.1	浅黄色 -	管状土鉢、中心に直径0.4cmの円孔を穿つ。	
727	D区	SB6 (P2233)	須恵器 甕	23.0	(2.7)	-	灰白色 灰色 灰黄色	口縁部片、口縁部の内面に沈線状の浅い窪みが走り、口縁部は内傾する面を成す。内外面とも回転ナデ。	
728	C区	SK1	土師器 壺	10.4	(3.7)	-	褐色 + 黄灰色	口縁部は直線的に外上方に延び、頸部は丸く収める。内外面ともナデ。	
729	C区	SK1	弥生土器 甕	13.0	(2.8)	-	にぶい黄褐色 黄褐色 浅黄褐色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は直線的に立ち上がる。頸部は面を成し、上方へ微かに立ち上がる。	
730	C区	SK1	弥生土器 鉢	-	(3.8)	3.0	浅黄色 + 浅黄色・黄灰色	底の不明瞭な平底状の底部、底部から体部は軽く外反して立ち上がる。内外面ともナデ。	
731	C区	SK1	鉄製品 鋸先	全長 28.2	全幅 23.0	-	-	中央刃部の幅8.5cm、耳部の幅3.3cmを測る。片方の耳部は鋸を欠損する。柄の装着部分は長さ0.5～2.0cm程度。表面に木質の一部が付着する。重量727.0g	
732	A区	SK2009	鉄製品 刀子	全長 17.3	全幅 1.7	全厚 0.7	-	片方の刀子、峰から基部まで残存する。刃は直角で、峯には柄挿入に伴い隙間に詰められた木質の影響で付着する。重量25.0g	
733	A区	SK2014	弥生土器 壺	16.1	33.9	4.7	にぶい黄褐色 +	口縁部は外反し、口縁部は面取りされる。内面口縁部は横方向のハケ、頸部は短い単位の後ハケ。ナデ。外面口縁部・頸部は縦方向のハケ、頸部はタタキの後ハケ。	
734	A区	SK2014	弥生土器 壺	-	(1.3)	-	にぶい褐色 + にぶい黄褐色 + にぶい黄褐色・灰色	口縁部は外反し、頸部は丸く収める。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
735	A区	SK2014	弥生土器 甕	-	(33.5)	-	灰白色 灰黄色 灰色	底部は丸底状。胴部の最大径は中位で26.4cm、内面ハケ、外面タタキの後ハケ。ナデ。	
736	A区	SK2014	弥生土器 甕	16.4	24.7	3.5	にぶい褐色 灰色 黄灰色	底部は小さな平底状。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は軽く外反する。口縁部はナデにより下方に拡張する。内面ハケ。ナデ。外面側面タタキの後ハケ、口縁部ハケ。	
737	A区	SK2014	弥生土器 甕	19.4	25.3	-	褐色 +	底部は尖り気味の丸底状。口縁部は軽く外反し、頸部は面を成す。内面細かい単位の後ハケ。ナデ。外面タタキ、口縁部・胴部下位はタタキの後ハケ、外面底部にタタキ目。	
738	A区	SK2014	弥生土器 甕	16.6	22.5	-	灰黄色 にぶい黄褐色 +	底部は丸底状。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。内面ハケ。ナデ。外面タタキの後ハケ。	
739	A区	SK2014	弥生土器 甕	13.0	(11.4) (9.5)	-	にぶい黄褐色 +	底部は尖り気味の丸底状。頸部はくの字状で、口縁部は直線的に外上方に延びる。内面底部および頸部はナデ、口縁部ヘラナデ、外面タタキ、一部に復付着。	
740	A区	SK2014	弥生土器 甕	14.0	(12.8)	-	褐色 +	頸部はくの字状で、口縁部は直線的に延びる。頸部は面を成す。内面細かい単位の後ハケ、外面側面にタタキ、下部はタタキの後ハケ、口縁部はナデ、細かい単位の後ハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
741	A区	SK2014	弥生土器 甕	168	(129)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色・褐色色 にぶい黄褐色	胴部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケ、胴部はハケの後ナデ、外面タタキ。	
742	A区	SK2014	弥生土器 甕	186	(105)	-	にぶい黄褐色 褐色 にぶい黄褐色	胴部から口縁部は外反し、肩部は内傾する面を成す。内面ハケの後ナデ、外面タタキ、口縁部はナデ。	
743	A区	SK2014	弥生土器 甕	180	(106)	-	褐色 +	胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。肩部は不明瞭な面を成し、外側へやや肥厚する。	
744	A区	SK2014	弥生土器 甕	182	111	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 にぶい褐色・褐色色	口縁部は緩く外反する。内面ハケ・ナデ、外面タタキ。	
745	A区	SK2014	弥生土器 甕	142	(104)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 黄褐色	胴部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面細かい単位ハケ、外面タタキ、口縁部ではタタキの後ハケ、一部に露出。	
746	A区	SK2014	弥生土器 甕	156	(179)	-	にぶい黄褐色 黒褐色 黄褐色	胴部はくの字状で、口縁部は外反する。肩部は内傾する面を成し、外側へやや肥厚する。内面細かいハケ、口縁部は横方向のハケ、外面タタキ、口縁部はタタキの後ハケ。	
747	A区	SK2014	弥生土器 甕	-	(189)	-	にぶい黄褐色 褐色 +	底部は丸底状。内面丁寧ナデ、外面胴部上半はタタキ、下半はタタキをナデ出す。	
748	A区	SK2014	弥生土器 鉢	-	(74)	4.8	にぶい黄褐色 灰黄褐色 灰褐色	円柱状の高台、正形状を呈す。内面斜方向ハケ、外面タタキの後ハケ・ナデ。	
749	A区	SK2014	弥生土器 甕	-	(150)	4.0	褐色 +	底部は小さな平底状。内面ナデ、外面タタキ。底部から胴部はタタキの後ハケナデまたは細かい単位ハケ、外面底部にタタキ目を残す。	
750	A区	SK2014	弥生土器 甕	-	(115)	3.6	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	底部は小さな平底状。内面細かい単位ハケの後ナデ、外面タタキの後細かい単位ハケ。外面底部にタタキ目が残る。	
751	A区	SK2014	石製品 印石	全長 17.8	全幅 13.3	全厚 8.9	-	円錐のやや窪んだ面を主に使用する。内面と縁部に打痕を多く残す。一部は焼熟及び褐色化。チャールの付着が見られる。砂岩製。重量 2654g。	
752	A区	SK2014	石製品 印石	全長 13.1	全幅 8.9	全厚 4.1	-	扁平な円錐を用いる。縁部に打痕を残し、一部に大小の溝痕が存在する。砂岩製。重量 608g。	
753	A区	SK2015	土師器 碗	15.4	5.7	6.4	褐色 +	胴部にハの字状に開く高台が付く。体部は緩く内湾し、口縁部は直線的に斜上方に屈する。肩部は丸く収める。	
754	A区	SK2015	須恵器 壺	-	(44)	6.8	灰色 +	平底の底部端から胴部は直線的に立ち上がる。胎土中に白色粒・赤色チャート含む。小孔・気孔がみられる。内外面ともナデ。	
755	A区	SK2015	鉄製品 刀子	全長 5.9	全幅 1.9	全厚 0.4	-	刀身は幅広く、刃部が大きく湾曲する。両は側面狭角であるが、不均等で刃割が良い。基部途中で欠損。本頁が部分的に附着している。重量 60g。	
756	A区	SK2052	弥生土器 甕	169	(84)	-	褐色 +	胴部の屈曲は急で、口縁部は直線的に外反する。肩部はやや肥厚し、面を成す。内面ナデ、胴部以下に押し痕。外面口縁部はナデ、胴部に横・縦方向のハケ、胴部は強いナデ。	
757	A区	SK2052	土師器 甕	190	(64)	-	にぶい黄褐色 +	胴部は緩やかに曲がり、口縁部は短く立ち上がる。肩部は丸く収める。内面ナデ、胴部は押し痕が顕著。外面胴部ハケ、口縁部ナデ。	
758	A区	SK2052	須恵器 壺	156	3.8	-	灰白色 灰色 灰白色	やや扁平な宝珠の橋みを有する。内面ナデ。外面肩部中位以上はケズリ、口縁部は回転ナデ。	
759	A区	SK2053	土師器 鉢	17.2	(4.5)	-	明黄褐色 +	胴部で屈曲し、口縁部は短く外反する。肩部は丸味を帯びた面を成す。内面口縁部横方向のナデ、胴部ハケ、外面ナデ、口縁部押し痕が残る。	
760	A区	SK2053	須恵器 平瓶	-	(42)	12.4	褐色色 灰白色 +	底部は緩い凸面を成し、胴部は内湾し外側に張り出す。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
761	A区	SK2057	弥生土器 釜	-	(47)	56	灰黄褐色 ・ 褐色	底部はやや突出した平底状。内面ナデ、外面タタキの後ナデ、外面底部にタタキ目を残す。	
762	A区	SK2057	須恵器 杯	-	(18)	100	灰白色 灰色 褐色	平らな底部に断面形状の高台が特徴。付帯は四伏を呈す。内外面とも回転ナデ。	
763	A区	SK2061	弥生土器 鉢	17.3	(5.1)	-	褐色 浅黄褐色 灰オリーブ色	体部から口縁部は直線的に延び、肩部は太く丸く収める。内面ナデ、外面細かい単位へのハケ、口縁部に横方向のナデ。	
764	A区	SK2061	弥生土器 鉢	7.8	4.4	3.2	褐色 ・ 浅黄褐色	底部は押し潰した平坦面状を呈し、体部は丸味を帯びる。口縁部は平揃いで、概ね丸く収める。	
765	A区	SK2061	土製品 支脚	-	3.4	66	灰黄色 ・ にぶい褐色	中空の脚部。首部はハの字状に短く開く。	
766	A区	SK2062	弥生土器 鉢	10.2	5.4	-	褐色 ・ ・	底部は不安定な丸底状で、不明な凸面を収める。体部から口縁部は外方上に張り、肩部は細く丸く収める。内面ナデ、外面タタキ、外面底部は粗いナデ。	
767	K区	SK2162	弥生土器 釜	16.6	(3.2)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 黄褐色	ラッパ状に開く口縁部片。口縁部は斜下方に延び、丸く収める。内面ハケ・ナデ、外面ハケ・指掘り痕。	
768	B区	SK2070	弥生土器 不明	-	(4.7)	-	にぶい黄褐色 ・ 黄灰色	外面5条の黒褐色沈着と反線による山形文が施される。	
769	B区	SK2070	弥生土器 壺	-	(26.3)	76	黄灰色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色・褐色	内面ナデ、外面ハケの後、首部から胴部中に5〜7条を1単位とする多量沈着が高。胴部平位はナデ、外部付帯にミガキが施される。	
770	D区	SK2081	弥生土器 壺	12.8	(8.0)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 ・	口縁部は直立し、後に外反する。肩部は凹面を成し、外側にやや肥厚する。口縁部下に多量の黒褐色沈着帯と押し痕みを施した変帯が3条以上出る。内面ナデ、外面ハケ。	
771	D区	SK2081	弥生土器 壺	-	(2.7)	-	褐色 ・にぶい黄褐色 ・褐色 ・にぶい黄褐色	口縁部は直線的に内傾する。肩部は凹面を成す。内面横方向のハケ、外面斜方向のハケ、2条以上の黒褐色沈着による波状文。	
772	D区	SK2081	弥生土器 壺	-	(6.7) (7.9)	13.8	明黄褐色 褐色 明黄褐色	胴部中に6条、7条の黒褐色沈着帯を施し、その間に1単位3〜4個以上の円形浮文を配す。底部は細い凹面を呈す。内面ナデ、外面ハケ。胴径26.8cm	
773	D区	SK2081	弥生土器 壺	-	(11.7)	5.3	にぶい黄褐色 明黄褐色・褐色 にぶい黄褐色	底部は平底状で細い凹面を成し、胴部は丸味を帯びる。内面ナデ、外面ハケの後ヘラミガキ、胴部中に1単位5条以上の黒褐色沈着が出る。	
774	D区	SK2081	弥生土器 釜	-	(3.6)	60	褐色 にぶい黄褐色 灰オリーブ色	底部は平底状。胴部は下位で外反する。内面ナデ、外面丁寧なナデ又はミガキで仕上げられる。	
775	D区	SK2081	弥生土器 釜	-	(2.6)	70	褐色 褐色 にぶい褐色	底部は平底状。胴部は下位で外反する。内外面ともナデ、外面底部に押し痕を残す。	
776	D区	SK2081	弥生土器 壺	19.6	(6.4)	-	にぶい褐色 褐色・にぶい褐色 にぶい褐色	口縁部は僅かに外反する。肩部は狭い面を成し、外側にやや肥厚する。内面横方向のハケ、外面斜方向のハケ、口縁部斜方向のナデ、押し痕を残す。	
777	D区	SK2090	土師器 壺	16.6	(1.2)	-	明赤褐色 ・ 灰白色	天井部は中央部がやや凹む。口縁部は短く下方に向かい、肩部は丸く収める。内外面に赤色顔料を塗布する。内面ナデ・縮文風のミガキ、外面ナデ・ミガキ。	
778	D区	SK2090	土師器 釜	16.2	(2.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	口縁部は短く直線的に外上方に延びる。肩部は細い凸面を成す。内外面とも横方向のナデ。	
779	D区	SK2090	土師器 釜	17.5	(2.4)	-	にぶい黄褐色 ・ ・	口縁部は直線的に短く開く。肩部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ。	
780	D区	SK2090	土師器 釜	-	(17.3)	-	にぶい黄褐色 ・ 浅黄褐色	底部は丸底で、胴部は縦断面楕円形状を呈す。胴部最大径は下位。内面は丁寧なナデ、外面ハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
781	D区	SK2090	須恵器 杯身	132	(26)	-	灰色 +	受け部は短く外方に延びる。かよりは太く内方に延び、肩部は面を成す。内外面とも回転ナデ。受け部径15.8cm	
782	D区	SK2090	須恵器 杯	-	(1.5)	102	灰白色 +	底部端に断面台形状の高台がハケの付く。内面回転ナデ、外面ケズリの後回転ナデ。	
783	J区	SK2141	弥生土器 甕	220	(11.5)	-	にぶい黄褐色 褐色 にぶい黄褐色	丸味のある肩部から頸部は緩く屈曲し、口縁部は短く外反する。肩部は面を成し、外側へ肥厚する。内面ナデ、外面ハケ。	
784	J区	SK2143	鉄製品 不明	全長 4.2	全幅 2.8	全厚 1.5	-	断面形は方形状を呈す。L字状の屈曲部。重量130g	
785	J区	SK2147	弥生土器 壺	-	(6.1)	8.1	にぶい褐色 灰黄褐色 にぶい褐色	底部は平底状。底部は緩い凹面を成す。頸部は直線的に外上方へ立ち上がる。内外面ともナデ。	
786	J区	SK2147	弥生土器 壺	-	(2.7)	-	明黄褐色 +	頸部中、緩く屈曲する。内面ミガキ。外面ハケ。胴部上段に2条以上の波状を成す縦隆起帯が見られる。	
787	J区	SK2147	弥生土器 壺	228	(40)	-	明黄褐色 +	口縁部は外上方に延び、肩部は面を成す。口縁部下下に2条の縦隆起帯帯。内面ハケの長ミガキ。外面口縁部は縦方向のハケの横一部で横方向のナデ、一部に帯付着。	
788	J区	SK2147	弥生土器 壺	304	(18.9)	-	にぶい褐色 浅黄褐色	肩部は僅かに屈曲し、口縁部は外反する。内面ハケの後ナデ、ミガキ。外面口縁部ナデ。胴部は緩いナデ、胴部上段に3条の縦隆起帯帯、その上下に帯付着。	
789	J区	SK2149	弥生土器 壺	25.9	(2.4)	-	浅黄褐色 にぶい褐色 灰色	口縁部は内反し、肩部は上下に屈曲する。口縁部に内形浮文と竹割刺突文・縦溝文・半輪竹管文が施される。内外面ともナデ。	
790	J区	SK2151	弥生土器 壺	17.6	(10.9)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	口縁部端は粘土帯を折り返し外側に肥厚し、器口上の押圧痕の跡みを配す。胴部下に跡みを施した1条の縦隆起帯帯。内面ナデ、外面口縁部ナデ。胴部ハケ、一部に帯付着。	
791	J区	SK2151	弥生土器 壺 (ミニシアアケ)	7.2	(6.5) (4.6)	4.0	暗灰褐色 にぶい褐色 オリーブ黒色	底部は平底状。口縁部は外側へ粘土帯を折り返し肥厚する。内外面とも器口工具によるナデ、押し痕。	
792	J区	SK3001	磁器 皿	9.8	2.3	5.2	灰白色 +	高台は断面近三角形で、腹張状に底部端で横を持つ。体部は直線的に外上方に延び、口縁部は外反する。見込みに印刷による吉祥文字。	
793	J区	SK3001	磁器 皿	8.2	2.3	3.8	明緑灰色 +	摺り成形による方形小皿で、酒罍を浅く縁。両辺は緩く膨らみを持つ。方形の底部に断面近台形状の高台。内面縁部による菊花文。	
794	J区	SK3001	陶磁器 皿	-	(1.5)	5.2	灰白色 +	高台内は深く削り込まれ、器付は輪割。コマルト輪。内面花文又は菱草。外面区画(窓)を設け、花文とみられる文様を施す。高台輪に一重溝縁。	
795	J区	SK3001	磁器 皿	10.4	2.2	6.3	灰白色 +	輪花罍。高台の頸部は丸み味味に仕上げられる。体部から口縁部は内湾する。器付輪割。内面窓と鳥とみられる文様が描かれ、口縁部部に外縁を施す。	
796	J区	SK3001	陶磁器 皿	15.4	(2.7)	-	灰白色 明緑灰色 灰白色	肥前産摺り成形の菊罍。褐色の口縁が施される。	
797	J区	SK3001	陶器 鉢	-	(2.8)	-	灰オリーブ色 灰白色 +	体部は緩く内湾して延び、口縁部は屈曲して短く内下方に向かう。内外面とも所輪が施される。	
798	J区	SK3001	磁器 鉢	-	(3.6)	-	灰白色 +	横花状を呈す。口縁部は内反し、肩部は面を成す。内面花背文又は昆虫文。外面草花文。	
799	J区	SK3001	磁器 鉢	11.0	(3.4)	-	灰白色 +	体部は緩く外反し、口縁部は大きく外反する。内面椅子目文。口縁部に細長く外縁を施す。外面に乳輪付文。	
800	J区	SK3001	陶器 鉢	18.0	(3.8)	-	暗灰黄色 - 黄灰色	胴部は直線的に上方に立ち上がる。肩部は緩い凸面を成し、内側に肥厚する。内面口縁部に白色輪。胴部に暗灰色輪。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
801	J区	SK3001	磁器鉢	24.1	(2.3)	-	灰白色 *	椀花型の鉢で、八角形を呈す。底部で縁く傾出し、短く立ち上がった後、口縁部は外方に延び、肩部は面を成す。	
802	J区	SK3001	磁器碗	-	(1.7)	3.6	灰白色 *	内面底部に2重線縁、見込みに内、外、草、内面は面を区画し、文様を施す。高台の基部に1重線縁、コバルト藍。	
803	J区	SK3001	磁器碗	-	(2.3)	7.0	灰白色 明緑灰色 灰白色	底部端にやや高い高台を削り出す。体部から口縁部は直線的に外上方へ延びる。肩部は丸く収める。見込みに十字花文、高台の基部に線縁が施される。	
804	J区	SK3001	陶磁器 徳利	-	(10.8)	-	灰白色 *	胴部は内湾する。内面線縁、胴部上位にワザ目を残す。外面草花文、透明釉はやや青灰色を帯びる。	
805	J区	SK3001	陶磁器 瓶	-	(2.2)	-	浅黄褐色 灰白色 *	底部端に高台が付くと見られる。内面線縁、回転ナデ。	
806	J区	SK3001	陶磁器 徳利	5.6	(3.8)	-	明緑灰色 * 灰白色	胴部の瓶。肩部は上方へ縁く反して立ち上がる。肩部は丸く収める。	
807	J区	SK3001	弥生土器 壺	-	(15.8)	-	にぶい黄褐色 に、ぬい褐色 褐色	胴部内。胴部は高さ定 42.0cm前後。内面踏伏工具によるナデ、外面ハケの痕ミダナ。	
808	J区	SK3001	石製品 石斧	全長 13.3	全幅 5.2	全厚 3.9	-	大型動石斧。平面部は緩い分削形、断面形は楕円形状。基部の一部を除いて面を成し、打痕を留める。基部は丸み滑らか。緑色片岩製か、重量 47.0g	
809	J区	SK3001	石製品 石斧	全長 13.8	全幅 12.0	全厚 1.9	-	分削形。尾首の薄皮層を用いる。比較的薄い母材の中間両側縁から獲伏に決る。両部鋭い刃部を形成し、明瞭でない浅い溝を施す。重量 31.5g	
810	J区	SK3002	磁器鉢	-	(1.7)	7.4	灰白色 *	肥前重向付鉢。見込みに五弁花。体部に不明文様。外面高台内に1重線縁、「八川」の文字。体部下位に1重線縁が施される。	
811	J区	SK3002	陶器皿	-	(4.2)	13.2	オリーブ灰色 灰色	高台は断面台形状の削り出し。内面白化粘土による刷毛目文。褐色釉が下部に垂下し、重ね釉による目影が残る。外面ケズリの後ナデ。体部の下位は露出する。	
812	J区	SK3002	陶器皿	10.2	2.0	5.2	灰赤色 赤褐色 にぶい赤褐色	受付付明皿。平底。体部から口縁部は外上方に延び、肩部は細く丸く収める。内面体部中央に断面三角形状の受け部が付く。内外面とも回転ナデ。	
813	J区	SK3002	陶磁器 皿	12.0	(1.7)	-	にぶい赤褐色 * 褐色	受付付明皿。内外面とも鉄釉が施される。体部は縁く内湾し、口縁部は縁く直線的に外上方に延びる。内面口縁部下に受け部が付く。内面ナデ、外面回転ナデ。	
814	J区	SK3002	陶器皿	11.5	2.0	5.0	黄灰色 にぶい赤褐色 褐色	灯明皿。平底から口縁部は外上方に延び、肩部は尖り気味に収める。内面ナデ、外面回転ナデ。内面口縁部と外面にテール状の帯付着。	
815	J区	SK3002	陶磁器 鉢	8.4	(2.6)	-	灰白色 明緑灰色 灰白色	受付付丸鉢。口縁部はやや外上方に延び、肩部は縁く丸く収める。外面草花文。	
816	J区	SK3002	陶磁器 碗	7.6	(2.8)	-	灰白色 *	液注見境くらかんか手の碗。胎土はやや灰色を帯びる。体部から口縁部は内湾し上方に延び、肩部は丸く収める。外面草花文。	
817	J区	SK3002	陶磁器 碗	7.8	(3.8)	-	灰白色 *	肥前系煎茶碗。内面口縁部に1重の線縁、外面口縁部に2重線縁及び寿文を配す。	
818	J区	SK3002	磁器 碗	-	(2.8)	4.0	灰白色 *	肥前系。能茶山焼か。丸形碗。底部端の高台はやや内湾。高台内は縁く削り出し、体部は内湾し外上方に延びる。外面草花文、高台に2重線縁、高台内に1重線縁と施される。	
819	J区	SK3002	陶磁器 碗	9.8	5.7	5.0	浅黄褐色 灰白色 *	丸形の湯飲み茶碗。内面黄白釉。外面に風景が景付けされる。	
820	J区	SK3002	陶磁器 鉢	16.8	6.0	8.8	灰白色 *	口縁部陥花型を呈する向付鉢。肥前系。内面草花文、見込み2重線縁内に五弁花文。外面草花文と1重線縁、高台2重線縁。高台内湾縁と1重線縁。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
821	J区	SK3002	陶器 碗	112	75	46	灰オリーブ色 ・ 灰白色	内器手形の腕、内外面とも緑灰釉、高台部分に釉剥ぎ。	
822	J区	SK3002	陶器 碗	-	(27)	42	オリーブ黄色 ・ 黄灰色	小型の煎茶碗、内外面とも緑灰釉、外面底部は釉剥ぎする。	
823	J区	SK3002	陶器 鉢	124	(42)	-	灰オリーブ色 灰黄色 灰白色	向付鉢、腰部は腰部で屈曲し、口縁部は上方に延びる。腰部は内側に陥し、丸く収める。内外面とも緑灰釉、外面に「井」の文様が施される。	
824	J区	SK3002	陶器 鉢	-	(45)	200	暗赤灰色 赤灰色 にぶい ・ 橙色	底部端に断面台形状の高台が付く。内外面ともナメ、暗褐色の釉薬が少く、器は高台が立つ。	
825	J区	SK3002	陶器 鉢	168	64	90	黒色 黒褐色 暗灰色	方形の角鉢向付。内外面とも鉄釉、見込み蛇の目輪剥ぎ、アルミナ粉を塗布、重ね焼きに伴う帯着が残り、釉の表面には小気泡、高台内は黒く塗り込まれる。	
826	J区	SK3002	陶器 指鉢	-	(44)	-	にぶい赤褐色 暗赤灰色 にぶい ・ 橙色	口縁部は外側に肥厚する。腰部は垂直な面を成し、2条の細い沈線が走る。器目は9条1単位、内外面とも回転ナメ、外面口縁部に自然釉が付着する。	
827	J区	SK3002	陶器 指鉢	-	(36)	-	にぶい ・ 赤褐色 にぶい ・ 赤褐色	口縁部は外側に肥厚する。腰部は垂直な面を成し、2条の細い沈線が走る。器目は12条1単位、外面に僅け付着。	
828	J区	SK3002	陶器 葉	-	(77)	-	青灰色 黄褐色 黄灰色	丹波産。口縁部は短くやや上方に延び、腰部は緩い凹面を成し内外に肥厚する。胴部上位に黒状工具による段部が連続し、胎土粒を同層状に貼付し押圧する。	
829	J区	SK3002	陶器 葉	-	(67)	142	にぶい ・ 褐色 赤灰色 にぶい ・ 褐色	底部は浅い凹面を成す。内外面とも回転ナメ、内面底部及び胴部の下位にロクロ目が見える。外面胴部に鉄泥（陶物か）を塗布し、底部は磨き出し黄褐色の痕跡が残る。	
830	J区	SK3002	陶器 瓶	-	(110)	-	青灰色 暗赤灰色 青灰色	滑徳料、内面は高台、外面鉄釉が施され、肩部に把手の一部が残る。	
831	J区	SK3002	陶器 瓶	-	(71)	57	灰白色 ・ ・	肥前系。内面は高台、胴部にロクロ目を残す。外面黄の野菊文、胴部下位及び高台に1重の彫線が走る。	
832	J区	SK3002	陶器 瓶	-	(92)	122	灰色 暗褐色 灰白色	底部は平底状で、胴部は直立。内外面とも回転ナメ、内面はロクロ目顯著、胴部上位にケール状の保厚帯、底部に自然釉、外面は施釉、底部に研毛状工具の痕跡。	
833	J区	SK3002	陶器 徳利	-	(176)	94	にぶい ・ 黄褐色 灰白色	底部端に断面長方形の高台、内外面とも回転ナメ、内面はロクロ目顯著、高台する。外面胴部の上位に白釉または白化餅土、下位は黄灰釉が施される。	
834	J区	SK3002	土器 器皿	74	10	47	にぶい ・ 黄褐色 ・ 浅黄褐色	底部から口縁部は外方に開き、腰部は尖り気味に丸く収める。内面回転ナメ、外面ナメ、内面の一部に僅け付着。底部切り際は目録未切り。	
835	J区	SK3002	土器 器碗か	35.0	(3.0)	-	黄灰色 灰黄褐色 にぶい ・ 黄褐色	内外面ともナメ。	
836	J区	SK3002	土製 品 硯臼	-	(103)	-	にぶい ・ 黄褐色 ・ 褐色 にぶい ・ 黄褐色	内部構造を持つ箱型、内外面ともナメ、外面の一部に僅け付着。	
837	J区	SK3002	須恵 器 杯	148	(36)	-	灰色 ・ ・	腰部は緩く外反し、腰部は丸く収める。内外面とも回転ナメ、内面底部に火槽様の焼成痕が残る。	
838	J区	SK3002	須恵 器 壺	-	(37)	76	灰白色 黄灰色 灰白色	底部端に断面台形状の高台がハの字状に付く。内面回転ナメ、外面ケズリの後ナメ、外面底部はナメ、粘土粒を残す。	
839	J区	SK3002	瓦質 土器 指鉢	196	(63)	-	灰色 ・ 灰白色	腰部は直線的に外上方に延び、口縁部で屈曲し短く内湾する。腰部は太く丸く収める。内外面とも横方向のナメ、内面器目は縦方向あるいは斜方向で、5条1単位。	
840	J区	SK3002	瓦	全長 9.3	全幅 8.0	全厚 3.5	暗灰色 灰色 黄灰色	凹面に布目付痕、凸面タケの痕跡が残る。粘土中に白色粒を含み、中ないし大規模の貫孔が見られる。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
841	J区	SK3002	石製品 台石	全長 168	全幅 100	全厚 67	-	砂岩製。平面形は不整形長方形。表面及び両側面の調整が著しい。焼熱のためか、表面は細かな打痕による細かい凹面を成し、表面は打割による粗い凹面を留める。	
842	J区	SK3002	鉄製品 釘	全長 147	全幅 35	全厚 09	-	断面形は方形状を呈す。重量 117.0g。	
843	J区	SK3002	鉄製品 釘	全長 34	全幅 1.0	全厚 05	-	湾曲した釘の先端部。頭部を欠く。断面形は方形状を呈す。重量 1.0g。	
844	J区	SK3002	鉄製品 釘	全長 46	全幅 1.6	全厚 07	-	断面形は方形状、頭部は楕円形状を呈す。重量 4.0g。	
845	J区	SK3002	鉄製品 釘	全長 48	全幅 0.9	全厚 07	-	断面形は円形状、先端は欠損する。頭部は円形状を呈す。重量 2.0g。	
846	A区	SK2016	須恵器 杯	-	(3.4)	-	灰白色 灰青色 *	口縁部は直線的に外方に延び、頭部は短く外反する。口縁部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。	
847	A区	SK2016	緑釉陶器 椀	-	(2.1)	7.8	浅黄褐色 * *	釉の発色は灰白及びオリーブ灰色で、黄になる。見込みは粘滞多。高台は断面近台形状で筒より曲しによる。外面回転ナズ。	
848	A区	SK2018	須恵器 葉	-	(7.6)	-	灰色 *	外面タタキ。	
849	A区	SK2020	石製品 砥石	全長 73	全幅 60	全厚 33	-	自然石の2面を砥石として使用。砂岩製。重量 780g。	
850	C区	SK2032	土師器 皿	-	(0.8)	4.6	黄灰色 * 明黄褐色	平らな底部に断面近台形の高台が付く。内面ナズ。	
851	C区	SK2032	土師器 皿	-	(1.7)	7.6	にぶい褐色 褐色 浅黄褐色	底部は緩い凸面を成す。底部端に凹線状の打痕を有し、体部は緩く内湾して立ち上がる。内外面ともナズ。	
852	C区	SK2032	須恵器 杯	-	(2.1)	9.0	灰色 *	底部に直立した断面方形状の高台が付く。底部端で内湾して立ち上がる。内面回転ナズ。外面ナズ。胎土中に小円孔と小・中円孔が見られる。	
853	C区	SK2032	須恵器 高杯	149	(2.4)	-	灰色 *	精緻で薄手に仕上げた。杯部は屈曲部を持つ。口縁部は直線的に延び、短く外反する。細く仕上げた頭部は丸味を持ち、外側に線を有する。	
854	C区	SK2032	石製品 砥石か	全長 52	全幅 5.0	全厚 1.7	-	使用面としたものは1面のみで、破断等により一部が残存する。自然面と考えられ、小さな凹凸を残しているが、摩滅等により非常に滑らかなになる。重量 44.0g。	
855	C区	SK2035	弥生土器 葉	167	(2.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	頭部の屈曲は急で、口縁部は短く外上方に開く。頭部は上下に拡張して面を成し、2条の凹線が走る。胎薄薄い。内面口縁部ナズ。胴部はケズリか、外面ナズ。深付器。	
856	D区	SK2037	須恵器 杯蓋	152	(1.3)	-	灰白色 *	口縁部は丸く収め、口縁部下に短いかえりが付く。内外面とも回転ナズ。	
857	D区	SK2037	須恵器 杯	129	(3.8)	-	灰白色 *	体部は腰状の屈曲部から直線的に外方に延びる。口縁部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。	
858	D区	SK2043	弥生土器 葉	132	(6.1)	-	にぶい黄褐色 *	頭部は緩く湾曲し、口縁部は短く外上方に開く。頭部は丸味を帯びた面を成す。内面ハタ、胴部はハタの後ナズ。外面口縁部タタキの後ナズ。胴部タタキ。深付器。	
859	D区	SK2043	弥生土器 葉	126	(4.3)	-	にぶい黄褐色 *	頭部はくの字状に湾曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。頭部は狭い凹面を成す。内面口縁部細かいハタ。胴部ナズ。外面タタキ。	
860	D区	SK2043	弥生土器 台付鉢	-	(3.5)	8.0	にぶい黄褐色 *	台部はやや短く開き、頭部は押し潰された粘土で、広く安定した面を成す。内面ハタ。外面ナズ。鉢部と台部の境目に押し直が残る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
861	A区	SK2048	弥生土器 壺	-	(35)	4.6	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	底部は平底状、内面ナデ、押圧痕を残す。外面ヘラミゴキ・ナデ。	
862	A区	SK2060	弥生土器 甕	14.9	(5.1)	-	褐色 + 黒褐色	肩部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。肩部は面を成し、外側にやや肥厚する。内外面ともハテ。	
863	A区	SK2060	弥生土器 甕	-	(8.8)	4.0	明黄褐色 にぶい褐色 黄灰色	底部は小さな平底状、内面ヘラナデ、外面タタキの後ハケ。	
864	A区	SK2060	石製品 印石	全長 10.5	全幅 2.6	全厚 1.6	-	断面形は楕円形。棒状の銀打具で両端に打痕や割線を残す。肩部は板状か、首管製か。重量 67g	
865	A区	SK2063	弥生土器 鉢	-	(2.5)	2.8	にぶい褐色 褐色	底部は押し潰した小さな平底状、内面ナデ、外面タタキ。	
866	A区	SK2063	弥生土器 高杯	-	(6.9)	-	浅黄褐色 褐色 灰黄色	残存脚部中央に直径 0.4cm の円形彫刻（未貫通）を 7ヶ所以上配する。内面ナデ、外面ハテの後ナデか。	
867	A区	SK2063	須恵器 杯蓋	14.4	(1.6)	-	灰色 + +	口縁部は緩く屈曲し、肩部は丸く収める。内面ナデ、外面天舟部ケズリ、口縁部回転ナデ。	
868	A区	SK2063	須恵器 杯身	13.0	(3.2)	-	灰白色 + +	底部端は内湾し、口縁部に向かって直線的に立ち上がる。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
869	B区	SK2065	土師器 杯	-	(1.4)	7.1	褐色 + +	底部切り崩しは回転糸切り。摩耗著しく調査は不明瞭。	
870	B区	SK2066	土師器 杯	-	(2.6)	-	にぶい褐色 褐色 にぶい褐色	口縁部は外上方に開き、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
871	B区	SK2069	土師器 碗	18.0	(3.4)	-	淡黄色 + 灰白色	口縁部は緩やかに外反する。内外面とも回転ナデ、大樽が見られる。	
872	D区	SK2072	須恵器 杯	12.0	(3.6)	-	灰白色 + +	体部は腰折状の屈曲部から直線的に外上方に延びる。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
873	D区	SK2074	土師器 杯	-	(0.9)	7.9	赤褐色 浅黄褐色 にぶい黄褐色	底部端は湾曲し、体部は直線的。内面回転ナデ、外面ナデ。外面底部に粘土様残痕と奥土具によるとみられる圧痕が残る。	
874	D区	SK2074	須恵器 高杯	10.4	(2.9)	-	灰白色 + +	杯部中央で屈曲し、口縁部は緩く外反する。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、内面の一部に窪行へ。	
875	D区	SK2074	須恵器 高杯	-	(0.7)	10.5	灰白色 + +	脚部で大きく外反し、肩部は凹面状を呈し、上方へ細く突出する。内面回転ナデ、外面ナデ。	
876	D区	SK2074	緑釉陶器 皿	-	(2.0)	-	浅黄色・明小褐色 浅黄色 灰白色	内面に彫刻文。	
877	D区	SK2075	弥生土器 甕	11.2	(2.4)	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	肩部は屈曲は緩やかで口縁部は外反する。肩部は丸く収める。内面ナデ、外面タタキ。	
878	D区	SK2075	弥生土器 鉢	19.2	(4.8)	-	淡黄色 + 灰色	口縁部は外反し、外上方に延び、肩部は面を成す。内面ナデ。外面ハテ又は貫通工具によるナデ、口縁部破片方向のナデ。	
879	D区	SK2077	土師器 甕	15.0	(5.6)	-	灰黄褐色・にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 + +	肩部は緩いくの字状で、口縁部は緩く開く。肩部は外側に凹面状、内側にナデによる段。内面口縁部粗いハケ、胴部ナデ、粘土様結合痕。外面口縁部ナデ、胴部粗いハケ。	
880	J区	SK2148	弥生土器 甕	-	(13.1)	-	灰黄褐色 にぶい褐色 黄灰色	胴部最大径は上位で 18.3cm。内面ハテの後ナデ、外面タタキの後ハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
881	K区	SK2153	土師器 椀	152	51	7.0	灰白色 浅黄褐色 灰白色	口縁部は縦やかに外反する。ハの字に開く高台が付 き、高内面に糸切りの痕跡が残る。内外面ともミガキ。	
882	K区	SK2154	土師器 椀	154	(3.4)	-	褐色 *	底部から僅かに内湾し、口縁部は外上方に開く。外面回 転ナデ。	
883	J区	SK2155	弥生土器 釜	-	(12.3)	-	浅黄色 + 黄灰色	底部は丸底状。胴部最大径は中位。内面ハケの後ナデ、外 面タタキ。	
884	J区	SK2155	弥生土器 釜	-	(2.3)	5.6	黒褐色 灰黄褐色 黒褐色	底部は平底状。胴部は外上方に見げる。内面ナデ、外面ハ ケ。	
885	J区	SK2155	土製品 支脚	-	(3.7)	9.5	にぶい黄褐色 黄褐色 *	脚部は縦く外反して短く開く。肩部は丸く収める。 内外面ともナデ、外面に浅い凹凸面を残し、一部に煤付 着。	
886	K区	SK2163	土師器 杯	160	(1.8)	-	にぶい黄褐色 褐色 浅黄褐色	口縁部は直線的に外上方に延び、肩部は丸く収める。内 外面とも回転ナデ。	
887	K区	SK2163	土師器 杯	140	(3.2)	-	明黄褐色 + にぶい黄褐色	口縁部は縦やかに外反する。内面ナデ・ミガキ、外面回 転ナデ。	
888	K区	SK2163	土師器 杯小椀	-	(1.3)	6.4	浅黄褐色 褐色 浅黄褐色	やや外側に開く低い高台を有する。摩耗著しく調整は不 明瞭。	
889	K区	SK2163	土師器 杯小椀	-	(1.4)	7.4	褐色 浅黄褐色 灰白色	底部片、底部切り離しは回転糸切り。	
890	K区	SK2163	鉄製品 鉄釘	全長 5.4	全幅 1.3	全厚 0.6	-	角釘か。重量 70g	
891	L区	SK2164	弥生土器 釜	11.0	(3.8)	-	にぶい褐色 明赤褐色 + にぶい黄褐色	深い肩部から口縁部は外反する。口縁部は上下に拡張 し、それぞれに割目を施す。肩部に2条以上の横溝状 筋が走る。	
892	L区	SK2165	陶胎染付 椀	-	(2.3)	-	明緑灰色 + 灰白色	外面高台に2条の横線、体部下位に文様が施される。見 込み残存部にハヤ痕が認められる。肥前系、浅色見か。	
893	L区	SK2165	陶器 鉢小	25.6	(9.3)	-	褐色 にぶい褐色 灰黄色	口縁部は内側に肥厚し、天井部は輪を割く。内外面とも 鉄輪が施される。	
894	北区	SK3	土師器 皿	11.6	2.4	7.0	浅黄褐色 *	底部端から体部は縦く外反する。肩部は丸く収める。内 外面とも回転ナデ。	
895	北区	SK6	土師器 皿高杯	-	(2.1)	-	明赤褐色 褐色 *	口縁部片。肩部は丸く収め、上方に肥厚する。内面ミガ キ、赤色顔料塗布する。外面ナデ・ミガキ。	
896	北区	SK6	須恵器 釜	-	(4.5)	-	灰白色 + にぶい黄褐色	胴部片。内面同心円状のタタキ、外面平行タタキを菱形 状に配したものが。	
897	K区	SD1	土師器 羽釜	224	(5.4)	-	にぶい黄褐色 + にぶい褐色	口縁部直下に断面長方形の溝が走る。内外面ともナデ、 外面側直下に押圧痕が残る。	10c
898	A区	SD2005	須恵器 釜	180	(4.9)	-	灰黄色 灰色 にぶい黄色	口縁部は縦く外反し、肩部は面を成す。内外面とも回 転ナデ。	
899	A区	SD2005	石製品 叩石	全長 8.7	全幅 8.5	全厚 7.7	-	立方体の5面及び縁道2辺に磨打痕がみられる。重量 887.0g	
900	B区	SD2010	須恵器 高杯	-	(3.0)	10.0	灰白色 黄灰色 灰白色	胴部片。胴部は内傾する半凹面状を呈す。内外面とも 回転ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
901	B区	SD2010	須恵器 高杯	-	(22)	120	黄灰色 黒褐色 灰白色	脚部片。裾縁部は内傾する平坦面状を呈す。内外面とも回転ナズ。	
902	B区	SD2010	鉄滓	全長 8.1	全幅 5.0	全厚 3.2	-	重量 237.0g	
903	C区	SD2013	須恵器 杯	-	(16)	86	灰白色 灰色 灰白色	底部端に断面逆台形の高台が付く。胎土中に履版の大きな数孔が存在する。内外面ともナズ。	
904	J区	SD2049	鉄製品 釘	全長 22	全幅 0.5	全厚 0.4	-	釘の先端部。断面形は不整方形状または長方形状を呈す。重量 1.0g	
905	J区	SD2049	鉄製品 不明	全長 93	全幅 1.2	全厚 0.6	-	先端はやや厚みがあり、平面形は楕円形状を呈す。基部は断面方形状で、軸状である。重量 10.0g	
906	K区	SD2053	弥生土器 鉢	138	6.0	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	底部は丸底状。内面底部を中心とする放射状のハケ。外面タタキ・ナズ。	
907	L区	SD2057	弥生土器 壺	-	(5.3)	-	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	外面に轡輪による直線文及び波状文が施される。	
908	L区	SD2057	白磁 碗	120	(3.0)	-	灰白 + 黄灰色	口縁部は玉縁状。内外面とも白磁釉が施される。	
909	L区	SD2057	白磁 碗	180	(1.9)	-	にぶい黄色 + 浅黄色	口縁部は玉縁状。内外面とも白磁釉が施される。釉調はにぶい黄色。	
910	L区	SD2057	瓦質土器 鉢	-	(4.2)	-	にぶい黄色 黄灰色・灰黄色 灰黄色	口縁部は上方に拡張し、頸部は内傾する面を成す。焼成不良。	
911	L区	SD2057	瓦質土器 羽蓋	-	(3.7)	-	灰色 + 灰白色	口縁部は水平な平坦面状で、口縁部下に断面長方形の溝が走る。溝の縁部は下方へ僅かに拡張する。	
912	L区	SD2057	瓦質土器 羽蓋	-	(3.7)	-	暗灰黄色 灰色 灰白色	口縁部は水平な平坦面状で、口縁部下に断面三角形の短い溝が走る。	
913	L区	SD2057	製塩土器	-	(2.8)	-	明黄褐色 + にぶい黄褐色	内面に赤目瓦肌。	
914	L区	SD2057	土製品 不明	全長 4.0	全幅 1.4	全厚 1.2	- 淡黄色 灰黄色	鋭い角状を呈す。器形不明。	
915	L区	SD2057	土製品 土鉢	全長 3.5	全幅 1.4	全厚 1.4	- 明赤褐色 -	管状土鉢。孔径 0.4cm	
916	L区	SD2057	土製品 土鉢	全長 4.1	全幅 1.4	全厚 1.5	- 橙色 -	管状土鉢。孔径 0.3cm	
917	L区	SD2058	平瓦	全長 11.2	全幅 6.3	全厚 2.6	淡黄色 灰黄色 +	内面に赤目瓦肌。	
918	L区	SD2059	弥生土器 甕	248	(7.1)	-	にぶい黄色 + にぶい黄褐色	口縁部は横やかに外反し、肩部は横方向のナズにより断面四角形状を呈す。内面横方向のハケ。外面縦方向のハケ。口縁部縦方向のナズ。	
919	L区	SD2059	弥生土器 甕	326	(3.9)	-	明黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	肩部はくの字状に原曲し口縁部は外反する。肩部は僅かに外側へ肥厚する。内面口縁部は横方向のハケ。肩部は斜方向のハケ。外面口縁部タタキの後ハケ。横方向のナズ。	
920	L区	SD2059	弥生土器 壺か甕	-	(3.8)	-	黒褐色 +	外面残存部に9本の貫通沈線が走る。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
921	L区	SD209	弥生土器 壺か甕	-	(37)	-	にぶい黄褐色 オリーブ褐色 にぶい黄褐色	外面残存部に3条以上の隆起状突起がある。	
922	L区	SD209	弥生土器 壺か甕	-	(41)	-	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	外面残存部に4条以上を1単位とする突起状突起がある。	
923	L区	SD209	弥生土器 ミニチュアか	-	(27)	40	にぶい黄褐色 灰黄褐色	底部は小さな平底状。外面底部中央部は凹む。内外面ともナデ。外面に篋状工具による圧痕が残る。	
924	L区	SD209	石製品 叩石	全長 20.5	全幅 7.6	全厚 5.9	-	棒状の円錐の一方を使用する。重量 1526.0g	
925	K区	P13	弥生土器 甕	-	(25)	38	にぶい黄色 黄褐色 黄灰色	底部は小さな平底状。内面ナデ、外面ナタキ。	
926	A区	P2001	弥生土器 壺	-	(80)	-	褐色色 灰黄褐色 褐色色	口縁部は直線的に外反し、肩部は欠損。内面ナデ、口縁部細かい単位の外反。肩部は横方向のナデ。底部はヘラナデ。外面タタキ。口縁部は横方向の細かい単位のハテ。	
927	A区	P2013	黒色土器 椀	-	(19)	-	黒色 + +	口縁部は直線的に並び、断面内面に段を有する。内面ナデ、外面口縁部は横方向のナデ。	
928	A区	P2027	石製品 砥石	全長 4.5	全幅 4.5	全厚 4.5	-	5面を使用。表面に長軸に直交する不連続な段、縁部に磨痕。裏面に斜方向の縦条と横方向の磨痕。裏側面と横方向の縦条と磨痕。断面に不定方向の縦条。重量 85.0g	
929	A区	P2028	土師器 甕か	112	(30)	-	褐色 + 明黄褐色	内面肩部に沈線状の窪みを有する。口縁部は緩く外反し、肩部は太く丸く収める。内外面ともナデ、一部に帯付着。	
930	A区	P2037	土師器 杯	148	41	86	褐色 + にぶい褐色 浅黄褐色	体部は直線的に並び、口縁部は緩く外反する。肩部は丸く収める。内面回転ナデ、見込みに粘土線痕。外面体部口クロ目顯著。口縁部回転ナデ。底部切り離しはへつ切り。	
931	A区	P2038	土師器 杯	-	(16)	64	にぶい褐色 +	底部は厚く、円盤状。破断面を含めた一部に帯付着。内面ナデ。	
932	A区	P2043	土師器 杯	106	30	52	褐色 + 浅黄褐色	底部端から口縁部は直線的に並び、肩部は丸く収める。内外面ともナデ。底部切り離しは別軸切断。	
933	A区	P2071	土師器 椀	164	(18) (22)	48	灰白色 にぶい黄褐色 灰白色	口縁肩部は丸く収める。断面三角形の輪高台が付く。内面底部丁寧なミガキ。外面ミガキ。	
934	A区	P2071	石製品 石包丁	全長 6.2	全幅 4.4	全厚 0.8	-	1面は自然面。後面は調整する。短辺の2カ所に抉りをする。砂岩製。重量 28.0g	
935	A区	P2073	弥生土器 甕	220	(235)	-	褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。肩部と胴部の境目に2条の隆起状突起を帯付する。内面ハケミガキ。外面肩部以上は縦方向のハテ、以下はハケナデ。	
936	A区	P2075	弥生土器 甕	-	(69)	87	にぶい黄褐色 + +	底部は平底状。内面ナデ。外面ハケナデ。	
937	A区	P2104	土製品 支脚	-	41	-	にぶい黄褐色 灰色	支脚の支部の先端部と見られる。角状を呈す。押し痕・粘土線痕を残す。上面はナデ。比較的滑らかに仕上げ。	
938	A区	P2115	須恵器 杯身	125	(25)	-	にぶい黄褐色 灰白色 黄灰色	口縁部は外上方に並び、受け部端で上方を指向。かえりは緩く内傾し、肩部は上方に並び、内外面とも回転ナデ。一部に帯付着。断面に小規模な円・袋孔。受け部径 15.0cm	
939	A区	P2117	須恵器 蓋	160	(22)	-	灰白色 + +	柄みを欠損。口縁部は緩く直立し、肩部は尖り気味に丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面天井部の上位に粘土線痕合痕。中位にケズリ、下位は口クロ目を残す。	
940	A区	P2118	須恵器 蓋	150	36	-	灰白色 + +	口縁部は直線的に直線的に並び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面天井部は口クロ目顯著。外面天井部上位は滑いナデ。中位はケズリ。口縁部はナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法器 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考	
				口径	器高	底径				
941	C区	P2149	弥生土器 鉢	56	(49)	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	底部から口縁部は内湾する。肩部は粗に丸く収める。内外面ともナズ、凹凸面を残す。		
942	C区	P2149	白磁 碗	184	(31)	-	灰白色 +	口縁部は緩く内湾して立ち上がる。肩部は丸く収め、外側に粘土を貼付することにより肥厚する。胎土中に小規模な凹孔が多数。貫孔は軽色。	11c 後～ 12c 前	
943	C区	P2167	弥生土器 鉢	130	(52)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色・オリーブ黒色 +	口縁端部は尖り気味で未調整。内面ハケ。外面タタキ・ナズ。		
944	C区	P2169	弥生土器 鉢又は壺	126	(39)	-	橙色 明黄褐色 浅黄褐色	口縁部は緩く内湾して立ち上がる。肩部は面を成す。内面細かいハケ。口縁部には横方向のナズ。外面ナズ、口縁端部は横方向のナズ。		
945	C区	P2169	弥生土器 鉢	-	(21)	32	にぶい黄褐色 黒色 灰色	底部は小さな平底状を呈す。貼付痕か、内面ハケ、外面タタキ。		
946	C区	P2169	弥生土器 鉢	112	(42)	-	にぶい黄褐色 +	器壁厚い。底部から口縁部は内湾して立ち上がる。肩部は尖り気味に丸く収める。内面ナズ、外面タタキの後ナズ。器面に貫孔と凹凸面が残される。		
947	C区	P2169	ミニチュア 土器	-	(49)	-	にぶい黄褐色 + 浅黄褐色	壺又は鉢型の小型の土器。丸底の底部から胴部は内湾して立ち上がる。内面磨きによるナズ、外面タタキの後ハケ・ナズ。		
948	C区	P2169	土製品 支脚	-	7.1	-	浅黄褐色 黄褐色 灰色	平面形三角形の支脚。上面は比較滑らかに磨いであげられ、下面は粘土を巻き込んだ押仕様が残される。		
949	D区	P2180	土師器 皿	138	26	90	浅黄褐色 明赤褐色 浅黄褐色	底部中央で僅かに外反し、口縁部は上方に延びる。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。器面に赤色顔料が塗布される。		
950	D区	P2181	土師器 杯	-	(25)	66	にぶい黄褐色 + 浅黄色	底部は凹盤状に突出し、中央の窪んだ面を成す。内外面とも回転ナズ。外面はヘラズリに近い。底部切り磨しは回転余切り。		
951	D区	P2181	土師器 壺	41.0	(5.5)	-	褐色 + 明褐色	口縁部は短く外反し、肩部は凹状を呈す。内外面ともナズ、外面脆状工具による圧痕が残る。		
952	C区	P2183	弥生土器か 壺	-	(36)	-	褐色 + 暗灰黄色	口縁部は急峻的に立ち上がり、肩部は外側に細く丸く収める。内面ミガキ、外面ハケの後ミガキ。		
953	C区	P2183	弥生土器 壺	131	(7.3)	-	にぶい黄褐色 + 明褐色 + 暗灰色	肩部の眉曲は急で、口縁部は緩く内湾して立ち上がる。肩部は面を成し、外側に僅かに肥厚する。内面ナズ、外面タタキの後ナズ。胴部はハケ。		
954	C区	P2183	弥生土器 壺	-	(13.7)	-	浅黄色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色・黄灰色	肩部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反して立ち上がる。内面ハケの後ナズ、外面タタキ。胴径 180cm		
955	C区	P2183	土製品 不明	全長 4.6	全幅 3.7	全厚 1.5	-	-	表面は潤滑面で磨削は何れも細く被せらる。肩部の一方は欠損する。他方に磨削痕と摩滅痕を残す。重量 240g	
956	C区	P2188	白磁 碗か	-	(1.6)	-	灰白色 +	口縁部は緩く内湾し、肩部は尖り気味に丸く収める。胎土中に小規模な凹孔が見られる。		
957	D区	P2193	弥生土器 壺	16.5	(3.6)	-	褐色 + 黄灰色	肩部はやや急に屈曲し、口縁部は外反する。肩部は尖り気味に丸く収める。内面ハケの後ナズ。外面ハケ、口縁端部に横方向のナズ。		
958	D区	P2193	須恵器 壺	8.1	(1.9)	-	灰白色 灰オリーブ色 灰白色	円形の輪みが付く。天井部は中央部がやや凹み、口縁部は眉曲の後居く下方に延びる。肩部は細く尖り気味に収める。内面ナズ、外面回転ナズ、ロクロ目顯著。自然焼。		
959	D区	P2193	鉄滓	全長 5.5	全幅 5.1	全厚 2.8	-	-	磁質なし。重量 780g	
960	D区	P2194	土師器 皿	9.0	1.7	6.0	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 + 褐色	底部は底部端から内湾気味に短く外反し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。底部切り磨しは回転余切り。		

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
961	D区	P2215	須恵器 杯身	129	(25)	—	灰色 * 褐色 * にぶい橙色	受け部は短く外上方に延び、肩部はやや尖り気味に丸く収める。かえりは内側の後反し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、底部にロクロ目、受け部径 15.2cm	
962	D区	P2215	須恵器 杯身	160	(24)	—	灰白色 * 黄灰色	受け部は短く外上方に延び、肩部は丸く収める。かえりは内傾し、細く外反し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、外面底部にロクロ目が残る。受け部径 18.0cm	
963	D区	P2215	須恵器 杯	144	(34)	—	灰白色 * 黄灰色 * にぶい黄色	口縁部は細く上方に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、外面底部にケズリ。	
964	D区	P2235	須恵器 碗	—	(12)	90	灰白色 * —	平らな底部端に断面適合形状の高台が付く。器付けは僅かに凹む。内外面ともナデ。	
965	A区	P2253	弥生土器 壺	—	(37)	—	褐色 * にぶい橙色 * 灰黄褐色	内面篋状工具によるナデ、外面割部に懸濁液状文・沈着帯、ヘラ線部による縦及び斜方向の刻みがある。	
966	B区	P2258	土師器 杯	130	3.7	100	褐色 * 浅黄褐色	外面底部以外に赤色顔料が塗布される。内外面底部にそれぞれ墨書が施される。底部から口縁部は直線的に外上方に延びる。	8c
967	B区	P2259	弥生土器 甕	250	(62)	—	明赤褐色 * 褐色 * 灰色	口縁部はくの字状に外反する。肩部は上下に拡張し、平坦面状を呈す。内面ハケ・ナデ、外面タタキ。	
968	B区	P2259	弥生土器 鉢	110	(36)	—	褐色 * 浅黄褐色	口縁部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面篋状工具によるナデ。	
969	B区	P2267	弥生土器 高杯か	—	(62)	—	にぶい褐色 * にぶい橙色	内外面ともハケの後ナデ。	
970	B区	P2273	須恵器 杯蓋	—	(28)	—	灰色 * にぶい黄褐色 * にぶい黄褐色・黄褐色	天井部から底部は緩やかに屈曲する。内面回転ナデ、外面天井部同様に斜方向の工具痕、底部との境目が円縁状になる。	
971	B区	P2274	土製品 土鉢	全長 32	全幅 1.3	全厚 1.3	— にぶい橙色 * —	管状土鉢、孔径 0.4cm	
972	B区	P2276	石製品 印石	全長 134	全幅 7.5	全厚 5.0	—	河原の自然面2面に敲打跡が残る。他は磨滅する。砂岩製、重量 629g	
973	B区	P2283	弥生土器 甕	152	(38)	—	にぶい黄褐色 * 褐色 * 黄灰色	口縁部は短く外反する。内面は概い単位の横方向のハケ、外面はハケ・ナデ。	
974	B区	P2283	弥生土器 甕	—	(32)	—	にぶい黄褐色 * 灰黄褐色 * 灰色	口縁部は短く外反し、肩部は丸く収める。内面概い単位の横方向のハケ、外面タタキの後ナデ。	
975	B区	P2283	弥生土器 甕	144	(35)	—	にぶい赤褐色 * 褐色 * にぶい橙色	頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外反する。肩部は尖り気味に仕上げられる。内面ハケ・ナデ、外面ナデ、器壁薄。	
976	B区	P2288	土師器 不明	—	(26)	—	にぶい黄褐色 * にぶい橙色 * にぶい黄褐色	口縁部は外方に延び、小さな玉部状を呈す。器面は回転ナデ。	
977	B区	P2295	弥生土器 甕	122	(42)	—	にぶい褐色 * 褐色 * 灰色	頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外反する。内面口縁部横方向のナデ、頸部以下はハケ、外面タタキ。	
978	B区	P2300	弥生土器 鉢	—	(43)	—	にぶい黄褐色 * * —	内面ハケ・ナデ、外面タタキの後ハケ。	
979	B区	P2311	須恵器 不明	—	(47)	—	灰色 * 灰褐色	外面に少なくとも1条の沈着と懸濁液状文がある。	
980	B区	P2320	土師器 鉢か蓋	226	(96)	—	にぶい赤褐色・にぶい黄褐色 * 褐色	口縁部がウツバ状に開く大型の鉢か蓋、内面ミガキ・ナデ、外面ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
981	B区	P2323	土師器 甕	-	(22)	-	褐色 +	胴部はくの字状に屈曲し、肩部は上方に延びる。	
982	B区	P2325	弥生土器 鉢	-	(5.7)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 +	胴部上位が肥厚する。内外面ともナデ。	
983	B区	P2329	弥生土器 鉢	-	(12)	-	にぶい黄褐色 +	鉢の底部片が、内面ハケ。外面底部に植物の種子とみられる圧痕が残る。	
984	B区	P2330	須恵器 蓋	220	(1.8)	-	灰白色 灰黄色 +	口縁部は肥厚する。天井部は欠損。	
985	C区	P2347	弥生土器 甕	183	(4.1)	-	淡黄色 +	胴部はくの字に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に開く。肩部は丸い丸味を持つて収める。内面貫状工具による横方向のナデ、外面胴部に横方向の強いナデ。	
986	C区	P2347	弥生土器 甕	-	(3.7)	-	褐色 +	胴部はくの字状に屈曲する。口縁部は縦く外反し、肩部は丸く収める。内面口縁部は横方向の強いナデが残る。胴部以下はナデ。	
987	C区	P2347	弥生土器 鉢	179	(3.3)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 +	口縁部は縦く内湾して延び、肩部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、ミガキ、口縁部は横方向のナデ。外面ナデ、口縁部は横方向のナデ、外面の一部に窪付着。	
988	C区	P2347	弥生土器 高杯	-	(2.6)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 +	口縁部は屈曲の後外反する。肩部は面を成す。内外面ともナデ。	
989	B区	P2351	須恵器 蓋	165	(1.1)	-	灰色 +	口縁部は肥厚し、断面台形状を呈す。天井部は欠損。	
990	C区	P2352	弥生土器 甕	-	(3.4)	5.8	褐色 暗灰黄色 にぶい黄褐色 +	底部は平底状。胴部は底部端から外反して立ち上がる。内外面ともナデ。	
991	C区	P2362	弥生土器 鉢	160	(5.9)	-	にぶい黄褐色 +	器壁厚い。外部から口縁部は内湾して立ち上がる。肩部は丸い丸味をもって収める。内面ハケ、外面タタキ。	
992	C区	P2368	須恵器 高杯	-	(5.9)	-	灰色 +	脚部に台形または短筒形の幅 0.7～1.4cmの透かしを3方向に施す。内面回転ナデ、ロクロ目肌着。外面ナデ、胴部上位に浅い凹線が走る。胎土中に中程度の気孔。	
993	C区	P2373	瓦質土器 羽釜	28.0	(5.8)	-	灰色 +	胴部から口縁部は縦く内湾し、内傾する。肩部は浅い面を成し、外面口縁部に断面長方形の跡が付く。内面ナデ、外面口縁部横方向のナデ、胴部には凹凸面が残る。	
994	C区	P2386	石材 刷片	全長 5.1	全幅 2.7	全厚 2.3	-	砂岩質。河原石を打割し、縁道の1/9所に使用痕が残される。重量 220g。	
995	C区	P2389	弥生土器 甕	-	(3.0)	-	にぶい黄褐色 +	口縁部は直線的に外上方に開き、肩部は上下に狭かに肥厚し面を成す。口縁部に1条の凹線が走る。内面ナデ、外面横方向のナデ、一部にタタキの後ハケ。	
996	C区	P2389	瓦器 碗	-	(2.9)	-	灰黄色・オリーブ棕色 オリーブ棕色・灰青色 灰黄色 +	口縁部は縦く内湾し、肩部は丸く収める。内面ナデ、ミガキ、外面一部にミガキ、凹凸面が残る。	
997	C区	P2395	須恵器 杯	125	33	105	灰白色 +	平坦な底部から屈曲部を持ち、口縁部は内湾の後直立する。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、外面底部はタタキの後ナデ。	
998	C区	P2395	須恵器 碗	-	(1.8)	100	灰白色 +	底部端に断面不整形長方形の高台が付く。高台肩部は平らな面を成し、内側に肥厚する。内外面ともナデ。高台内はタタキの後ナデ。高台外側には自然釉が付着する。	
999	D区	P2400	弥生土器 甕	-	(5.6)	7.2	黄灰色 浅黄褐色 灰黄色 +	底部は平底状で肩部は丸味を持つ。胴部下部は直線的に外上方に開く。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1000	D区	P2403	弥生土器 甕	-	(6.1)	-	褐色 浅黄褐色 灰黄色 +	胴部の屈曲は縦く、口縁部は縦く内湾し上方に延びる。内面ナデ、口縁部ハケの後ナデ。外面ハケ、口縁部縦方向のハケ、胴部タタキの後ハケ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1001	D区	P2404	弥生土器 壺	-	(27)	-	黄灰色 棕色 灰黄褐色	底部は丸底状、内面ナデ、外面匙状工具によるナデ。	
1002	D区	P2404	弥生土器 壺	-	(126)	-	にぶい黄褐色 棕色 灰色	胴部は球形と見られる。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1003	D区	P2409	弥生土器 壺	-	(85)	-	黄灰色・浅黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	胴部は緩く内湾し、肩部の屈曲はやや急。口縁部は先ず直線的に延び、後に反転すると見られる。内外面ともナデ。	
1004	D区	P2423	土師器 皿	144	(21)	-	棕色 + 浅黄褐色	体部から口縁部は外上方に延び、肩部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1005	D区	P2423	土師器 杯	148	(13)	-	棕色 + +	口縁部は緩く外反し、肩部は丸く収める。内外面ともナデ、器壁薄い。	
1006	D区	P2423	土師器 杯	148	(15)	-	棕色 + にぶい黄褐色	口縁部は直線的に開き、肩部は短く外反し丸く収める。内外面ともナデ。	
1007	D区	P2423	土師器 皿	-	(07)	76	棕色 + +	底部端で湾曲し、体部は直線的に外上方に延びる。内外面ともナデ、底部に粘土継接合痕が残る。	
1008	D区	P2423	土師器 皿	-	(09)	98	浅黄褐色 棕色 浅黄褐色	底部端から体部は緩く外反する。内外面ともナデ。	
1009	D区	P2423	土師器 皿	-	(12)	106	浅黄褐色 明黄褐色 浅黄褐色	底部は平底状でやや突出し、体部は直線的に外上方に延びる。内外面ともナデ、底部に粘土継接合痕が残る。	
1010	D区	P2425	須恵器 杯壺	122	(35)	-	灰色 灰白色 灰色	天井部は内湾し、口縁部は直立する。肩部は内傾する面を成す。内外面ともナデ。	
1011	D区	P2425	須恵器 杯	170	(30)	-	灰白色 + +	底部端で屈曲し、体部は緩く外反し口縁部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1012	D区	P2425	須恵器 杯	194	(35)	-	灰色 + +	底部端で屈曲し、体部は直線的に延びる。口縁部は緩く丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面底部端に押圧痕が残る。	
1013	D区	P2429	土師器 壺	264	(66)	-	にぶい黄褐色 + +	胴部は僅かに屈曲し、口縁部は緩く外反する。肩部は太く丸く収める。内面口縁部ナデ、胴部ケズリ。外面口縁部横方向のナデ、胴部ハケ。	
1014	D区	P2429	須恵器 杯壺	108	(38)	-	灰色 灰白色 灰色	体部は丸味を帯び、下位で屈曲の後、口縁部は直線的に下方に延びる。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1015	D区	P2429	土製品 移動式カマド	全長 118	全幅 52	全厚 48	にぶい黄褐色・明黄褐色 暗灰黄色	正面左側、接地面に近い部分と見られる。凸部は厚みを保ちつつ下方へ細く狭くなる。器壁はナデ。凸凹面を残す。	
1016	D区	P2429	石製品 叩石か	全長 68	全幅 16	全厚 12	-	一層部に複数の輪状痕が見られる。自然産を削いだ磨打具又は未製品又は素材か。泥質、重量 17.3g	
1017	D区	P2429	石製品 不明	全長 37	全幅 31	全厚 06	-	扁平な自然石。頁岩又は泥岩、重量 90g	
1018	D区	P2434	須恵器 壺	-	(72)	-	灰色 + +	胴部片、内面ナデ、外面カキ目、外面にタタキ目が残る。	
1019	D区	P2434	須恵器 壺	-	(120)	-	灰色 + +	丸味を帯びた胴部片、内面ナデ、外面タタキ。	
1020	D区	P2434	須恵器 壺	-	(55)	-	灰色 + +	丸底状の底部片、内面同心円文の後ナデ、外面カキ目。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1021	D区	P2441	土師器 杯蓋	170	(30)	-	褐色・浅黄褐色 ・ ・	天井部から口縁部は緩く内湾し、斜下方に延びる。肩部は緩い凸面を成し、下方へやや突出する。内外面ともヘラミナキ、赤色顔料を施す。	
1022	D区	P2441	土師器 杯	-	(30)	90	淡黄色 ・ ・	ハの字に開く、高い高台。唇部は緩い凹状を呈す。内外面ともナデ。	
1023	D区	P2453	須恵器 壺	-	(224)	-	灰色 ・ ・	中位が大きく張り出す胴部。長頸部。胴部中位に直径60cm程度の粘土板を充填したと見られる。内面同心円文状のタタキ、外面タタキの後サキ目。	
1024	D区	P2458	須恵器 杯・高杯	166	(36)	-	灰色 ・ ・	口縁部は直立し、肩部は丸く収める。内面ナデ、外面回転ナデ、ロクロ目が見え残る。	
1025	D区	P2464	弥生土器 甕	-	(47)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 ・	胴部は上位で緩く内湾する。内面ナデ、外面タタキ。	
1026	D区	P2464	弥生土器 碗	174	(60)	-	にぶい黄褐色 ・ オリーブ黒色	底部はやや突出し、緩い凸状を呈す。体部から口縁部は外上方に開き、口縁部はやや上方に延びる。肩部は尖り突味に丸く収める。内面ハケの後ナデ、外面タタキ。	
1027	D区	P2464	弥生土器 鉢	110	(53)	-	にぶい黄褐色 ・ 灰色	体部から肩部は緩く屈曲し、口縁部は直線的に緩く外上方に延びる。肩部は緩く尖り突味に仕上げられる。内面タタキの後ナデ、一部にタタキが見える。外面ハケの後ナデ。	
1028	D区	P2465	弥生土器 壺	160	(20)	-	にぶい黄褐色 ・ 浅黄褐色・灰色	口縁部は大きく外反する。肩部は面を成し外側に肥厚し、2条の凹線が高まる。内面ハケの後ナデ。外面口縁部は横方向のナデ、口縁部ハケ。	
1029	D区	P2465	弥生土器 壺	-	(22)	102	にぶい黄褐色 ・ 褐色	径の大きな平底の底皿。内外面ともナデ、押圧痕が残る。	
1030	D区	P2467	須恵器 杯蓋	148	43	-	灰白色 ・ ・	天井部は丸味を帯び、口縁部は屈曲の後縁側に内湾する。肩部は丸く収める。内面回転ナデ、外面回転ナデ・回転ヘラタタキ。	
1031	D区	P2471	須恵器 杯蓋	150	(13)	-	灰色 ・ ・	口縁部は屈曲の後下方に緩く突出し、肩部は緩く丸く収める。内外面とも回転ナデ、胎土中に「製」が刻む。	
1032	D区	P2471	土師器 瓶	-	(50)	-	褐色 ・ 浅黄褐色	把手部、横断面は楕円形で、肩部は扁平で太く丸味を持つ。胴部との接合部にハケ。把手部には押圧痕・接合痕が残る。	
1033	A区	P2685	土師器 皿	94	21	55	にぶい黄褐色 ・ 浅黄褐色	小皿。口縁部は緩く外反し、肩部は太く丸く収める。内面回転ナデ、ロクロ目を遺す。外面回転ナデ、体部以下はロクロ目顯著。底部切り離しは回転糸切り、造具工具の圧痕。	
1034	J区	P3045	製塩土器	-	(21)	-	褐色 ・ ・	胴部は緩く内湾し、口縁部は緩く上方に延びる。肩部は尖り突味に丸く収める。内面に毎日比痕が残る。外面ナデ。	
1035	J区	P3066	土師器 皿	86	24	43	浅黄褐色 褐色 ・ 浅黄褐色	円盤状高台。高台下部から上位は直立または内湾する。口縁部は直線的に外上方に延びる。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1036	J区	P3066	須恵器 碗	-	(13)	72	灰白色 ・ ・	円盤状高台。内外面とも回転ナデ。内面に大樽状の焼成痕（または黒書か）が見られる。底部切り離しは回転糸切り。	
1037	J区	P3067	土師器 杯	106	28	48	褐色 ・ 浅黄褐色	底部は緩い凸面を成す。底部端は湾曲し体部から口縁部は直線的に外上方に延びる。口縁部は緩く外反し、肩部は丸く収める。	
1038	J区	P3074	須恵器 碗	-	(23)	73	灰白色 ・ にぶい黄褐色	円盤状高台。内外面とも回転ナデ。内面に大樽状の焼成痕を留める。外面底部に帯付帯。底部切り離しは回転糸切り。	
1039	J区	P3077	須恵器 壺	-	(21)	-	灰黄色 灰白色 灰黄色	口縁部は外反し、肩部は凹面を成し外側にやや偏って突出する。口縁部に割目が施される。内外面とも回転ナデ。	
1040	J区	P3077	鉄製品 刀子	全長 9.8	全幅 1.3	全厚 0.6	-	刀身は背が直線的で幅を持つ平断面。刃部は緩く湾曲する。両は方角で鋭角。茶は茶尻に向かって徐々に減じる。重量 10g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1041	J区	P3086	須恵器 甕	-	(35)	-	黄灰色 青灰色 *	口縁部は外反し、肩部は面を成し外側に肥厚する。内外面ともナデ、外面に自然釉が付着する。	
1042	J区	P3094	土製品 支脚	-	(7.7)	-	褐色色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	肉状の支脚の一部。断面に深いナデ・ハケ、外面は押圧痕とナデナ。支脚の背面に直径2.6cmの孔を穿ち断面の中心まで見よ。	
1043	J区	P3094	土師器 甕	-	4.3	-	褐色 * にぶい褐色	幅の広い扁平な把手部。肩部は丸味を帯びる。上面はナデ、下面は押圧痕が顕著。	
1044	J区	P3118	弥生土器 壺	15.4	(3.6)	-	浅黄褐色 灰白色 *	口縁部は外反し、肩部は面を成し外方に肥厚する。口縁部中央の接合部で深い屈曲が見られる。内面ハケの後ナデ、外面ナデ、口縁部は横方向のナデが顕著。	
1045	J区	P3132	弥生土器 甕	-	(35)	-	黒褐色 にぶい褐色 浅黄褐色	口縁部は僅かに内湾した後短く外反し、製作工具による7条以上の沈線帯が走る。肩部は面を成し外側に肥厚する。内面ナデ、口縁部部に僅かな、外面ナデ。	
1046	J区	P3146	鉄製品 不明	全長 4.1	全幅 2.3	全厚 0.5	-	小刀あるいは鎌か、重量7.0g	
1047	J区	P3160	弥生土器 甕	16.6	(20)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色	口縁部は外反する。肩部は浅い凹面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ、口縁部の一部にハケの痕跡が残る。外面ナデ、一部に僅かな。	
1048	J区	P3160	弥生土器 甕	-	(3.6)	5.9	にぶい褐色 灰黄褐色 *	底部は浅い凹面を成す。肩部は外上方に延びる。内外面ともナデ。	
1049	J区	P3160	土師器 椀	-	(3.4)	6.9	にぶい褐色 * 浅黄褐色	底部は浅い凹面状を呈し、体部は緩く内湾して外上方に延びる。内外面とも回転ナデ。底部切り難しは回転し切り、輪軸なし。	
1050	J区	P3160	須恵器 椀	17.2	(4.1)	-	灰白色 *	体部から口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。内外面ともナデ、外面の一部に製作工具による圧痕が残る。	
1051	J区	P3162	土師器 杯	-	(21)	6.0	にぶい褐色 *	底部から体部は緩く外反する。内外面ともナデ。底部切り難しは回転し切り。	
1052	J区	P3174	須恵器 壺	-	(7.9)	-	黄灰色 灰赤色 灰白色	肩部は僅かに外反し肩部より内湾。内外面ともナデ、粘土板の接合部を留める。胎土中の気泡が顕著で器面の凹凸が著しい。外面は焼成の最終段階で強化。	
1053	J区	P3181	弥生土器 甕	22.6	29.9	7.5	灰黄褐色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	底部は平底状で、肩部は外側に張り出す。胴部上位に2条の隆起帯、上下に製作工具による圧痕。口縁部は外反し、肩部は面を成す。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
1054	J区	P3182	弥生土器 甕	-	(6.0)	-	灰褐色 にぶい褐色 灰黄褐色	肩部は内湾し、肩部にかけて緩やかに屈曲する。胴部上位に断面三角形状及び台形状の隆起帯が2条走り、上下に寛又は爪による圧痕が残る。内外面ともナデ。	
1055	J区	P3186	土師器 椀	13.5	(5.3)	6.0	にぶい褐色 褐色 * 浅黄褐色	底部は成立し、体部が湾曲状に延びる。口縁部は短く外反し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面底部にはワタ目、外面底部部へナデ、底部切り難しは回転し切り。	
1056	J区	P3187	弥生土器 壺	16.3	(6.7)	-	にぶい褐色 褐色 *	胴部から口縁部は外反する。口縁部は面を成し外側に肥厚。肩部に8条以上の筋線による沈線帯、肩部に工具の押圧による折れ、内面横方向のミガキ、外面ナデ。	
1057	J区	P3187	弥生土器 壺	-	(8.6)	-	褐色 にぶい黄褐色 褐色	胴部片、内面横方向のナデ、外面横方向のミガキ、内面のナデはミガキ同様に丁寧に仕上げられる。	
1058	J区	P3187	弥生土器 壺	-	(17.2)	-	にぶい褐色 褐色 *	胴部片、内面ナデ、外面製作工具によるナデの後ミガキ。	
1059	J区	P3192	須恵器 甕	-	(3.3)	14.4	灰色 *	底部は平底状。内外面ともナデ。胎土中に白色粒・黒色粒を含む。	
1060	J区	P3194	弥生土器 高杯	-	(3.8)	-	にぶい褐色 * にぶい褐色	杯体部から口縁部は、外上方に延びる。内面ナデ、外面潤滑が著しい。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1061	J区	P3195	弥生土器 壺	148	(76)	-	橙色 にぶい・橙色 にぶい・黄褐色	口縁部は僅かに外上方に及び、接合部で強く屈曲し、直線的に内上方に延びる。口縁部は凹状の面を成す。内外面ともナデ。	
1062	J区	P3195	弥生土器 高杯	183	(21)	-	橙色 にぶい・橙色 +	口縁部は緩く外反し、肩部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1063	J区	P3195	土師器 杯	116	(25)	-	褐色 + 浅黄褐色	口縁部は外上方に及び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1064	J区	P3195	土師器 羽釜	194	(48)	-	にぶい赤褐色 明赤褐色 赤褐色	播磨型。口縁部下に跨が高る。胴部から口縁部は内湾し、肩部はやや凸出した水平な面を成す。内外面ともナデ、踵の下部に押圧痕が残る。	15c
1065	J区	P3195	須恵器 壺	-	(56)	-	灰色 +	肩部に断面三角形の突起。接合部の上部はナデ面し、下部は痕を残す。残存部の1か所に耳を有する。耳は部分的に接合痕をナデ面し、押圧痕、内外面とも回転ナデ。	
1066	J区	P3195	須恵器 壺	-	(131)	106	黄灰色 灰色 灰白色	底部端に断面方形状の高台を有し、やや肩部が張る形状。内外面ともナデ、粘土粒接合痕を留める。胎土中に黒色の粒子を多く含む。	
1067	J区	P3196	土師器 羽釜	212	(56)	-	灰褐色 + にぶい・橙色	摂津型。口縁部は上方に及び、肩部は凹面状。口縁部縁に断面形状の踵、踵部は凹面を成す。内面ナデ。外面縁上部は丁寧なナデ、下部は接合痕、製部縦方向のハケ。	10c
1068	J区	P3197	土師器 杯	-	(14)	60	にぶい・褐色 褐色 +	底部はやや突出する緩い凸面状。内面回転ナデ、口縁部を残す。外面ナデ。底部切っ差しはへ切り、粘土粒痕を残す。	
1069	J区	P3197	土師器 碗	-	(16)	-	褐色 褐色 にぶい・褐色	底部に高台を有する。底部端が瓣状に屈曲し、体部は直線的に外上方に延びる。内面丁寧なナデ、外面ナデ。外面高台内に粘土粒の痕跡を残す。	
1070	J区	P3209	須恵器 杯	-	(14)	82	黄灰色 灰褐色 灰色	底部端に断面方形状でハの字に開く高台が付く。内外面ともナデ。	
1071	J区	P3212	弥生土器 壺	184	(33)	-	にぶい・黄褐色 黄褐色 浅黄褐色	胴部から口縁部は内湾し斜外上方に及び、肩部は凹面を成し上部は尖り気味に仕上げる。内外面ともナデ。	
1072	J区	P3212	土師器 皿	-	(12)	82	にぶい・黄褐色 +	内外面とも回転ナデ。底部に粘土粒痕を残す。	
1073	J区	P3214	弥生土器 高杯	191	(47)	-	褐色 にぶい・黄褐色 浅黄褐色	体部は屈曲の後外反し、口縁部は丸味を帯びた面を成す。内外面ともナデ。	
1074	J区	P3214	弥生土器 鉢	142	(43)	-	褐色 + 黄灰色	体部から口縁部は内湾して及び、肩部は緩い面を成す。内面細かい平座のハケ。外面タタキの痕ナデ。口縁部は横方向のナデ。	
1075	J区	P3214	土師器 手づくね皿	130	23	80	にぶい・褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・褐色	緩い起伏のある平底状。体部から口縁部は緩く内湾して立ち上がる。肩部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ、押圧痕が残る。部分的に縦付着。	
1076	J区	P3214	土師器 手づくね皿	129	22	76	灰黄褐色 にぶい・黄褐色 浅黄褐色	底部は起伏のある平底状。口縁部に強い横方向のナデが施され、段状になる。肩部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ、押圧痕、外面全面に縦付着。	14～ 16c 前
1077	J区	P3214	土師器 手づくね皿	132	(22)	-	にぶい・黄褐色 褐色 浅黄褐色	底部から口縁部は緩く内湾し外上方に及び、口縁部は細く尖り気味に収める。内面ナデ、外面口縁部横方向のナデ、押圧痕が残る。	
1078	J区	P3214	土師器 手づくね皿	132	(26)	-	にぶい・黄褐色 灰黄褐色 にぶい・黄褐色	底部から口縁部は緩く内湾し外上方に及び、口縁部は細く尖り気味に収める。内面ナデ、外面押圧痕が残る。	
1079	J区	P3214	須恵器 杯	102	(23)	-	黄灰色 +	口縁部は直線的に外上方に及び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1080	J区	P3265	須恵器 壺	164	(12)	-	灰白色 +	口縁部は外側に面を成し、下方に突出する。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1081	J区	P3267	土製品 支脚か	-	38	-	浅黄色 + 黄灰色	中空の脚部、内面横方向のハケ、脚端部ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1082	K区	P3282	土師器 甕	-	(4.2)	26	黄褐色 にぶい黄褐色・黒色 黒褐色	底部は小さな平底状、内面ナデ、外面ハケ・ミガキ、底部ミガキ。	
1083	K区	P3283	弥生土器 鉢	-	(3.0)	-	黒褐色 暗灰黄色 +	内面ナデ、指痕圧痕が残る、外面ハケ。	
1084	L区	P3293	土師器 碗か	-	(3.3)	50	灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	粘土練成形。外面底部と体部の境が収状に凹む。外面胴部上段は回転ナデ、下段は回転ヘラズリ。底部切り磨しは回転糸切り。	
1085	L区	P3300	弥生土器 甕	-	(4.3)	-	褐色 +	くの字状に外反する口縁部、頸部の一部に保存着。	
1086	L区	P3300	弥生土器 甕	-	(4.6)	-	褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	底部は丸底状。内面ナデ、外面タタキの残下から上へのナデ。	
1087	L区	P3300	弥生土器 甕か	-	(5.2)	100	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	平底状を呈する底部片、内外面ともナデ。	
1088	北区	P2	土師器 杯	108	28	69	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	体部中位から口縁部は僅かに外反し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1089	北区	P4	土師器 杯	-	(2.0)	68	浅黄色 褐色・にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部は緩い凸面状を呈す。内外面とも回転ナデ、見込み口クロ目顯著。外面底部は粘土練成をナデで滑す。	
1090	北区	P5	土師器 皿	107	(1.4)	-	にぶい褐色 +	口縁部は直線的に外上方に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1091	北区	P5	土師器 皿	91	(1.8)	-	にぶい黄褐色 +	口縁部は外反して外上方に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、内面の一部に僅か付着する。	
1092	北区	P5	土師器 杯	-	(1.4)	77	浅黄褐色 灰白色 彫灰色	底部はやや突出する。内外面とも回転ナデ、底部口クロ目顯著。	
1093	北区	P5	土師器 杯	98	3.0	7.0	浅黄褐色 +	底部は緩い凸面状で、口縁部は直線的に外上方に延びる。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1094	北区	P5	土師器 碗	-	(2.5)	54	にぶい褐色 +	底部側に脚の長い高台がハの字状に付く。器付けは丸味を持った面を成す。内外面ともナデ。	
1095	北区	P11	弥生土器 甕	-	(10.6)	38	にぶい黄褐色 + 灰色	底部は押し潰した平底状で、肩部は不明瞭。内面ナデ、外面タタキの残ナデ、底部にタタキ目が残る。僅か部分的に付着する。	
1096	北区	P11	須恵器 甕	-	(4.1)	124	灰色 +	緩い凹凸面状の平底。内外面ともナデ、押し痕が見られる。	
1097	北区	P11	石製品 石鉢	全長 4.5	全幅 4.3	全厚 1.1	-	扁平な不整形円形縁の縁道の1ヶ所にくの字状の切りが見られる。砂首製。重量 27.0g	
1098	北区	P14	弥生土器 甕	-	(3.8)	-	褐色 + にぶい黄褐色	胴部片。内面ナデ、外面に2条の微隆起突起が走り、その上下に押し痕が見られる。	
1099	北区	P21	須恵器 甕	-	(3.6)	-	明黄褐色 黄灰色 +	内面ナデ、鉄錆・土塊が付着する。外面タタキ、部分的に格子状になる。	
1100	北区	P21	鉄製品 パイプか	全長 16.3	全幅 3.3	全厚 1.9	-	中空のパイプ状で、肩部を遺す。平面は浅い円弧を呈した筒状を成すが、先端は面を維持する。重量 103.0g	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法器 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1101	北区	P41	弥生土器 壺か	-	(21)	42	にぶい黄褐色 黒褐色 にぶい黄褐色	底部は平底状、内外面ともナデ。	
1102	北区	P44	土師器 皿	10.5	2.7	6.4	にぶい黄褐色 +	底部は緩い凸面状を呈す。口縁部は底部端から緩やかに外反し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、見込み口クロ目顯著。外面底部は粘土粒痕をナデで消す。	
1103	北区	P44	土師器 皿	10.2	2.2	7.0	にぶい黄褐色 +	底部は緩い凸面を成し、口縁部は直線的に外上方に延びる。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面底部は粘土粒痕を一部残してナデ消す。	
1104	北区	P46	弥生土器 壺	-	(4.3)	5.8	褐色 + 暗黄灰色	底部は平底状、内面ケズリの後ナデ、外面ハケ。底部端に押圧痕、深い横方向のナデ。	
1105	北区	P54	瓦器 碗	-	(1.7)	-	暗灰色 + 褐色	口縁部片。肩部は細く丸く収める。内外面ともナデ。内面口縁部部下に沈線状の段が高る。外面の一部にタール付着。	
1106	北区	P55	黒色土器 碗	-	(0.8)	-	暗灰色 褐色 浅黄褐色	内面のみ黒色処理。底部端に高台が付く。内面ミガキ。外面ナデ。	
1107	北区	P64	土師器 杯	16.7	(3.3)	-	褐色 浅黄褐色 灰白色	体部は細く内湾、口縁部は短く外反し、肩部は丸く収める。口縁部の一部に二次焼痕を受ける。内面ナデ。ヘアミガキ。外面回転ナデ。ヘアミガキ。	
1108	北区	P67	須恵器 碗	15.8	(5.0)	-	灰白色 +	体部は丸味を帯び、口縁部は短く外反す。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面体部口クロ目顯著。外面口縁部深強い横方向のナデ。	
1109	北区	P67	緑釉陶器 碗	-	(2.3)	-	灰白色 +	体部片、内外面ともナデ。釉薬が施される。東海系。	
1110	北区	P68	土師器 皿	11.4	1.4	8.9	にぶい褐色 + 灰白色	口縁部は直線的に短く外上方に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1111	北区	P68	須恵器 杯	15.8	(2.3)	-	灰色 +	口縁部は緩やかに外上方に延び、肩部は外側寄りに丸く収める。内外面とも回転ナデ。帯状の焼成痕が映る。	
1112	北区	P70	土師器 皿	8.5	1.7	4.3	浅黄褐色 +	底部はやや突出し、口縁部は短く外反す。肩部は尖り尖味に丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み口クロ目顯著。底部切り磨しは回転ナデ。	
1113	K区	SX1	弥生土器 壺	-	(10.3)	7.3	にぶい褐色 にぶい黄褐色 淡黄色	底部は高内湾の平底を呈し、肩下の粘土が剥離する。内面ナデ。ミガキ。外面中位はハケ。下位はミガキにより砂粒が下から上へ移動する。	
1114	K区	SX1	弥生土器 壺	28.0	(11.9)	-	にぶい黄褐色 褐色 浅黄褐色	広口壺の頸部・口縁部。内面ハケ。指痕圧痕。口縁部は上下に拡張しそれぞれ棒状工具による割目。頸部に多重(11条)の指痕沈線。上位と中位に扁平割目付着。	
1115	K区	SX1	弥生土器 壺	16.8	(10.4)	-	にぶい褐色 褐色 にぶい黄褐色	肩部に微隆起状突起。口縁部はナデにより内湾する面を成す。内面縦方向のハケ。指痕圧痕が映る。肩部と口縁部に部分的にミガキ。外面頸部縦方向のハケ。	
1116	K区	SX1	弥生土器 壺	25.3	(17.4) (5.3)	11.9	褐色 にぶい褐色	口縁部は緩やかに外反し、肩部は僅かに凹状を呈する面を成す。肩部に2条の微隆起状突起が高る。内面ハケ。指痕圧痕が映る。外面口縁部ハケ。割部棒状工具によるナデ。	
1117	K区	SX1	弥生土器 壺か壺	21.4	(4.3)	-	にぶい褐色 + 黄灰色	口縁部は外反する。内面ミガキ。外面ナデ。指痕圧痕が映る。	
1118	K区	SX1	弥生土器 壺か壺	-	(4.3)	7.2	にぶい褐色 にぶい黄褐色 +	底部は平底状で、僅かに上げ底状を呈す。外面ナデ。指痕圧痕が映る。胎土に2～10mm大の砂粒を多く含む。	
1119	K区	SX1	弥生土器 壺	-	(4.1)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 にぶい褐色	外面の7条以上の多重の微隆起沈線。直下に縦方向のハケ。	
1120	K区	SX1	弥生土器 壺	-	(5.0)	5.9	にぶい褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	底部は平底状で、僅かに上げ底状を呈す。胎土に微小の硬合痕が映る。内面ミガキ。外面ナデ。指痕圧痕が映る。胎土に1～5mm大の砂粒を多く含む。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1121	K区	SX1	弥生土器 甕	-	(30)	-	にぶい黄褐色 +	外面口縁部に割目。	
1122	K区	SX1	弥生土器 不明	-	(22)	-	にぶい黄褐色 +	外面に陶器起突帯が貼付される。	
1123	D区	包含層	弥生土器 甕	189	(61)	-	明褐色 褐色 明黄褐色・灰色	胴部でやや急に屈曲し、口縁部は外反し大きく開く。肩部は凹状の面を成し、上下に肥厚する。口縁部に竹管刺突文を施す。内面ハケ、外面縦方向のハケ。	
1124	北区	包含層 検出面	弥生土器 甕	154	(68)	-	にぶい褐色 淡赤褐色 にぶい黄褐色	胴部から口縁部は連続して外反する。肩部は面を成し、外側は肥厚する。内面ハケ、口縁部横方向のナデ、外面ハケの後ナデ、口唇部に1条の浅い凹線が施される。	
1125	北区	表採	弥生土器 甕	194	(30)	-	にぶい黄褐色 +	口縁部片、肩部は面を成し、上下に肥厚する。内面ナデ、外面ハケ、口縁部横方向のナデ。	
1126	B区	包含層	弥生土器 甕か	116	(42)	-	褐色 +	口縁部はやや内湾し、肩部は丸く収める。口縁部は内外面ともハケの縦方向のナデ、以下はハケ。	
1127	北区	包含層 検出面	弥生土器 甕	134	(51)	-	褐色 にぶい褐色 +	胴部の屈曲はやや急で、口縁部は直線的に外上方に延びる。肩部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ハケ、外面ナデの浅ナデ。	
1128	北区	包含層 検出面	弥生土器 甕	144	(83)	-	褐色 +	胴部で湾曲し、口縁部は直線的に上方に延び、上位で外反する。肩部は丸味を持った面を成す。内外面ともハケの後ナデ。	
1129	B区	包含層	弥生土器 甕か	136	(48)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	二重口縁で、二次口縁部は上方に延びる。内面縦方向のハケ、外面2方の斜方向のハケ。	
1130	A区	包含層	弥生土器 甕	-	(65)	-	にぶい黄褐色 +	外面胴部にハケ工具による割目が施された粘付帯が落ち、口縁部外面に磨痕状文と見られる文様。	
1131	A区	包含層	弥生土器 甕	-	(44)	-	浅黄褐色 +	胴部と胴部の境に、研毛状工具による割目が施された粘付帯が落ち、内外面とも胴部上には斜方向のハケ。	
1132	D区	包含層	弥生土器 甕	211	(57)	-	にぶい黄褐色 明赤褐色 +	口縁部はやや内湾する。肩部は凹面を呈し、内外に肥厚する。内外面ともナデ、外面口縁部に凹線状の段が深い斜方向のナデにより残る。	
1133	A区	包含層	弥生土器 甕	-	(53)	-	淡黄褐色 淡黄褐色 淡黄褐色	胴部で屈曲の後、口縁部は上方へ立ち上がる。内面口縁部ナデ、胴部は粗いハケ、外面ヘラミギキ。	
1134	A区	包含層	弥生土器 甕	-	(43)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	外面ハケの後、4条の凹線状文が落ちる。	
1135	北区	包含層 検出面	弥生土器 甕	-	(66)	-	褐色 +	胴部片、外面に多重の磨痕沈線、沈線間に磨毛状工具による割目が落ち、内外面ともハケ。	
1136	北区	包含層 検出面	弥生土器 甕	280	(78)	-	褐色 にぶい褐色 +	胴部から口縁部は連続して外上方に延びる。肩部は面を成す。内面ナデ、外面ハケ、外面口縁部に凹線によって閉み風に仕上げられる。	
1137	D区	包含層	弥生土器 甕	-	(53)	108	明赤褐色 +	底部は平底状、体部は直線的に外上方に延びる。内面ハケ、外面ナデ。	
1138	D区	包含層	弥生土器 甕	-	(37)	45	暗灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	底部は平底状で凹面を成す。胴部は緩く外反する。内外面ともナデ。	
1139	A区	包含層	弥生土器 甕	-	(47)	56	褐色 +	底部は平底状を呈し、中央が凹面を成す。胴部は緩く外反する。内面ナデ、外面ハケ。	
1140	北区	包含層 検出面	弥生土器 甕	-	(63)	68	褐色 +	底部は高台状で、中央がやや深く窪む。胴部下部は直線的に外上方に延びる。内外面ともナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1141	A区	包含層	弥生土器 竇か爨	-	(78)	84	明赤褐色 +	平底状を呈する底部片、内面ナデ、外面縦方向のミガキ。	
1142	K区	包含層	弥生土器 竇	-	(67)	90	にぶい黄褐色 にぶい褐色・暗灰色 明赤褐色	底部は平底状、内面ナデ、外面ハケ・ミガキ、外面底部は強いケズリ。	
1143	K区	包含層	土師器 竇	-	(47)	66	褐色 にぶい黄褐色 褐色	平底状の底部片、内面ナデ、磨損痕、外面粗いハケの後ミガキ。	
1144	D区	包含層	弥生土器 竇	-	(40)	44	にぶい黄褐色 にぶい褐色 黄灰色・浅黄色	底部は縦い凸面を成す。底部端は比較的明確で、胴部は外上方に延びる。内面ナデ、底部に押圧痕を残す、外面ハケ、底部タタキ。	
1145	A区	包含層	弥生土器 竇	-	(36)	40	暗灰黄色 明赤褐色 灰黄褐色	底部は小さな平底状を呈す。胴部へ向かって緩く内湾して広がる。内面ナデ、外面タタキの後ヘラナデ、外面底部に磨損の痕跡。	
1146	K区	包含層	弥生土器 爨	215	(206)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 +	内面ミガキ、外面胴部上位に3本の短促状突起がある。胴部から口縁部ハケ、口縁部器具押圧痕により断面片形状を呈す。胴部は板状工具によるナデ。	
1147	A区	包含層	弥生土器 爨	-	(105)	100	褐色・黒褐色 にぶい黄褐色 にぶい褐色	底部は平底状、内外面ともナデ。器壁が厚く焼成良好、内外面の一部に傷付着。	
1148	北区	包含層	弥生土器 爨	180	(51)	-	褐色 にぶい褐色 灰色	胴部から口縁部は直線的に外反し、肩部は浅い凹面を成し、内外に拡張する。内面ハケ、口縁部縦方向のナデ、外面ハケの後ナデ、口縁部端部方向のナデ。	
1149	A区	包含層	弥生土器 爨	134	(75)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 黄灰色	胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。肩部は丸味を持った面を成し、外側に肥厚する。内面ハケ、胴部はハケの後ナデ、外面タタキ。	
1150	A区	包含層	弥生土器 爨	-	(246)	50	暗灰色 灰黄褐色 暗灰色	底部は狭く縦い凸面状、内面ハケの後ナデ、外面胴部中位及び上位は横方向のタタキ、上位は斜方向のタタキをハケで面す。底部はタタキか、胴部中位に傷付着。	
1151	A区	包含層	弥生土器 爨	195	(97)	-	にぶい褐色 にぶい褐色 にぶい褐色・暗灰色	胴部はくの字状で、口縁部は直線的に外上方に開く。肩部は面を成し、外側に肥厚。内面口縁部ハケ、胴部ハケの後強いナデ、外面口縁部タタキの後ナデ、胴部タタキ。	
1152	A区	包含層	弥生土器 爨	140	27.0	-	にぶい黄褐色 + 黄灰色	底部は丸底状。胴部断面形は楕円形状。胴部はくの字状で、口縁部は横く外反する。肩部は面を成し、外側へやや肥厚。内面ハケの後ナデ、外面タタキ、一部に傷付着。	
1153	A区	包含層	土師器 爨	-	(168)	-	浅黄褐色 + +	底部は丸底状で、胴部最大径は中位。胴部の屈曲は比較的急。内面ナデ・ハラケズリ、外面ハケ・ナデ、一部に傷付着。	
1154	A区	包含層 検出面	弥生土器 爨	-	(130)	-	黒褐色 浅黄褐色 黄灰色	底部は丸底状。胴部は丸味を帯びる。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ナデ。	
1155	D区	包含層	弥生土器 爨	-	(57)	54	にぶい赤褐色 灰褐色 暗灰色	底部は平底状。胴部は直線的に外上方に延びる。底部に直径1.5cm程度の穿孔を焼成後に穿つ。内面ナデ、底部に爪痕が残る。外面ハケ。	
1156	北区	包含層	弥生土器 爨	-	(33)	5.6	暗灰色 灰黄褐色 +	底部は平底状で縦い凹面を成す。内面ナデ、外面ハケ。	
1157	D区	包含層	弥生土器 爨	-	(26)	3.6	にぶい黄褐色 にぶい褐色 黄灰色	底部は小さな平底状を呈す。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1158	A区	包含層	弥生土器 爨	90	8.5	2.3	浅黄褐色 淡黄色 灰色	底部は狭い平底状で、肩部は丸味を持つ。胴部の屈曲は緩やかで、口縁部は直線的に僅かに外方に開く。肩部は尖り気味に細く仕上げる。内面ハケナデ、外面タタキ。	
1159	A区	包含層	弥生土器 爨	-	(150)	42	にぶい黄褐色 明赤褐色 黄灰色	底部は縦い凸面状を呈す。胴部最大径は中位。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
1160	J区	包含層	弥生土器 爨	130	129	-	褐色 + 黄灰色	底部はやや突出した丸底状。胴部は緩やかに屈曲し、口縁部は僅かに内湾の後、上方に突る。内面ナデ、外面タタキの後ハケ・ナデ、口縁部は横方向のナデ、押圧痕。	
1161	北区	包含層	弥生土器 爨	-	(67)	30	にぶい黄褐色 + 黄灰色	底部は粘土粒粘付底面に突出し、中央部は縦い凸面を成す。内面ナデ、底部に押圧痕を残す。外面タタキ。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1162	C区	包含層	庄内式土器 甕	-	(23)	-	にぶい黄褐色 オリーブ黒色 にぶい黄褐色	器壁薄い、内面細かい単位ハケ、外面タタキ、一部に腐付着。	
1163	B区	包含層	庄内式土器 甕	-	(4.3)	-	暗褐色 黒褐色 褐色	割部片とみられる、内面へうけズリ、外面ハケ、器壁が薄く、底上に雲母片含む。	
1164	J区	包含層	土師器 甕	134	(4.7)	-	褐色 * にぶい黄褐色・黒灰色	頸部から口縁部は直線的に外上方に延び、肩部は丸く収める。内外面ともハケの後横方向のナデ。	
1165	A区	包含層	土師器 甕	150	26.5	-	褐色 * 黄灰色	底部は丸底状、割部は丸味を帯び、口縁部はやや外上方に延び、肩部は面を成す。内面ナデ・ハケ、外面ハケの後ナデ、割部上位から口縁部に細いハケ、口縁部ナデ。	
1166	B区	包含層	弥生土器 鉢	114	7.7	26	褐色 * *	底部は小さな平底状、内面ハケ、外面ナデ。	
1167	A区	包含層	弥生土器 鉢	15.5	(6.7)	-	にぶい黄褐色 *	体部から口縁部は内湾気味に外上方に開く、内面ハケの後ナデ、外面ナデ、小頸孔が多く見られる。	
1168	A区	包含層	弥生土器 鉢	14.7	(6.2)	-	オリーブ黒色 * にぶい黄褐色 黄灰色	体部から口縁部は内湾気味に外上方に延び、肩部は無調整で窪んだ面を成す。内面細かいハケの後ナデ、外面ナデ。	
1169	A区	包含層	弥生土器 鉢	15.8	5.0	4.4	にぶい褐色 * 浅黄褐色	底部は狭く傾いた凸面状で、肩部は不明瞭。口縁部は中央の窪んだ面を成す。内面ハケの後ナデ、外面ナデ、器面に小頸孔が多く見られる。	
1170	D区	包含層	弥生土器 鉢	-	(2.3)	3.4	褐色 * 浅黄褐色	底部は小さな平底状で、肩部は不明瞭。内外面ともナデ、浅く小さな凸面が覗かれる。	
1171	D区	包含層	弥生土器 鉢	-	(3.5)	4.0	にぶい褐色 * *	底部は窪の不明瞭な傾いた凸面を成す。内面ナデ、底部に螺旋状の装束状工具による凹凸が残る。外面タタキの後ナデ、中ないし大規模な頸孔が多く見られる。	
1172	A区	包含層	弥生土器 鉢	120	(4.5)	-	浅黄褐色 黒色 黄灰色	内面ナデ、外面タタキの後ナデ、内面に僅かに赤色顔料が付着する。	
1173	北区	表層	弥生土器 鉢	124	(5.6)	-	褐色 にぶい褐色 灰白色	体部から口縁部は丸味を帯び、肩部は丸い気味に丸く収める。内面装束状工具によるナデ、外面ナデ、器面に小頸孔が見られる。	
1174	J区	包含層	弥生土器 鉢	11.8	(3.0)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黒灰色	手づくね成形で、浅い皿状を呈す。体部から口縁部は緩やかに外上方に延び、肩部は上方にやや突る。	
1175	A区	包含層	弥生土器 鉢	13.6	(3.2)	-	赤色・浅黄褐色 褐色 浅黄褐色	内面に赤色顔料が塗布される。外面タタキの後斜方向のナデ。	
1176	A区	包含層	弥生土器 鉢	15.4	4.8	4.4	にぶい褐色 * にぶい黄褐色	底部は押し潰した平底で、肩部は不明瞭。口縁部は外上方に延び、肩部は丸く収める。内面ナデ、外面タタキ。	
1177	A区	包含層	弥生土器 鉢	18.0	5.9	4.2	浅黄褐色 にぶい褐色 浅黄褐色	底部は押し潰した平底で、傾いた凸面を成す。体部から口縁部は緩く上方に延び、肩部は丸く収める。内面装束状工具によるナデ、外面タタキ、口縁部ナデ。	
1178	A区	包含層	弥生土器 鉢	18.0	(4.7)	-	淡黄色 * *	体部から口縁部は緩く外上方に延び、肩部は面を成す。内面ハケ、外面ナデ。	
1179	D区	包含層	弥生土器 台付鉢	29.2	(5.2)	-	にぶい赤褐色 にぶい褐色 オリーブ黒色	口縁部は短く外反、肩部は面を成し外側に肥厚し3条の凹線、内面ナデ、割部へウミガキミガキ風のナデ、外面ハケの後ナデ、口縁部斜方向のナデ、割部ハケ。	
1180	A区	包含層	弥生土器 鉢	28.0	(11.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	大型、口縁部は緩く外反する。内面横方向のハケ・ナデ、体部はハケ・ミガキ、下位は縦方向のケズリ、外面口縁部ナデ、体部はハケ・形割正産、一部に腐付着。	
1181	A区	包含層	弥生土器 台付鉢	-	(2.7)	9.8	- 浅黄褐色 *	台部は外反の後緩く内湾する、肩部は丸く収める。内面ナデ、外面ナデ、附圧痕を残す。	
1182	K区	包含層	弥生土器 高杯	-	(4.5)	9.2	褐色 明黄褐色 浅黄褐色	ハの字に開く高台、内面ハケ・ナデ、外面横方向のナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1183	C区	包含層	弥生土器 高杯	-	(39)	-	明赤褐色 + 暗灰黄色	底部は縦く内湾して立ち上がる。肩部は直線的に広がる。杯底部は丸環による。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
1184	B区	包含層	弥生土器 高杯	-	(25)	118	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	脚部片。肩部は内面ハケ、外面横方向のハケの後縦方向のミズギ。直径10cmの円孔が認められる。胎土に器片を含む。	
1185	B区	包含層	弥生土器 高杯	-	(48)	106	浅黄色 淡黄色 +	脚部片、内面ハケ、外面肩部は横方向のミズギ。	
1186	D区	包含層	弥生土器 高杯	-	(79)	136	にぶい褐色 褐色 褐色・灰色	脚部片。腹部へかけて外反する。肩部は欠損するがやや反り上がる。内面ナデ、紋目が残る。外面ミズギ。	
1187	A区	包含層	弥生土器 高杯	-	(58)	137	灰黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	杯又は縁の脚(台)部と見られる。中央の脚上部に粘土の光輝の痕跡が残る。上部は直線的に広がり、中位で屈曲、肩部は直線的に開き、肩部は面を成す。	
1188	A区	包含層	弥生土器 高杯	-	(65)	142	にぶい褐色 +	脚部は底部まで直線的に広がり、肩部は面を成す。中位に直径0.8cmの円孔を3方向に穿つ。内面ハケ、腹部ナデ、外面肩部上位で縦方向、下位で横方向のミズギ。	
1189	北区	包含層	弥生土器 蓋	25.0	(113) (29)	-	にぶい褐色 + にぶい黄褐色	天頂部は縦い凹面状。口縁部は外反し肩部は丸く収める。内面ハケの後ナデ、口縁部ミズギ、外面ハケの後ミズギ。上部は縦方向の蓋状工具によるナデ、口縁部はハケ。	
1190	A区	包含層	弥生土器 蓋	24.8	(61)	-	浅黄褐色 褐色 浅黄褐色	肩部はフラット状に外反し、肩部は丸く収める。内外面とも丁寧なミズギ。	
1191	K区	包含層	ミニチュア 土器	5.4	(37)	-	にぶい黄褐色 黒褐色 +	手づくね成形、内外面とも指頭圧痕が残る。	
1192	A区	包含層	小型丸底土器 鉢	-	(60)	32	にぶい黄褐色 + 灰色	内外面とも丁寧なナデ。外面底部は蓋状工具による痕跡が残る。	
1193	A区	包含層	弥生土器 瓶	132	152	-	にぶい黄褐色 + 浅黄褐色	肩の付かない梨形の底部に単孔とみられる直径0.8cmの円孔を横成面に穿つ。底部は丸底状、口縁部は上方に延び、肩部は面を成す。内面ナデ、外面タタキ。	
1194	A区	包含層	弥生土器 瓶	-	(32)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 灰色	底部は尖底。内面ナデ、押圧痕を残す。外面ハケ。直径0.9cmの円孔を穿つ。	
1195	北区	包含層	土師器 飯かま	22.0	(88)	-	にぶい黄褐色 褐色 浅黄褐色	肩部は直線的に外上方に延び、口縁部は僅かに短く外反する。内外面ともハケ、口縁部はナデ。	
1196	A区	包含層	土師器 飯又は甕	-	(59)	120	明赤褐色 褐色 +	肩部は直線的、肩部は丸く収める。内面ナデ、底部は横方向のナデ、外面ハケ、一部に保付痕。	
1197	A区	包含層	土師器 瓶	-	(44)	-	浅黄褐色 -	把手部のみ残存、他は欠損。横断面楕円形状で上方に短く両曲する。	
1198	C区	包含層	土師器 瓶	-	(44)	-	褐色 -	把手部は平面形不整形台形、断面形は不整形長方形を呈す。肩部は丸く上方へ反り上がる。	
1199	A区	包含層	土師器 瓶	-	(59)	-	にぶい黄褐色 -	外面はナデにより丸め整えられ、接合部にはハケ目が残る。	
1200	B区	包含層	土師器 瓶	-	(47)	-	灰黄褐色 -	内外面ともナデ、指頭圧痕が残る。	
1201	K区	包含層	土師器 瓶	-	(48)	-	にぶい褐色 -	把手部、接合部で剥離する。	6c 後
1202	A区	包含層	土師器 瓶	-	(43)	-	浅黄色 -	把手部片。把手基部は幅広く水平で、肩部は丸味を持ち、縦く上方を向く。内面ナデ、外面蓋状工具によるナデ。	
1203	D区	包含層	石製品 石包丁	全長 8.4	全幅 5.7	全厚 1.0	-	打製石包丁。背部は山型、刃部は直線的。表裏面は自然面及び打割による剥離面、片割のみ残る。側縁は下を大きく欠く。泥岩。重量540g	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1204	C区	包含層	石製品 石包丁	全長 7.6	全幅 4.3	全厚 1.1	-	打製石包丁。直線的な刃部に使用痕が残る。背面は打削の痕の剥離痕を残す。両側面に溝があり、片側は深く、他方は浅い。重量 41.0g	
1205	北区	包含層	石製品 石芥	全長 5.5	全幅 3.6	全厚 0.9	-	扁平で、平面形は台形状。表面は主に横方向の細かな線条。裏面は不定方向のやや深い溝状の痕跡。刃部は直又は刃端に直する線条。縁は明瞭な深い溝条。重量 30.3g	
1206	A区	包含層	石製品 砥石	全長 4.5	全幅 3.7	全厚 1.4	-	仕上げ。両主面と側面2面の4面を使用し、線条を残す。重量 37.0g	
1207	D区	包含層	石製品 砥石	全長 10.6	全幅 7.7	全厚 3.3	-	河原石を用い、約1/3が残存する。主面と側面を使用し、長軸に対して浅い角度で擦痕と線条が残る。磨打により磨削した痕は使用痕なし。石英粗面岩。重量 280.0g	
1208	D区	包含層	石製品 砥石	全長 6.1	全幅 5.4	全厚 4.1	-	5面を使用する。両主面と両側面は使用に伴う縦・横方向の線条を留める。両側面は連続した割み風の痕跡。端面は深い縦割や線条が残る。石英粗面岩。重量 114.0g	
1209	K区	包含層	石製品 叩石	全長 9.5	全幅 3.5	全厚 3.7	-	棒状の内側の両端部及び中央部を使用する。重量 189.0g	
1210	北区	包含層	石製品 叩石	全長 8.8	全幅 1.7	全厚 1.4	-	棒状で、両端部に磨打による磨削が見られる。泥質。重量 34.7g	
1211	北区	包含層	石製品 不明	全長 6.8	全幅 2.0	全厚 1.0	-	扁平な棒状を呈す。端部及び縁部に打痕は認められない。泥質。重量 21.0g	
1212	C区	包含層	石製品 不明	全長 5.5	全幅 0.8	全厚 0.8	-	緑色内岩か。両端部に摩滅や打痕は認められない。本体部分は滑らか。重量 4.0g	
1213	D区	包含層	石製品 不明	全長 6.1	全幅 0.9	全厚 0.7	-	棒状の石片。重量 4.0g	
1214	A区	包含層か	石製品 叩石	全長 14.5	全幅 10.6	全厚 4.3	-	平面形は幅広い分銅形状。断面形は長楕円形状を呈す。縁部に打痕が認められる。重量 876.0g	
1215	A区	包含層か	石製品 叩石	全長 11.2	全幅 8.5	全厚 4.6	-	平面形は楕円形状。断面形は不整形円形状を呈す。端部を中心に小さな打痕を残す。一方の使用が著しい。泥質。重量 610.0g	
1216	A区	包含層か	石製品 叩石	全長 12.5	全幅 10.3	全厚 5.6	-	一部欠損するが、平面形は長楕円形状。断面形は台形状と見られる。縁部及び端部に剥離痕が多い。砂岩質。重量 931.0g	
1217	A区	包含層	土師器 皿	9.8	1.6	6.4	褐色色 に高い褐色 或黄褐色	底部は僅かに凸面を成す。口縁部は直線的に外方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み口ロク目跡著。外面底部に粘土結核合痕。	
1218	A区	包含層	土師器 皿	12.3	1.9	8.0	褐色 + 明黄褐色	底部は平底で緩い凹面を成す。口縁部は緩く内湾し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み口ロク目を残す。外面底部に粘土結核。	
1219	北区	包含層	土師器 皿	9.4	1.9	6.4	浅黄褐色 + 高い褐色 或黄褐色	体部から口縁部は緩く内湾し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み口ロク目跡著。内面の一部に僅かな付着。底部切り離しは回転ナデ。	
1220	C区	包含層	土師器 皿	8.1	1.8	5.0	に高い黄褐色 + 褐色	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面ともナデ。底部切り離しは回転ナデ。	
1221	北区	包含層 検出面	土師器 皿	10.7	2.0	8.3	浅黄褐色 + 褐色	底部端から口縁部は直線的に斜外方に延び、端部は丸味を持った面を成す。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転ナデ。	
1222	北区	包含層 検出面	土師器 皿	9.9	2.1	6.0	褐色 + に高い黄褐色	底部は凹凸面状で、口縁部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みに押圧痕を残す。底部切り離しは回転ナデ。	
1223	北区	包含層 検出面	土師器 皿	9.6	2.1	6.7	褐色 + 浅黄褐色	底部は僅かに凹面状。底部端から口縁部は丸味を帯びて外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み口ロク目跡著。底部切り離しは回転ナデ。	
1224	北区	包含層 検出面	土師器 皿	9.2	2.1	6.5	浅黄褐色 + 灰白色	底部端から口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み中央に口ロク目跡著。底部切り離しは回転ナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1225	北区	包含層	土師器 皿	90	19	58	褐色 +	底部端から口縁部は緩く湾曲して外上方に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み口コロ目顯著。底部切り磨しは回転糸切り。	
1226	C区	包含層	土師器 皿	-	(14)	4.1	にぶい・褐色 浅黄褐色 +	小型の皿。体部は緩く内湾して立ち上がる。内外面ともナデ。外面口コロ目顯著。底部切り磨しは回転糸切り。	
1227	A区	包含層	土師器 台付皿	104	32	59	浅黄褐色 +	口縁部は外上方に開き、肩部は丸く収める。底部に高い高台。残存部の3か所に打ち欠いた欠損あり。内外面とも回転ナデ。高台内に回転ヘラ切りの痕跡、精緻な胎土。	
1228	J区	包含層	土師器 台付皿	194	27	108	褐色 +	断面長方形状の高台が付く。体部中位で肥厚し、口縁部は丸く収める。内面ミガキ・ナデ。外面回転ナデ。口コロ目顯著。精緻な胎土。	
1229	J区	包含層	土師器 手づくね皿	156	(35)	-	にぶい・黄褐色 +	底部から口縁部は外上方に延び、肩部はやや尖り気味に仕上げる。内面ナデ、脚圧痕。一部に保付着。外面ナデ。押圧痕が残る。	
1230	J区	包含層	土師器 杯	120	(36)	-	明褐色 明褐色・黒色 浅黄褐色 +	体部から口縁部は緩く外反し、口縁部は丸く収める。内面口縁部に隆起状の段部が高。内外面ともミガキ。赤色顔料が施される。	8c
1231	D区	包含層	土師器 杯	-	(24)	77	黄褐色 +	底部は緩い凸面を成し、底部端は湾曲する。内面回転ナデ。外面底部に胎土痕を残す。底部切り磨しは回転ヘラ切り。	10c
1232	D区	包含層	土師器 杯	-	(10)	70	褐色 浅黄褐色 +	底部は緩い凸面状を呈し、頸部に胎土が突出する。体部は直線的に外方に開く。内外面ともナデ。外面底部下部に3条の沈線が施される。	
1233	K区	包含層	土師器 杯	-	(29)	71	褐色 浅黄褐色 +	ベタ高台。内外面とも回転ナデ。底部切り磨しは回転ヘラ切り。	
1234	A区	包含層	土師器 杯	140	50	58	にぶい・黄褐色 +	底部はやや凹面状を呈し、体部は緩く内湾する。口縁部は緩く外反し、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面は口コロ目顯著。底部切り磨しは回転糸切り。	
1235	D区	包含層	土師器 杯	-	(32)	66	暗褐色 にぶい・赤褐色 にぶい・黄褐色 +	柱状高台。体部は底部端から外反する。内外面とも回転ナデ。底部切り磨しは回転糸切り。	11c
1236	D区	包含層	土師器 杯	94	34	53	褐色 明黄褐色 +	柱状高台。体部から口縁部は外反し、肩部は緩く尖り気味に仕上げる。内外面ともナデ。底部切り磨しは回転糸切りで、ヘラナデを施す。	11c
1237	A区	包含層	土師器 杯	146	47	71	浅黄褐色 +	体部は緩く内湾する。口縁部は外反して肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み口コロ目顯著。外面体部下位にナデ。底部切り磨しは回転糸切り。	
1238	D区	包含層	土師器 杯	-	(27)	80	にぶい・黄褐色 灰黄色 にぶい・黄褐色 +	底部は概ね平坦面を成し、肩部は丸味を帯びる。内面回転ナデ。見込み口コロ目顯著。外面ナデ。底部端に胎土が盛り上がる。	
1239	D区	包含層	土師器 碗	-	(31)	70	灰白色 +	底部は円盤状にやや突出し緩い凹面を成す。体部は直線的に立ち上がる。内外面とも回転ナデ。内面口コロ目顯著。底部切り磨しは回転糸切り。	
1240	D区	包含層	土師器 杯	154	47	77	灰黄褐色 にぶい・黄褐色 +	体部は丸味を持って延び、口縁部で緩く外反する。肩部は丸く収める。内外面ともナデ。内面は概ね全体に、外面は中位以上に保付着。底部切り磨しは回転糸切り。	
1241	D区	包含層	土師器 杯	-	(38)	58	にぶい・黄褐色 +	底部は円盤状にやや突出。内外面とも回転ナデ。内面体部から底部にかけて縦状に條物と見られる塊け跡が残る。外壁の一部に保付着。底部切り磨しは回転糸切り。	
1242	B区	包含層	土師器 碗小	-	(10)	52	褐色 浅黄褐色 +	内面に赤色顔料を塗布。底部切り磨しは回転糸切り。	
1243	北区	包含層 検出面	土師器 碗	-	(20)	67	にぶい・褐色 +	底部端から体部は緩く屈曲する。内外面とも回転ナデ。見込み口コロ目顯著。底部切り磨しは回転糸切り。	
1244	D区	包含層	土師器 杯	145	38	68	浅黄褐色 にぶい・褐色 浅黄褐色 +	体部から口縁部は直線的に外上方に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込み口コロ目顯著。底部切り磨しは回転糸切り。	
1245	A区	包含層	土師器 杯	132	37	82	褐色 にぶい・褐色 褐色 +	口縁部は外上方に直線的に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り磨しは回転糸切り。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1246	北区	包含層 検出面	土師器 椀	-	(25)	70	にぶい黄褐色 暗灰黄色 にぶい黄褐色	底端面に断面台形の高台がハの字状に付く。内外面とも回転ナデ、外面ミガキ、裾付着又は裾痕跡が見られる。	11c 後
1247	北区	包含層 検出面	土師器 椀	-	(27)	88	浅黄褐色 *	底部は平坦面状で、底端面に断面台形の高台や高い高台がハの字状に付く。内面ナデ、外面回転ナデ。	11c 後
1248	北区	包含層 検出面	土師器 椀	-	(23)	68	浅黄褐色 * 灰白色	底端面に断面三角形の高台がハの字状に付く。内外面ともナデ。	12c
1249	北区	包含層 検出面	土師器 椀	-	(32)	69	にぶい黄褐色 浅黄褐色 灰白色	底部から体部は丸味を帯び、底端面に断面長方形の高台がハの字状に付く。内面ミガキ、外面ナデ・ミガキ。	12c
1250	C区	包含層	土師器 椀	-	(29)	64	浅黄褐色 * *	底部から体部は内湾して立ち上がる。底端面にハの字状に断面台形の高台が付く。高台端は丸味を持った面を成す。内面ミガキ、外面ナデ。	12c
1251	北区	包含層 検出面	土師器 椀	154	(43)	-	浅黄褐色 * *	体部は丸味を帯び、口縁部は緩く外反する。肩部は外側寄りに丸く収める。内面ナデ・ミガキ、外面ミガキ。	12c
1252	北区	包含層 検出面	土師器 椀	166	(43)	-	浅黄褐色 * *	体部は丸味を帯び、口縁部は緩く外反する。肩部は丸く収める。内面ナデ・ミガキ、外面回転ナデ。	12c
1253	北区	包含層	土師器 椀	-	(25)	67	浅黄褐色 にぶい褐色 浅黄褐色	底部は平坦面状を呈し、底端面に直立する高台が付く。内面ミガキ、外面ナデ、体部下位に裾付着。	
1254	北区	包含層 検出面	土師器 椀	-	(27)	60	浅黄褐色 * *	底端面にやや幅の狭い高い高台が付く。内外面ともナデ。	
1255	北区	包含層 検出面	土師器 椀	150	(45)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に外上方に及び、肩部は外側寄りに丸く収める。内面ナデの後ミガキ、外面ナデ。	
1256	北区	包含層 検出面	土師器 椀	154	(36)	-	にぶい褐色 褐色 浅黄褐色	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に外上方に及び、肩部は丸く収める。内外面ともミガキ、内面口縁部は横方向のナデ。	
1257	北区	包含層 検出面	土師器 椀	132	(42)	-	浅黄褐色 * *	体部は丸味を帯び、口縁部は緩く外反する。肩部は外側寄りに丸く収める。内外面とも回転ナデ、ロクロ目跡。	
1258	A区	包含層	土師器 鉢	244	(50)	-	褐色 * 浅黄褐色	口縁部は緩く小に斜上方に及び、肩部は内側に肥厚し丸く収める。内外面とも丁寧ナデ、外面ミガキ。	
1259	D区	包含層	土師器 鉢か盤	-	(29)	136	明中期色 暗赤褐色・にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部は広い平坦面状、体部は直線的に及び、内面ナデ・ヘアミガキ、外面ヘアミガキ。	
1260	A区	包含層	土師器 移動式甕	-	(97)	-	灰黄褐色 浅黄褐色 灰白色	口縁部下に断面台形の踵が延る。内面横方向の強いナデにより一部の移動が動く。外面側上部と下部に幅広いハケ。	
1261	B区	包含層	不明	-	(43)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 *	器面はナデ、器壁厚い。	
1262	B区	包含層	不明	-	(53)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 灰白色	器面はナデ、器壁厚い。	
1263	北区	包含層 検出面	土師器 火舎	-	(45)	-	灰黄褐色 * にぶい褐色	底部と脚台の一部。内外面ともナデ。内面底部に数枚工具による圧痕、外面側部に回転ナデ、底部に幅広いハケ。	
1264	J区	包含層	土師器 甕	168	(50)	-	褐色 にぶい褐色 浅黄褐色	頸部は緩く小に屈曲し、口縁部は外反、肩部は肥厚し、丸く収める。胴部器壁は薄い。内面側部はケズリ、口縁部下、外面側部上位はハケの後ナデ、砂粒が動く。	
1265	A区	包含層	土師器 甕	186	(53)	-	にぶい褐色 褐色 にぶい褐色	側部上位は直線的に及び、口縁部は外反する。肩部は面を成し、上下にやや肥厚、内面ナデ、外面側部は横方向のハケの最端方向のハケ、口縁部は横方向のナデ。	
1266	A区	包含層	土師器 甕	200	(90)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色・赤褐色 にぶい黄褐色	口縁部は緩く小に外反する。肩部は直立する面を成し、断面凹状。内面口縁部は横方向のナデ、胴部横方向のナデ、外面側部はナデ、側面圧痕、胴部は横方向のナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調		特徴	備考
				口径	器高	底径	内面・外面	断面		
1267	B区	包含層	土師器 壺	238	(64)	-	にぶい・橙色 にぶい・褐色 にぶい・黄褐色	口縁部は縁や中に外反し、肩部は丸く収める。内面下から上のヘラケナズリ、外面タタキの後ハケ、外面に保付着。		
1268	K区	包含層	土師器 壺	256	(53)	-	橙色 にぶい・褐色 黄灰色	内面口縁部部に粘土帯を貼付、僅かに肥厚する。内面瓶状工具によるナズ、外面口縁ナズ、肩部上位ハケ。		
1269	A区	包含層	土師器 壺	266	(28)	-	褐色 + 灰黄褐色	口縁部は直線的に短く立ちあがる。肩部は上方にやや尖った鋭い凹面を成す。内面口縁ナズ、外面ナズ、胎土中に白色粒を多く含む。		
1270	北区	包含層 検出面	土師器 壺	298	(63)	-	灰褐色 にぶい・褐色 褐色	肩部の両面し、口縁部は直線的に外上方に延びる。肩部は縁や中に肥厚して面を成し、上方にやや突出する。内面ナズ、外面ハケの後ナズ。		
1271	A区	包含層	土師器 壺	316	(37)	-	灰黄褐色 にぶい・褐色	口縁部は外反し、肩部上面に面を成す。肩部はナズにより凹状を呈す。内外面とも横方向のナズ。		
1272	K区	包含層	土師器 壺	-	(53)	-	にぶい・黄褐色 灰黄褐色 にぶい・黄褐色	肩部はくの字状を呈す。口縁部は外反し、肩部は内傾する面を成す。胎土に器母片含む。		
1273	北区	包含層 検出面	土師器 壺	-	(28)	-	にぶい・褐色 + 褐色	口縁部片、肩部は面を成す。内外面ともナズ。		
1274	A区	包含層	土師器 壺	250	(207)	-	褐色 明黄褐色 灰黄褐色	制込上位は成りし、口縁部は外上方に延びる。肩部は外側に肥厚し丸く収める。内面口縁部ナズ、外面ナズ、外面口縁部ナズの日後ナズ、器部・制込ナズ、制込下位ナズ。		
1275	北区	包含層	土師器 壺	-	(101)	-	浅黄褐色 褐色・黒褐色 浅黄褐色	胴部片、内面ナズ、外面細いハケ。外面の一部に保付着。		
1276	D区	包含層	土師器 壺	305	(103)	-	にぶい・黄褐色 + 褐色	胴部は直線的に延び、頸部で緩く収束して口縁部は直線的に外上方に延びる。内面ナズ、外面ナズ、外面の一部に保付着。		
1277	C区	包含層	土師器 羽釜	250	(45)	-	にぶい・褐色 にぶい・黄褐色 + 褐色	口縁部は緩く内湾し上方に延びる。肩部は平坦面状で、外面に肉厚の脣がやや上向きに付く。内外面ともナズ。外面脣の上下に押圧痕、外面、脣に脣の上側に保付着。		
1278	北区	包含層 検出面	土師器 羽釜	190	(30)	-	灰黄褐色 + 褐色	口縁部は内湾し、肩部は平坦面状を呈す。口縁部下に断面台形状の脣が高る。肩部は浅い凹面を成す。内外面ともナズ。		
1279	北区	包含層 検出面	土師器 羽釜	200	(24)	-	黄褐色 灰黄褐色 + 褐色	口縁部は緩く内湾し上方へ延び、口縁部直成りに断面長方形形状の脣が高る。肩部は浅い凹面を成す。		
1280	北区	包含層 検出面	土師器 羽釜	211	(31)	-	にぶい・赤褐色 にぶい・褐色 褐色	口縁部は内湾し上方に延びる。肩部は内傾する面を成す。口縁下に断面台形状の脣が高る。脣肩部は浅い凹面状を呈す。内外面ともナズ、脣下部に押圧痕。		
1281	北区	包含層	土師器 羽釜	236	(23)	-	褐色 + 褐色	口縁部は上方に延び、肩部は面を成す。口縁部下の脣は断面不整形台形状で、肩部は斜位の面を成す。内外面ともナズ、内面口縁部部に凹凸痕、外面脣部に集合痕・押圧痕。		
1282	A区	包含層	土師器 羽釜	236	(47)	-	灰黄色 にぶい・黄褐色 黄灰色	口縁部は内面にやや拡張し、口縁部縁に脣が高る。胴部は欠損する。		
1283	D区	包含層	土師器 羽釜	236	(49)	-	褐色 にぶい・黄褐色 明黄褐色	口縁部は直線的に上方に延び、肩部は狭い面を成す。口縁部下に脣が高る。脣肩部は丸味を持ち、上方に偏する。内外面ともナズ、脣の下部に集合痕が現る。		
1284	D区	包含層	土師器 羽釜	295	(59)	-	にぶい・褐色 + にぶい・黄褐色	口縁部は上方に延び、肩部は鋭い凹面状。口縁部下に断面台形状の脣が高る。脣肩部は鋭い凹面状。内面ハケの後ナズ、外面細いハケ、口縁部及び脣は横方向のナズ。		
1285	北区	包含層 検出面	土師器 羽釜	278	(92)	-	灰黄褐色 + 褐色	胴部から口縁部は上方に延び、肩部は凹面状。口縁下に断面台形状の水平な脣が高る。脣肩部は鋭い凹面状。内面胎状工具によるナズ、外面ナズ、脣下部に押圧痕、器部に凹凸痕。		
1286	D区	包含層	須恵器 杯蓋	124	(27)	-	灰白色 + 褐色	天舟部は凹板ナズにより凹凸状を呈し、口縁部は両面の直線的に外下方に延びる。肩部は丸味に丸く収める。内外面ともナズ。		
1287	A区	包含層	須恵器 杯蓋	134	(35)	-	灰色 + 黄褐色	天舟部は僅かに突出する。口縁部は凹板ナズによりやや肥厚し、肩部は丸く収める。内外面とも凹板ナズ。		

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1288	D区	包含層	須恵器 杯蓋	138	(26)	-	黄灰色 灰色 *	天井部は欠損する。口縁部は直線的に外下方に並び、 蓋部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。	
1289	D区	包含層	須恵器 杯蓋	130	(31)	-	灰色 灰色・灰青褐色 灰色	天井部は丸味を帯び、緩く傾斜して口縁部は直線的に下 方へ並び、蓋部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。外 面天井部は回転ヘラケズリ。	
1290	B区	包含層	須恵器 杯蓋	145	4.1	-	灰白色 *	外面天井部は回転ヘラケズリ、他はナズ、やや成不良。	
1291	D区	包含層	須恵器 杯蓋	150	(3.3)	-	灰色 * *	天井部から口縁部は丸味を帯び、口縁部は下方に並 び、蓋部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。内面天井部 は口縁部直線、外面天井部ヘラケズリ。	
1292	D区	包含層	須恵器 杯蓋	130	(29)	-	褐色 灰黄褐色 灰黄褐色・褐色	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に下方に並び、内 外面とも回転ナズ。	
1293	D区	包含層	須恵器 杯蓋	132	3.3	-	黄灰色 * に濃い黄色	平坦な天井部から湾曲し、口縁部は下方に並び、蓋部 は細く丸く収める。内面ナズ、天井部は口縁部直線、外面 ナズ、天井部に粘土継ぎ合痕が残る。	
1294	J区	包含層	須恵器 杯蓋	14.1	3.7	-	灰色 * *	天井部から口縁部は直線的に下方に並び、蓋部は丸く収 める。内面回転ナズ。外面口縁部回転ナズ、天井部は回転 ヘラケズリ。	
1295	D区	包含層	須恵器 杯蓋	-	(26)	-	灰白色 灰色 *	平坦な天井部から口縁部は直線的に下方に並び、内外 面とも回転ナズ。内面天井部に接合痕、外面天井部にヘ ラケズリの痕跡が残る。	
1296	D区	包含層	須恵器 蓋	15.4	(1.9)	-	灰黄色 * *	天井部は低い。口縁部は下方へ緩く突出し、蓋部は丸く 収める。内面回転ナズ。外面ナズ、天井部ヘラケズリ。	
1297	D区	包含層	須恵器 蓋	15.8	1.3	-	灰黄色 * *	天井部は緩い凹状を呈し、口縁部は短く下方に突出す る。内外面とも回転ナズ。外面天井部にヘラケズリの痕 跡が残る。	
1298	C区	包含層	須恵器 蓋	-	(1.9)	-	灰白色 灰オリーブ色 灰白色	黒宝珠型の組みが付く。天井部は緩く内湾する。内面ナ ズ。外面ケズリの後ナズ。自然釉が付着する。胎土中に黒 磯の大きな気孔が見られる。	
1299	A区	包含層	須恵器 蓋	136	1.7	-	灰色 *	厚い天井部から口縁部は緩く内湾し、蓋部は丸く収 める。内面口縁部回転ナズ。天井部は方向を異にする擦 痕が残る。外面ナズ。転用説。	
1300	A区	包含層	須恵器 蓋	100	(1.4)	-	灰色 褐色 *	外面天井部回転ヘラケズリ、「メ」のヘラ記号を有する。	
1301	D区	包含層	須恵器 杯身	112	(3.2)	-	黄灰色 オリーブ褐色 黄灰色	受け部は凹面状で、短く外上方に並び、かえりは緩く外 反し内上方に並び、内外面とも回転ナズ。胎土中に開 孔、地成により器形部に歪みが生じる。受け部径 13.6cm	
1302	D区	包含層	須恵器 杯身	106	(4.0)	-	灰色 * 褐色	受け部は凹面状で短く外上方に、かえりは直線的に内上方 に並び、内外面とも回転ナズ。内面底部口縁部直線、外 面底部ヘラケズリ直を工具で細かく潰す。受け部径 12.6cm	
1303	D区	包含層	須恵器 杯身	106	4.0	-	灰色 * *	受け部は短く外上方に並び、かえりは直線的に内上 方に並び、内外面とも回転ナズ。内面口縁部直線、外 面底部ヘラケズリ。受け部径 12.7cm	
1304	A区	包含層	須恵器 杯身	124	(39)	-	灰白色 灰色 に濃い褐色	かえりは内傾し、蓋部は尖り気味になる。受け部は断面三 角形状を呈す。内外面とも回転ナズ。外面底部は回転ナズ リ。外面底部の周縁に放射状の擦痕。受け部径 14.6cm	
1305	A区	包含層	須恵器 杯身	130	(3.1)	-	灰色 灰 白色 に濃い黄褐色	かえりは内傾し、蓋部は尖り気味になる。受け部は凹状 を呈す。内外面とも回転ナズ。蓋部は欠損する。受け部径 15.0cm	6c
1306	B区	包含層	須恵器 杯身	124	3.5	7.0	灰白色 * *	かえりは外上方に並び、受け部は断面三角形形状を呈す。 外面底部は回転ヘラケズリ、他は回転ナズ。受け部径 14.2cm	6c
1307	A区	包含層	須恵器 杯身	119	3.4	6.2	灰白色 灰色	口縁部は緩く外反する。受け部は外上方に並び、かえり は短く内傾。内外面とも回転ナズ。内面中位以下は口 縁部直線、外面中位以下はケズリ。受け部径 14.2cm	
1308	K区	包含層	須恵器 杯身	124	3.6	-	に濃い黄褐色 に濃い褐色 *	内外面とも回転ナズ。受け部径 14.7cm。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1309	B区	包含層	須臾器 杯身	130	(26)	-	褐色色 +	かえりは外上方に及び、受け部は断面三角形状を呈す。 内外面とも回転ナズ、受け部径149cm	6c
1310	A区	包含層	須臾器 杯身	-	(23)	-	黄灰色 灰色 灰黄色	体部から軽く内湾して及び、受け部は丸味を帯びた幅広い面を成す。かえりは短く内傾す。内外面とも回転ナズ、受け部径15.1cm	
1311	D区	包含層	須臾器 杯身	132	(32)	-	褐色色 灰白色 褐色色	受け部は短く外上方へ及び、かえりは直線的に内上方に及び、内外面とも回転ナズ、受け部径156cm	
1312	D区	包含層	須臾器 杯身	130	(37)	-	褐色色 灰白色 黄灰色	受け部は短く外上方に及び、かえりは直線的に内上方に及び、内外面とも回転ナズ、外面底部へラケズリ、受け部径152cm	
1313	J区	包含層	須臾器 杯身	-	(43)	-	灰白色 にぶい黄褐色 灰白色	受け部は短く外反し、かえりは尖り気味と見られる。焼成不良のため外面は剥離する。受け部径170cm	
1314	D区	包含層	須臾器 杯身	133	(34)	-	灰褐色 黄灰色 灰褐色	受け部は短く外上方に及び、かえりは太く、緩やかに外反し、内上方に向かう。内外面とも回転ナズ、外面底部へラケズリ、受け部径156cm	
1315	A区	包含層	須臾器 杯身	166	33	130	灰黄色 にぶい黄褐色 灰白色	口縁部のかえりはやや内傾し、肩部は丸く収める。受け部は短く、肩部はやや尖る。内外面とも回転ナズ、磨化磁焼成で軟質、受け部径18.5cm	
1316	A区	包含層	須臾器 高杯	142	(43)	-	灰色 +	かえりは曲線状に内傾し、肩部はやや尖る。受け部肩部は丸く収める。肩部は中空で、複数の連かしが入る。内面回転ナズ、平行なナズ、外面回転ナズ・へラケズリ、受け部径120cm	
1317	D区	包含層	須臾器 高杯	101	(33)	-	灰色 +	体部は丸味を帯び、口縁部は上方に及び、口縁部側に段を有し、肩部は丸く収める。内面回転ナズ、外面ナズ。	
1318	D区	包含層	須臾器 高杯	-	(32)	112	黄灰色 灰色 黄灰色	脚部は中位で外反し、下位で内湾する。肩部は凹面状を呈す。残存部に透かしがみられる。内面丁寧な回転ナズ、外面粗い仕上げの回転ナズ。	
1319	北区	包含層 検出面	須臾器 高杯	-	(39)	-	灰色 +	脚部片、内外面ともナズ。	
1320	C区	包含層	須臾器 高杯型器台	366	(24)	-	にぶい黄褐色 灰白色 +	口縁部は軽く内湾して大きく開く。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナズ、外面口縁部に6条1單位の磨化磁状文。	
1321	A区	包含層	須臾器 提瓶	-	(61)	-	黄灰色 灰白色 +	扁平な胴部。胴部と頸部の境を粘土で塞いだ後外面にカキ目を施す。内面回転ナズ。	
1322	D区	包含層	須臾器 提瓶	106	(58)	-	暗灰黄色 灰色 灰黄色	口縁部は外反し、肩部で短く外上方に開く。肩部は面を成し、上方へ肥厚。内面ナズ、口縁部に灰又は炭粉の一部が付着。外面ナズ、口縁部の一部が焼成時に陥を呈する。	
1323	A区	包含層	須臾器 平瓶	58	(51)	-	灰白色 灰色 灰黄褐色	ロウロ成彩により口縁部を装飾する。口縁部は緩く外反し、肩部で直立。肩部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。一部に自然釉が付着する。	
1324	D区	包含層	須臾器 杯	119	40	90	灰黄色 +	底部は緩い凹面状を呈す。底部端は湾曲し、体部から口縁部は直線的に外上方に及び、肩部は丸く収める。内外面ともナズ。	
1325	K区	包含層	須臾器 杯	118	44	64	灰黄色 灰色 +	口縁部は緩やかに上方に開き、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナズ、底部切り差しはへラ切り。	
1326	K区	包含層	須臾器 杯	131	49	86	暗灰黄色 灰オリーブ色 灰色	口縁部は直線的に外上方に及び、内外面とも回転ナズ、底部切り差しはへラ切り。	
1327	D区	包含層	須臾器 杯	-	(20)	88	灰白色 灰色 灰白色	底部端にハの字状の高台が付く。高台肩部は中央の窪んだ面を成す。内外面とも回転ナズ、外面の一部に腐付着。	
1328	D区	包含層	須臾器 杯	-	(18)	88	灰色 +	底部端に断面台形状のハの字状に開く高台が付く。内外面ともナズ、高台内に粘土粒状物を残す。	
1329	北区	表採	須臾器 杯	108	32	72	褐色色 灰黄褐色 褐色色	底部端に断面方形形状の高台が付く。体部は直線的に外方に及び、口縁部は緩く外反する。肩部は丸く外側寄りに収める。内外面とも回転ナズ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1330	A区	包含層	須恵器 杯	15.4	3.5	8.5	灰白色 明褐色 *	ハの字に開く高台が付き、底部との境は円状になる。口縁部は外上方に直線的に延び、肩部は丸く収める。内外面とも回転ナズ。	
1331	北区	包含層 検出面	須恵器 杯	-	(2.2)	5.8	灰黄色 浅灰色 灰青色	円盤状の底部。内外面とも回転ナズ。底部切り離しは回転糸切り。	10c
1332	D区	包含層	須恵器 杯	-	(1.6)	5.4	オリーブ灰色 灰オリーブ色 灰色	底部は平底状で鋭い凹面を成す。内外面とも回転ナズ。一部に自然釉が付着する。底部切り離しは回転糸切り。	10c
1333	北区	包含層 検出面	須恵器 椀	-	(2.6)	5.6	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	底部端に断面台形状の高台が付く。内面ナズ、外面回転ナズ。	
1334	北区	包含層 検出面	須恵器 椀	15.8	(4.0)	-	灰白色 *	胴部は丸味を帯び、口縁部は縦やかに外反する。肩部は尖り気味に丸く収める。内面ナズ、外面回転ナズ。器面に火煙黒の発成痕が見られる。	
1335	A区	包含層	須恵器 鉢	-	(3.9)	-	灰白色 *	体部から直線的に延び、口縁部で内湾する。肩部は外側に折り返すことにより肥厚する。丸味を持たない面を成す。内外面とも回転ナズ、外面口クロ目顕著。	10c
1336	K区	包含層	須恵器 杯	21.7	(6.3)	9.3	にぶい褐色・にぶい黄褐色 *	ベタ高台。底部から口縁部にかけて外上方に立ち上がる。酸化塩化痕。	
1337	北区	包含層 検出面	須恵器 鉢	16.5	(2.6)	-	にぶい黄褐色 灰黄色 にぶい黄褐色	口縁肩部は内外に絞割て面を成す。内外面とも回転ナズ。灰白色の釉薬が施される。	
1338	北区	包含層	須恵器 鉢	24.0	(3.2)	-	灰白色 *	口縁部片、口縁肩部は面を成し、外側へ肥厚する。内外面ともナズ。	
1339	D区	包含層	須恵器 鉢	29.7	(4.7)	-	灰黄色 *	口縁部は僅かに内湾気味に直立し、肩部は円状の面を成す。内外面とも回転ナズ。	
1340	D区	包含層	須恵器 円面碗	20.6	(2.1)	-	灰色 *	胴部は平底で、胴部が断面台形状の土手状になる。肩部は傾斜ナズ。周縁は外上方に延び、肩部は面を成す。胴の基部に断面台形状の凹部。胴部には発成痕の透かしを有す。内面回転ナズ。上面に自然釉付着。	
1341	D区	包含層	須恵器 円面碗	-	(1.6)	-	黄灰色 灰色 黄灰色	胴部は平底で滑らか。肩部は胴部端から緩やかに窪む。周縁は欠損するが、胴部には透かしを有する。胴部に不定方向の線染がみられる。	
1342	B区	包含層	須恵器 円面碗	-	(1.4)	-	灰色 *	円面碗。胴部に透かしを有する。	
1343	B区	包含層	須恵器 壺か	14.2	(4.9)	-	黄灰色 *	口縁部は短く上方に延び、肩部は水平な平坦面状を呈す。外面頸部、内面口縁部に自然釉がかかる。	
1344	D区	包含層	須恵器 壺	19.9	(3.3)	-	灰黄色 暗灰黄色 *	口縁部は外反する。肩部は面を成し、上方に肥厚する。内外面とも回転ナズ。	
1345	D区	包含層	須恵器 壺	18.5	(5.0)	-	黄灰色 黄灰色・黒褐色 黄灰色	口縁部は直線的に外上方に延び、肩部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナズ。胎土中に白色粒を含む。	
1346	B区	包含層	須恵器 壺	11.5	(5.8)	-	灰色 灰黄色 灰色	口縁部は短く直立し、肩部は水平な平坦面状を呈す。外面に自然釉が付着。内外面とも狭方向のナズ。	
1347	D区	包含層	須恵器 壺	16.6	(4.6)	-	黄灰色 灰白色 黄灰色	胴部から口縁部は直線的に外上方に立ち上がる。肩部は面を成し、内側にやや肥厚する。内外面ともナズ。	
1348	A区	包含層	須恵器 壺	19.1	(4.0)	-	暗灰色 灰色 灰褐色	口縁肩部は外側に肥厚する。	
1349	D区	包含層	須恵器 壺	-	(1.7)	-	黄灰色 *	口縁部は外反して大きく開く。肩部は面を成し、外側に肥厚する。内外面ともナズ。外面口縁肩部に自然釉が付着する。	
1350	A区	包含層	須恵器 壺	-	(3.5)	-	灰色 *	胴部はく字状に屈曲し、肩部は内外に肥厚する。胎土はにぶい黄褐色。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1372	D区	包含層	緑釉陶器 皿	-	(1.5)	80	菊ナリーブ灰色 + 灰色	底部端に断面方形状の削り出し高台,内外面ともナデ。	
1373	D区	包含層	緑釉陶器 皿	-	(1.7)	70	灰白色 +	円盤状高台,外面底部は凹面を成す。緑釉の多くは剥落するが,底部端まで施釉されていたと見られる。流注部。	
1374	D区	包含層	緑釉陶器 皿	138	20	68	灰白色 +	円盤状高台で凹面状を見す。体部は外上方に延び,肩部は短く外反し,太く丸く収める。コバルト色の釉薬が内面及び外縁口縁部に付着する。流注部でやや軟質。	
1375	D区	包含層	緑釉陶器 碗	-	(1.1)	60	灰白色 灰黄色 黄灰色	円盤状高台。底面を除き,内面及び外面高台に釉薬が施される。	
1376	B区	包含層	緑釉陶器 碗	-	(1.4)	66	灰白色 + 褐色	外面底部の中央が凹む。	
1377	北区	包含層 検出面	黒色土器 碗	-	(1.5)	-	灰色 暗灰黄色 灰黄褐色	内面に黒色処理,口縁部は細く丸く気味に仕上げられる。内外面ともナデ。	
1378	A区	包含層	黒色土器 碗	-	(3.3)	-	暗灰色 にぶい褐色 灰黄色	内面に黒色処理,器壁は薄く,口縁部は細く内湾する。肩部は細く面を成し,内側に流線状の設けを有する。内面へライミダキ,外面ナデ。	
1379	北区	包含層 検出面	黒色土器 碗	144	(4.5)	-	黒色 + 黄灰色	内外面とも黒色処理,体部から口縁部は丸味を帯び,口縁部は丸く収める。内外面とも横方向の溝状工具によるミダキ,内面口縁部部に流線状の設けが施される。	
1380	B区	包含層	黒色土器 碗	-	(0.8)	64	黒色 褐色 黒色	内面のみ黒色処理,断面三角形の小さな高台を有する。	
1381	A区	包含層	黒色土器 碗	-	(1.9)	-	暗灰色 褐色 黄灰色	底部から体部は細く内湾する。肩部には高台が付く。内外面にミダキ,底部はケズリの後ナデ。外面に赤色顔料が塗布される。	
1382	L区	包含層	瓦器 碗	156	(3.5)	-	黄灰色 + 灰色	外面横方向のナデ,器壁正或が流る。摩耗大きい。	
1383	北区	包含層 検出面	瓦器 碗	-	(3.1)	76	にぶい黄褐色 暗灰色 浅黄褐色	底部から体部は丸味を帯び,外面に断面三角形の高台がハの字に付く。内面ナデ・ミダキ,外面ナデ。	
1384	D区	包含層	白磁 碗	188	(5.5)	-	灰白色 + +	底部は欠損,体部から口縁部は緩やかに外反し,肩部は小さな玉縁状を呈し,外側に肥厚する。内面ナデ,外面回転ナデ。	11c 後
1385	C区	包含層	白磁 碗	-	(3.9)	-	灰白色 +	体部から口縁部は内湾する。肩部は内側に筋取りを施すことで,丸気味に仕上げられる。外側にやや肥厚し,下位にケズリが施される。胎土中に小気泡や円孔が多い。	
1386	D区	包含層	白磁 碗	176	(3.0)	-	灰白色 +	口縁部は外側に肥厚し,玉縁状を呈す。内面ナデ,外面回転ナデ。	
1387	L区	包含層	白磁 碗	-	(4.5)	-	灰白色 +	口縁部は玉縁状を呈し上部に突る。内外面とも白磁釉が施される。	10c 末 - 11c 代
1388	D区	包含層	白磁 碗	172	(2.4)	-	灰白色 +	体部から口縁部は直線的に外上方に延び,肩部は玉縁状を呈す。内外面ともナデ,外面にロクロ目が残る。	
1389	D区	包含層	白磁 碗	176	6.1	76	灰色 + 灰白色	削り出し高台で,高台内は浅い。体部から口縁部は緩く外反し,肩部は玉縁状で上位は凹面状を成す。内面ナデ,外面回転ナデ。釉薬は釉ね底部端,高台外面に及ぶ。	
1390	D区	包含層	白磁 碗	140	(2.3)	-	灰白色 + 灰黄色	口縁部は外側に細く丸気味に収める。内面ナデ,外面ナデ,口縁部横方向のナデ。	
1391	北区	表層	白磁 碗	-	(1.9)	69	灰白色 灰黄色 灰白色	底部は平皿面状で断面台形状の高台が付く。内面に施釉,見込みは流線状の設けが施される。外面は高台を含めて露胎,器壁はナデ。	
1392	D区	包含層	白磁 碗	-	(1.8)	80	灰白色 灰黄色 灰白色	底部端に断面台形状の高台が斜めに削り出される。体部は緩く内湾して外上方に立ち上がる。内外面ともナデ,外面底部ケズリナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1393	B区	包含層	白磁 碗	-	(29)	74	灰白色 にぶい黄褐色 灰白色	内面のみ施釉、見込みに2条の昇線がある。	16c
1394	B区	包含層	磁器 碗	-	(18)	60	灰白色 +	内外面ともに施釉され、外面高台は縁を割取る。断面長方形の高台。	
1395	D区	包含層	磁器 碗	-	(23)	-	灰白色 +	肥前産。口縁部は縁く尖り気味に仕上げ。外面無釉り文。	
1396	K区	包含層	丸瓦	全長 6.4	全幅 4.3	全厚 1.7	灰色 黄灰色 にぶい赤褐色	凹面に布目瓦紋、凸面にナデ、精緻な粒土。	
1397	D区	包含層	平瓦	全長 6.4	全幅 4.7	全厚 1.2	淡黄色 黄灰色 淡黄色	凹面に布目瓦紋、凸面は匙状工具によるナデ。	
1398	J区	包含層	平瓦	全長 8.3	全幅 7.8	全厚 2.5	褐色 +	酸化を受け赤色を呈す。凹面は布目瓦紋を残す。凸面は平行及び斜格子のタタキ目。	
1399	J区	包含層	平瓦	全長 7.5	全幅 4.5	全厚 3.0	灰色 黄灰色 +	銀葉質の瓦で、凹面に布目瓦紋、凸面にタタキ目を残す。	
1400	A区	包含層	平瓦	全長 10.7	全幅 7.4	全厚 3.6	黄灰色 -	凹面に布目瓦紋、凸面に平行タタキ目。側面は面取りを行う。	
1401	北区	包含層	土製品 土鉢	全長 3.0	全幅 1.0	全厚 0.9	- 淡赤褐色 -	管状土鉢。円筒形を呈す。器面は比較的滑らかであるが、小さな凹凸面を残す。中央に直径0.3cmの円孔を穿つ。	
1402	D区	包含層	土製品 土鉢	全長 3.4	全幅 1.6	全厚 1.4	にぶい黄褐色 -	管状土鉢。全長は短く、中央部はやや窄った肉厚である。直径0.5cmの円孔を穿つ。	
1403	D区	包含層	土製品 土鉢	全長 3.7	全幅 1.4	全厚 1.2	にぶい褐色 -	小型の管状土鉢。恐らく全体の2割を欠損する。中心付近に直径0.4cm程度の円孔を穿つ。	
1404	北区	包含層	土製品 土鉢	全長 5.2	全幅 1.3	全厚 1.3	淡赤褐色 -	管状土鉢。器面に凹凸面を残す。中央に直径0.5cmの円孔を穿つ。	
1405	B区	包含層	土製品 土鉢	全長 5.7	全幅 2.3	全厚 2.0	にぶい褐色 -	管状土鉢。孔径0.6cm。	
1406	A区	包含層	土製品 土鉢	全長 5.3	全幅 2.4	全厚 2.3	にぶい黄褐色 -	管状土鉢。円筒形で、縦断面には角丸方形形状。中央に直径0.6cmの円孔を穿つ。一部に保付帯。	
1407	D区	包含層	鉄製品 釘	全長 3.7	全幅 0.5	全厚 0.5	-	断面形は不整形形状又は不整形長方形形状。先端は実る。重量20g	
1408	D区	包含層	鉄製品 鉄鏝	全長 4.0	全幅 3.4	全厚 0.5	-	板状の鉄片。三角形形状又は長三角形形状の鉄鏝か。重量13.0g	
1409	D区	包含層	鉄製品 鉄斧	全長 5.5	全幅 2.6	全厚 0.8	-	板状鉄斧。肩部は厚みを持ち、基部から徐々に幅を減じ、刃部は縦い弧を描き、細く尖る。重量27.0g	
1410	D区	包含層	鉄製品 骨(衝)	全長 7.2	全幅 2.2	径 0.8	-	器具(土曜式骨)の一部か。衝の結合部で片側を欠く。重量13.0g	
1411	A区	包含層	鉄製品 刀子	全長 5.0 2.7	全幅 2.0 1.3	全厚 1.5 0.7	-	鋒・基部を欠く。刀身の一部。刃部は縦く弧状を描く。背部は面を成し直線的である。重量12.0g・2.0g	
1412	D区	包含層	鉄製品 刀子	全長 4.5	全幅 1.7	全厚 0.8	-	狭い背部から刃部へ三角形状を呈す。直線的な背部上、やがて弧を呈する刃部と見られる。重量8.0g	
1413	D区	包含層	鉄滓	全長 8.8	全幅 7.4	全厚 4.5	-	弱い磁性を持つ。表面に小・中規模の気孔を有する。重量349.0g	

報告書抄録

ふりがな	にしのいせき							
書名	西野遺跡Ⅱ							
副書名	宅地開発に伴う発掘調査報告書							
巻次	第一分冊							
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	横山 藍							
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）							
所在地	高知県香南市香我美町山北1553-1							
発行年月日	2022年3月28日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西野遺跡	〒781-5213 高知県 香南市野市町 西野1530番地地	39211	200023	33° 33′ 50″	133° 41′ 11″	二次調査 2006. 4. 4 ～ 2007. 3. 30 四次調査 2007. 10. 9 ～ 2007. 11. 8	二次調査 4,500㎡ 四次調査 170㎡	記録保存調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
西野遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 古・中・近 古代 中世	壑穴柱建物跡 掘立柱建物跡 土坑跡 溝跡 柱穴 性格不明遺構		弥生土器 土師器 須恵器 瓦 瓦質土器 貿易陶磁器 近世陶磁器 金属製品 石製品	弥生後期から古墳初頭、古墳後期の壑穴建物跡、弥生時代の布掘状の溝を伴う掘立柱建物跡などが確認された。		
要約	西野遺跡は香南市野市町西野の物部川左岸段丘上に立地する弥生時代から近世にかけての集落遺跡である。宅地開発計画に伴い、記録保存調査が行われた。二次調査に当たる本調査では、弥生時代前期末から近世にかけての遺物が出土した。調査対象地が集落として機能していた主な時期は、弥生後期から古墳初頭・古墳後期・古代・中世である。出土遺物が占める割合は、弥生後期から古墳初頭が最も多く、次いで古墳後期である。平成17年度に行われた一次調査でも出土した鉄製の鋤先が本調査でも出土した。古代の遺物も一定量が出土し、周辺のノゾ坪遺跡や北地遺跡と同様の官衙関連遺構の広がりも確認された。							

高知県香南市発掘調査報告書第20集

西野遺跡Ⅱ

宅地開発に伴う発掘調査報告書

第一分冊

2022年3月28日

発行 高知県香南市教育委員会
香南市文化財センター

高知県香南市香我美町山北1553-1

Tel. 0887-54-2296

印刷 川北印刷株式会社